国道 11 号大内白鳥バイパス改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

第 8 冊

山下岡前遺跡

2021.3

香川県教育委員会
国土交通省四国地方整備局

序　文

本書には、国道 11 号大内白鳥バイパス改築工事に伴い発掘調査を実施した、香川県東かがわ市湊に所在する山下岡前遺跡（やましたおかまえいせき）の報告を収録しています。

山下岡前遺跡では、弥生時代後期の竪穴建物、古墳時代後期の竪穴式石室群、古代の掘立柱建物群とそれらに伴う遺物が出土しています。

特に古代の掘立柱建物群は、規模の大きい柱穴で構成される規格性の高い建物群で、南側に位置する 7 世紀末頃に創建された白鳥廃寺との同じ文様の瓦が多数することから、白鳥廃寺と強く関連する遺構群であると考えられ、地域の古代史を解明する上で貴重な資料を得ることができました。

本報告書が、本県の歴史研究の資料として広く活用されるとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理、報告書の刊行に至るまでの間、国土交通省四国地方整備局ならびに関係諸機関、地元関係者各位には、多大なご協力とご指導をいただきました。ここに深く感謝の意を表しますとともに、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和３年３月

香川県埋蔵文化財センター
所長　西岡　達哉

例　言

1　本書は、国道 11 号大内白鳥バイパス改築工事に伴い平成 24 年度に実施した、山下岡前遺跡（香川県東かがわ市湊）の発掘調査の本報告である。

2　発掘調査及び整理作業は香川県教育委員会が調査主体となり、香川県埋蔵文化財センターが実施した。

3　発掘調査期間と担当者は次のとおりである。
期間　平成 24 年 11 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日
担当　文化財専門員　乗松真也
　　文化財専門員　長井博志

4　発掘調査及び整理作業においては、次の方々、機関の協力を得た。（順不同、敬称略）
大久保徹也、岡本治代、川畑聰、清野孝之、菱田哲郎、渡部明夫、阿河鋭二、萩野憲司、香川県産業技術センター、地元自治会、地元水利組合

5　報告書の作成は香川県埋蔵文化財センターが実施した。執筆の担当は以下のとおりである。
第３章　第１節、第２節１～５遺構・時期、第３節１・２（1）～（4）・3（1）～（4）遺構・時期　　主任文化財専門員　乗松真也
第４章　　（株）パレオ・ラボ
その他　　文化財専門員　山元素子
全体の編集は山元が行った。

6　本書で用いる座標系は世界測地系 (国土座標第Ⅳ系) で、標高は東京湾平均海水面を基準とした。

7　遺構は、次の略号により表示した
SA：柵　SB：建物　SD：溝　SH：竪穴建物　SK：土坑等　SP：柱穴　SX：その他の遺構

8　遺構断面図の水平線状の数値は水平線の標高線 (m) である。

9　遺構断面図中の注記の一部については、色調に小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』を参照した。

10　土器観察表の色調は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』を参照した。同表中の残存率は遺物の図化部分に占める割合であり、完形品に対する割合ではない。

11　石器実測図中の石材は表記が無い限りサヌカイトである。

12　遺物の時期は以下の文献に拠った。

佐藤竜馬 2016「讃岐における古代～中世土器編年をめぐる基礎作業 (1)　9 世紀後葉～ 11 世紀前葉の供膳器種」『香川県埋蔵文化財センター年報　平成 26 年度』,pp.41-92

13　白鳥廃寺の瓦の型式は、高松市歴史資料館 1996「第 11 回特別展　讃岐の古瓦展」に拠った。

本文目次

第１章　調査に至る経緯と経過

第１節　調査に至る経緯 …… 1
第２節　発掘調査と整理作業の経過 …… 2

第２章　立地と環境

第１節　地理的環境 …… 4
第２節　歴史的環境 …… 4

第３章　調査の方法と成果

第１節　調査の方法 …… 11
第２節　１区（北東丘陵上）の調査成果 …… 12
第３節　谷部の調査成果（白鳥廃寺跡関連遺構） …… 15

第４章　自然科学分析

第１節　山下岡前遺跡出土柱材の放射性炭素年代測定（令和元年度実施） …… 109
第２節　山下岡前遺跡出土柱材の放射性炭素年代測定（令和２年度実施） …… 118
第３節　山下岡前遺跡出土木製品樹種同定 …… 125

第５章　まとめ

第１節　遺構の変遷 …… 129
第２節　出土瓦について …… 138

挿図目次

第１図　遺跡の位置……1
第２図　大内白鳥バイパス関連調査遺跡位置図……2
第３図　周辺の遺跡……6
第４図　調査区割図……8
第５図　遺構配置図……9･10
第６図　調査区断面位置図……11
第７図　１－１’断面図……12
第８図　２－２’断面図……13
第９図　３－３’断面図……14
第10図　１区 SH01 平断面図……15
第11図　１区 SH01 断面図……16
第12図　１区 SH01 出土遺物実測図……17
第13図　山下岡前１～４号墳 平面図……18
第14図　山下岡前１号墳 平断面図……19
第15図　山下岡前１号墳 出土遺物実測図……20
第16図　山下岡前２号墳 平立面図……21
第17図　山下岡前２号墳 平面図……22
第18図　山下岡前２号墳 出土遺物実測図……23
第19図　山下岡前３号墳 平断面図……24
第20図　山下岡前３号墳 出土遺物実測図……24
第21図　山下岡前４号墳 平立面図……25
第22図　SK03 平断面図……26
第23図　北東丘陵流土など出土遺物実測図……27
第24図　谷部東西断面図……28
第25図　４－４’断面図……29
第26図　５－５’断面図……30
第27図　６－６’断面図……33
第28図　７－７’断面図……34
第29図　８－８’断面図……35
第30図　古代堆積層 出土遺物 実測図１……36
第31図　古代堆積層 出土遺物 実測図２……37
第32図　古代堆積層 出土遺物 実測図３……38
第33図　古代堆積層（SX21 下位）出土遺物実測図……39
第34図　古代整地層２ 出土遺物実測図……40
第35図　施設群廃絶後堆積層 出土遺物 実測図１……42
第36図　施設群廃絶後堆積層 出土遺物実測図 ２……43
第37図　近世整地層 出土遺物 実測図１……44
第38図　近世整地層 出土遺物 実測図２……45
第39図　近世整地層 出土遺物 実測図３……46
第40図　近世整地層 出土遺物 実測図４……47
第41図　近世整地層 出土遺物 実測図５……48
第42図　近世整地層 出土遺物 実測図６……49
第43図　近世整地層 出土遺物 実測図７……50
第44図　SA01 平断面図……52
第45図　SA01 出土遺物 実測図１……53
第46図　SA01 出土遺物実測図 ２……54
第47図　SB01 平面図……55
第48図　SB01 断面図 １……56
第49図　SB01 断面図 ２……57
第50図　SB01 出土遺物 実測図１……58
第51図　SB01 出土遺物 実測図２……59
第52図　SB01 出土遺物 実測図３……60
第53図　SB02 平面図……62
第54図　SB02 断面図 １……63
第55図　SB02 断面図 ２……64
第56図　SB02 断面図 ３……65
第57図　SB02 出土遺物 実測図１……66
第58図　SB02 出土遺物 実測図２……67
第59図　SB02 出土遺物 実測図３……68
第60図　SB03 平面図……70
第61図　SB03 断面図 １……71
第62図　SB03 断面図 ２……72
第63図　SB03 出土遺物実測図……73
第64図　SB04 平面図……74
第65図　SB04 断面図 １……75
第66図　SB04 断面図 ２……76
第67図　SB05 平面図……76
第68図　SB05 断面図１……76
第69図　SB05 断面図 ２……80
第70図　SB06 平断面図・出土遺物実測図……81
第71図　SD04 平断面図……76
第72図　SD04 出土遺物実測図……83
第73図　SD06 平断面図……76
第74図　SD06 出土遺物実測図……85
第75図　SD07 平断面図……76
第76図　SD07 出土遺物実測図……87
第77図　SX02 平断面図……76
第78図　SX02 出土遺物実測図……89
第79図　SX21 平断面図……76
第80図　SX21 出土遺物実測図 １……91
第81図　SX21 出土遺物 実測図２……92
第82図　SX21 出土遺物実測図 ３……93
第83図　SK01 平断面図 出土遺物
　SK02 平断面図 出土遺物実測図……94
第84図　SP07・SP08・SP37・SP42・SP46 平断面図
　SP46 出土遺物実測図……95
第85図　SP50・SP56・SP57・SP63・SP64・SP74 平断面図
　SP63・SP64 出土遺物実測図……97
第86図　SP75・SP80・SP81・SP96・SP98 平断面図
　SP80・SP96 出土遺物実測図……99
第87図　SP102～SP104・SP107・SP109・SP110・SP112・
　SP113 平断面図 SP113 出土遺物実測図……100
第88図　SP115～SP117・SP119・SP120・SP123 平断面図
　SP119 出土遺物実測図……102
第89図　SP127・SP128・SP132・SP133～SP135 平断面図
　SP133 出土遺物実測図……104
第90図　谷部遺構外 出土遺物実測図 １……107
第91図　谷部遺構外 出土遺物実測図 ２……108
第92図　ウィグルマッチングを行なった試料
　（ピンの間隔は 10 年輪）(1)……114
第93図　ウィグルマッチングを行なった試料
　（ピンの間隔は 10 年輪）……115
第94図　ウィグルマッチングを行なった試料
　（ピンの間隔は 10 年輪）……116
第95図　単体測定試料の年代測定結果……117
第96図　マルチプロット図……119
第97図　暦年較正結果（1）……123
第98図　暦年較正結果（2）……124
第99図　山下岡前遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真……128
第100図　遺構変遷図　弥生時代……130
第101図　遺構変遷図　古墳時代……130
第102図　遺構変遷図　古代１……132
第103図　遺構変遷図　古代２－１……133
第104図　遺構変遷図　古代２－２……134

第 105 図　遺構変遷図　古代２－３ ･････････････････ 135
第 106 図　丸瓦・軒丸瓦出土分布図･････････････････ 139
第 107 図　平瓦・軒平瓦出土分布図･････････････････ 140

表目次

第１表　ウィグルマッチング測定試料および処理･･････ 112
第２表　単体測定試料および処理･･････････････････ 112
第３表　試料 No.1（350）の放射性炭素年代測定、暦年較正、
　　ウィグ ルマッチングの結果 ･･････････････････ 112
第４表　試料 No.2（328）の放射性炭素年代測定、暦年較正、
　　ウィグルマッチングの結果･････････････････ 113
第５表　試料 No.3（359）の放射性炭素年代測定、暦年較正、
　　ウィグルマッチングの結果･････････････････ 113
第６表　試料 No.4　単体測定試料の放射性炭素年代測定
　　および暦年較正の結果･････････････････ 113
第７表　測定試料および処理･･････････････････････ 121
第８表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果･････ 122
第９表　山下岡前遺跡出土木製品の樹種同定結果･･････ 125
第 10 表　山下岡前遺跡出土木製品の樹種同定
　　結果一覧･････････････････････････････････ 127
第 11 表　年代測定を実施した柱材･･････････････････ 137
第 12 表　型式別の出土分布（軒丸瓦）･････････････ 142
第 13 表　型式別の出土分布（軒平瓦）･････････････ 142
第 14 表　型式別の特徴（軒丸瓦）･････････････････ 143
第 15 表　型式別の特徴（軒平瓦）･････････････････ 144
第 16 表　平瓦の調整技法･･････････････････････････ 146
第 17 表　土器観察表（1）･････････････････････････ 148
第 18 表　土器観察表（2）･････････････････････････ 149
第 19 表　土器観察表（3）･････････････････････････ 150
第 20 表　土器観察表（4）･････････････････････････ 151
第 21 表　土器観察表（5）･････････････････････････ 152
第 22 表　土器観察表（6）･････････････････････････ 153
第 23 表　土器観察表（7）･････････････････････････ 154
第 24 表　土器観察表（8）･････････････････････････ 155
第 25 表　土器観察表（9）･････････････････････････ 156
第 26 表　土器観察表（10）････････････････････････ 157
第 27 表　瓦類観察表（1）･････････････････････････ 158
第 28 表　瓦類観察表（2）･････････････････････････ 159
第 29 表　瓦類観察表（3）･････････････････････････ 160
第 30 表　瓦類観察表（4）･････････････････････････ 161
第 31 表　瓦類観察表（5）･････････････････････････ 162
第 32 表　鉄器観察表･･････････････････････････････ 163
第 33 表　石器観察表･･････････････････････････････ 163
第 34 表　木器観察表･･････････････････････････････ 163

図版目次

図版１　遺構写真１…… 165
調査前風景（南から）
調査区全景（南から）
図版２　遺構写真２…… 166
調査区全景（西から）
調査区全景（東から）
図版３　遺構写真３…… 167
２区 5-5' 断面（北西から）
３区 4-4' 断面（北東から）
３区 6-6' 断面（北東から）
図版４　遺構写真４…… 168
１区 3-3' 断面（南端付近）（東から）
2･3 区 7-7' 断面（北西から）
４区 8-8' 断面（東から）
図版５　遺構写真５…… 169
SH01 全景（北から）
SH01 全景（西から）
SH01 c-c' 断面（南から）
図版６　遺構写真６…… 170
SH01 a-a' 断面（東から）
SH01 SP01 断面（北からら）
SH01 SP02 断面（南から）
SH01 SP03 断面（東から）
SH01 壁溝断面（北から）
SH01 壁溝 遺物出土状況（北から）
１区 埴輪出土状況（南から）
図版７　遺構写真７…… 171
１号墳検出状況（南東から）
１号墳棺内完掘（西から）
１号墳 b-b' 断面（北西から）
１号墳 a-a' 断面（北東から）
図版８　遺構写真８…… 172
２号墳 床面検出状況（南から）
２号墳 床面検出状況（南から）
２号墳 基底石検出状況（南から）
２号墳 鉄鏃 (39) 出土状況（東から）
２号墳 須恵器出土状況（流入土中）（東から）
図版９　遺構写真９…… 173
３号墳床面検出状況（北から）
３号墳・２号墳床面検出状況（東から）
３号墳 b-b' 断面（東から）
図版 10　遺構写真 10…… 174
３号墳 a-a' 断面（北から）
３号墳 須恵器出土状況（西から）
３号墳 鉄鏃出土状況（北から）
３号墳 鉄鏃出土状況（東から）
２号墳・３号墳 床面検出状況（南から）
図版 11　遺構写真 11…… 175
４号墳 床面検出状況（東から）
４号墳 棺内完掘状況（東から）
４号墳 a-a' 断面（北から）
２号墳 作業風景
図版 12　遺構写真 12…… 176
近世整地層 遺物集中部（西から）
施設群廃絶後堆積層 瓦出土状況（南西から）
近世整地層 螺髪出土状況
近世整地層 螺髪出土状況２
近世整地層 瓦出土状況（東から）
近世整地層 瓦出土状況（南東から）
近世整地層 瓦出土状況（北から）
近世整地層 瓦出土状況（西から）
図版 13　遺構写真 13…… 177
２区・３区 遺構検出状況（北から）
SA01・SB02（北から）
図版 14　遺構写真 14…… 178
SA01 SP139（北から）
SA01 SP20（東から）
SA01 SP21（東から）
SA01 SP21
SA01 SP22（東から）
SA01 SP22
SA01 SP23（東から）
SA01 SP23
図版 15　遺構写真 15…… 179
SB01 ～ SB06（北から）
SB01 SP09（北から）
SB01 SP28（北から）
SB01 SP24（南から）
SB01 SP35（西から）
図版 16　遺構写真 16…… 180
SB01 SP34（南から）
SB01 SP33（南から）
SB01 SP32（南から）
SB01 SP29（東から）
SB02 SP49（北から）
SB02 SP49（北から）
SB02 SP41（北から）
SB02 SP40（北から）
図版 17　遺構写真 17…… 181
SB02 完掘状況（南から）
SB02 SP39（北から）
SB02 SP16（北から）
SB02 SP12（西から）
SB02 SP17（西から）
図版 18　遺構写真 18…… 182
SB02 SP62（西から）
SB02 SP13（南から）
SB02 SP45（南から）
SB02 SP44（南から）
SB02 SP43（南から）
SB02 SP43（南から）
SB02 SP48（南から）
SB02 SP47（西から）
図版 19　遺構写真 19…… 183
SB03 SP86（西から）
SB03 SP99（南から）
SB03 SP67（南から）
SB03 SP67（南から）
SB03 SP61（南から）
SB03 SP53（南から）
SB03 SP84（西から）
SB03 SP85（西から）
図版 20　遺構写真 20…… 184
SB04 SP38（北から）

SB04 SP94（南から）
SB04 SP93（北から）
SB04 SP97（東から）
SB05 SP54（北西から）
SB05 SP55（北西から）
SB05 SP68（北西から）
SB05 SP77（北から）
図版 21　遺構写真 21 …… 185
SB05 SP73（西から）
SB05 SP82（南から）
SB05 SP82（北から）
SB05 SP59（北西から）
SB05 SP59（北西から）
SB05 SP70（南から）
SB05 SP71（南東から）
SB05 SP83（南から）
図版 22　遺構写真 22 …… 186
SB06 SP124（北から）
SB06 SP125（西から）
SB06 SP126（西から）
SK03 a-a' 断面（西半）（南東から）
SD04 a-a' 断面（北から）
図版 23　遺構写真 23 …… 187
SD06 a-a' 断面（西から）
SD06 断面（西から）
SD07 完掘状況（南から）
2 区 南壁 SD07 部分（北から）
図版 24　遺構写真 24 …… 188
SX02 検出状況（北から）
SX02 a-a' 断面（南東から）
SX02 b-b' 断面（北東から）
SX21 瓦検出状況（北から）
SX21 検出状況（南西から）
図版 25　遺構写真 25 …… 189
SX21 作業風景
SX21 a-a' 断面（北から）
南壁 SX21 部分（北から）
図版 26　遺構写真 26 …… 190
SK01 b-b' 断面（西から）
SK02 b-b' 断面（北から）
SP07（北から）
SP08（南西から）
SP37（東から）
SP42（西から）
SP46（西から）
SP50（北から）
図版 27　遺構写真 27 …… 191
SP56（西から）
SP57（北から）
SP63（南から）
SP75（西から）
SP81（東から）
SP98（北から）
SP102（南から）
SP103（北西から）
図版 28　遺構写真 28 …… 192
SP104（南から）
SP107（西から）
SP109（北から）
SP110（南から）
SP113（北から）
SP115（南から）
SP116（北から）
SP117（北東から）
図版 29　遺構写真 29 …… 193
SP120（北から）
SP123（東から）
SP132（北から）
SP134（北から）
SP135（北から）
図版 30　遺構写真 30 …… 194
現地説明会
遺跡遠景（南から）
図版 31　遺物写真 1 …… 195
1・7・8・11・13・14・15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・44・45・47・67・71
図版 32　遺物写真 2 …… 196
73・77・79・80・84・85・86・89・91・95・96・100
図版 33　遺物写真 3 …… 197
105・107・111・113・114・115・118・124・125・127
図版 34　遺物写真 4 …… 198
128・129・130・131・135・140・141・144・146・147・148・154
図版 35　遺物写真 5 …… 199
149・157・156・172
図版 36　遺物写真 6 …… 200
173・176・177・180・181・185・190・192
図版 37　遺物写真 7 …… 201
191・198・199・220・226・228・230・235・236・238
図版 38　遺物写真 8 …… 202
248・251・274・339・341
図版 39　遺物写真 9 …… 203
284・290・315・340・342・343
図版 40　遺物写真 10 …… 204
346・362・367・368・369・370・372
図版 41　遺物写真 11 …… 205
374・381・384・385・387・395・396・400
図版 42　遺物写真 12 …… 206
401・402・415・419
図版 43　遺物写真 13 …… 207
403・422・434・436
図版 44　遺物写真 14 …… 208
34・35・36・37・38・39・40・41・42・43・51・52

付 図 目 次

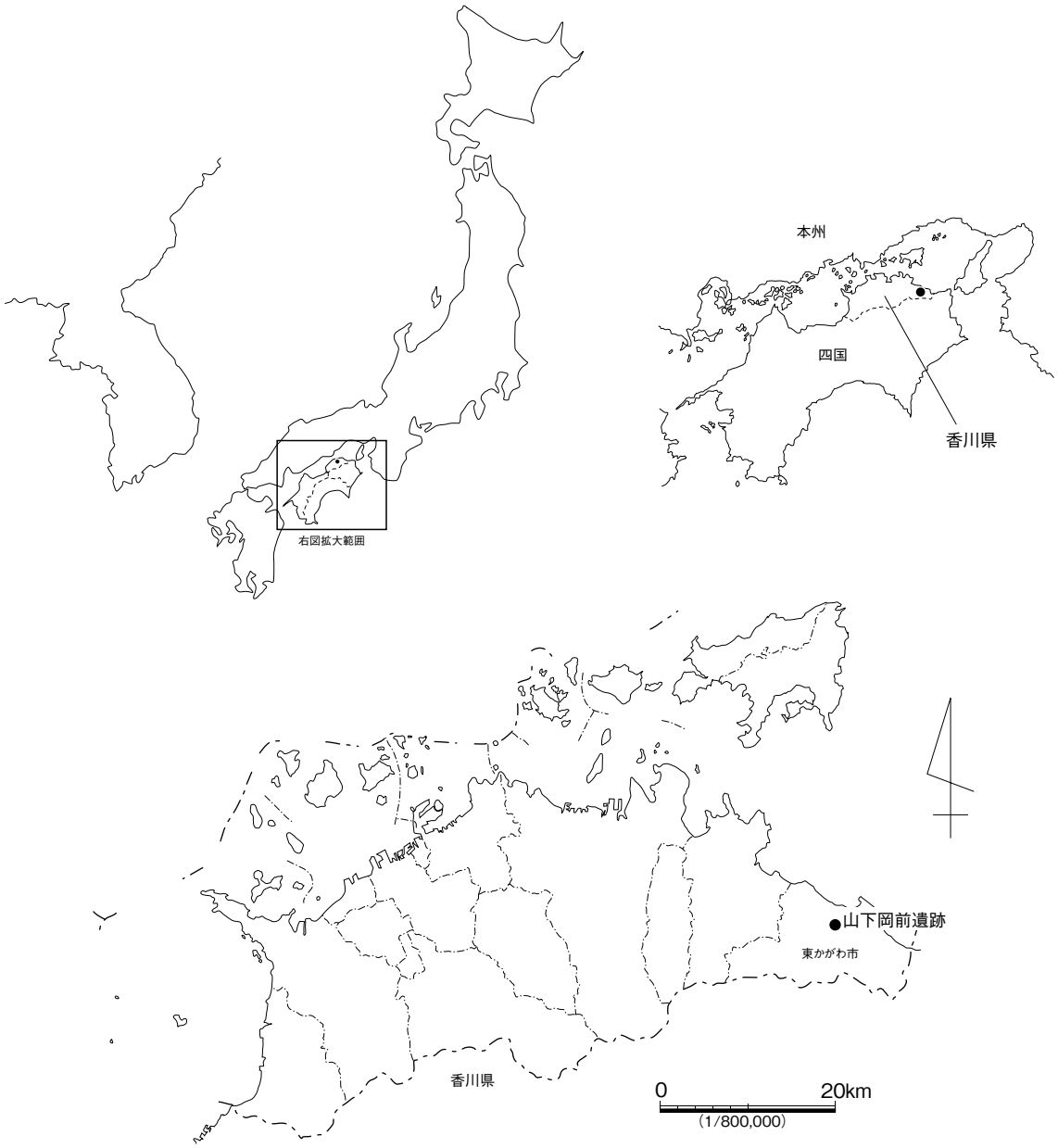
付図１　山下岡前遺跡遺跡配　置図

第１章　調査に至る経緯と経過

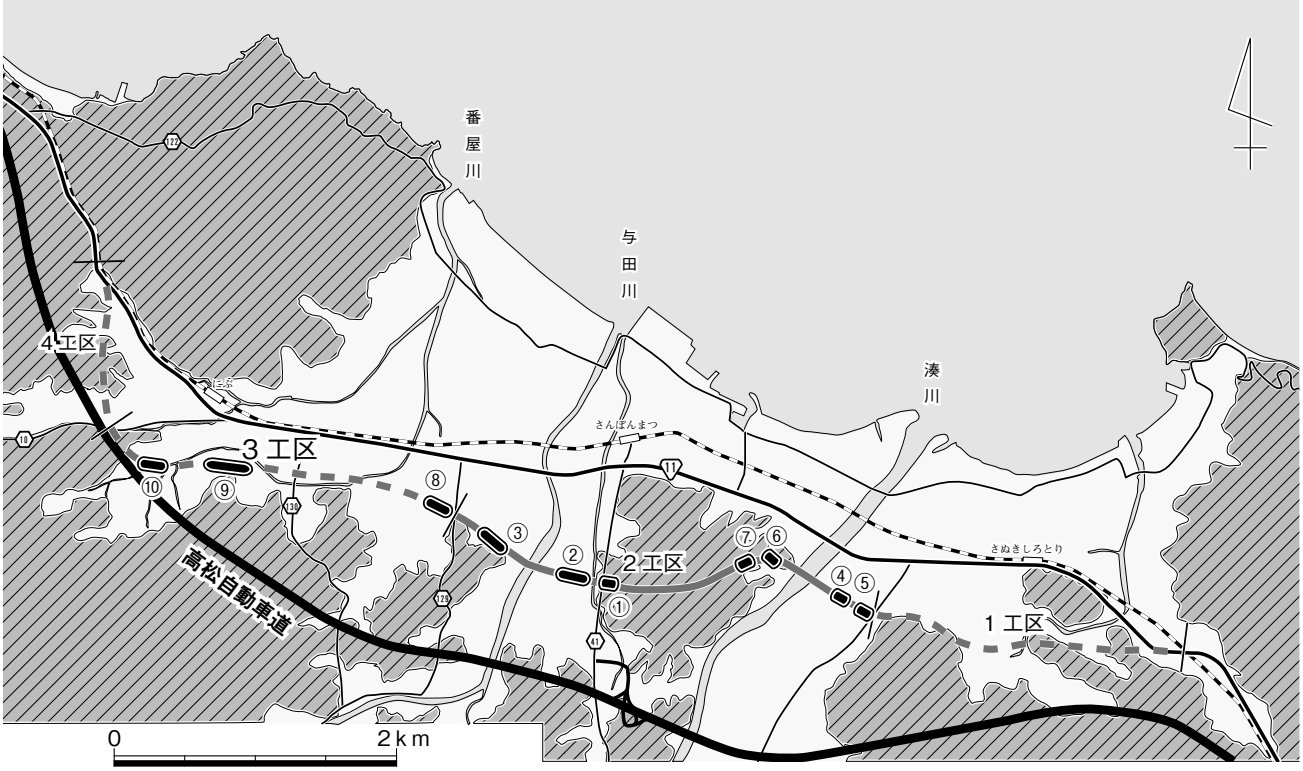
第１節　調査に至る経緯

一般国道 11 号大内白鳥バイパス改築工事に伴う埋蔵文化財の保護については、国土交通省四国地方整備局（以下、「国交省」という）から香川県教育委員会（以下、「県教委」という）が照会を受け、平成 19 年度より条件の整った２・３工区から順次県教委が試掘調査等を実施し、対象地内の埋蔵文化財の包蔵状況を確認した上で、文化財保護法に基づく保護措置を実施してきた。

湊地区（2 工区）では、平成 20 年度と平成 23 年度に県指定史跡白鳥廃寺の北側に隣接する地点について試掘調査を行った。調査の結果、白鳥廃寺の北側の、丘陵部に挟まれた平坦地で調査したトレンチ



第１図　遺跡の位置



1. 仲戸東遺跡　2. 仲戸遺跡　3. 誉水中筋遺跡　4. 田中遺跡　5. 城泉遺跡　**6. 山下岡前遺跡**　7. 湊山下古墳　8. 西村遺跡　9. 内間遺跡　10. 三殿北遺跡

番号	遺跡名	所在地	調査面積(㎡)	発掘調査	整理作業	報告書	内容
1	仲戸東遺跡	東かがわ市川東	1,251	H20.7 ～ H20.10,H25.3	H26.6 ～ 11	H28.3	古墳時代後期の埴輪生産関連遺構
2	仲戸遺跡	東かがわ市川東	3,695	H20.7 ～ H21.1	H26.6 ～ 11	H28.3	縄文時代後期自然河川跡・弥生時代河川跡・大溝跡
3	誉水中筋遺跡	東かがわ市中筋	4,459	H20.9 ～ H21.3	H27.7 ～ 10	H29.3	中世集落・墳墓
4	田中遺跡	東かがわ市白鳥	2,655	H22.6 ～ 10	H27.11 ～ H28.1	H29.3	縄文時代晩期自然河川跡・弥生時代後期と古墳時代後期、古代集落
5	城泉遺跡	東かがわ市白鳥	4,486	H23.6 ～ H24.3	H28.7 ～ H29.1 H29.4	H30.3	古墳時代河川跡・古代～中世集落跡
			1,768	H30.6 ～ 10	－		古墳時代集落と自然河川
6	山下岡前遺跡	東かがわ市湊	2,757	H24.11 ～ H25.3	R1.6 ～ 12　R2.4 ～ 6	本書	弥生時代後期集落跡・古代寺院関連遺構
7	湊山下古墳	東かがわ市湊	1,600	H24.11 ～ H25.2	R1.6・7	R3.3	前期古墳 (円墳)
8	西村遺跡	東かがわ市西村	3,660	H25.6 ～ 9,　H26.6 ～ 11	H29.6 ～ 12	H31.3	弥生時代～古墳時代の集落跡と水路跡・古墳集落跡
9	内間遺跡	東かがわ市町田	9,698	H26.6 ～ 9,　H27.7 ～ H28.1,H29.9 ～ H30.1	—		弥生時代集落跡・古代集落跡と大型灌漑水路・中世集落跡
10	三殿北遺跡	東かがわ市三殿	3,645	H28.10.1 ～ H29.1,H29.6 ～ 8	H30.7 ～ H31.1	R2.3	弥生時代自然河川、古代～中世集落・大型灌漑水路

第２図　大内白鳥バイパス関連調査遺跡位置図

では、古代の遺構、白鳥廃寺と同時期の瓦をはじめとする古代の遺物が多く出土し、古代の遺構群が存在することが確実となった。また、東側の丘陵部で調査をしたトレンチでは、弥生時代と古墳時代の遺構、白鳥廃寺の寺域の施工に関わる可能性が高い遺構が多量の瓦とともに出土した。試掘調査の結果、2,757㎡について、「山下岡前遺跡」と命名し、発掘調査を実施した。

第２節　発掘調査と整理作業の経過

山下岡前遺跡の発掘調査は、国交省と県教委との間で、平成 24 年度に香川県埋蔵文化財センターを調査担当として発掘調査を実施することで合意した。発掘調査は平成 24 年 11 月 1 日～翌 25 年 3 月 31 日に実施した。

整理作業は令和元年 6 月 1 日～ 12 月 31 日、令和 2 年 4 月 1 日～ 6 月 30 日まで実施した。出土遺物量は、28㍑入りコンテナ 421 箱である。遺物の注記・接合・実測・浄書は委託により実施した。また、鉄器の

保存処理と柱材の年代測定及び樹種同定を委託により実施した。

発掘調査及び整理作業の体制は下表のとおりである。

平成 24 年度発掘調査体制

香川県教育委員会事務局　生涯学習・文化財課			香川県埋蔵文化財センター		
総括	課長	炭井　宏秋	総括	所長	藤好　史郎
	副課長	木虎　　淳		次長	真鍋　正彦
総務・生涯学習推進グループ			総務課	課長（兼務）	真鍋　正彦
	副主幹	松下由美子		副主幹	林　　文夫
	主任主事	丸山　千晶		主任	宮武ふみ代
文化財グループ	課長補佐	西岡　達哉		主任	中川　美江
	主任文化財専門員	森下　英治		主任	高木　秀哉
	文化財専門員	松本　和彦	調査課	課長	森　　格也
				文化財専門員	乗松　真也
				文化財専門員	長井　博志

令和元年度整理作業体制

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課			香川県埋蔵文化財センター		
総括	課長	原田　　智	総括	所長	西岡　達哉
	副課長	片桐　孝浩		次長	石野　高雄
総務・生涯学習推進グループ			総務課	課長（兼務）	石野　高雄
	課長補佐	中川　聡朗		副主幹	斎藤　政好
	副主幹	長谷川江里		主任	高橋　範行
	主事	辻　おしえ		主任	丸尾麻知子
文化財グループ	課長補佐（兼務）	片桐　孝浩		主任	横井　隆史
	主任文化財専門員	松本　和彦		主任	寺尾　一夫
	文化財専門員	真鍋　貴匡	資料普及課	課長	古野　徳久
				主任文化財専門員	乗松　真也

令和２年度整理作業体制

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課			香川県埋蔵文化財センター		
総括	課長	渡邊　智子	総括	所長	西岡　達哉
	副課長	愛染　伊知朗		次長	樋口　隆幸
総務・生涯学習推進グループ				課長（兼務）	樋口　隆幸
	課長補佐（兼務）	愛染　伊知朗	総務課	副主幹	斎藤　政好
	副主幹	長谷川　江里		主任	高橋　範行
	主事	尾平　俊		主任	石田　こずえ
文化財グループ	課長補佐	古野　徳久		主任	寺尾　一夫
	主任文化財専門員	松本　和彦		主任	遠山　豊
	技師	益崎　卓巳	資料普及課	課長	佐藤　竜馬
				文化財専門員	山元　素子

第２章　立地と環境

第１節　地理的環境

山下岡前遺跡は、東かがわ市湊に所在する。

東かがわ市は香川県の東端に位置する。遺跡が所在する東かがわ市大内・白鳥地域は、北側は瀬戸内海に面し、西側には北山（標高 226.4 m）、鶴羽山 (標高 303.5m)、南側には城守山 (標高 226.5m)、那智山（標高 271.0 m）、本宮山（標高 346.0 m）、虎丸山（標高 417.0 m）、帰来山（標高 235.6 m）等、東側は伊座山（標高 151.3m)、与治山 (標高 186.6m) 等 150m ～ 400m 程度の山塊に囲まれた小規模な平野部にある。平野部には讃岐山脈に源を発する中小河川が、西から番屋川、与田川、湊川、中川が瀬戸内海へ流れ込み、河口域には海岸線に沿って砂洲、砂堆が形成され、その背後には海岸平野や三角州が、さらに背後には谷底平野・氾濫平野が広がる。

山下岡前遺跡は、小規模な平野の中央付近にある独立丘陵である秋葉山（標高 97.0m）の東斜面の、南～西側に深く入り込んだ谷あいに立地する。西・東・北側は尾根に挟まれ、南東約 200 mの距離には湊川がある。湊川と秋葉山に挟まれた狭い氾濫平野上に立地し、南側には県指定史跡で 7 世紀末頃の創建と考えられる白鳥廃寺が接する。

第２節　歴史的環境

縄文時代以前の大内・白鳥地域の様相は明らかではない。金毘羅山遺跡で前期の爪型文を施文する羽島下層式の深鉢、蛇紋岩製玦状耳飾が出土したほか、晩期後半の突帯文系土器が出土した。調査例の増加とともに縄文時代の遺物が出土する遺跡も知られるようになるが、自然河川や包含層からの出土にとどまるようである。

弥生時代前期～中期までも遺跡数は少ない。前期では、小僧遺跡や城泉遺跡で河川堆積層の下位で遺物がわずかに出土する程度である。中期前半には、河川上流部の成重遺跡で竪穴建物等が営まれるが、分布は散漫である。中期後半には、山間の谷合に池の奥遺跡、善門池西遺跡が出現する。伐採斧、加工斧である磨製石器が多く出土し、木材の生産に携わる遺跡と考えられる。弥生時代後期には遺跡数も増加する。中期から継続する成重遺跡に加え、原間遺跡では大きな集落が営まれ、周辺では住屋遺跡等小規模な集落が営まれる。

後期には墓域が認められるようになり、成重遺跡では成人用の木棺墓、小児用の土器棺墓からなる墓域が形成される。丘陵部では樋端遺跡、寺前遺跡で木棺墓群が築造される。樋端遺跡では、水銀朱を使用した葬送儀礼が行われた墳丘墓が検出され、地域内で階層差が認めらたことがわかる。

古墳時代前期初頭まで継続した原間遺跡の集落が廃絶した後、明確な集落は認められなかったが、前期後半には成重遺跡、城泉遺跡、田中遺跡等で新たな集落が形成される。後期に入ると原間遺跡、住屋遺跡、金毘羅山遺跡、善門池西遺跡等で集落が形成される。特に住屋遺跡では多数の竪穴建物が重複して検出され、長期間継続していたと考えられる。

古墳時代前期の古墳では、秋葉山の南側の山麓には全長 38m の前方後円墳、大日山古墳がある。刳抜式石棺をもつことが伝えられ、円筒埴輪が採集されている。同じ秋葉山の東部には、直径 20 mの円墳で、3 基の埋葬施設を持つ湊山下古墳がある。北側の尾根上には、中期初頭の岡前地神社古墳がある。

全長約 90 ｍを測る前方後円墳で、火山（さぬき市津田町鶴羽）産の刳抜式石棺を伴う。津田古墳群と富田茶臼山古墳の時期を埋める大きな前方後円墳でありこれらとの関連も注目される。

古墳時代中期には、原間地区で、TK216 型式併行期の原間 6 号墳を嚆矢として 10 基以上の円墳が継続して築造された原間古墳群がある。原間 6 号墳は直径 30m の円墳で、木槨木棺に三累環頭太刀や短甲が副葬され、渡来系古墳が想定される。原間遺跡では概ね同じ時期の集落が出現し、古墳群との関連が注目される。原間古墳群では、以後古墳時代後期前葉、MT10 型式併行期の原間 10 号墳まで連続して造営されるが、6 号墳に比べると規模・副葬品の内容ともに貧弱である。

古墳時代中期末～後期には、仲戸東遺跡で埴輪の生産が行われる。

古墳時代後期以降の横穴式石室を伴う古墳としては、神越 2 号墳、原間 2 号墳、神越 5 号墳、藤井古墳、原間 1 号墳等がある。

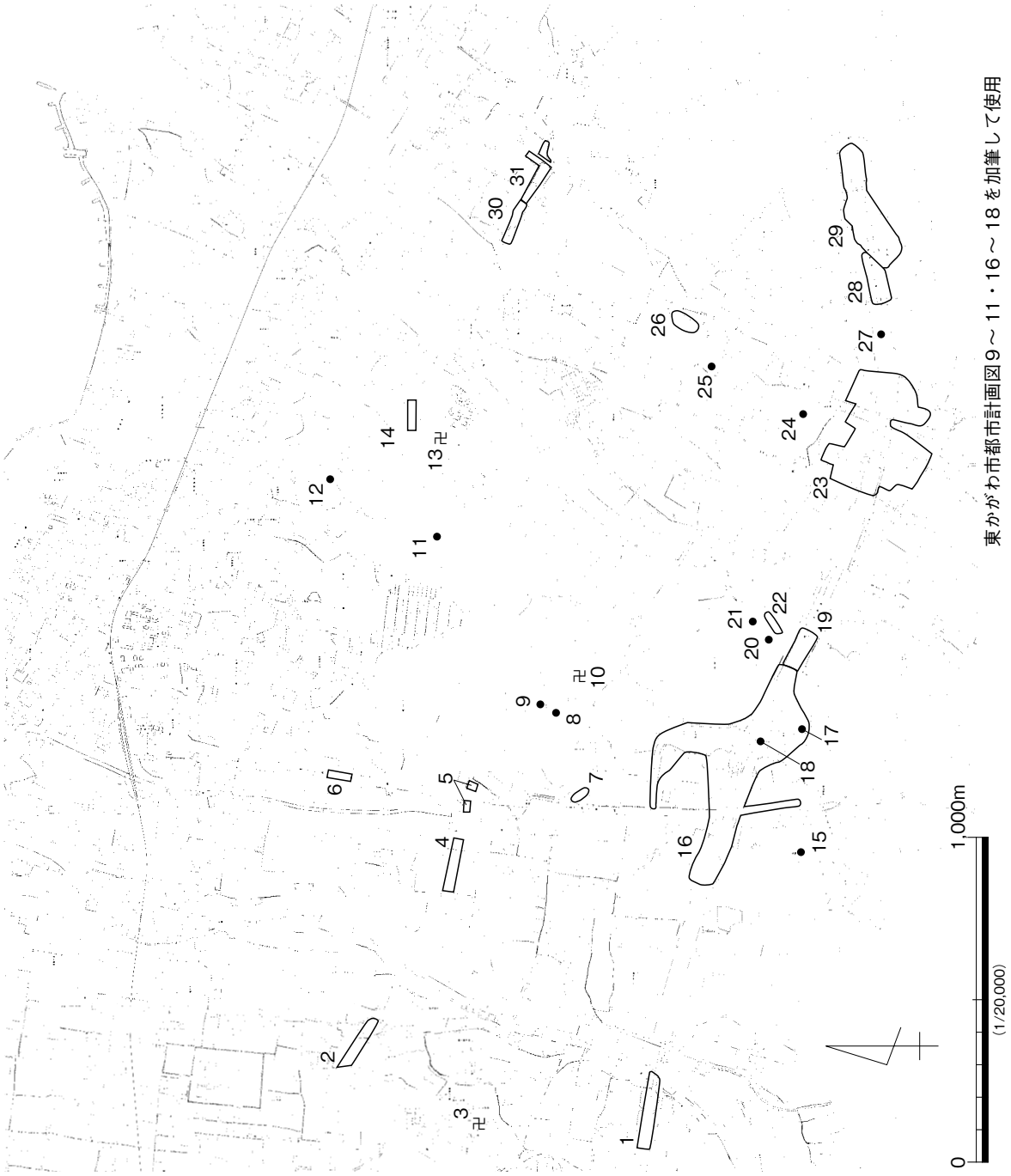
東かがわ市は古代の律令制下では大内郡に属する。天平 19 年（747）の「大和國法隆寺伽藍縁起并流記資材帳」に、法隆寺の庄倉の所在地として「大内郡一処」とあるのが初見であるが、実態は不明である。大内郡には入野郷、白鳥郷、引田郷があり、ランクは小郡であったが、『続日本後紀』承和 10 年（843）５月８日条に、郷戸数の増加により下郡に格上げし、領と主帳がひとりずつであった国司の構成に領を一人加えることとなったことが記される。この頃に入野郷から与泰郷が分かれたと推測されている。国宝「九条家本延喜式　巻第十一」の紙背文書として残る「讃岐国大内郡入野郷寛弘元年（1004）戸籍」は、現存する平安時代の戸籍としては最も新しい時期のものである。すでに班田が行われなくなってから 1 世紀が経過したもので、形骸化した戸籍として評価されてきた。しかし、近年の研究から、この頃中央貴族の生活を支えたのは荘園からの収入ではなく各国から集められた税であり、その税額を決める基本台帳である戸籍の内容が摂関家に報告されていたこと、また、税額が実際よりも少なくなるように戸籍の内容を国司が操作したとも考えられ、古代末期における国司の地方支配の在り方を示唆する資料と考えられる[(1)]。

大内郡東半部地域、与田川の東側から前山丘陵の西側付近は、谷底平野、氾濫平野で、真北方向から６度前後東偏した約 109 ｍ方格の地割の条里型地割が形成される。湊川近辺から東側、旧白鳥郷域では真北から 34 度東偏する条里型地割が認められるが、白鳥廃寺付近の条里型地割は、平地が狭小でもあり明確ではない。与田川の両岸で条里型地割がよく残る地域では、官道である南海道の痕跡である余剰帯が確認できる。大内白鳥インター線付近から東側の痕跡は不明瞭となるが、現在の国道 11 号に沿って湊川を渡り、東進すると考えられる。余剰帯の西側の延長上には８世紀中頃～９世紀頃の坪井遺跡があり、南海道の側溝と考えられる遺構をはじめ、大型掘立柱建物を検出した。水瓶や陶硯等が出土しており、郡界に位置する官衙関連施設の可能性が考えられる。

原間遺跡では 7 世紀前半～８世紀前半の大型掘立柱建物群が出現する。住屋遺跡では８・9 世紀の遺構とともに須恵器や瓦類のほか金銅装帯金具が出土した。住屋遺跡は推定南海道に近接することから官衙的な性格を有する遺跡の可能性がある。

秋葉山の東側の谷筋には、7 世紀末の創建である白鳥廃寺がある。これまでの調査から東側に塔、西側に金堂、北側に講堂を配する法起寺式伽藍配置をとる古代寺院と考えられる。山下岡前遺跡の南側に接して立地しており、強い関連性が考えられる。白鳥廃寺のある秋葉山の南東麓には高松廃寺がある。瓦の散布が認められ、伽藍配置等は不明であるが、瓦窯 2 基が調査され、平安時代中期後半～後期の瓦が出土している。白鳥廃寺とは近接した位置にあるが、関連は不明である。

山下岡前遺跡（香川県埋蔵文化財センター編 2021 年）



東かがわ市都市計画図９～11・16～18を加筆して使用

第３図　周辺の遺跡

（註）

（1）渋谷啓一　佐藤竜馬 2017「第４章　都人とのせめぎあい　最後の戸籍」『讃岐びと　時代を動かす―地方豪族が見た古代世界―』香川県立ミュージアム

発掘調査報告書は巻末に一括して記載する。

第３章　調査の方法と成果

第１節　調査の方法

今回の調査地では、白鳥廃寺跡関連遺構が検出される可能性が考えられた。そのため、寺域内外の平面的な遺物分布の検討を念頭に置いて、白鳥廃寺跡を含めた範囲に 4m 四方のグリッドを設定した。グリッドの主軸は国土座標に基づく。

調査地は、地形と調査工程を考慮して１～４区の調査区に分割した。北東丘陵上を１区、谷部東半部を２区、谷部西半部を３区、谷部奥を４区とした。丘陵上の１区の調査から着手し、途中から並行して谷部の調査を進めた。谷部の調査は３・４区を先行させ、２区を排土仮置き場とした。３区北部と４区の調査終了後、この範囲を排土仮置き場として、２区の調査を開始した。

北東丘陵上の１区は、部分的にトレンチを掘削し、遺構が広がる範囲について表土と流土を重機、および人力で除去して遺構検出を行った。遺構検出後は人力掘削である。谷部の３区南部は表土と鋤床、旧耕土を重機で掘削した。近世整地層については人力掘削と重機掘削を併用した。近世整地層の下位層以下は人力による掘削である。２区は近世整地層まで重機で掘削、それ以下を人力で掘削した。谷部奥にあたる２区北端部から４区にかけては試掘調査により遺構の分布が広がらないと判断して、重機でトレンチを掘削して断面図の作成にとどめた。この調査方法を採ったことにより、２区北部で柵 SA01 の延伸部を確認することができなかった。

第２節　１区（北東丘陵上）の調査成果

1　対象遺構

１区（北東丘陵上）には弥生時代の竪穴建物と古墳４基が構築されている。これらの遺構は、谷部に広がる白鳥廃寺の関連遺構とは立地も時期も異なるため､本節で報告する。なお､北東丘陵南端部をカットして形成された溝 SD06 は、白鳥廃寺関連遺構であるため、谷部の調査成果で報告する。

2　層序（第６～９図）

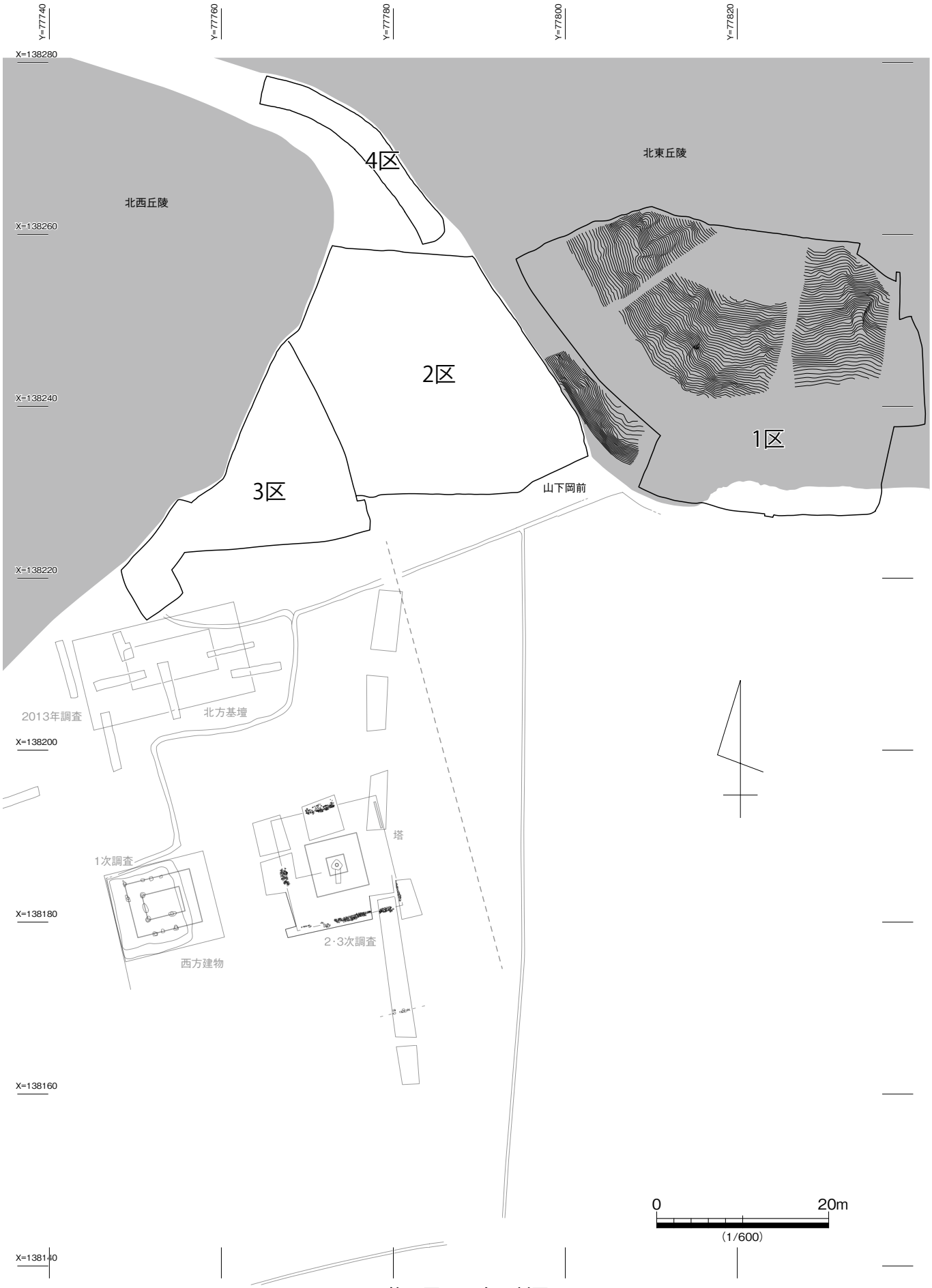
北東丘陵の岩盤は花崗岩からなり、この岩盤（基盤層）を掘り込んで弥生時代～古代の遺構が形成されている。基盤層の上位には、岩盤を由来とする流土が堆積する。

3　弥生時代の遺構と遺物

竪穴建物

SH01（調査時遺構名：SH01）（第 10 ～ 12 図）

１区北東丘陵上の尾根頂部からやや南に下った位置で検出した平面形円形の竪穴建物である。残存していなかった床面の南側約 1/3 は流出したとみられ、本来の平面形は直径 8.1m の円形であろう。明黄褐色粘土層を貼床とし、その上面から壁溝が設けられる。北東側の床面はややスロープ状を呈するが、

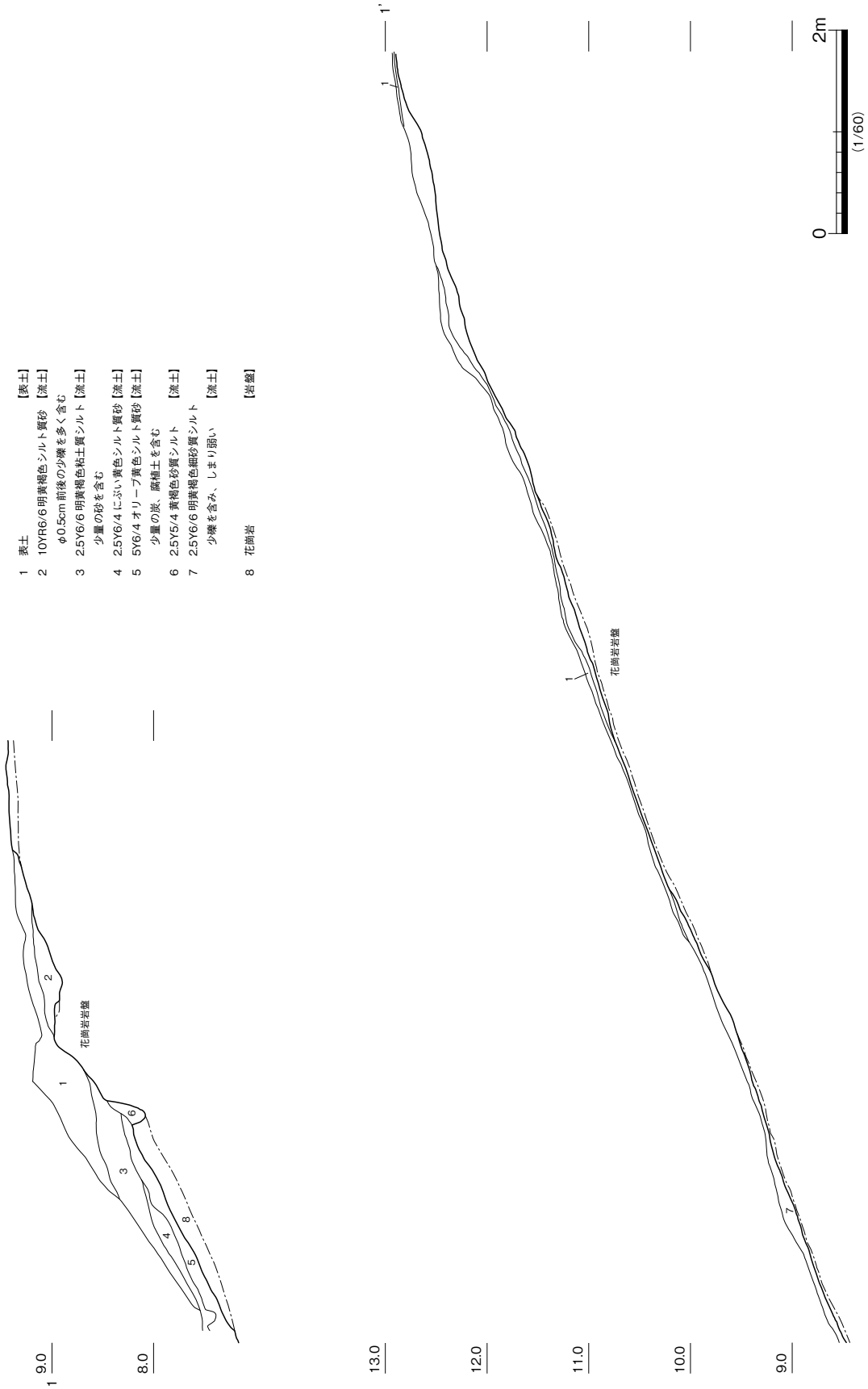

Y=77740
Y=77760
Y=77780
Y=77800
Y=77820
X=138280
X=138260
X=138240
X=138220
X=138200
X=138180
X=138160
X=138140
4区
北東丘陵
北西丘陵
2区
1区
3区
山下岡前
2013年調査
北方基壇
塔
1次調査
2･3次調査
西方建物
0
20m
(1/600)

第４図　調査区割図

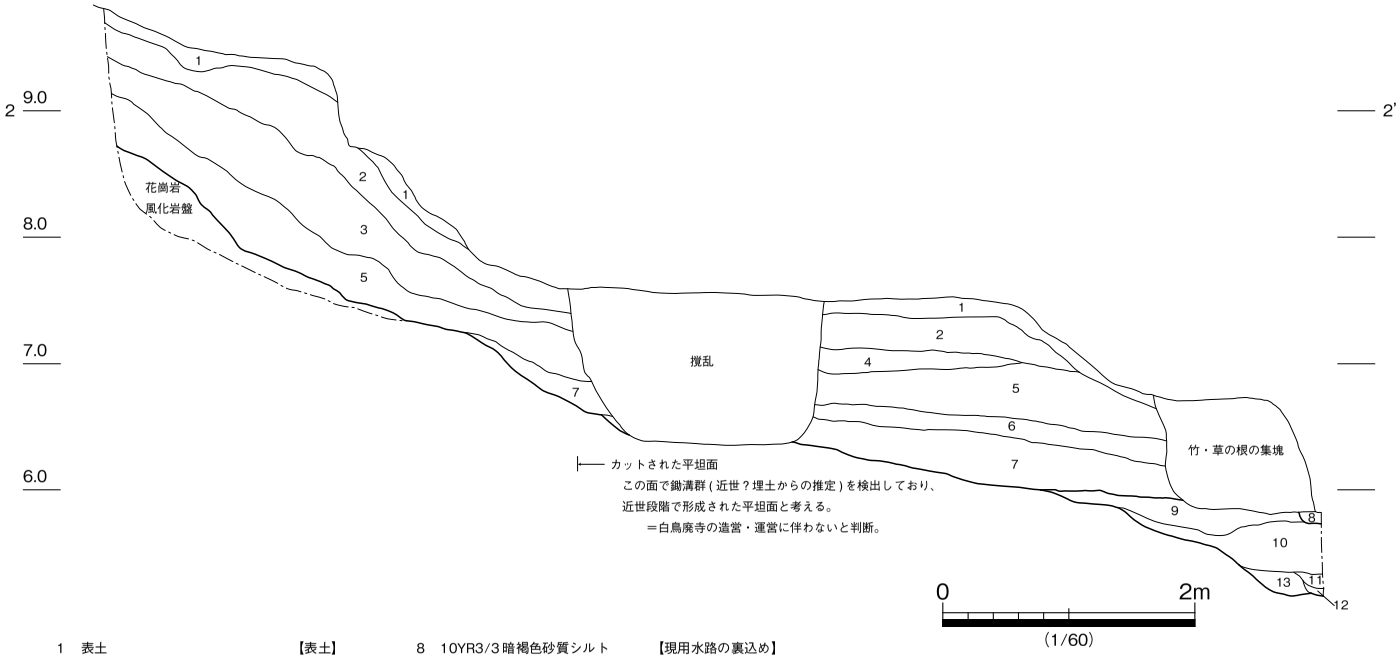
Y=77748
Y=77752
Y=77756
Y=77760
Y=77764
Y=77768
Y=77772
Y=77776
Y=77780
Y=77784
Y=77788
Y=77792
Y=77796
Y=77800
Y=77804
Y=77808
Y=77812
Y=77816
Y=77820
Y=77824
Y=77828
X=138268
X=138264
X=138260
X=138256
X=138252
X=138248
X=138244
X=138240
X=138236
X=138232
X=138228
X=138224
X=138220
X=138216
X=138212
2号墳
3号墳
1号墳
4号墳
SK03
SH01
SA01
SB01
SB02
SB03
SB04
SB05
SB06
SK01
SK02
SX02
SX21
SD04
SD06
SD07
SD08
SD09
10m
(1/200)

第５図　遺構配置図

第６図　調査区断面位置図


1 表土 【表土】
2 10YR6/6 明黄褐色シルト質砂 【流土】
φ0.5cm 前後の少礫を多く含む
3 2.5Y6/6 明黄褐色粘土質シルト【流土】
少量の砂を含む
4 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト質砂【流土】
5 5Y6/4 オリーブ黄色シルト質砂【流土】
少量の炭、腐植土を含む
6 2.5Y5/4 黄褐色砂質シルト 【流土】
7 2.5Y6/6 明黄褐色細砂質シルト
少礫を含み、しまり弱い 【流土】
8 花崗岩 【岩盤】
花崗岩岩盤
9.0
8.0
13.0
12.0
11.0
10.0
9.0
1
1'
0
2m
(1/60)

第７図　１－１’断面図



1　表土　【表土】

2　10YR6/4 にぶい黄橙色砂質シルト【流土】
　灰黄褐色土ブロック (樹根？) を多く含む

3　10YR6/6 明黄褐色砂質シルト　【流土】
　２層よりしまり強い

4　2.5Y6/4 にぶい黄色シルト質粘土　【流土】

5　10YR6/3 にぶい黄橙色砂質シルト【流土】
　２層より少礫を多く含む
　しまり弱い

6　10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト【流土】
　５層より粘性が強く、しまり強い

7　10YR6/6 明黄褐色シルト質砂　【流土】
　しまり弱い
　近世瓦片をごく少量含む

8　10YR3/3 暗褐色砂質シルト　【現用水路の裏込め】

9　2.5Y6/6 明黄褐色シルト質砂　【SD06 上層】

10　2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルト　【SD06 下層】
　Mn 沈着、グライ化
　少礫を多く含み、しまり強い

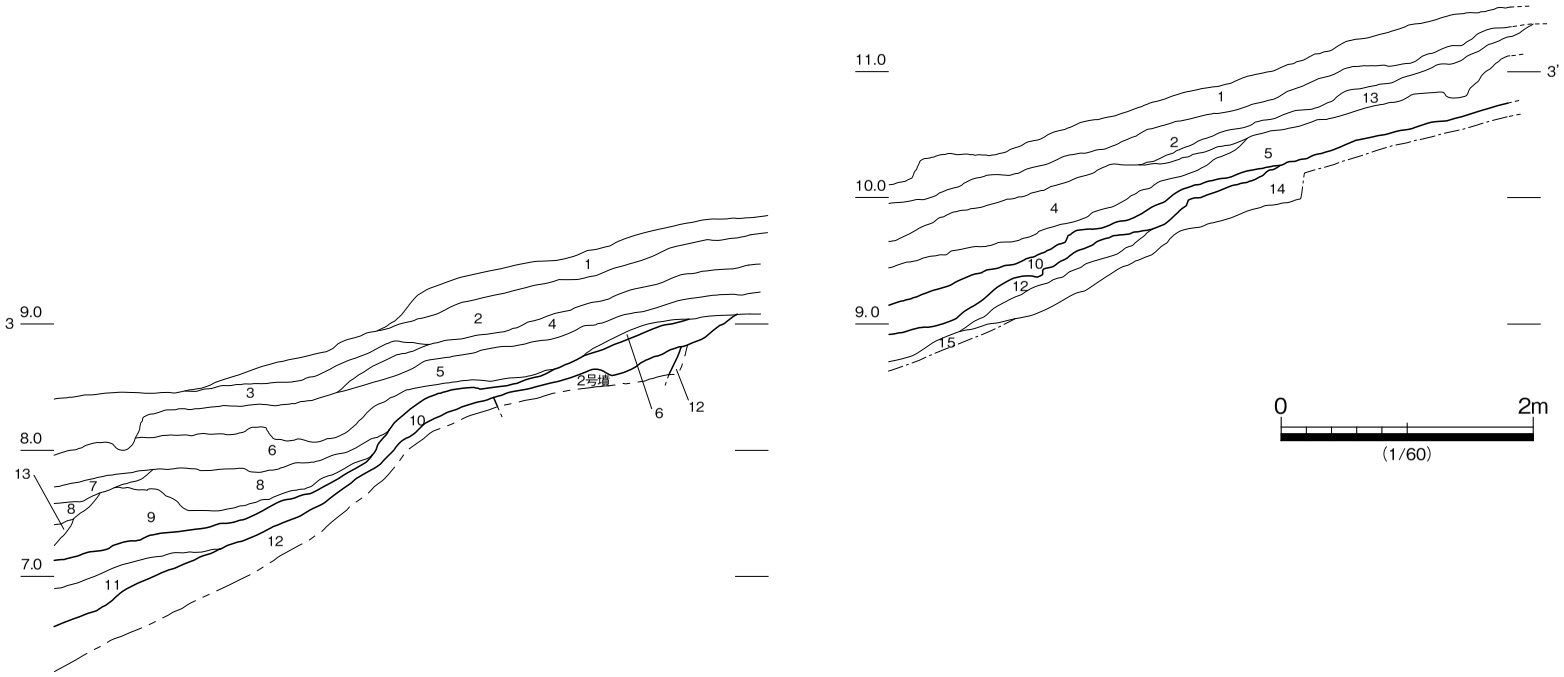
11　2.5Y6/1 黄灰色粘土質シルト　【SD06 最下層】
　少礫を多く含む

12　2.5Y5/1 黄灰色シルト質砂　【SD06 最下層】

13　5Y6/1 灰色シルト質細砂　【SD06 最下層】
　Mn 沈着、グライ化

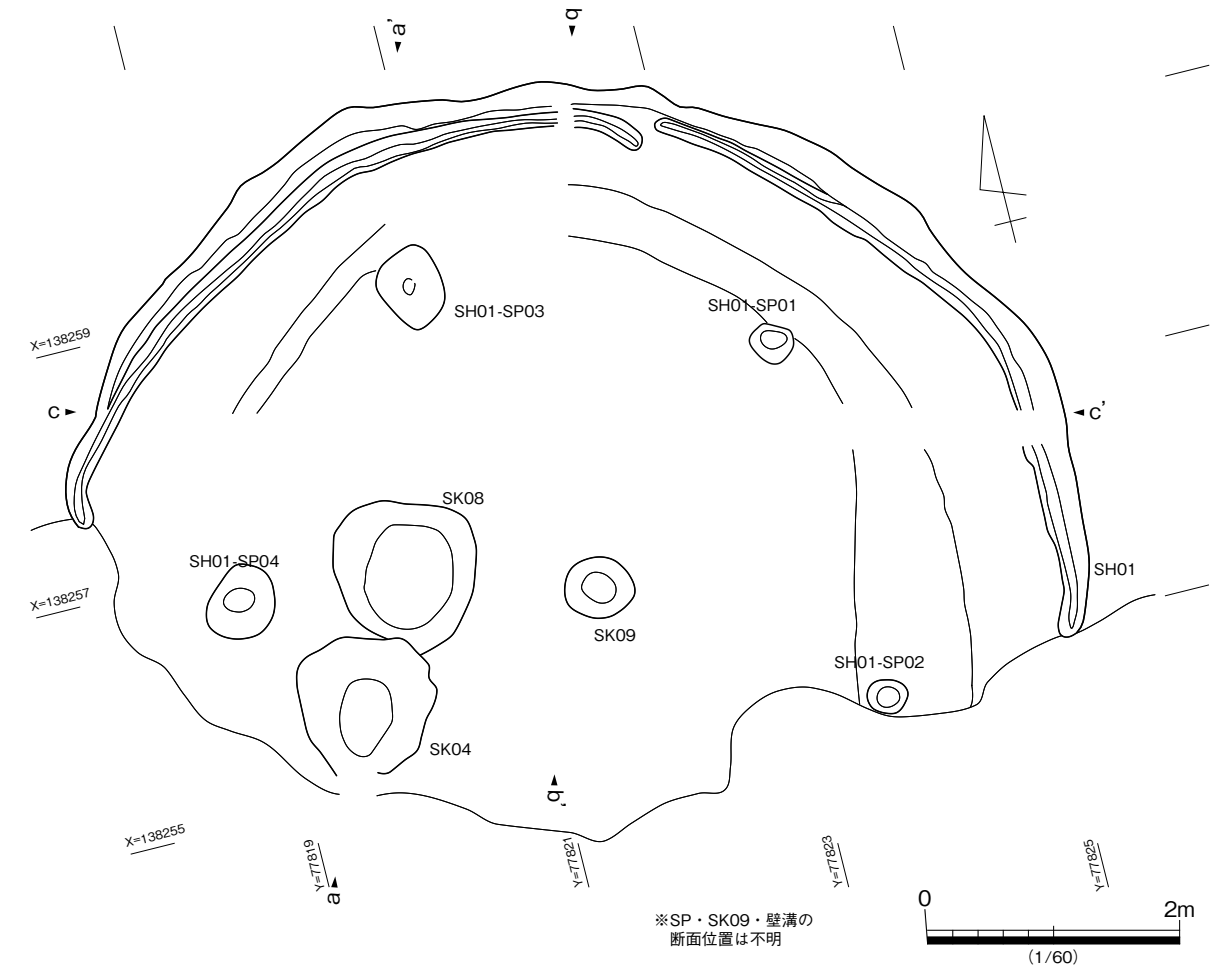
11 ～ 13 層はグライ化し、少礫を多く含む

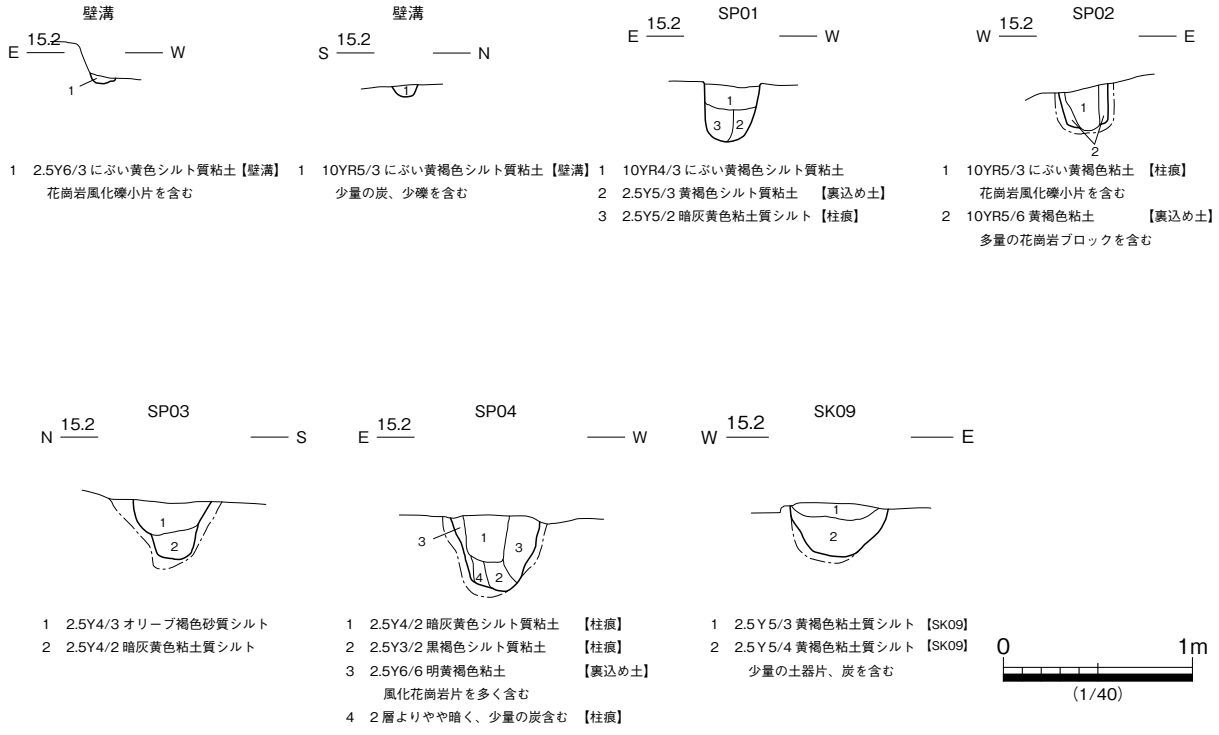
第８図　２－２’断面図



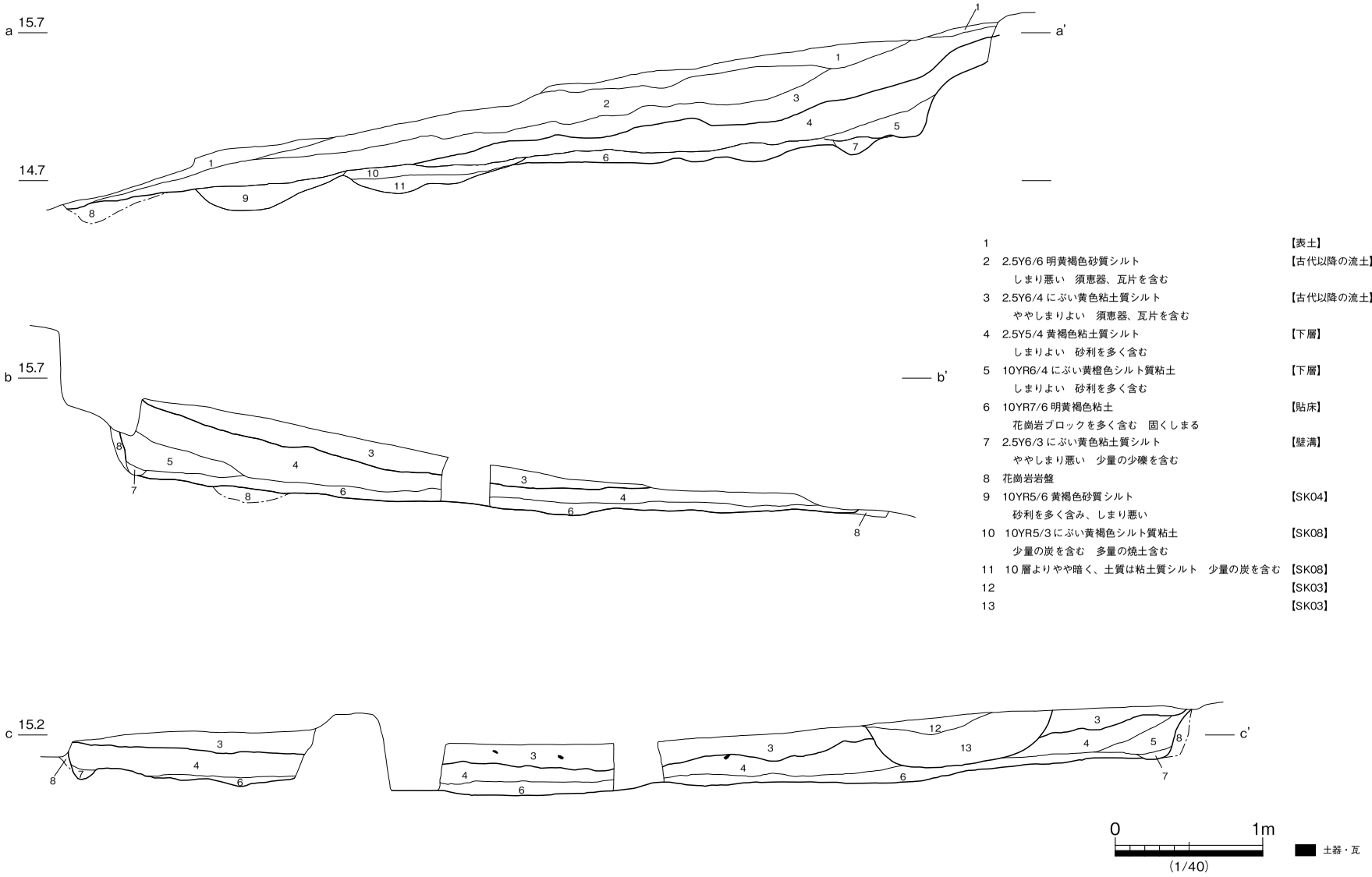
1 【表土】
2 2.5Y7/8 黄色粘土質シルト
3 2.5Y7/6 明黄褐色砂質シルト 【流土】
灰黄色中砂を多く含む
4 2.5Y7/4 浅黄色粘土質シルト 【流土】
少礫を多く含む
5 2.5Y6/2 灰黄色シルト質粘土 【流土】
少礫を多く含む
6 10YR7/4 にぶい黄橙色シルト質粘土 【流土】
少礫を多く含む
7 2.5Y6/2 灰黄色粘土質シルト 【流土】
少礫を多く含む
8 2.5Y6/3 にぶい黄色粘土質シルト 【流土】
少礫を含み、しまり弱い
9 2.5Y7/4 浅黄色粘土 【流土】
しまり強い
10 2.5Y7/6 明黄褐色シルト質粘土 【～古代包含層】
少量の瓦片を含む
11 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト質粘土
少量の炭を含む
12 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト質粘土 【基盤層】
少礫を多く含む
13 8より黄味が強い 【流土】
少礫を含み、しまり弱い
14 2.5Y6/6 明黄褐色シルト質粘土
少礫を多く含む 【基盤層】
15 10YR6/8 明黄褐色粘土
花崗岩岩盤風化土 【基盤層】
少礫を多く含む
16 2.5Y6/8 明黄褐色シルト質粘土 【流土】
少礫を含む

第９図　３－３’断面図



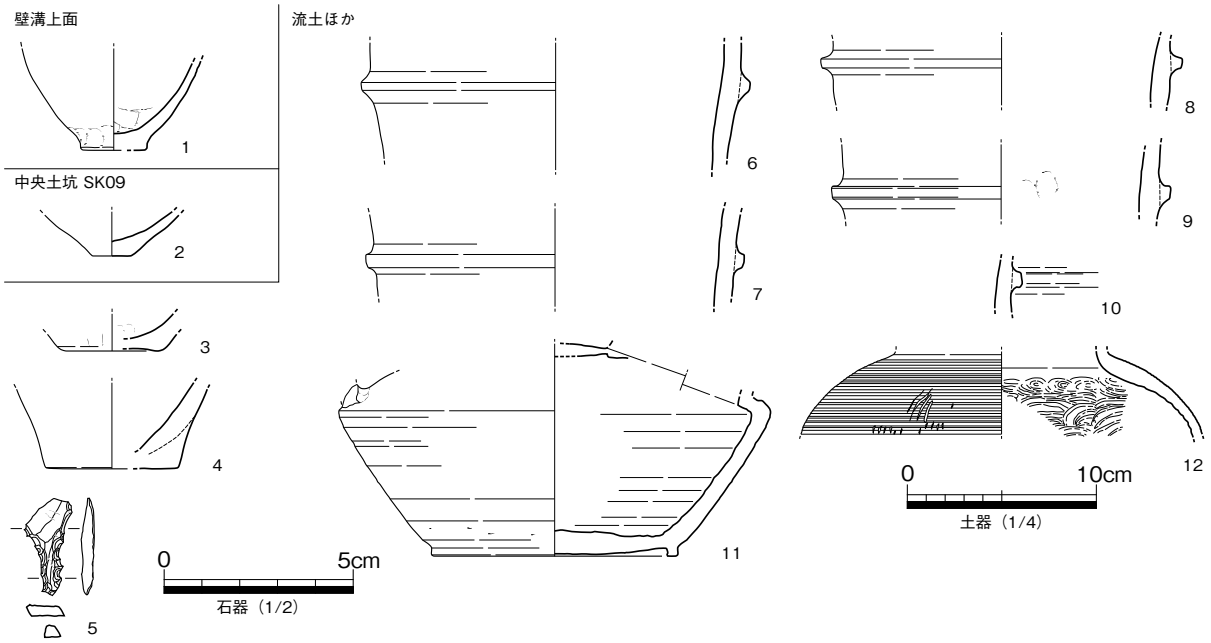


第 10 図　1 区 SH01 平断面図



1		【表土】
2	2.5Y6/6 明黄褐色砂質シルト しまり悪い　須恵器、瓦片を含む	【古代以降の流土】
3	2.5Y6/4 にぶい黄色粘土質シルト ややしまりよい　須恵器、瓦片を含む	【古代以降の流土】
4	2.5Y5/4 黄褐色粘土質シルト しまりよい　砂利を多く含む	【下層】
5	10YR6/4 にぶい黄橙色シルト質粘土 しまりよい　砂利を多く含む	【下層】
6	10YR7/6 明黄褐色粘土 花崗岩ブロックを多く含む　固くしまる	【貼床】
7	2.5Y6/3 にぶい黄色粘土質シルト ややしまり悪い　少量の少礫を含む	【壁溝】
8	花崗岩岩盤	
9	10YR5/6 黄褐色砂質シルト 砂利を多く含み、しまり悪い	【SK04】
10	10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質粘土 少量の炭を含む　多量の焼土含む	【SK08】
11	10 層よりやや暗く、土質は粘土質シルト　少量の炭を含む	【SK08】
12		【SK03】
13		【SK03】

第 11 図　1 区 SH01 断面図



第 12 図　1 区 SH01 出土遺物実測図

明瞭なベッド状遺構ではない。わずかに炭化物が確認された SK09 が中央土坑だろう。壁溝のやや内側に配置された 4 基の柱穴（SH01－SP01 ～ 04）が主柱穴と考えられる。消失部分を考慮すれば、主柱穴は 6 基と考えられる。SK04・08 は床面を掘り込む立ち上がりの緩い土坑状の遺構である。SK04・08 が竪穴住居機能時に形成されたか否かは、調査時の材料が乏しく判断できない。

遺物　**1** は壁溝上面から出土した弥生土器鉢の底部、**2** は中央土坑 SK09 から出土した弥生土器壺の底部である。**3 ～ 12** は竪穴建物埋土から出土した遺物。**3・4** は弥生土器甕底部。**5** はサヌカイト製の石錐。**6 ～ 10** は円筒埴輪。いずれも小片で、磨滅が著しく調整は不明である。**11・12** は須恵器。**11** は平瓶。把手・頸部は欠損する。**12** は壷。外面にはタタキののちカキ目が施される。**6 ～ 12** はおもに北側の斜面上部からの流入によるものと考えられる。北側にある丘陵頂部には古墳群の存在が考えられており、円筒埴輪片は古墳群からの流入も考えられよう。

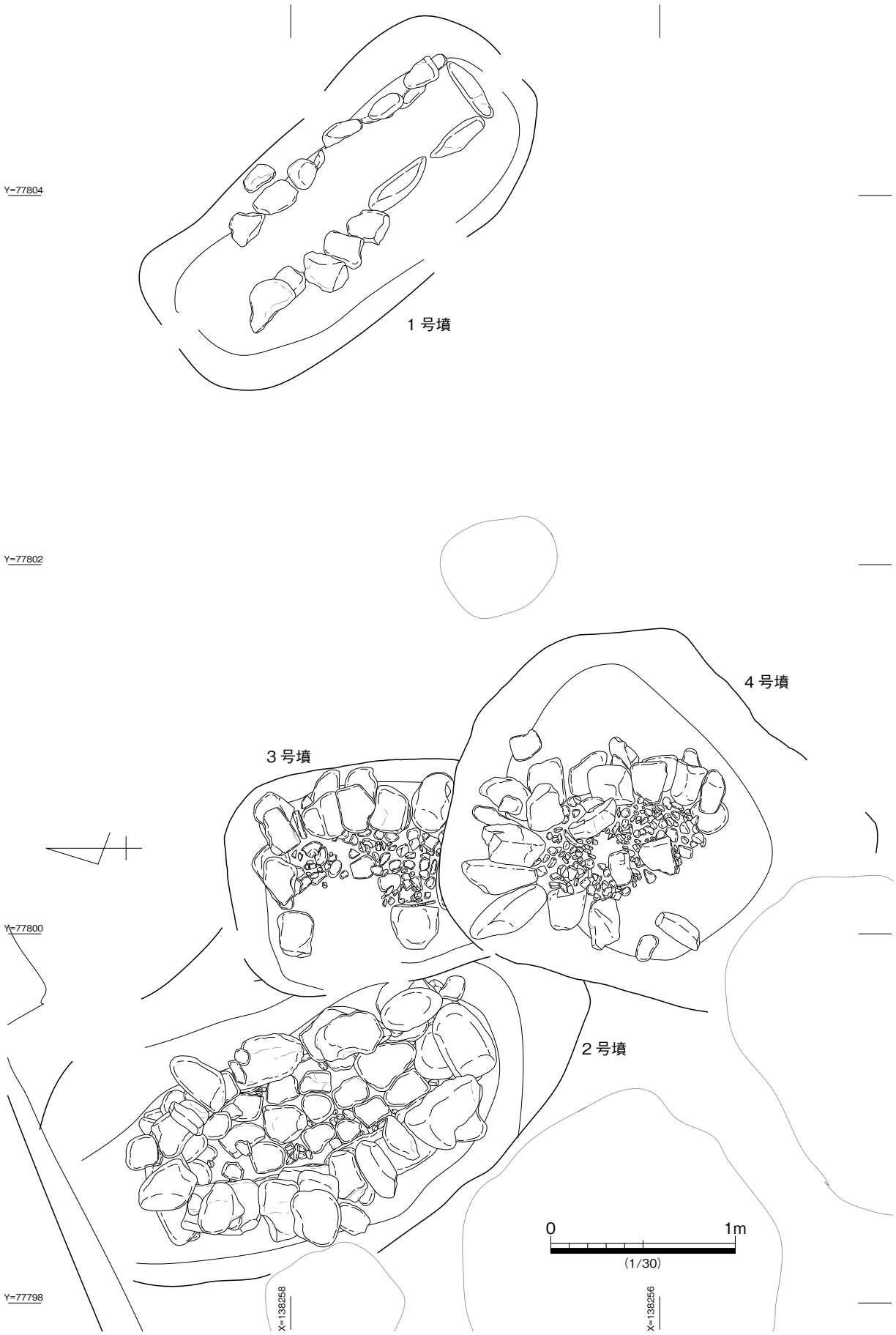
時期　**1・2** から弥生時代後期後半と考えられる。

4　古墳時代の遺構と遺物

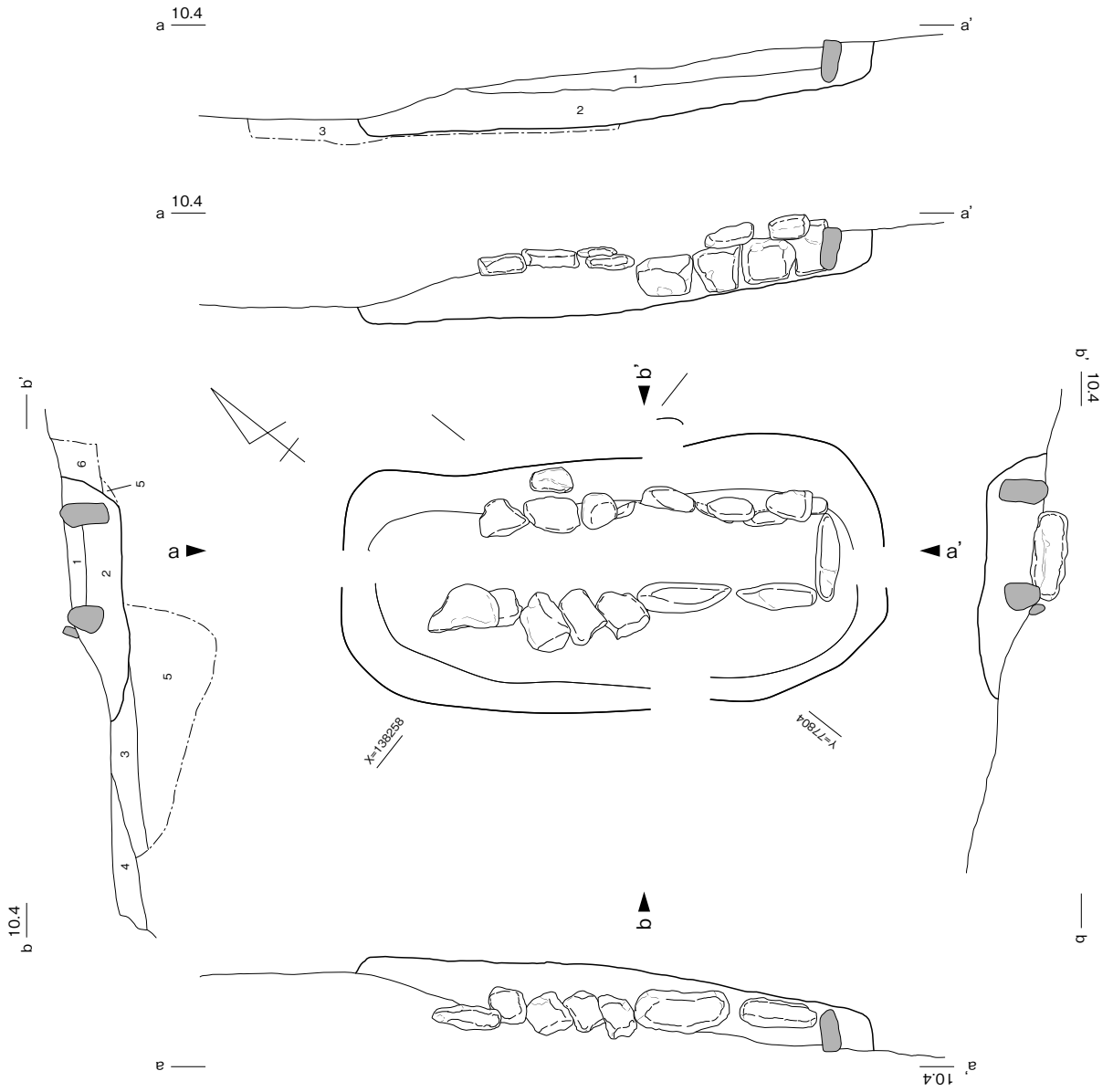
1 区北東丘陵上の谷部に面した西側斜面で 4 基の古墳を検出した。このうち、ほぼ同一地点に築かれた 3 基の古墳は、遺構の切り合い関係から山下岡前 2 号墳→山下岡前 3 号墳→山下岡前 4 号墳の構築順が明らかである。

山下岡前 1 号墳（調査時遺構名：ST01）（第 13 ～ 15 図）

1 区北東丘陵西側斜面で検出された古墳で、箱式石棺を主体部とする古墳である。一方の小口とその周辺の石材は残存していない。長軸の内法は約 1.7m 以上 1.9m 未満、短軸の内法は約 0.25m である。掘り方は石棺に沿った平面形隅丸方形で、長軸長は約 2.3m、短軸長は約 1.1m である。石棺を構成する石材は残存する小口の 1 石と、長軸の一部は板状の石が用いられるが、その他の石材は板状ではない。



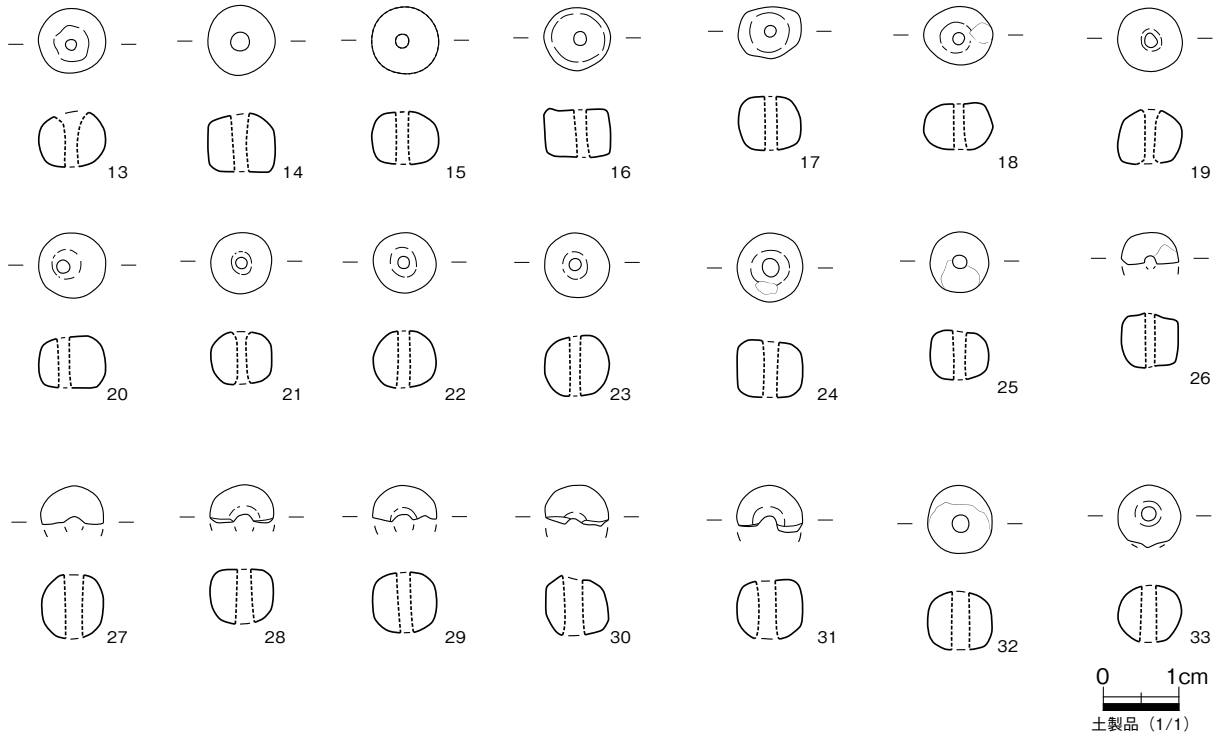
第 13 図　山下岡前 1 ～ 4 号墳 平面図



1　2.5Y7/4 浅黄色粘土質シルト　【棺内流入土】
　φ0.5cm 前後の砂利を多く含む　ややしまり悪い
2　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト質粘土　【床面形成土】
　φ0.5cm 前後の砂利を少量含む　固くしまる
3　2.5Y6/4 にぶい黄色砂質シルト　【基盤層】
　φ0.5cm 前後の砂利を多く含む　しまり悪い
4　2.5Y7/3 浅黄色砂質シルト　【基盤層】
　砂利を多く含む
5　2.5Y6/6 明黄褐色シルト質粘土　【基盤層】
　砂利を多く含む
6　2.5Y7/6 明黄褐色粘土質シルト　【基盤層】
　砂利を含む

0　1m
(1/30)
石

第 14 図　山下岡前１号墳 平断面図



第 15 図　山下岡前 1 号墳 出土遺物実測図

南西側の長辺の一部は 2 段からなるが、この箇所以外は流出して削平されているため、全体が 2 段であったかは不明である。掘り方をにぶい黄橙色シルト質粘土層（2 層）で充填して床面とする。頭位は、小口幅が広いこと、床面のレベルが約 10cm高いことから、南東側と考えられる。主軸方位は N45° W である。

調査時に遺物の出土は認められなかったが、洗浄した埋土から土製丸玉が出土した。

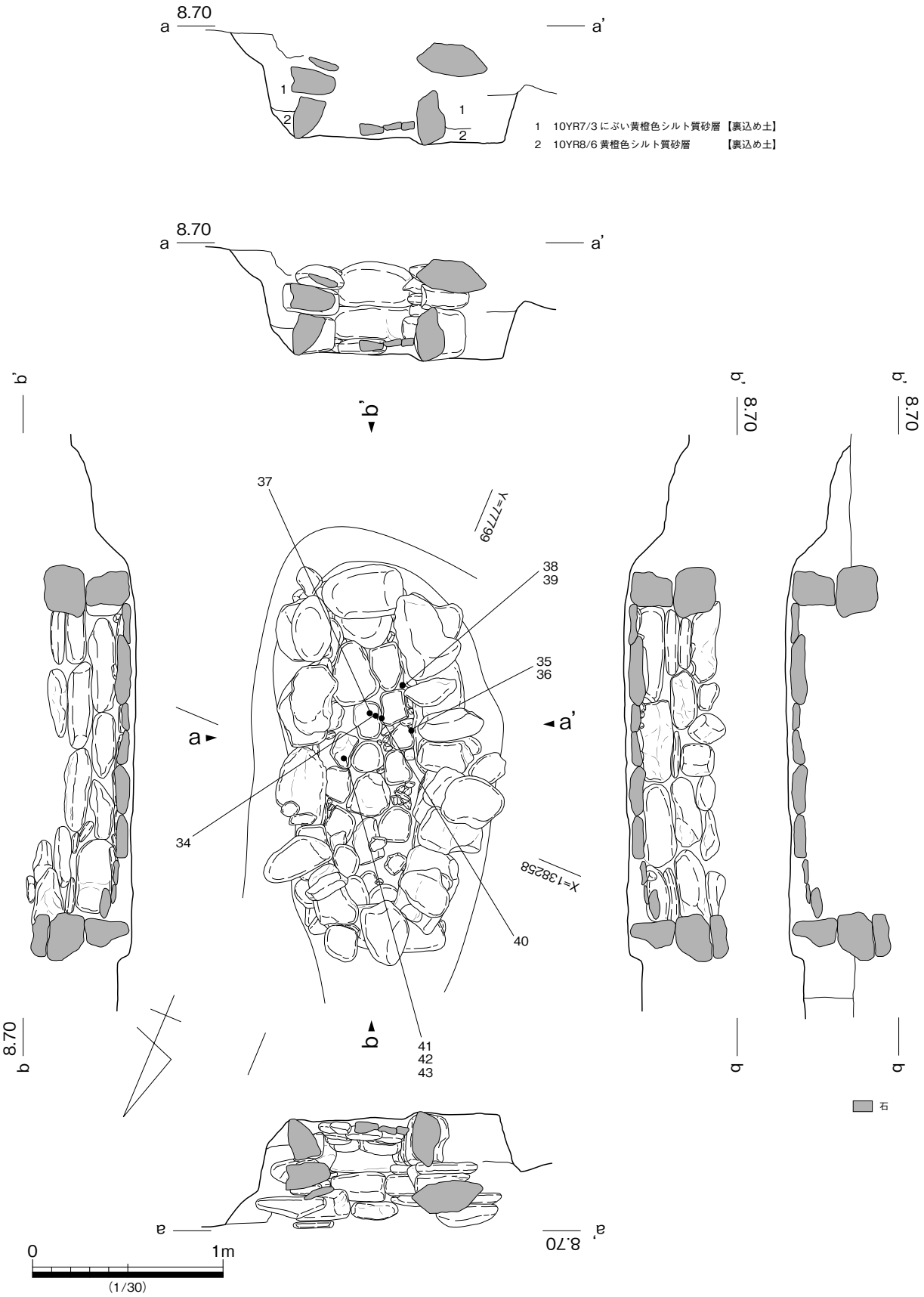
遺物　**13 ～ 33** は土製丸玉である。図化していないが、これ以外に割れた小片が数点出土しているため、本来の点数は 25 点以上とみられる。断面形は円形、隅丸方形、方形等若干のバリエーションはあるが、概ね最大径 0.9cm、長さ 0.6 ～ 0.8cm、孔径 0.1 ～ 0.2cm程度である。

時期　出土遺物に恵まれず、詳細な時期は不明である。2 号墳と同様の主体部構造であるため、2 号墳と同時期の 6 世紀中葉（TK10 型式並行期）としておく。

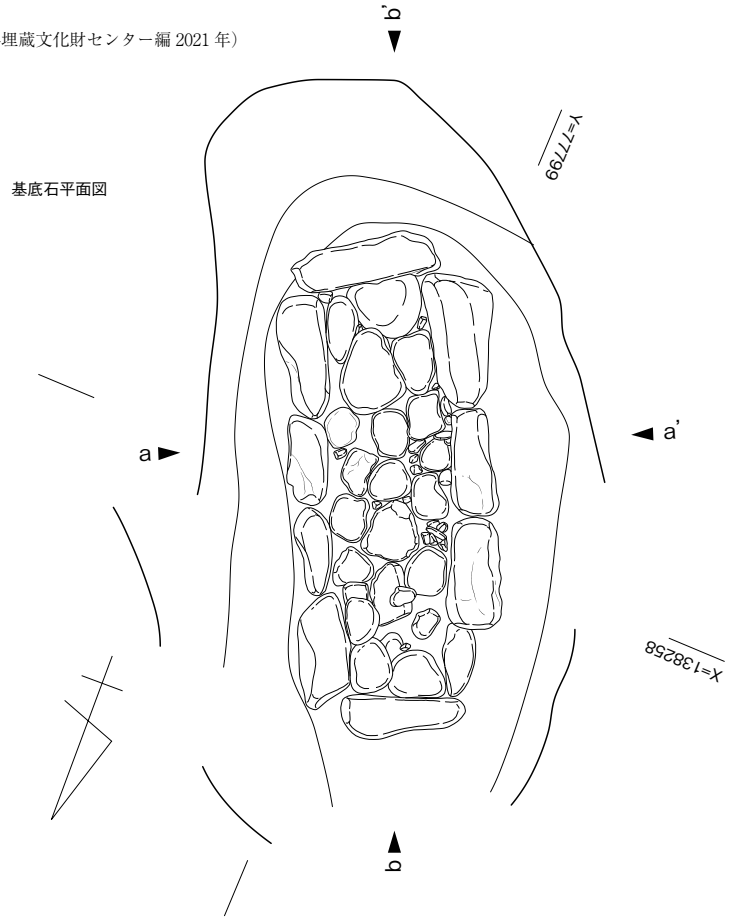
山下岡前 2 号墳（調査時遺構名：ST02）（第 13・16 ～ 18 図）

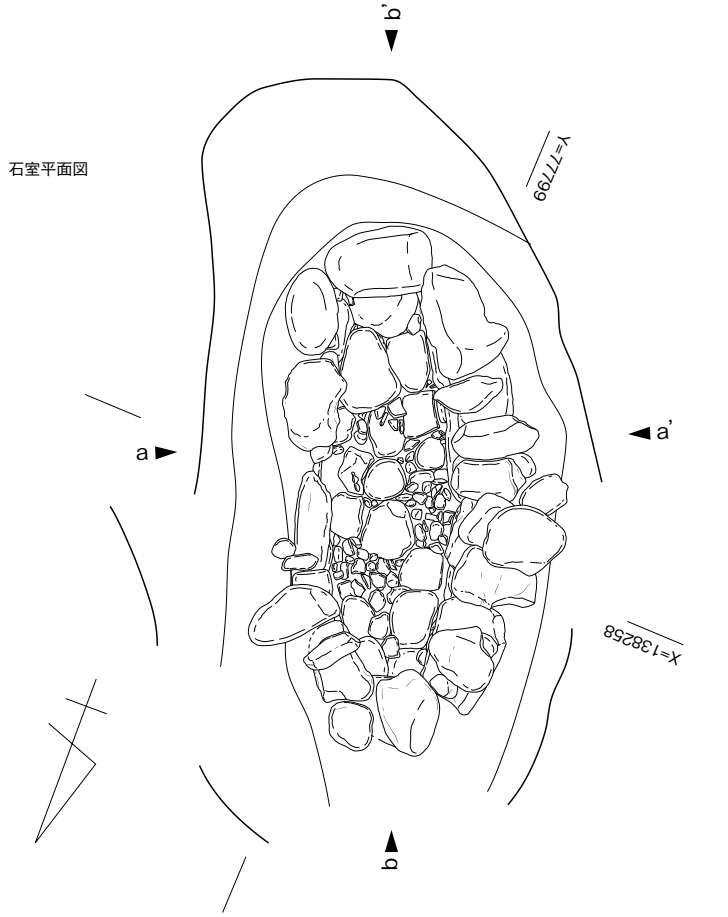
1 区北東丘陵西側斜面で検出された古墳で、小型の竪穴式石室を主体部とする。3 号墳、4 号墳に先行して築かれる。主体部は、長軸 30 ～ 50cm 程度の石を長手積で方形に配置して基底石とする。その上位に 20 ～ 30cm 程度の石を小口積で少なくとも 2 ～ 3 段（基底石から 3 ～ 4 段）積んで側壁とする。基底石の内法は約 1.65m × 0.4 m である。基底石の内側に 10 ～ 20cm の石を敷き、その間に小礫を詰めて床面を形成する。主体部の主軸方位は N13° W である。掘り方の一部を 3 号墳と 4 号墳に破壊される。

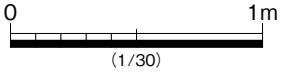
遺物　**34 ～ 43** は鉄鏃で、床面上、側壁際で出土した。**34** は刃部下半部が若干外に広がる長三角形式の有茎平根式で茎を欠損する。**35 ～ 38・40 ～ 43** は長頸式である。**35** は三角形式で、茎に木質の残るもう 1 個体分の茎が付着する。**35・36** は同一地点での取り上げである。三角形式の **37** は茎下端部を欠損するが、それ以外の残存状況は良好である。**38** は三角形式、**39** は型式不明である。**38・39** は同一地点での取り上げのため、同一個体の可能性もある。**40** は三角形式である。**41 ～ 43** は同一地



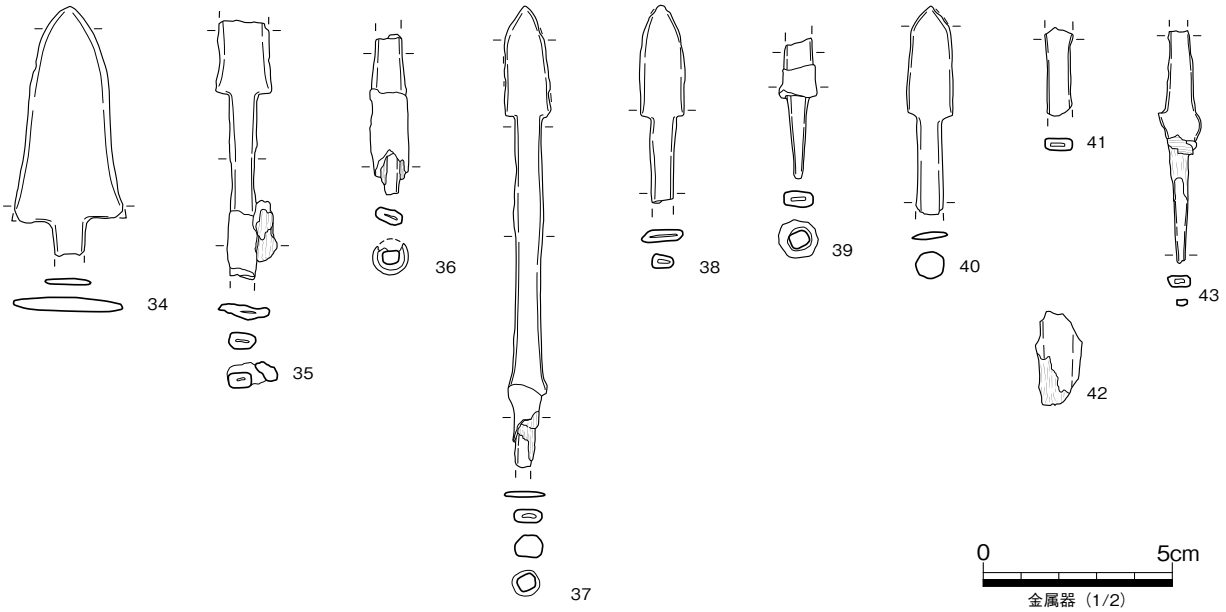
第 16 図　山下岡前２号墳 平立面図







第 17 図　山下岡前２号墳 平面図



第 18 図　山下岡前２号墳 出土遺物実測図

点での取り上げだが、**41・42** は異なる個体だろう。**42・43** が同一個体である可能性は否定できない。

時期　**34** は香川県内では 6 世紀中葉（TK10 型式並行期）に出現する[2]。2 号墳を破壊して築かれる 3 号墳は、出土した須恵器から 6 世紀末～ 7 世紀初頭（TK209 型式並行期）であると考えられるため、2 号墳の時期は 6 世紀中葉～ 7 世紀初頭の幅（TK10 ～ TK209 型式並行期）でとらえられる。ただし、**34** の刃部下半部が若干外に広がり気味で、三角形式の長頸鏃が複数認められる（**35・37・38・40**）点からより古い時期、すなわち 6 世紀中葉に位置づけるのが妥当であろう。

山下岡前 3 号墳（調査時遺構名：SK10）（第 13・19・20 図）

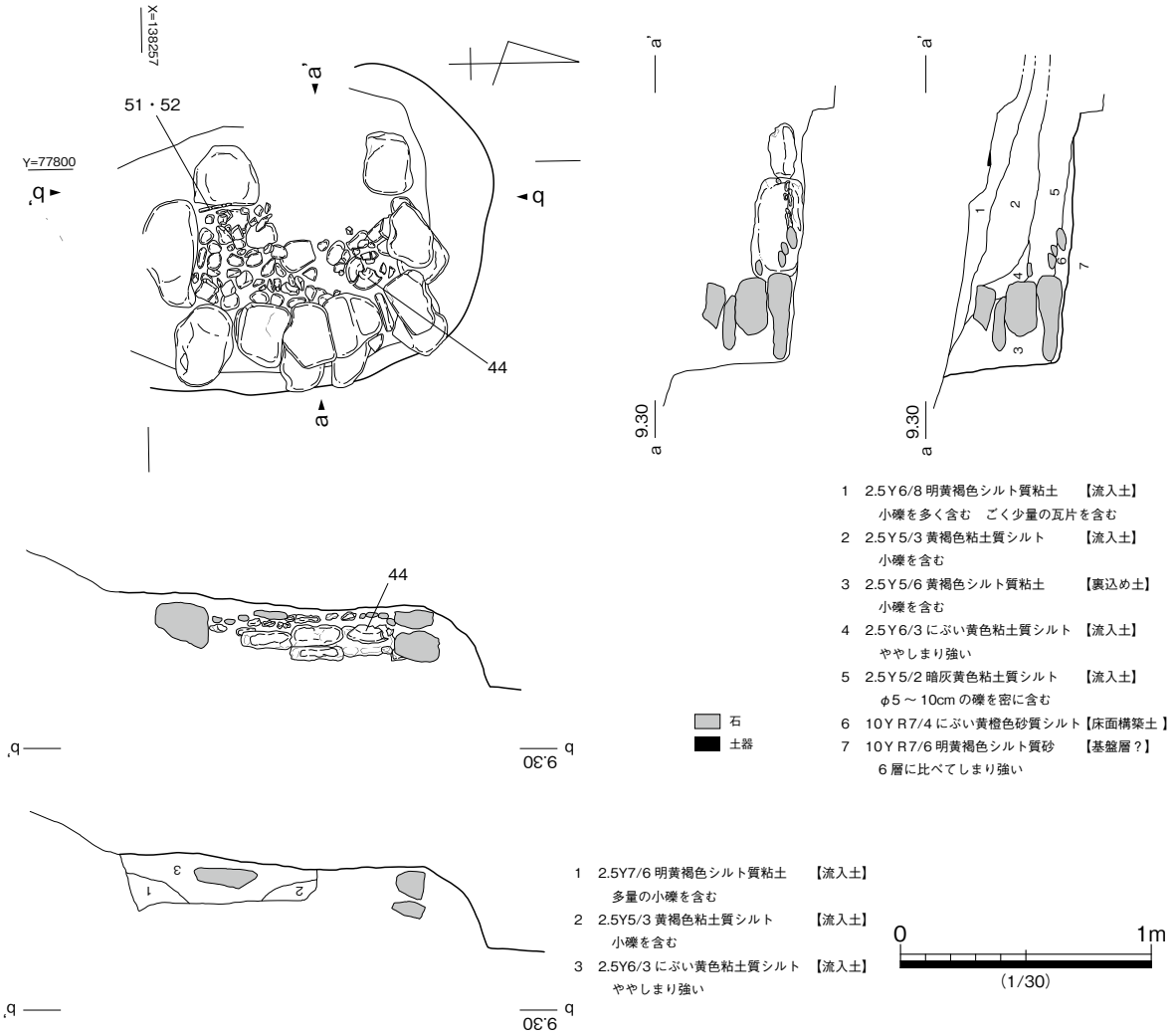
1 区北東丘陵西側斜面で検出された古墳で、小型の竪穴式石室を主体部とする。2 号墳の南東部を一部破壊して築かれ、4 号墳に一部を破壊される。主体部は、20 ～ 30cm 程度の石を方形に配置して基底石とし、その上位に基底石よりやや小ぶりな石を少なくとも 3 段（基底石から 4 段）積んで側壁とする。残存する基底石の内法は約 0.8m × 0.4m である。基底石の内側に小礫を敷き詰めて床面を形成する。主体部の主軸方位は N13° W である。西側壁と礫床の一部は残存していない。さほど時期差がないとみられる 4 号墳に破壊されることから、墳丘を有していなかった可能性が高い。

遺物　**44** は北東隅の床面から出土した須恵器杯蓋である。**45 ～ 50** は、2 ～ 4 号墳を区分せずに調査していた際に取り上げられたため、厳密な出土位置、層位が判然としない。**45 ～ 50** は須恵器。**45・46** は杯蓋。**47 ～ 50** は杯身。**51・52** は鉄鏃。いずれも長茎式と考えられ、鏃の部分の形状は残存しないため不明である。2 個体とも非常に近接した位置で出土したが、両方ともに口巻き部分が残存し、別個体である。

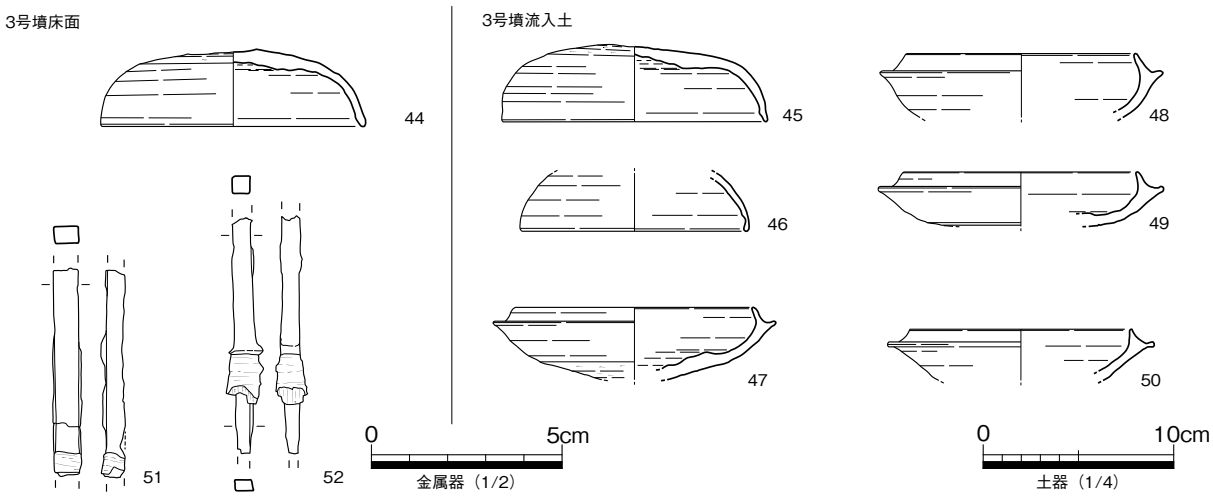
時期　**44** から 6 世紀末～ 7 世紀初頭（TK209 型式並行期）の構築と判断できる。

山下岡前 4 号墳（調査時遺構名：SK12）（第 13・21 図）

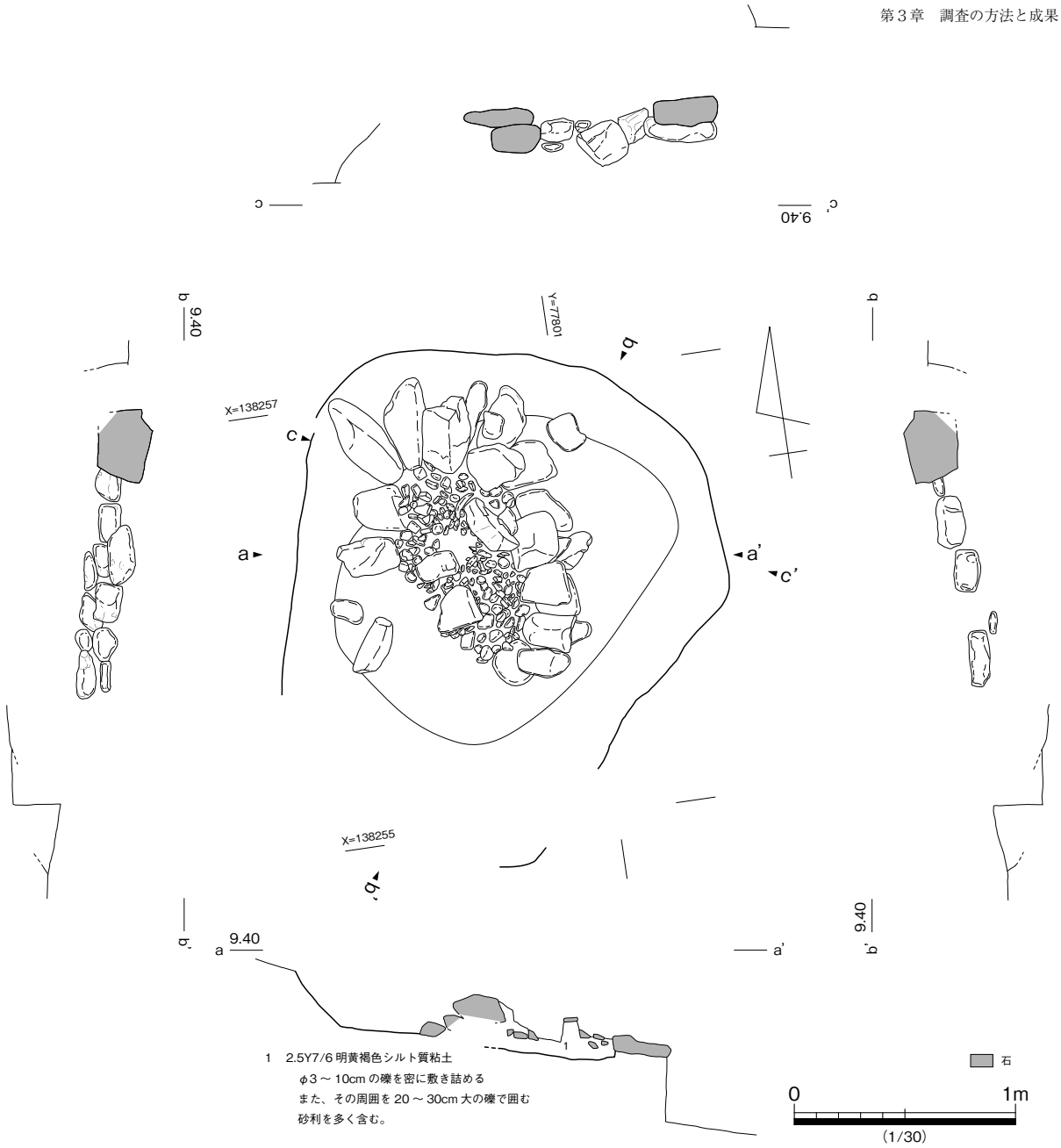
1 区北東丘陵西側斜面で検出された古墳で、小型の竪穴式石室を主体部とする。3 号墳上に築かれる。主体部は、20 ～ 30cm 程度の石を方形に配置して基底石とし、その上位に基底石よりやや小ぶりな石



第 19 図　山下岡前３号墳 平断面図



第 20 図　山下岡前３号墳 出土遺物実測図



第 21 図　山下岡前４号墳 平立面図

を少なくとも２段（基底石から３段）積んで側壁とする。基底石の内法は約 0.9m × 0.45m である。基底石の内側に小礫を敷き詰めて床面を形成する。主軸方位は N18° W である。側壁の南西隅とその周囲の礫床は残存していない。3 号墳と同様の構造であれば、墳丘を有していなかった可能性がある。

埋土中からは弥生時代中期の長頸壺片が出土したが、4 号墳構築時期を示すものではない。

時期　3 号墳（6 世紀末～ 7 世紀初頭）に後出する点と、3 号墳流入土出土須恵器から、7 世紀前葉～中葉（TK217 型式並行期）としておく。

5　時期不明の遺構

SK03（調査時遺構名：SK03）（第 22 図）

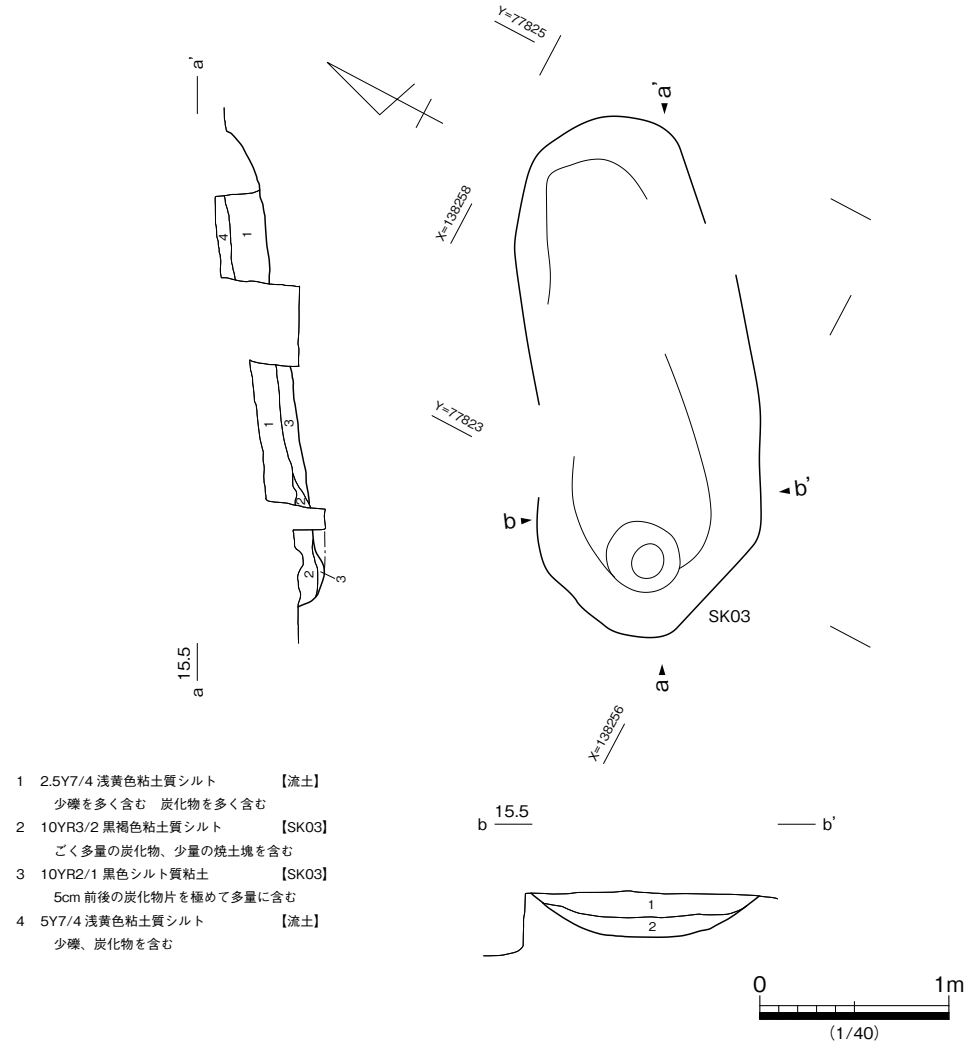
1 区北東丘陵上の尾根頂部からやや南に下った斜面で検出した。SH01 を切り込む。長軸約 2.7m、短軸約 1.2m の土坑状の遺構である。長軸は等高線に直交し、底面は地形に応じて傾斜をもつ。底面の下端部に炭化物を極めて多量に包含する小穴がある。底面直上に堆積する層も多量の炭化物を含む。こうした形状や堆積状況の特徴から、SK03 を伏焼構造の炭焼窯と判断した。遺物は出土していない。

時期　時期の特定は困難だが、埋土から近代以降と考えられる。

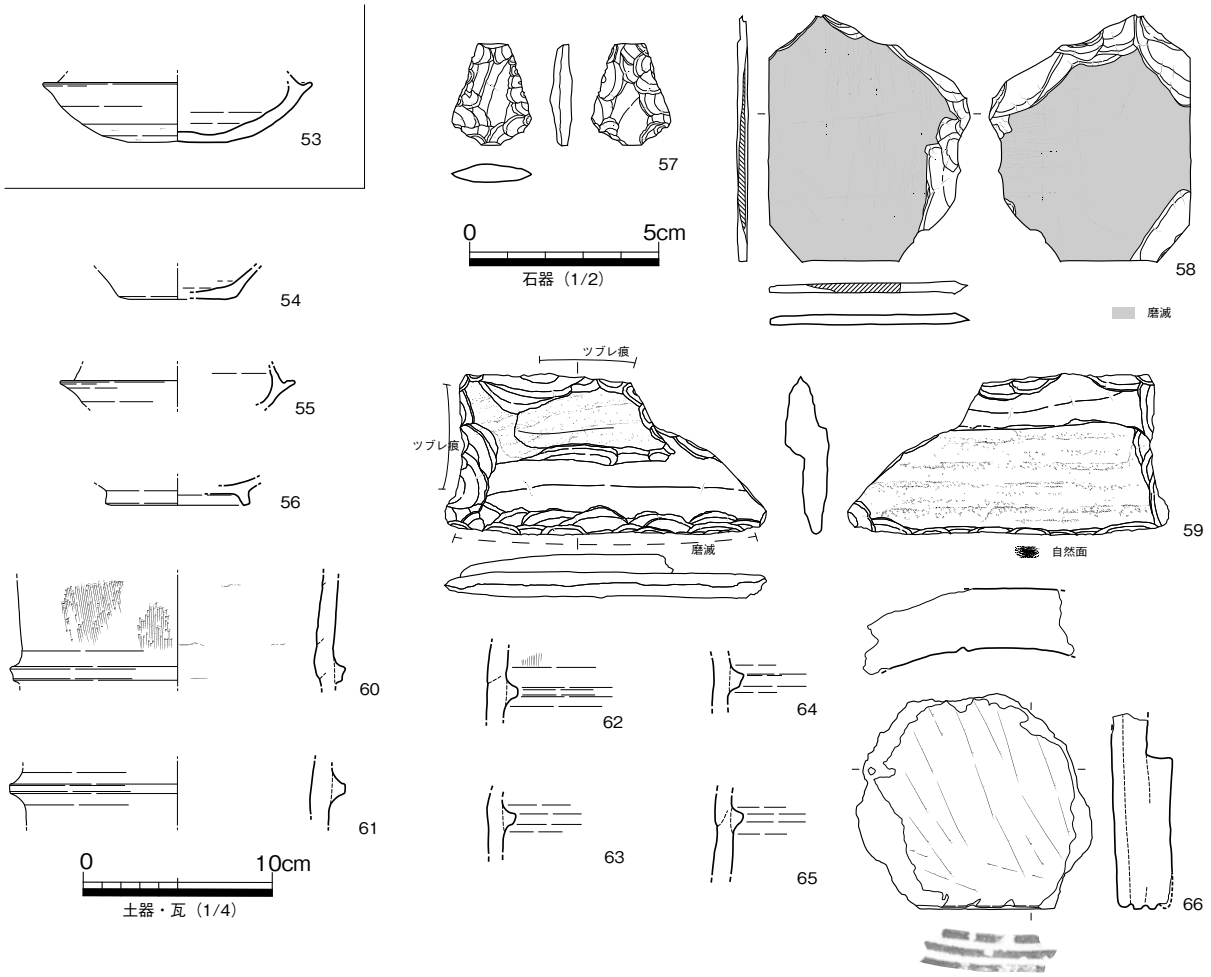
6　流土等出土遺物（第 23 図）

1 区北東丘陵上で出土した遺物である。大半は SH01 上面に堆積した流土からの出土遺物である。

53 は須恵器杯身。6 世紀中葉～後半（TK10 ～ TK43 型式並行期）の所産。1 ～ 4 号墳周辺の機械掘削中に出土した遺物である。**54 ～ 66** はそれ以外の流土から出土した。**54・57・66** は丘陵裾部付近から出土、**56・58 ～ 65** は SH01 周辺に堆積した流土から出土した。**54** は弥生土器甕底部。摩滅が著しく、調整は不明。**55** は須恵器杯身で **53** と同時期。**56** は土師質土器椀。**57** はサヌカイト製石鏃。**58** は器種不明。粘板岩性。表・裏面と 2 側面に擦痕がある。表・裏面は平滑である。**59** は結晶片岩製石庖



第 22 図　SK03 平断面図



第 23 図　北東丘陵流土など出土遺物実測図

丁。**60 ～ 65** は円筒埴輪片。いずれも SH01 周辺の流土で出土したもので、磨滅するものが多い。**60・62** は縦方向のハケが残る。SH01 上部の流入土からも円筒埴輪片が多く出土し、調査区北側の丘陵上からの流入が想定される。北側に当該期の古墳の存在が考えられる。**66** は軒平瓦。型引四重弧文で、SR201 型式である。

54 は SH01 と、**53・55** は山下岡前 1 号墳～ 4 号墳と概ね同じ時期である。**66** は谷部の遺構群や白鳥廃寺で多く出土する型式の瓦である。**56** は谷部の遺構群の最終の時期と概ね同じ時期を示す。

第 3 節　谷部の調査成果（白鳥廃寺跡関連遺構）

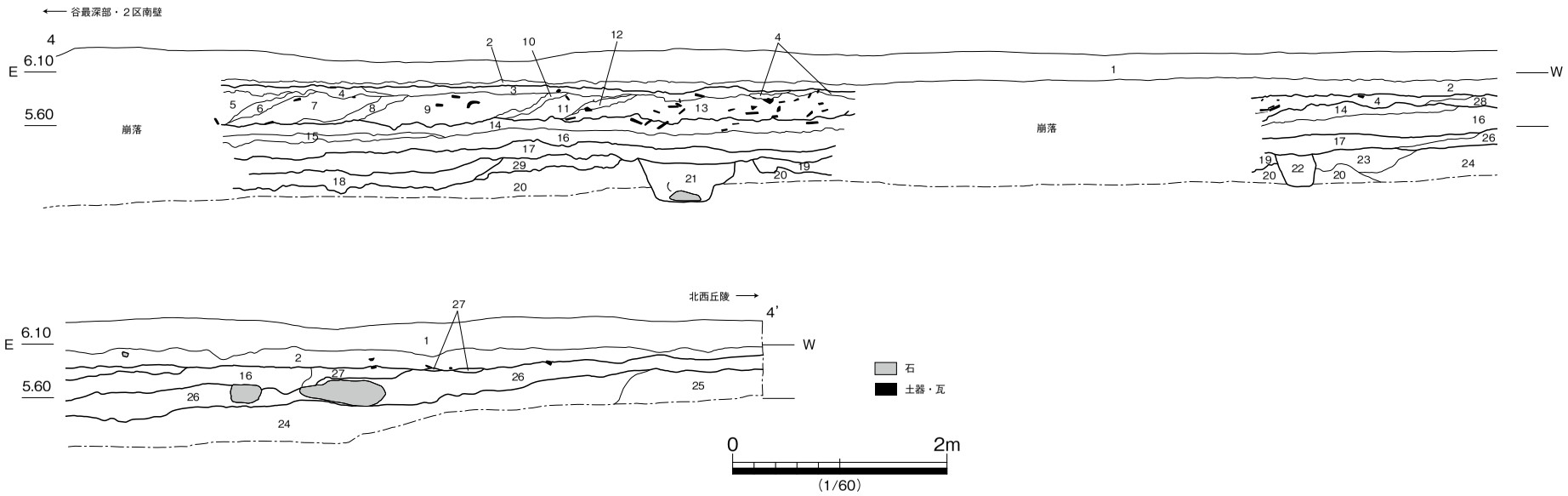
1　対象遺構

谷部には古代の掘立柱建物群、柵列、区画溝が検出され、南側に位置する白鳥廃寺と密接に関連する遺構群と考えられる。1 区北東丘陵の南端部で検出した古代の溝 SD06 も、同時期の白鳥廃寺跡に関連する遺構とみられるため、本節での報告に含める。

2　層序

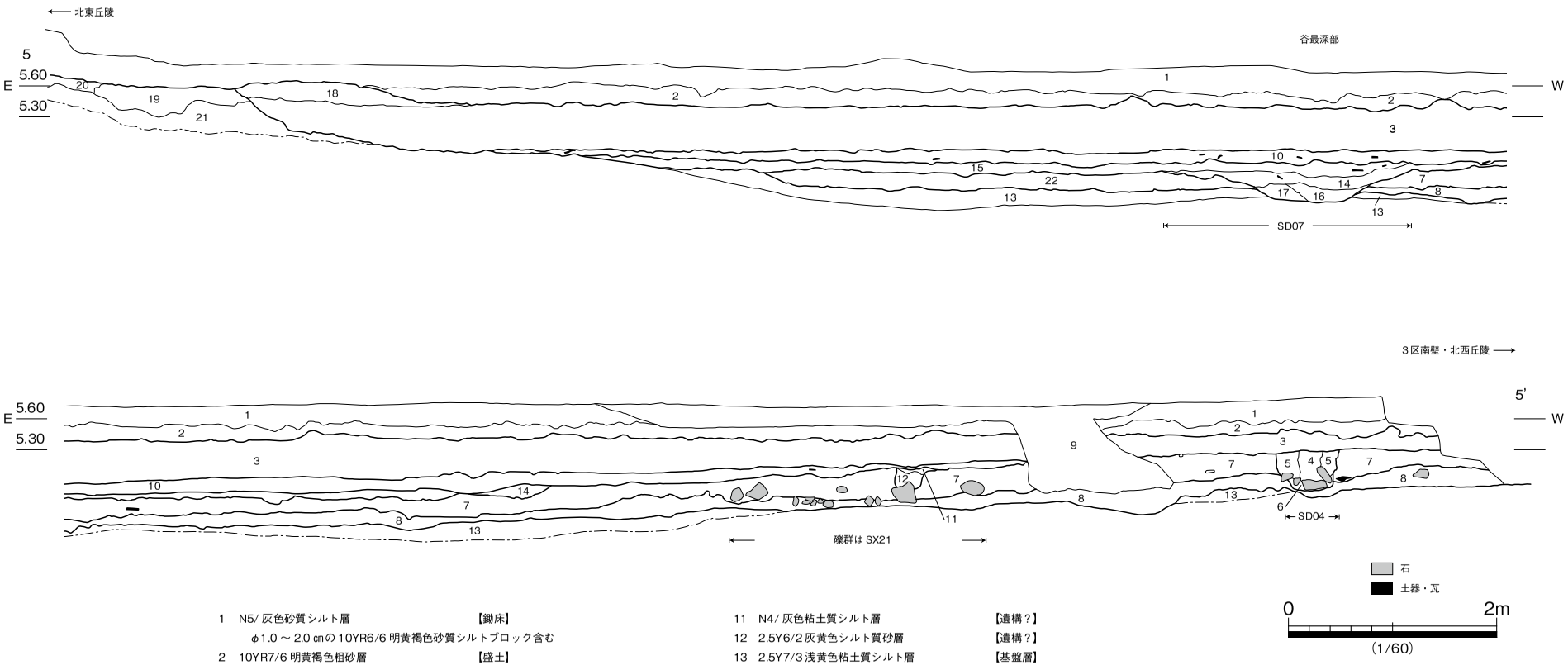
(1)　4-4’・5-5’ 断面（4・5 断面　第 6・24 ～ 26 図）

第 24 図　谷部東西断面図



1　【耕作土】
2　【鋤床】
3　7.5YR6/4 にぶい橙色シルト層　【旧鋤床】
4　10YR7/3 にぶい黄橙色シルト層　【近世整地層】
　φ1.0 ～ 2.0cm の 7.5YR7/6 橙色シルトブロック多量に含む
5　10YR6/1 褐灰色粘土質シルト層　【近世整地層】
　Mn 含む
6　2.5Y8/1 灰白色砂質シルト層　【近世整地層】
7　10YR6/1 褐灰色シルト質砂層　【近世整地層】
　φ0.5 ～ 1.0cm の N7/ 灰白色シルト・
　10YR7/4 にぶい黄橙色シルトブロック多量に含む
8　N6/ 灰色粘土層　【近世整地層】
9　10YR6/1 褐灰色シルト質砂層　【近世整地層】
　φ1.0 ～ 3.0cm の N6/ 灰色粘土・
　φ0.5 ～ 1.0cm の 10YR7/4 にぶい黄橙色シルトブロック多量に含む
10　2.5Y8/4 淡黄色粘土質シルト層　【近世整地層】
11　10YR6/1 褐灰色シルト質砂層　【近世整地層】
　φ1.0 ～ 3.0cm の N6/ 灰色粘土・
　φ0.5 ～ 1.0cm の 10YR7/4 にぶい黄橙色シルトブロック多量に含む
12　2.5Y8/4 黄灰色粘土質シルト層　【近世整地層】
13　10YR6/1 褐灰 1 色シルト質砂層　【近世整地層】
　φ1.0 ～ 3.0cm の N6/ 灰色粘土・
　φ0.5 ～ 1.0cm の 10YR7/4 にぶい黄橙色シルトブロック多量に含む
14　2.5Y6/1 黄灰色シルト質粘土層　【中世～近世堆積層】
15　N3/ 暗灰色シルト質粘土層　【中世～近世堆積層】
16　2.5Y7/2 灰黄色～ 2.5Y7/3 浅黄色シルト質砂層【中世～近世堆積層】
17　10YR4/1 褐灰色砂質シルト層　【古代整地層 2】
　φ0.5 ～ 1.0cm の 2.5Y6/2 灰黄色シルト (基盤層) ブロック少量含む
18　5B6/1 青灰色シルト質粘土層　【古代堆積層】
　φ0.5 ～ 1.0cm の 2.5Y6/2 灰黄色粘土 (基盤層) ブロック少量含む
19　N4/ 灰色～ N5/ 灰色シルト質粘土層　【古代整地層 1】
　φ0.5 ～ 1.0cm の 2.5Y6/2 灰黄色粘土 (基盤層) ブロック少量含む
20　2.5Y6/2 灰黄色粘土～ 10YR7/4 にぶい黄橙色シルト層　【基盤層】
21　N4/ 灰色粘土層　【SP124（SB06）】
22　10YR4/1 褐灰色シルト質粘土層　【SP】
　φ0.5 ～ 1.0cm の 10YR7/3 にぶい黄橙色粘土質シルト (基盤層) ブロック含む
23　10YR6/1 褐灰色シルト～ 10YR6/2 灰黄褐色シルト質砂層　【基盤層】
　※基本的には 24 層と同じ、色調が暗く Mn を多量に含む
24　10YR7/3 にぶい黄橙色砂質シルト～ 7.5YR7/6 橙色シルト質粗砂層　【基盤層】
25　10YR7/4 にぶい黄橙色～ 10YR7/6 明黄褐色粗砂層　【基盤層】
26　10YR6/1 褐灰色～ 2.5Y6/1 黄灰色砂質シルト層　【古代整地層 2】
27　N3/ 暗灰色シルト質粘土層　【近世整地層】
28　2.5Y6/2 灰黄色粘土質シルト層　【近世整地層】
29　N4/ 灰色～ N5/ 灰色シルト質粘土層　【古代整地層１？】
　φ0.5 ～ 1.0cm の 2.5Y6/2 灰黄色粘土 (基盤層) ブロック少量含む

第 25 図　４－４’断面図



1　N5/ 灰色砂質シルト層　【鋤床】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 10YR6/6 明黄褐色砂質シルトブロック含む
2　10YR7/6 明黄褐色粗砂層　【盛土】
3　N6/ 灰色粘土質シルト層　【近世整地層】
　φ0.5 ～ 1.0cm の 10YR6/6 明黄褐色砂質シルトブロック含む
4　N4/ 灰色シルト質粘土層　【SA01･SP139 柱痕】
　φ0.5cm の 7.5GY7/1 明緑灰色粘土ブロック少量含む
5　10YR6/2 灰黄褐色シルト層　【SA01･SP139 裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0cm の 10YR6/1 褐灰色シルトブロック含む
6　N5/ 灰色シルト層　【SA01･SP139 置き土】
7　10YR6/1 褐灰色砂質シルト層～シルト質砂層　【古代整地層２】
　φ0.5 ～ 1.0cm の 10YR6/6 明黄褐色砂ブロック含む
8　N4/ 灰色粘土層　【古代堆積層】
　φ0.5 ～ 1.0cm の 10YR7/3 にぶい黄橙～ 2.5Y7/3 浅黄色シルト質粘土ブロック少量含む
9　【耕作土･撹乱】
10　10Y5/1 灰～ N5/ 灰色砂質シルト層　【中世～近世堆積層】
11　N4/ 灰色粘土質シルト層　【遺構？】
12　2.5Y6/2 灰黄色シルト質砂層　【遺構？】
13　2.5Y7/3 浅黄色粘土質シルト層　【基盤層】
　一部グライ化
14　7.5GY7/1 明緑灰色砂質シルト層　【施設群廃絶後堆積層】
　12c の遺物含む
15　5BG5/1 青灰色砂質シルト層　【施設群廃絶後堆積層】
16　N5/ 灰色シルト質粘土層　【SD07】
　5Y7/1 灰白～ 7.5Y7/2 灰白色砂を帯状に含む
17　N4/ 灰色シルト質粘土層　【SD07】
　5Y7/3 浅黄～ 7.5Y7/2 灰白色砂を帯状に含む
18　N6/ 灰色シルト層　【近世整地層】
19　10YR5/1 褐灰 褐灰色シルト層　【基盤層】
20　7.5YR6/6 橙色粘土層　【基盤層】
21　10YR5/1 褐灰～ N5/ 灰色粘土質シルト層　【基盤層】
22　10YR6/1 褐灰色シルト質砂層　【古代整地層２】
　φ0.5 ～ 1.0cm の 10BG7/1 明青灰灰色砂 (基盤層) ブロック含む

第 26 図　5－5’断面図

4-4’断面（4 断面）、5-5‘断面（5 断面）は、北東丘陵･北西丘陵間の谷部を横断する断面となっており、今回の調査地の基本層序を示す。

基盤層

北西丘陵沿いでは、丘陵を構成する風化した花崗岩の粗砂層を基盤層とする（4 断面 24・25 層）。谷部に近くなると基盤層は灰黄褐色～黄橙色シルト～粘土層になる（4 断面 20・23 層）。基盤層は、北西丘陵から谷部にかけて標高が下がる。

古代整地層 1（7 世紀末～ 8 世紀前葉）

基盤層の落ち際には、部分的に基盤層ブロックを少量含む灰色シルト質粘土層（4 断面 19 層）が 10cm 前後の厚さで堆積する。この層を古代整地層 1 とする。4 断面 29 層は、4 断面 19 層と類似するため古代整地層 1 の可能性がある。SB06 を構成する SP124（4 断面 21 層）は、4 断面図からは古代整地層 1 との前後関係は不明であるが、古代整地層 2 により覆われており、古代整地層 1 は SB06 構築に伴う整地層と考えられる。4 断面 29 層の後に 8 世紀前葉の古代堆積層(4 断面 18 層)が形成されており、4 断面 29 層を古代整地層 1 に含めるのであれば、古代整地層 1 の下限時期は 8 世紀前葉となる。白鳥廃寺跡の創建時期は、塔基壇出土の須恵器から 7 世紀末～ 8 世紀初頭と考えられるため [3]、古代整地層 1 の上限は 7 世紀末に位置づけられる。本層から遺物は出土していない。

古代堆積層（8 世紀前葉）

谷部と谷部に近い箇所に、基盤層ブロックを少量含む青灰色シルト質粘土～灰色粘土層（４断面 18 層、５断面 8 層）が堆積している。概ね掘立柱建物群東半～ SD07 付近までで認められた。低地を人為的に埋め立てた層というよりは、自然堆積層とみられる。この層は 7 世紀末～ 8 世紀前葉の遺物を含むことから、古代堆積層とした。なお、古代堆積層の上位に古代整地層 2 が堆積している。

調査時には本層から出土した遺物を「暗灰色粘土層」として取り上げた。谷最深部付近には川原石が散乱する遺構 SX21 が広がり、その下位にあたる層を「暗灰色粘土層 SX21 下位」として取り上げた。SX21 は古代堆積層と古代整地層 2 の境の一部に認められる礫群で、古代整地層 2 の地業に関わる遺構の可能性がある（第 79 図参照）。

出土遺物は 7 世紀末～ 8 世紀前半頃の須恵器、土師器が非常に多く出土した。わずかではあるが、転用硯や鉄鉢形土器等、寺院に関わると考えられる遺物も出土した。瓦の出土量は少ない。

古代整地層 2（8 世紀前葉）

基盤層ブロックを少量含む褐灰色～黄灰色砂質シルト層（４断面 17・26 層、５断面 7・22 層）で、西方丘陵近くでは基盤層直上に、西方丘陵からやや離れた地点から谷部にかけては古代堆積層上に堆積する。６断面の古代整地層 2 に対応する。この層上から掘立柱建物 SB01 ～ 05 を構成する SP 群や柵 SA01 が掘り込まれる。谷最深部付近では、等高線に直交する南北方向の溝 SD07 が形成される。このため、本層は、谷最深部から西方丘陵寄りにかけて広がる施設群構築に伴う整地層と考えられる。なお、本層上面は西方丘陵、東方丘陵の東西の丘陵から谷部にかけて緩やかに標高が下がる。本来は水平から水平に近い状態だった層が、谷最深部に向かって流出し、上面が傾斜面をもつようになった可能性はあ

る。

施設群廃絶後堆積層（10 世紀前葉）

青灰色～明緑灰色砂質シルト層（5 断面 14・15 層）で、SD07 上位、谷最深部付近にのみ認められる層である。古代整地層 2 の上位に堆積し、SD07 の最終埋没層を構成する。SD07 の維持が停止した後、窪地となっていた旧 SD07 を含む谷最深部に流入した層と考えられる。本層の由来は、主に本層直下の古代整地層 2 に求められるだろう。本層の時期は SB01 ～ 05 等の施設群廃絶後とみるのが妥当である。施設群の廃絶時期は、**161** の時期から 10 世紀前葉（佐藤編年Ⅳ期中相）と考えられ、本層は 10 世紀前葉からさほど期間を経ない時期に堆積したとみられる。

中世～近世堆積層（10 世紀～近世）

灰色砂質シルト層で谷最深部付近に堆積する（４断面 14 ～ 16 層、５断面 10 層）。施設群廃絶後堆積層と同一層の可能性もあるが、調査時の所見では異なる層と判断した。本層から遺物は出土してないため、下位の古代整地層 2 を由来とする流土（施設群廃絶後堆積層）、上位の近世整地層から時期を推定した。

近世整地層（近世）

径 0.5 ～ 3.0cm の明黄褐色砂質シルト・灰色粘土等のブロックを多量に含む灰色～褐灰色粘土質シルト～シルト質砂層（４断面４～ 13・27・28 層、 ５断面 3・18 層）で、西方丘陵裾から谷部、東方丘陵付近にまで広がる。締まりは非常に強い。上面のレベルが揃い、直上には鋤床層が堆積するため、水田形成のために谷部をかさ上げした整地層と考えられる。古代の遺物、特に瓦を多量に包含し、その多くは小片である。それらに混じってわずかに含まれる近世の遺物から、19 世紀の層と判断した。本層の由来は、白鳥廃寺跡の伽藍域を中心とした土であろう。

(2)　6-6’ 断面（６断面　第 6・27 図）

４断面から 8 ～ 9m 北で、ほぼ４断面に平行させて設定した断面である。基本的には４断面と同様の堆積状況を示し、古代整地層 2 上面から掘り込む柱穴が明瞭にわかる。

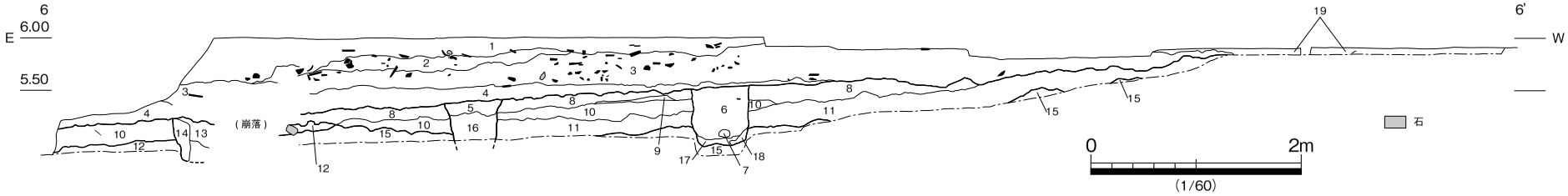
基盤層（15 層）直上に古代堆積層（12 層）が堆積し､その上に古代整地層 2（8 ～ 11 層）が堆積する。断面にかかる柱穴 SP16・SP39・SP64 の掘り込み面はいずれも古代整地層 2 上面である。古代整地層２上面には近世整地層が広がる。

(3)　7-7’（７断面　第 6・28 図）

谷部のやや奥（北）を東西に横断して設定した断面である。４断面、６断面とほぼ平行し、一部の層の層厚は薄くなるものの、基本的な層序は４断面、６断面と共通する。

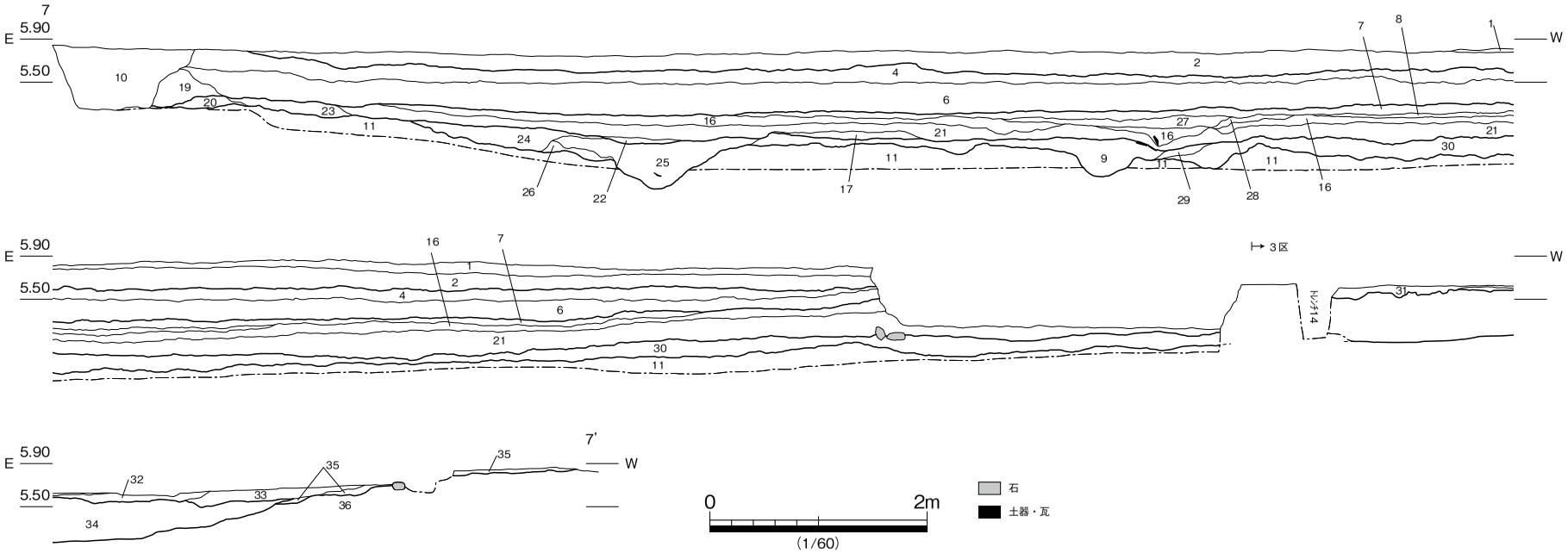
基盤層

黄灰色～明黄褐色粗砂層（11・36 層）で、背後の丘陵を構成する花崗岩由来の層が一部グライ化したものである。



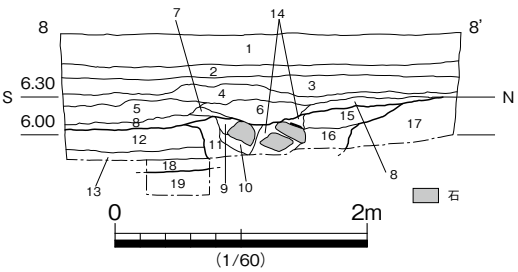
1　10YR6/4 にぶい黄橙色砂質シルト層　【近世整地層】
　φ0.5 ～ 5.0cm の 10YR6/6 明黄褐色粘土ブロック多量に含む
2　10YR5/2 灰黄褐色シルト質砂層　【近世整地層】
　φ0.5 ～ 2.0cm の 10YR7/4 にぶい黄橙色粘土ブロック含む
3　10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト層　【近世整地層】
　φ1.0 ～ 5.0cm の 7.5YR5/6 明褐色粘土ブロック含む
　下位は N6/ 灰色粘土層を帯状に含む
4　10YR6/1 褐灰色シルト質砂層　【近世整地層】
　φ0.5 ～ 1.0cm の 10YR6/6 明黄褐色粘土ブロック含む
5　10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト層　【SP39】
　φ1.0 ～ 3.0cm の 10YR6/6 明黄褐色粗砂ブロック (基盤層) 含む
6　【SP64】
7　N4/ 灰色粘土層　【SP64 柱痕】
8　10YR4/1 褐灰色砂質シルト層　【古代整地層 2】
9　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト質砂層　【古代整地層 2】
10　10YR5/1 褐灰色砂質シルト層　【古代整地層 2】
11　2.5Y5/2 暗灰黄色シルト質砂層　【古代整地層 2】
　φ0.5 ～ 2.0cm の 2.5Y6/4 にぶい黄色粘土・N4/ 灰色粘土ブロック多量に含む
12　N3/ 暗灰色～ N4/ 灰色粘土層　【古代堆積層】
13　【SP16】
14　【SP16 柱痕】
15　5BG7/1 明青灰色シルト質砂層～砂質シルト層　【基盤層】
16　10YR5/1 褐灰色砂質シルト層　【SP39】
　φ0.5 ～ 1.0cm の N4/ 灰色粘土ブロックを含む。
　φ1.0 ～ 2.0cm の 10YR6/6 明黄褐色粗砂ブロック (基盤層) 少量含む
17　【SP64】
18　【SP64】
19　N4/ 灰色粘土質シルト層　【近世整地層】

第 27 図　6－6’断面図



1		【耕作土＋床土】
2	7.5YR5/1 褐灰色砂質シルト層	【旧耕作土？】
3	7.5YR6/4 にぶい橙色シルト質砂層	【近世整地層】
4	N7/ 灰白色砂質シルト層	【近世整地層】
5	10YR7/2 にぶい黄橙色質シルト層	【近世整地層】
	φ0.5 ～ 2.0cm の 10YR7/2 にぶい黄橙色シルト質粘土ブロック含む	
6	N6/ 灰色シルト質砂層	【近世整地層】
7	N4/ 灰色シルト質粘土層	【中世～近世堆積層】
8	2.5Y6/1 黄灰色～ 2.5Y6/2 灰黄色粗砂層	【中世～近世堆積層】
9	N3/ 暗灰色～ N4/ 灰色粘土層	【古代堆積層】
10	7.5YR5/1 褐灰色砂質シルト層	
11	5B6/1 青灰色粗砂層	【基盤層】
16	2.5Y6/1 黄灰色～ 2.5Y6/1 黄灰色シルト質砂層	【中世～近世堆積層】
	基本的には 8 層と同じか	
17	2.5Y7/1 灰白色粗砂層	【中世～近世堆積層】
19	5B6/1 青灰色粘土質シルト層	
20	N6/ 灰色粘土質シルト層	【中世～近世堆積層】
21	5Y5/1 灰色粗砂層	【中世～近世堆積層】
	φ1.0 ～ 2.0cm の 2.5Y6/6 明黄褐色シルトブロック含む	
22	5Y5/1 灰色粗砂層	【中世～近世堆積層】
23	N6/ 灰色シルト質砂層	【中世～近世堆積層】
24	10YR4/1 褐灰色砂質シルト層	
25	N2/ 黒色粘土層	
26	N5/ 灰色シルト質砂層	
27	5Y6/1 灰色～ N6/ 灰色粗砂層	【中世～近世堆積層】
28	5Y7/1 灰白色粗砂層	【中世～近世堆積層】
29	N3/ 暗灰色粘土層	【古代堆積層】
	炭化物多量に含む	
30	N5/ 灰色～ 10YR5/2 灰黄褐色シルト質砂層	【古代堆積層】
	N4/ 灰色粘土層を部分的に含む	
31	10YR5/2 灰黄褐色～ 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト層	【近世整地層】
32	N4/ 灰色シルト質砂層	【近世整地層】
33	5B4/1 暗青灰色シルト層	【近世整地層】
	5B4/1 暗青灰色粘土層を部分的に含む	
34	5B5/1 青灰色～ 5B6/1 青灰色シルト質砂層	
	5B4/1 暗青灰色粘土層を部分的に含む	
	グライ化顕著なため分層困難	
35	10YR5/2 灰黄褐色～ 5B6/1 青灰色シルト質砂層	【近世整地層】
36	10YR7/6 明黄褐色粗砂層　岩盤	【基盤層】

第 28 図　7－7’断面図



1　7.5YR3/1 黒褐色シルト質粘土層　【耕作土】
2　10YR6/1 褐灰色シルト層　【盛土】
3　10YR7/4 にぶい黄橙色シルト質砂層【盛土】
4　10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト層　【盛土】
5　10YR7/3 にぶい黄橙色シルト質砂層【盛土】
6　2.5Y7/6 明黄褐色シルト質粘土層　【盛土】
7　10YR6/1 褐灰色シルト質砂層　【盛土】
8　10YR6/1 褐灰色砂質シルト層　【盛土】
9　N5/ 灰色シルト層　【水路埋土】
10　10YR6/8 明黄褐色粗砂層　【水路埋土】
11　N5/ 灰色粘土質シルト層　【水路埋土】
　粗砂粒含む
12　10YR6/1 褐灰色～ 10YR6/2 灰黄褐色シルト質砂層
13　N5/ 灰色粘土質シルト層
14　N5/ 灰色シルト質粘土層　【水路裏込め】
15　10YR7/6 明黄褐色粗砂層　【水路裏込め】
　17 層に比べてしまりはない
16　N5/ 灰色シルト質粘土層　【水路裏込め】
　17 層ブロック含む
17　10YR7/6 明黄褐色粗砂層　【基盤層】
　岩盤
18　10YR6/4 にぶい黄橙色砂層
19　10BG5/1 青灰色粗砂層　【基盤層】
　グライ化著しいが、基本的には 17 層と同じ

第 29 図　８－８’断面図

古代堆積層（8 世紀前葉）

暗灰色～灰黄褐色粘土～シルト質砂層（9・29・30 層）で、谷最深部から西方丘陵寄りの基盤層直上に堆積する。谷最深部では本層の上面から溝 SD07 が掘り込まれる。

中世～近世堆積層

灰色～黄灰色シルト～粗砂層（7・8・16 ～ 23・27 ～ 28 層）で、古代堆積層と SD07 の直上に堆積し、谷最深部から北東丘陵寄り、北西丘陵寄りに広がる。５断面の施設群廃絶後堆積層を含む可能性がある。

近世整地層

径 0.5 ～ 2.0cm のにぶい黄橙色シルト質ブロックを含む灰色～にぶい橙色シルト～シルト質砂層（4・６層）で、谷最深部から北東丘陵裾、北西丘陵近くまで堆積する。当該地点では４断面、５断面ほど瓦を含まない。西方丘陵寄りに形成された施設群の集中域から離れるためだろう。

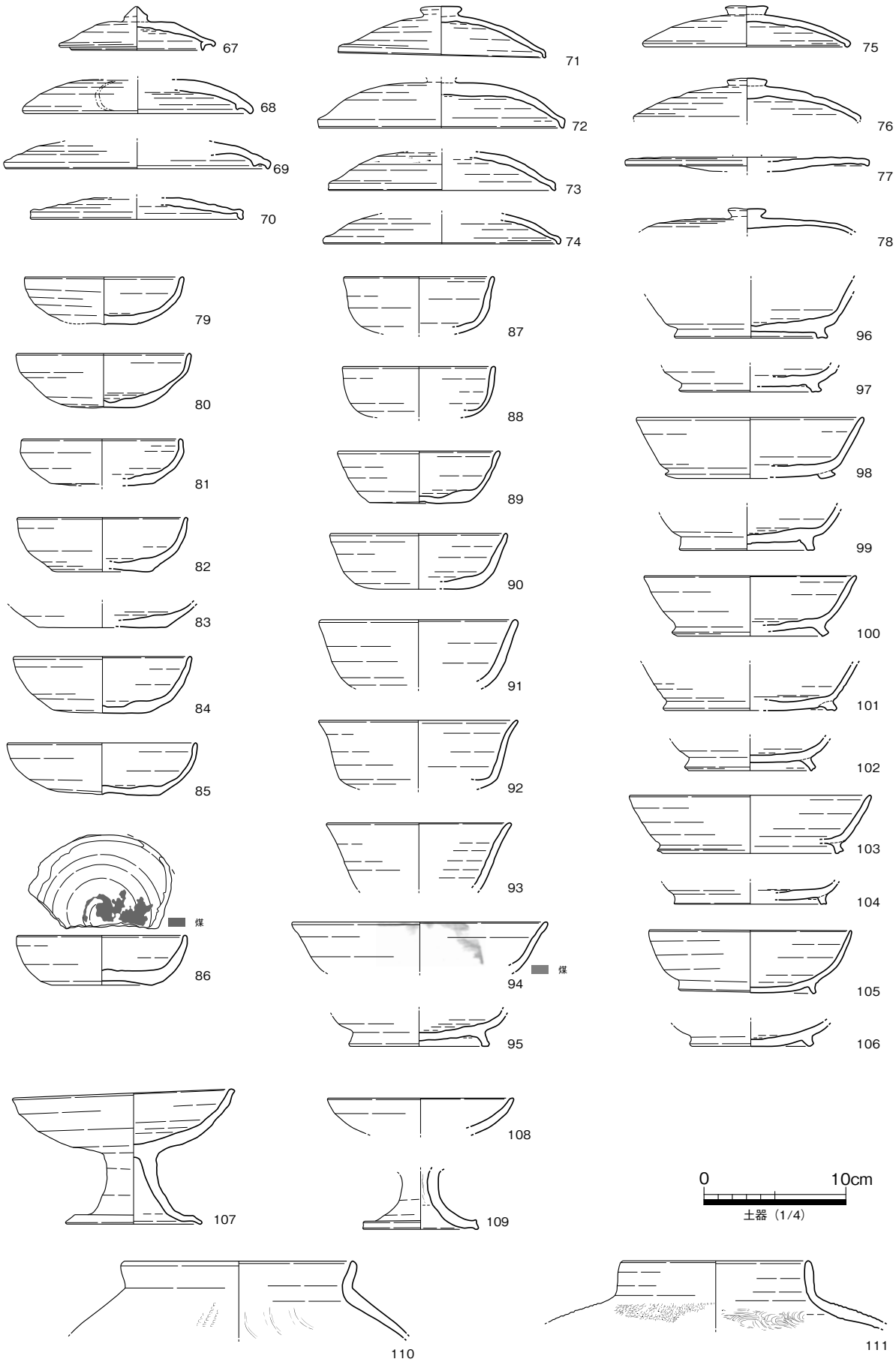
(4)　8-8’断面（8 断面　第 6・29 図）

4 区は谷部の奥に位置する。本調査区では中世以前の人為的な層や遺構は確認されなかった。調査地外のさらに奥には、谷部を堤防でせき止めたため池がある。ため池は近世以降の築造と考えられ、本調査区ではため池に伴っていたとみられる水路の石組を検出した。断面では基盤層上面から水路が掘り込まれ、その上位に盛土がなされたことがわかる。

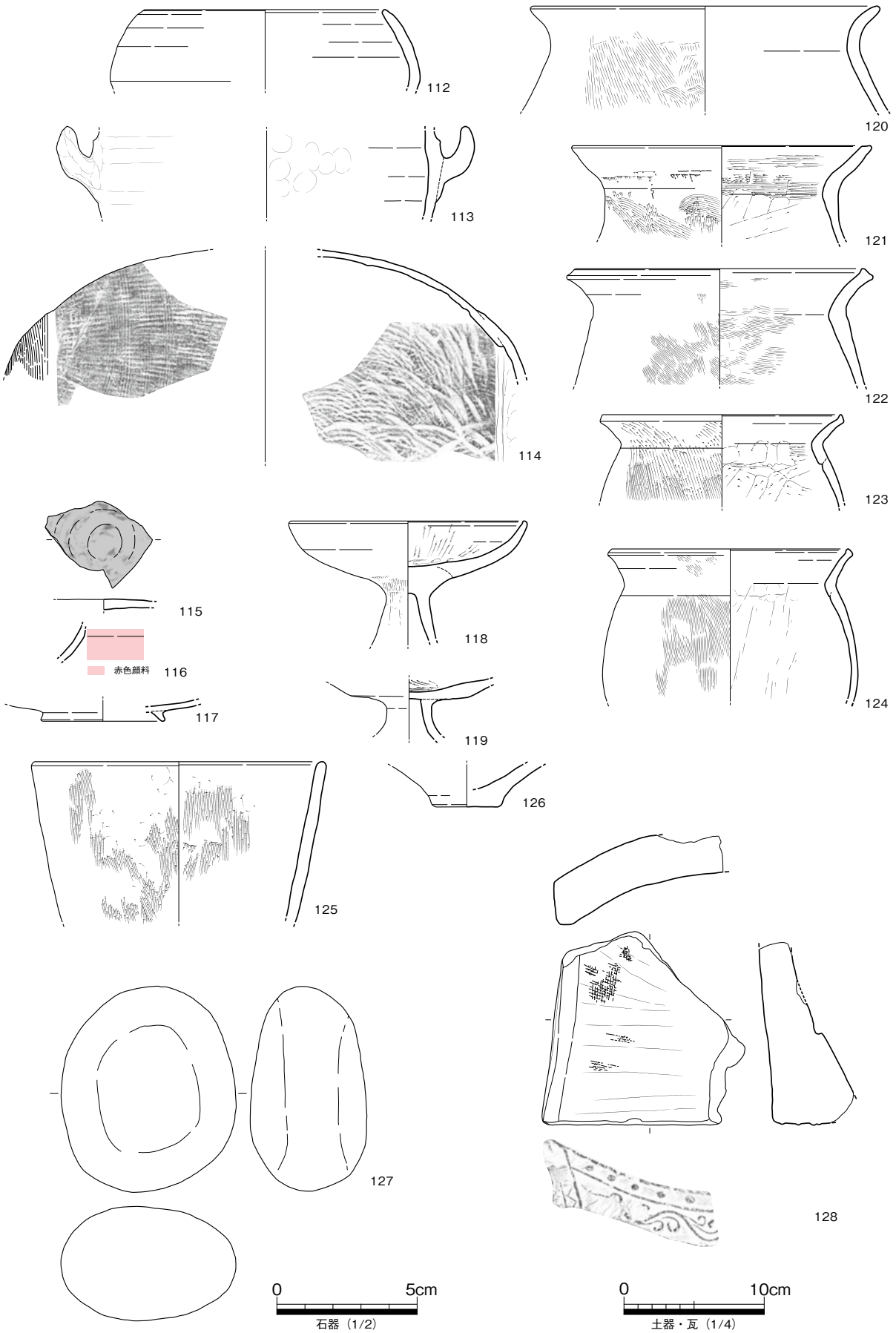
(5)　各層出土遺物

古代堆積層（第 30 ～ 32 図）

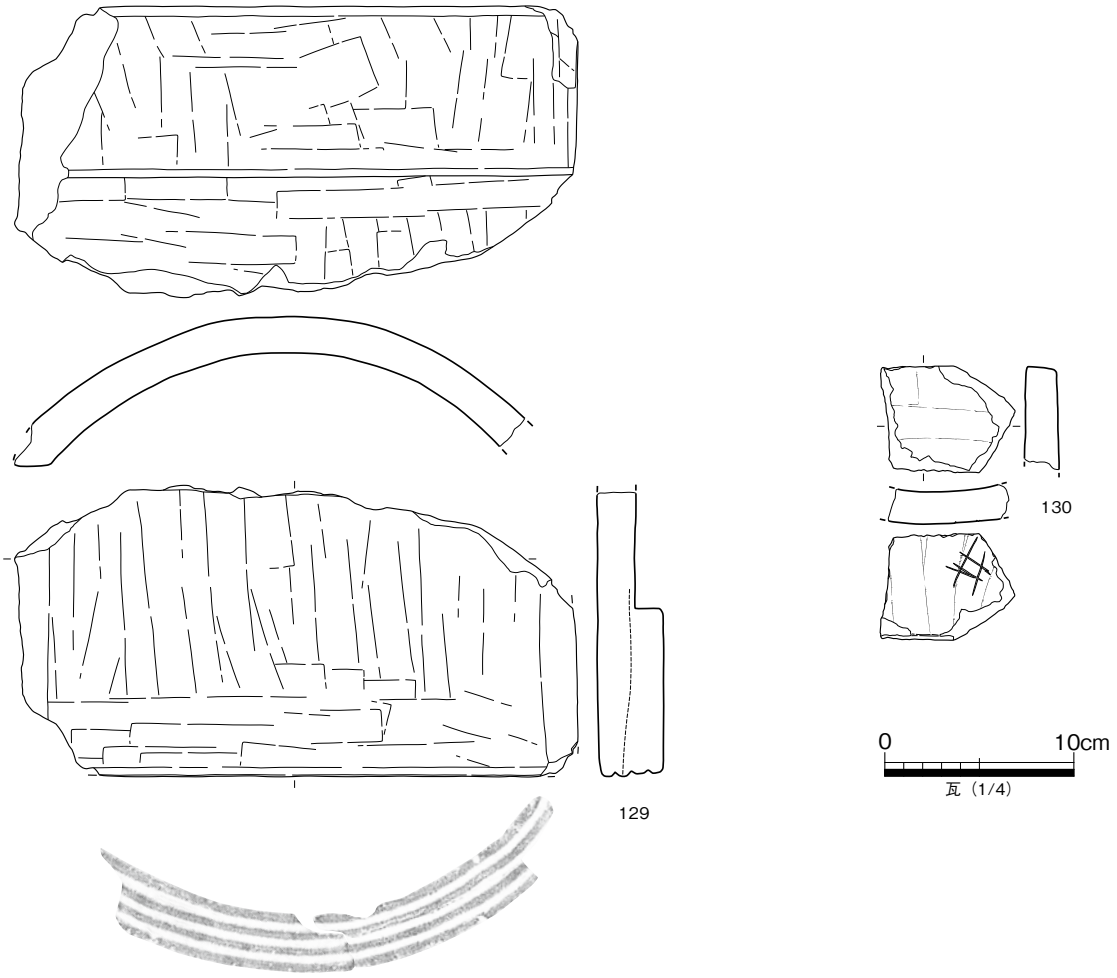
67 ～ 115 は須恵器である。**67 ～ 78** は蓋。**67** は内外面に、**72** は内面に自然釉がかかる。**67 ～ 69** は口縁端部に返りがある。**71 ～ 76** は概ね笠形の器形で扁平な摘みがつくと考えられる。**77** はゆがみが著しい。**79 ～ 106** は杯。**79 ～ 90** は高台が付かないもの。体部は、**79 ～ 88** はやや内湾しながら立ち上がり、**89 ～ 91** は外傾しながら立ち上がる。**92 ～ 94** は口縁端部が反り気味である。**86** は底部内面に、**94** は口縁端部から体部内面にススが付着し、灯明皿として使用した可能性があろう。**95 ～ 106** は高台付杯である。**107 ～ 109** は高杯。**110・111** は壷。内面には青海波文の当て具痕、外面には平行タタキ痕が残る。**112** の鉄鉢型の鉢。**113** は把手付甕。**114** は横瓶。口縁部は欠ける。横側に、製作時に後で粘土板を充填した痕跡が残る。**115** は転用硯。杯を転用したもので、底部外面に墨痕が認められ



第 30 図　古代堆積層 出土遺物 実測図 1



第 31 図　古代堆積層 出土遺物 実測図２



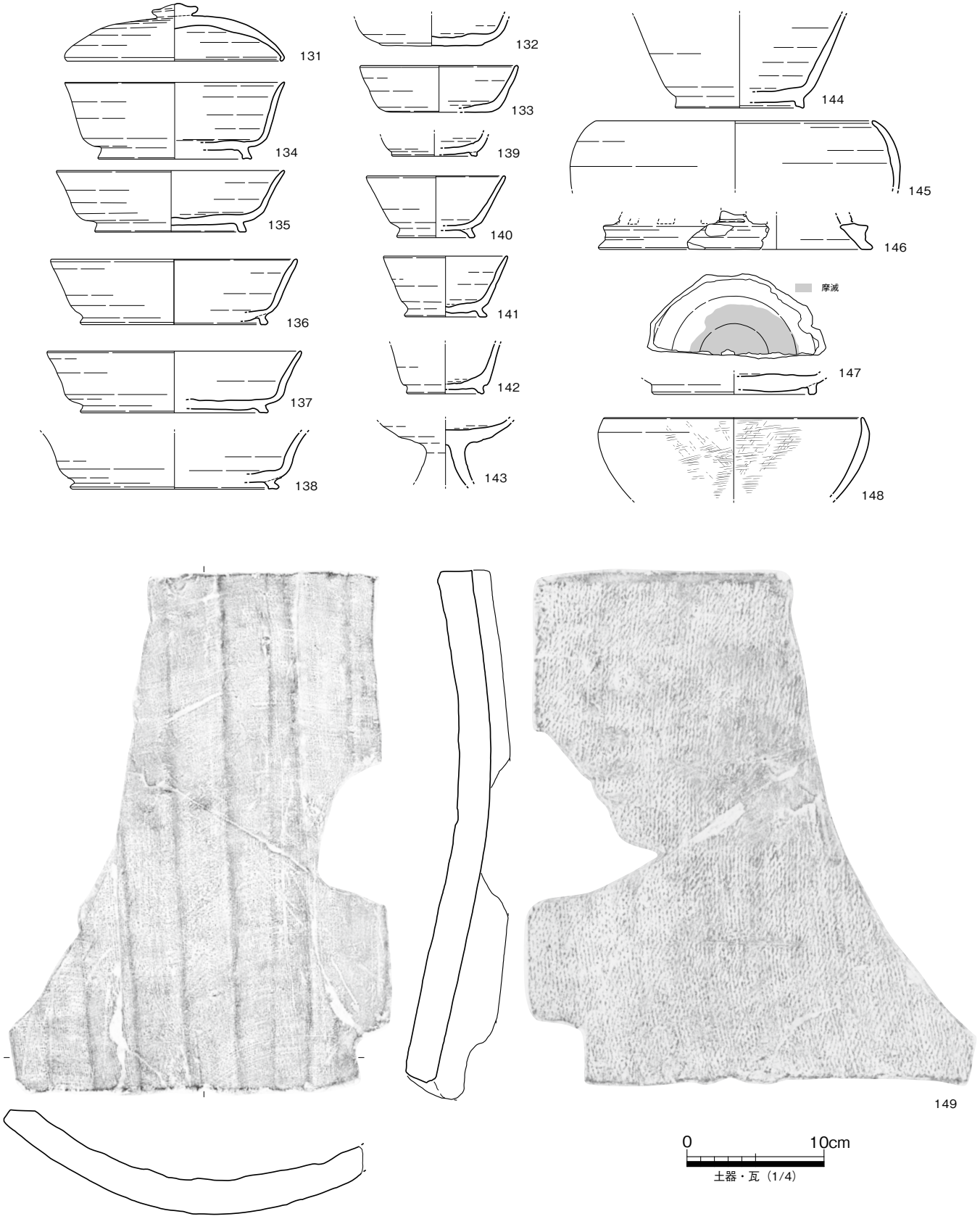
第 32 図　古代堆積層 出土遺物 実測図３

る。**116** ～ **125** は土師器である。**116** は杯小片。外面は赤色顔料が塗られる。**117** は高台付皿。**118**・**119** は高杯。**118** は内面に放射状のヘラミガキがある。**120** ～ **124** は甕。外面は縦～斜め方向のハケ目、内面は口縁部は横方向のハケ、体部はヘラケズリまたはハケ目がある。**125** は甑。**126** は弥生土器壺底部。**127** は全体に平滑に磨かれた楕円形の石。緑色岩。使用痕はない。やや大きいが、玉砂利のように使用されたものか。

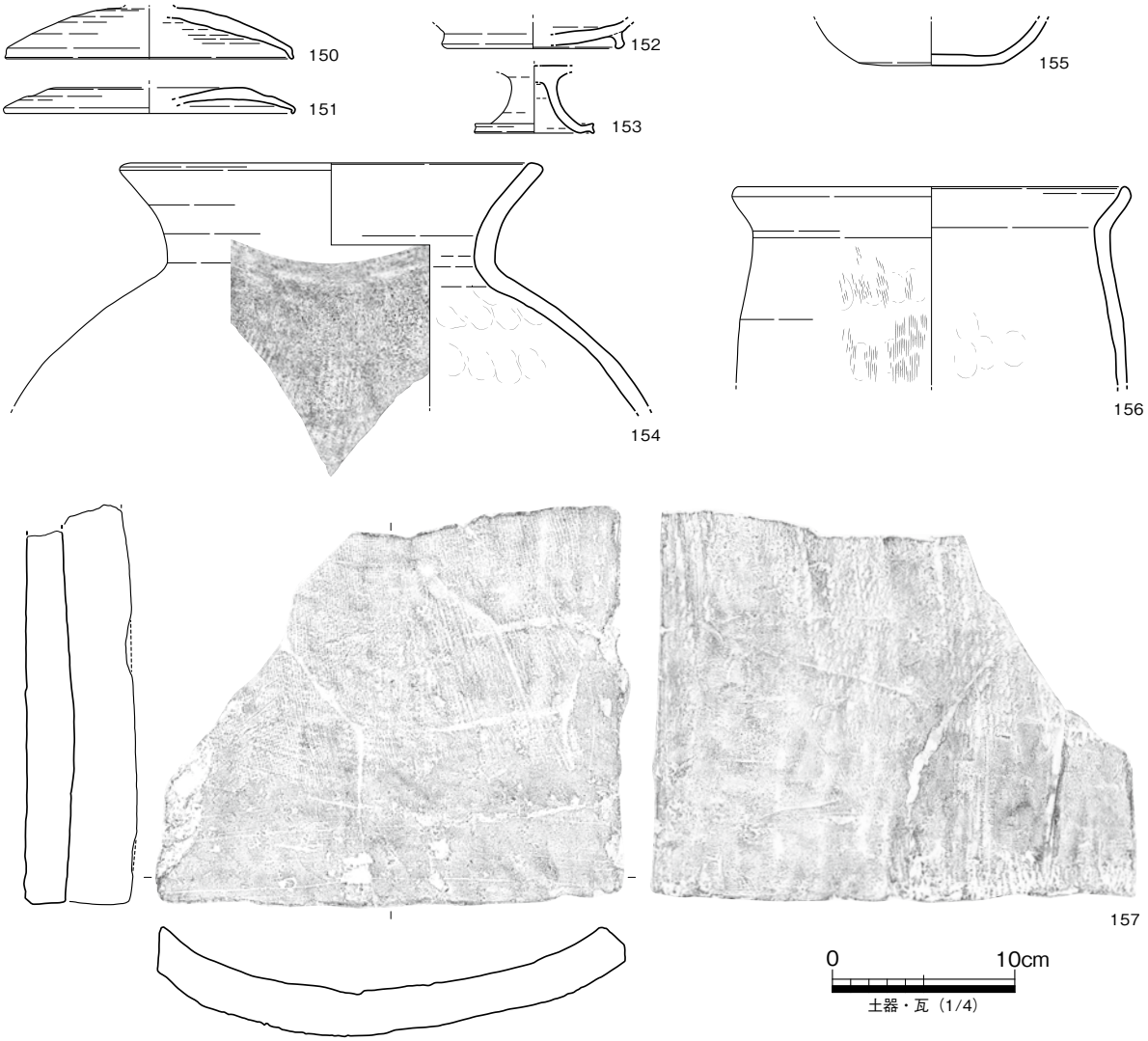
128・**129** は軒平瓦。**128** は偏行唐草文で外区上部は珠文、側部は鋸歯文である。凹面側はナデ調整を施し、布目痕をあまり残さない。顎は小さい段を持つ。SR202 型式。**129** は SR201 型式。凹凸面ともていねいに板ナデを施し、他の調整痕を残さない。**130** は、全体にていねいに板ナデを施し瓦の製作痕跡は残らないが､形状により平瓦小片と考えられる。凸面側に「井」の刻字もしくはヘラ記号がある。

古代堆積層からは、他の堆積層や遺構群に比べ、須恵器、土師器が多量に出土し、瓦の出土量は少なかった。須恵器、土師器とも概ね 7 世紀末～ 8 世紀前半と考えられ、7 世紀末～ 8 世紀前半の軒平瓦 SR201、SR202 型式が出土する。灯明に使用した須恵器や鉄鉢形の鉢、転用硯、瓦は寺院に関わるの遺物と考えられる。

古代堆積層（SX21 下位）（第 33 図）



第 33 図　古代堆積層（SX21 下位）出土遺物実測図



第 34 図　古代整地層２ 出土遺物実測図

131 ～ 149 は古代堆積層の中でも SX21 下位で出土した遺物である。SX21 は、後述するように、谷の最も深い部分で古代堆積層と古代整地層２の間で検出した、古代整地層２に伴う事業の可能性がある遺構である。

131 ～ 147 は須恵器。**131** は蓋。笠形でやや扁平な摘みが付く。**132・133** は杯。**134 ～ 142** は高台付杯。高台径が 11 ～ 15㎝（**134 ～ 138**）と 5.4 ～ 6㎝（**139 ～ 142**）のものがある。**143** は高杯。**144** は壷底部。**145** は鉄鉢形の鉢。**146** は円面硯の脚部小片。透かし孔が２か所で確認できる。**147** は転用硯。高台付杯の底部破片で、墨痕は認められないが、内面は磨滅しており、硯として使われたことが窺える。**148** は土師器鉄鉢形の鉢。

149 は平瓦。凹面には模骨痕と布目痕、凸面には縦方向の縄目が明瞭に残り、両面とも調整痕をナデ消さない。ゆがみが著しい。

出土遺物の時期や傾向は古代堆積層に近い。、須恵器の出土が多く、土師器や瓦の出土量が少ない。返りのある蓋や体部が内湾気味に立ち上がる杯が見られず、高台付杯が目立つ。古代堆積層のなかでは新しい傾向が認められ、8 世紀前半頃と考えられる。転用硯や鉄鉢型の鉢、瓦等寺院と関わる出土遺物が認められる。

古代整地層 2（第 34 図）

おもに３区の古代整地層２から出土した。

150 ～ 154 は須恵器。**150･151** は蓋。**151** は歪みがある。**152** は高台付杯。**153** は高杯脚部。**154** は甕。**155・156** は土師器。**155** は杯。**156** は甕。**157** は平瓦。凹面には模骨痕が残る。凸面は縄目が残るが、下部・側縁部とも 6cm程度はナデ消している。

古代整地層２の時期は８世紀前半と考えられる。

施設群廃絶後堆積層（第 35・36 図）

２区の古代整地層２の上面に堆積する層である（第 26 図 5-5’断面図 14・15 層）。谷の最も深い部分で検出した SD07 の上面で認められた。

158 ～ 168 は須恵器。**158・159** は蓋。**158** は内面に浅い返りが付く。**160・161** は杯。**161** は 10 世紀前半代と考えられる。**162 ～ 164** は高台付杯。**165** は壺底部。**166** は鉢。外面に平行タタキ痕が残る。**167** は甕。口縁部は欠損し、体部外面には平行タタキ痕、内面には青海波文の当て具痕が残る。**166・167** は土師質土器のような焼成状況で、摩滅が著しい。**168** は転用硯。蓋の内面を硯として利用したもので、墨痕が残る。**169 ～ 171** は土師器。**169** は皿。**170** は高台付皿。内外面とも赤色顔料を塗る。**171** は器種不明。外面には縦方向のハケ目、内面には突帯を巡らせる。**172 ～ 175** は軒丸瓦。**172** は SR102 型式。**173 ～ 174** は SR105 型式。**173** の瓦当と丸瓦の接合粘土は厚く、丸瓦部分の端部は面取りしない。**174** は瓦当がはがれた部分から丸瓦の先端が見える。丸瓦の先端部分は成形しない。**175** は瓦当部分小片。珠文はなく、文様は不鮮明で型式は不明である。**176** は丸瓦。玉縁が付くもの。歪みが著しい。**177** は平瓦。凹面には模骨痕が残る。凸面の縄目は下端部と側端部で幅 8cm程度をナデ消す。

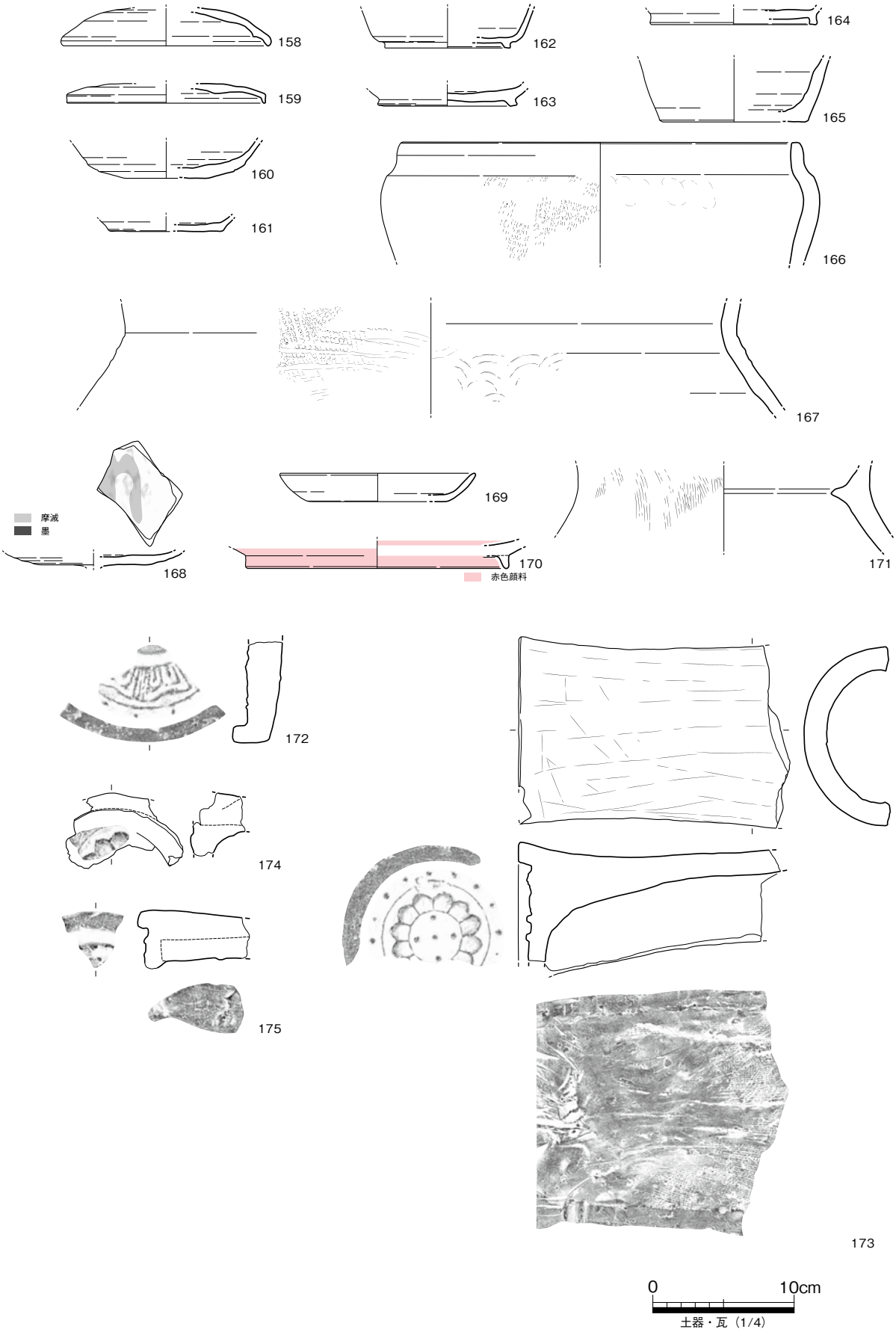
出土遺物の時期は、**158・160** 等７世紀末～８世紀前半頃の須恵器のほか、**161・165・169** 等 10 世紀代に下るものまで含まれ、10 世紀前半頃の堆積層と考えられる。平安時代と考えられる SR105 型式の軒丸瓦が出土するのもこの層から上の層で、SR105 型式の瓦は古代整地層２に掘り込む建物群以降の建造物で使用されたと考えられる。出土遺物から､10 世紀前半代には建物群は廃絶したと考えられよう。

近世整地層（第 37 ～ 43 図）

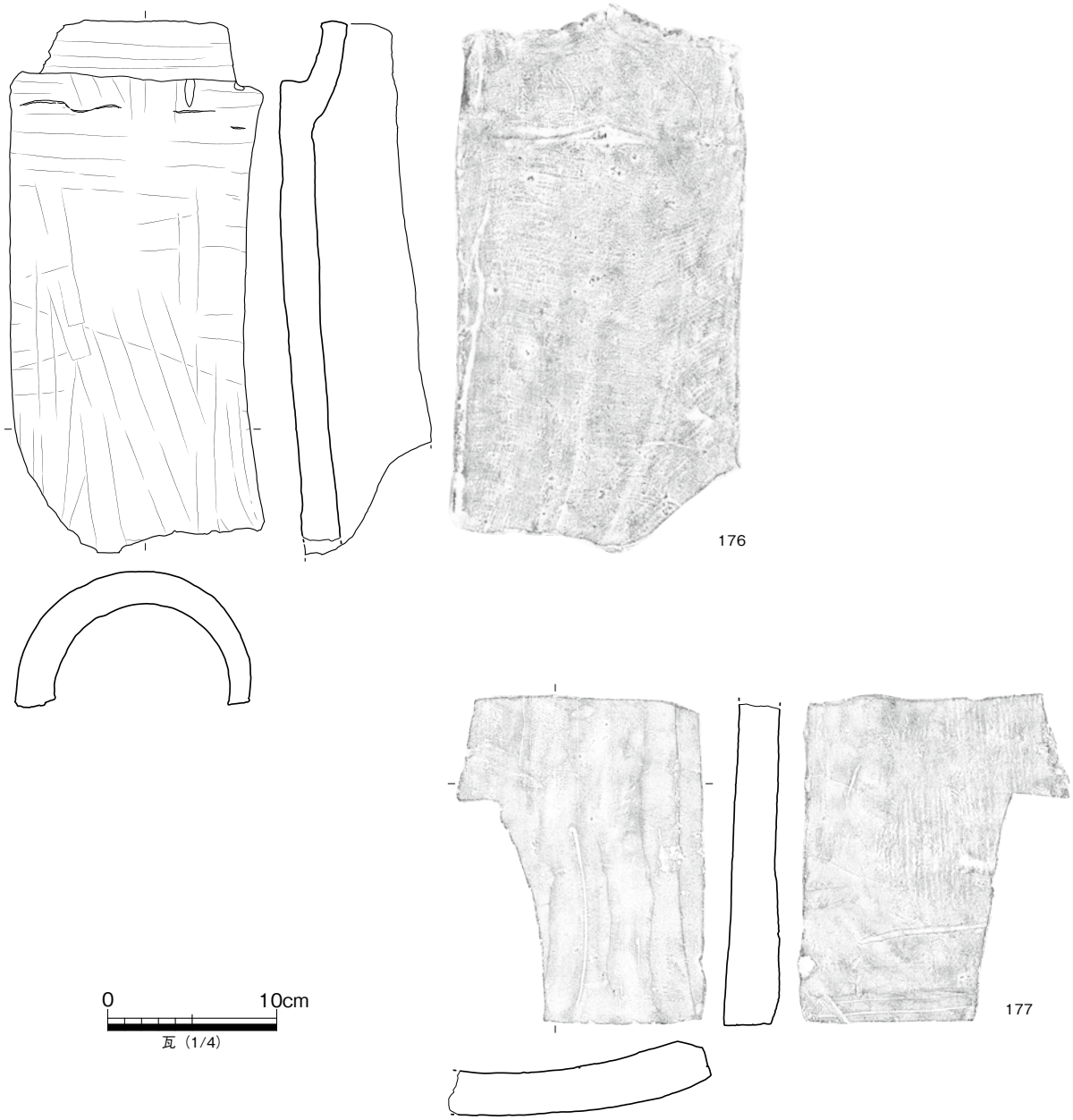
２・３区の谷部ほぼ全体に認められた整地層である。西・東方の丘陵部に近づくに従い薄くなり、消失する。出土遺物量は多く、ほとんどが瓦である。特に谷南部、SB02 付近で瓦の集中部が認められた。

178 ～ 186 は須恵器。**178** は杯蓋で、６世紀前半～中頃（MT15 ～ TK10 並行期）。**179 ～ 182** は杯。古代堆積層の遺物と概ね同時期の出土遺物と考えられる。７世紀後半～８世紀初頭。**183・184** は高台付杯。**185・186** は転用硯。**185** は蓋の内面、**186** は高台付杯の内面に、いずれも使用による磨滅痕が残る。**185** には墨痕が残る。**187** は土師器高台付皿。**188** は黒色土器椀。**189** は陶器灯明皿。内面のみ施釉し、口縁端部にススが残る。**190** は肥前系磁器椀。小振りの椀で、19 世紀代。**191** は仏像の螺髪。土師質で、羅髪の大きさから丈六仏より大きい仏像が想定できる[(4)]。

192 ～ 219 は軒丸瓦。**192 ～ 196** は SR103 型式。**192** は中房が突出する SR103A 型式、**196** は中房が突出せず、中房の外側の圏線上に珠文がある SR103C 型式である。**197** は瓦当の外区に珠文はなく、複弁の一部があるようにも見えるが、磨滅が著しく、文様の詳細は不明である。**198** は SR101 型

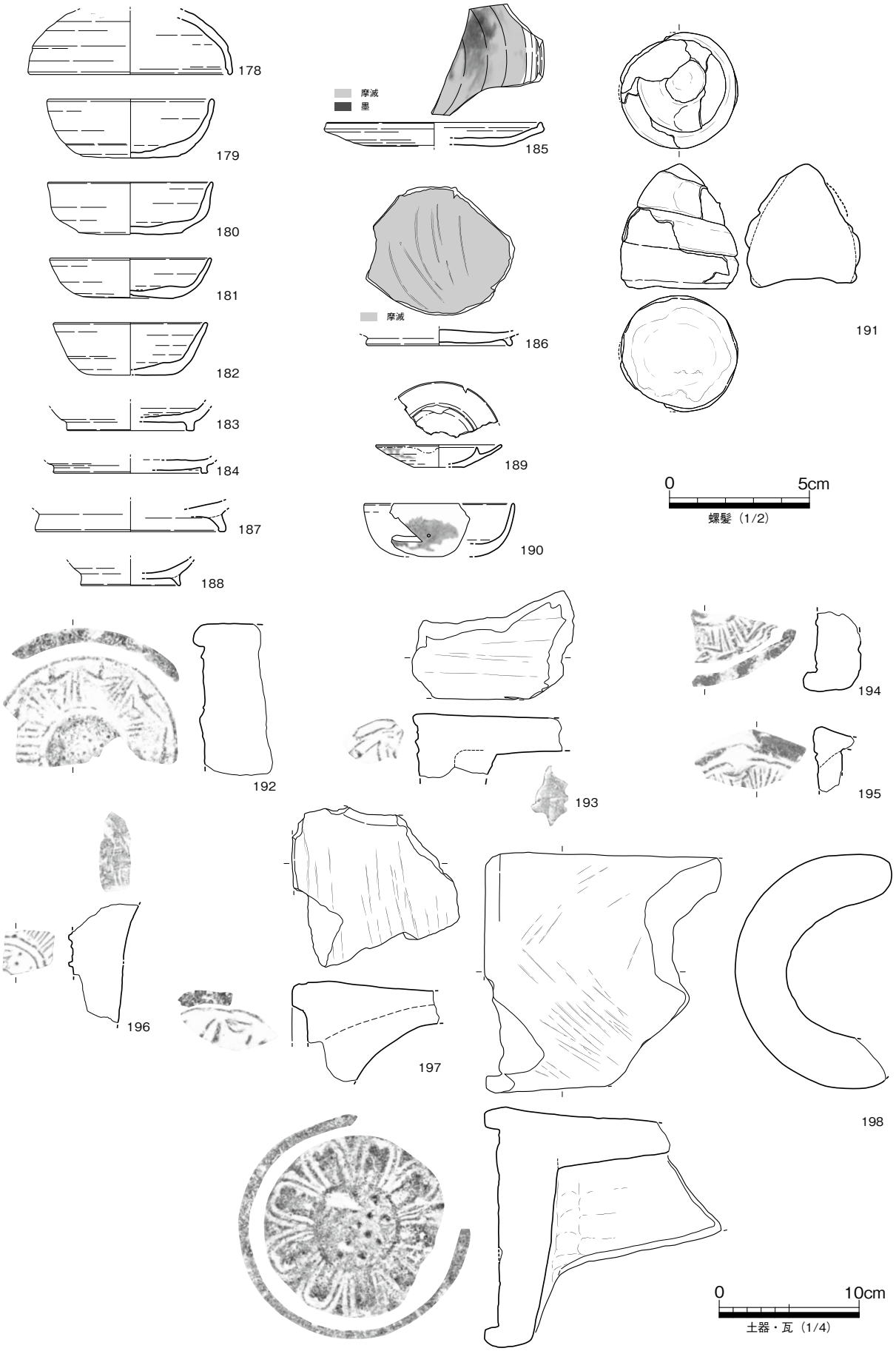


第 35 図　施設群廃絶後堆積層 出土遺物 実測図 1



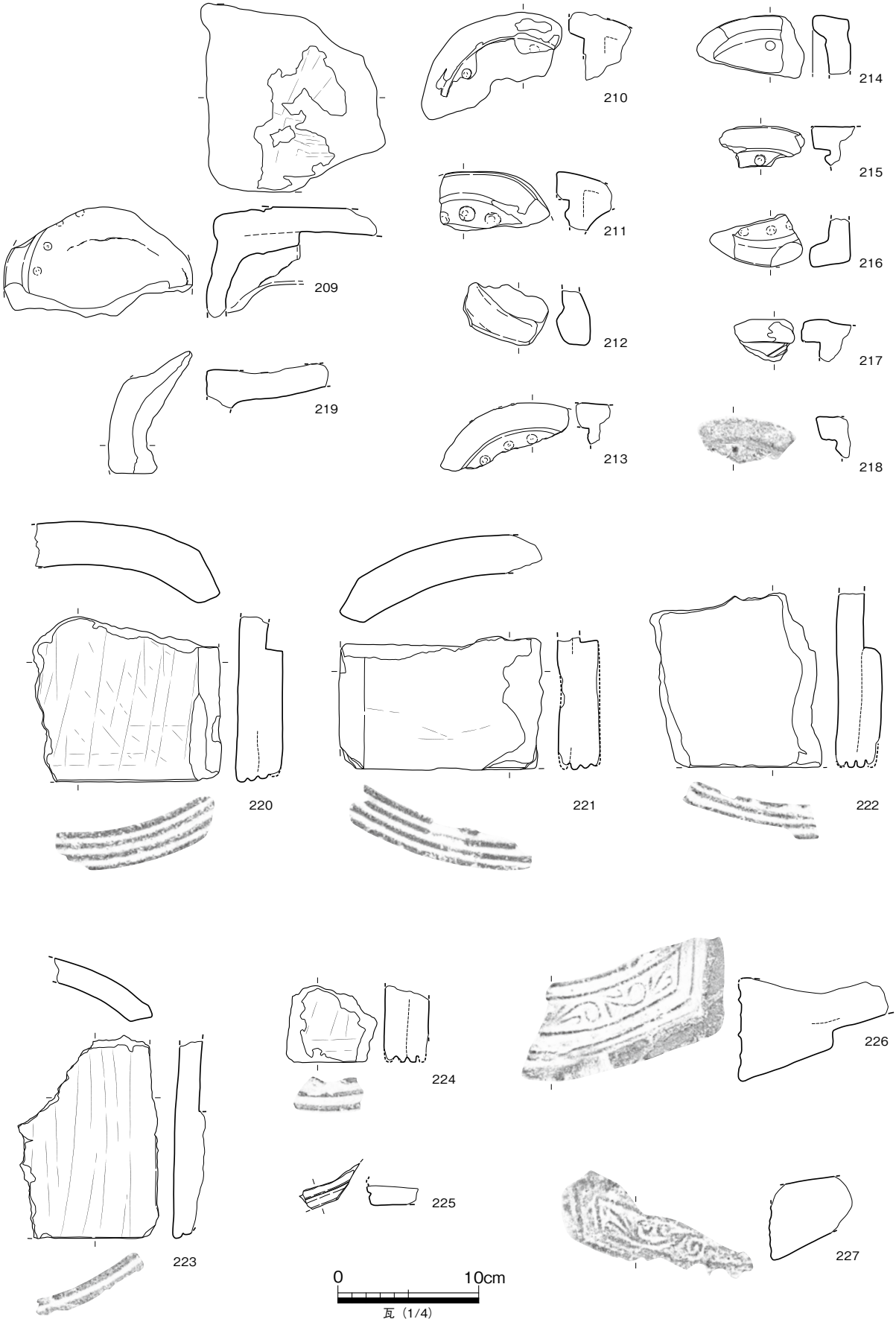
第 36 図　施設群廃絶後堆積層 出土遺物実測図 2

式。199 ～ 208 は SR105 型式。199・200・205 は瓦当と丸瓦の接合部が残る。接合粘土は厚く、瓦当の上半部から丸瓦中程近くまで粘土を足す。丸瓦の側端部は面取りをしない。209 ～ 219 は小片や瓦当面磨滅のため型式は不明である。209 は珠文の一部のみ残るが、瓦当面が剥離し、丸瓦の先端部が露出する。丸瓦先端部には調整痕はなく、瓦当と丸瓦の接合粘土は厚い。210・213 ～ 216・218 は小ぶりの珠文がみられる。211 も珠文が残るが、珠文の大きさや間隔から、他とは別型式の可能性がある。212・217 は額縁部のみ残る。209・210・212 ～ 218 は珠文や瓦当の大きさから SR105 型式の可能性がある。219 は接合粘土と丸瓦の一部が残る。瓦当は完全に剥離する。220 ～ 246 は軒平瓦。220 ～ 225 は SR201 型式。220 ～ 223 は段顎で幅 8cm程度、厚さ 1.2cm程度の粘土を帯状に足して顎にしたことがわかる。側端部が残るものでは、端部を凹凸両面から面取りしている。225 は瓦当の一部。剥離した顎部分の一部である。226 ～ 233 は SR203 型式である。226・230 は SR203B 型式。均整唐草文の右端・

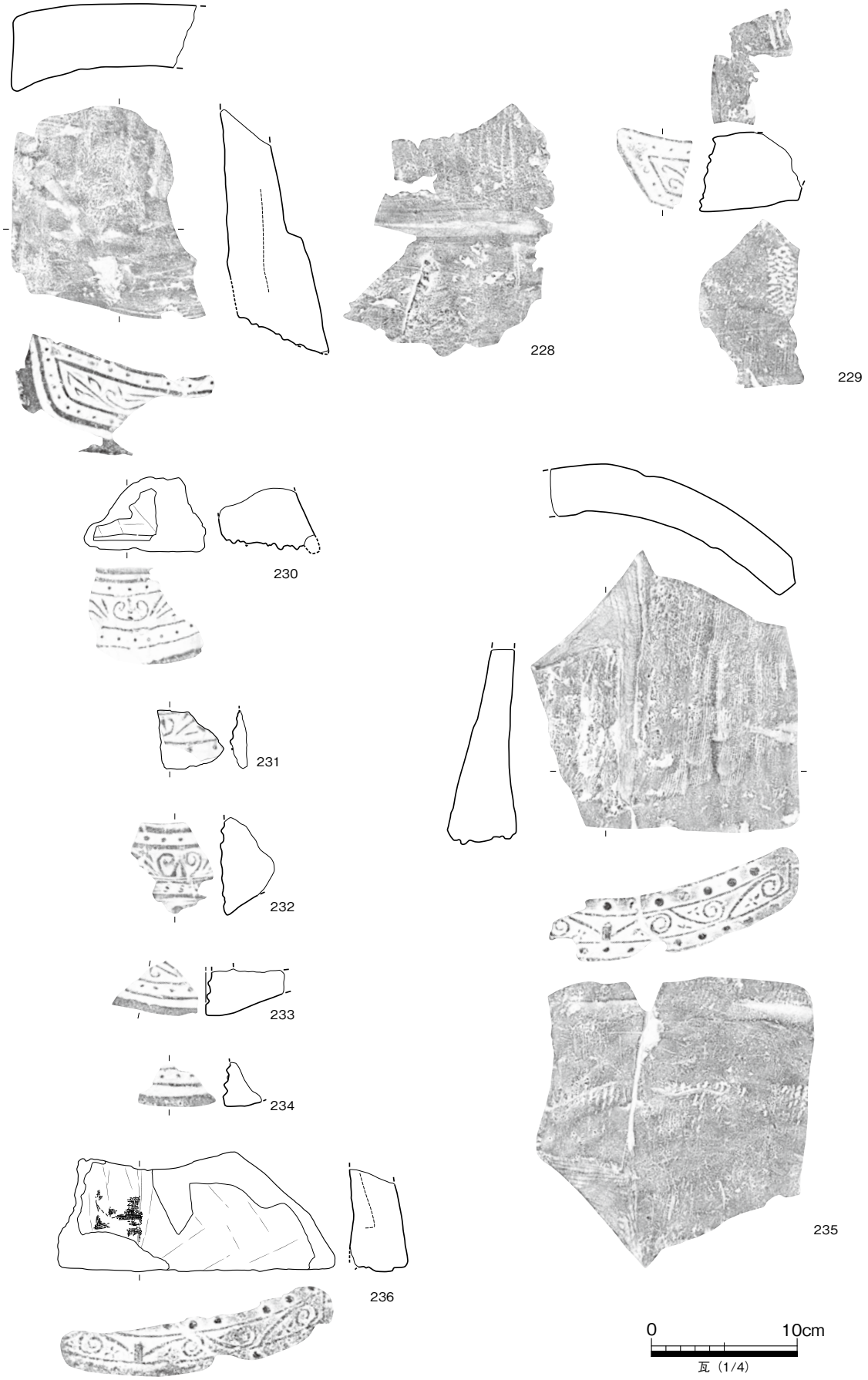


第 37 図　近世整地層 出土遺物 実測図 1

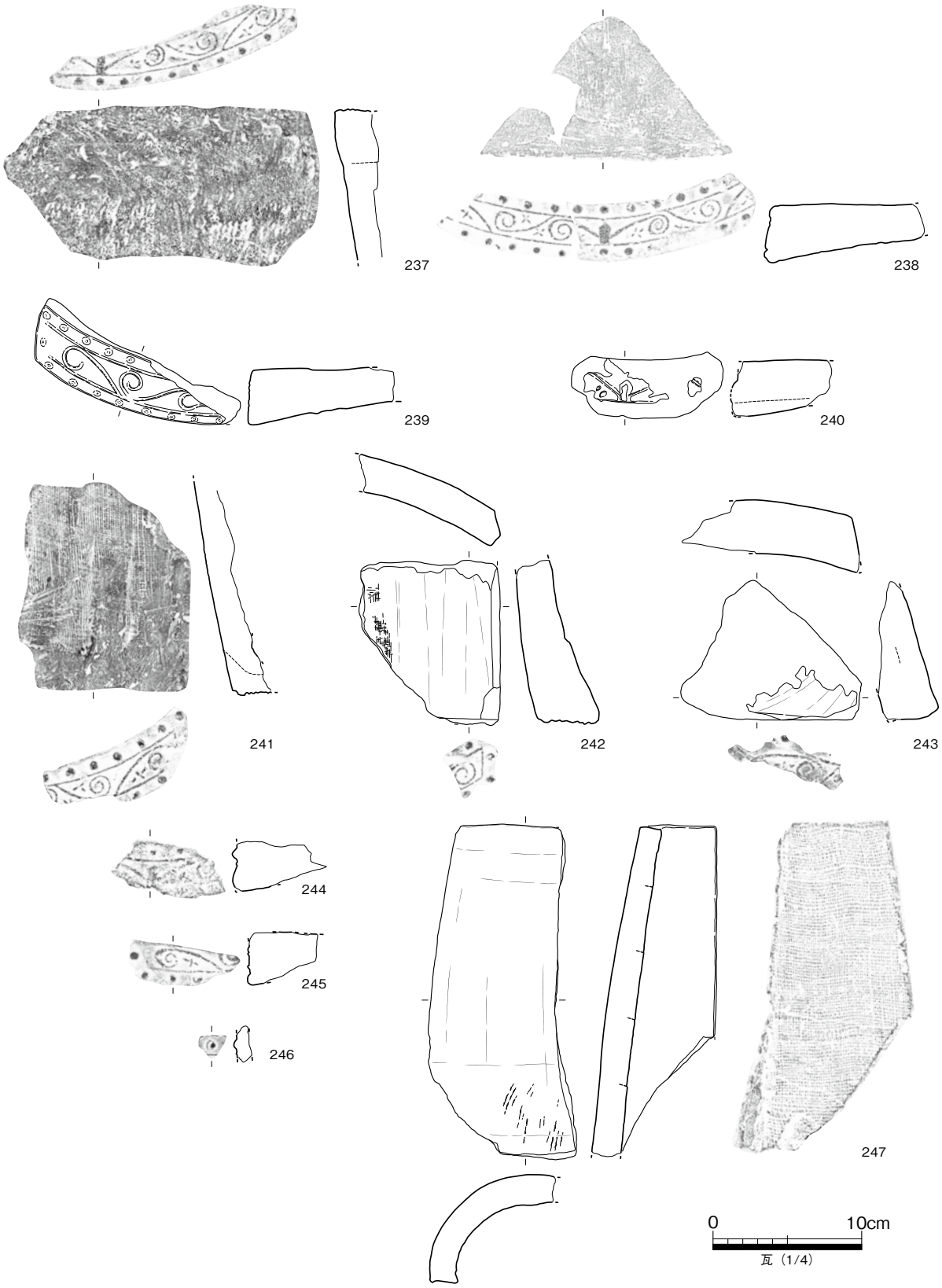
第 38 図　近世整地層 出土遺物 実測図２



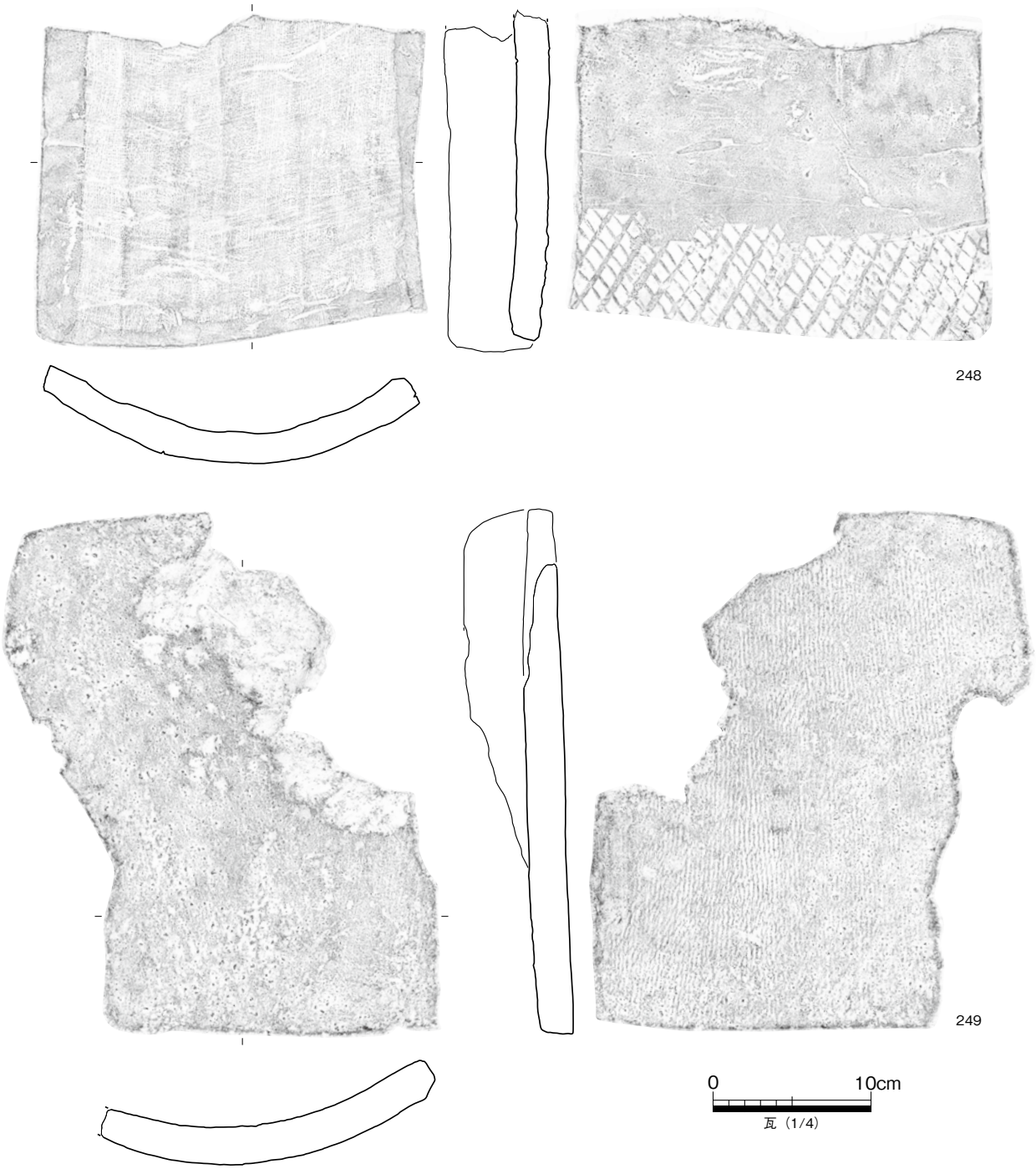
第 39 図　近世整地層 出土遺物 実測図３



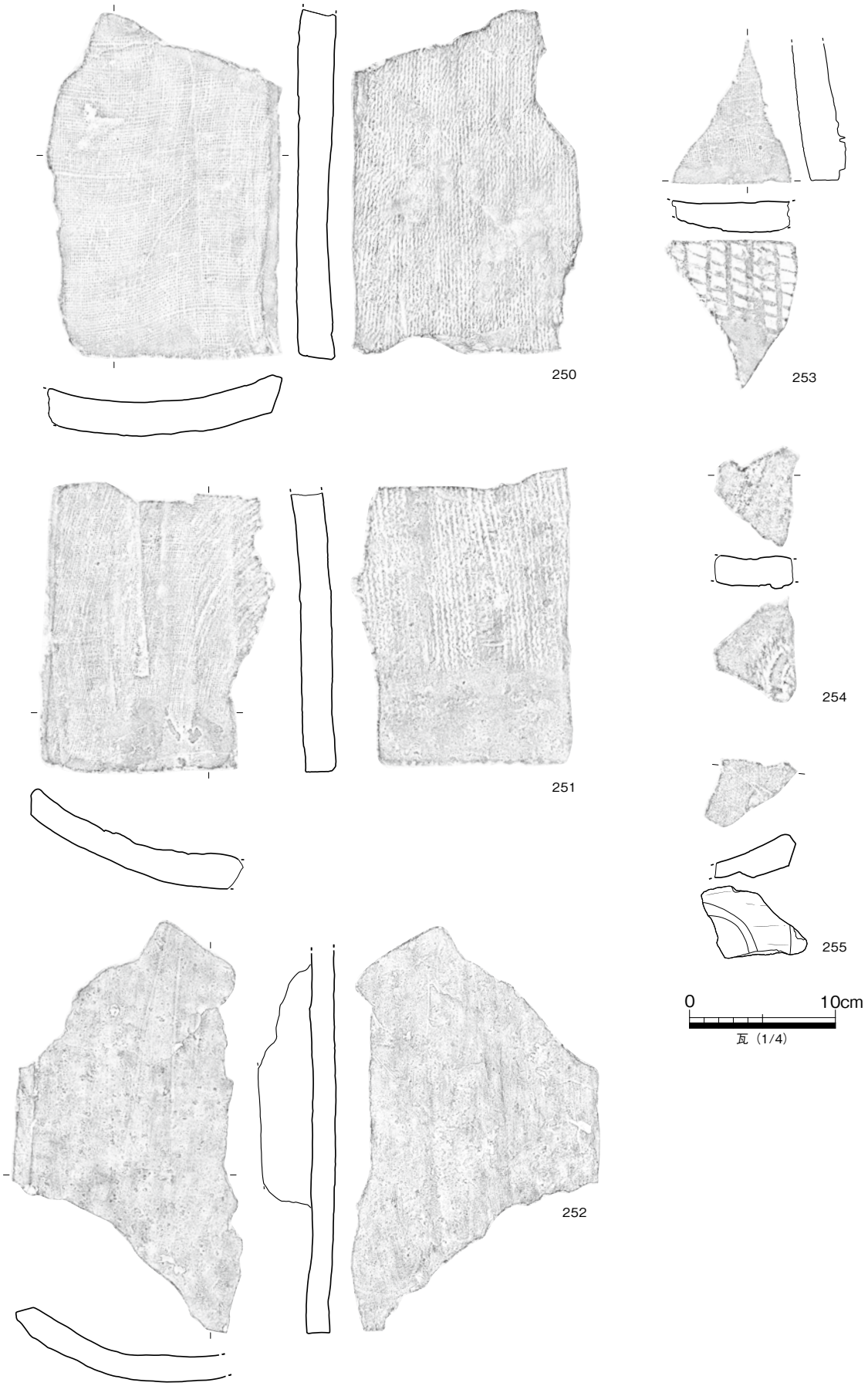
第 40 図　近世整地層 出土遺物 実測図４



第 41 図　近世整地層 出土遺物 実測図５



第 42 図　近世整地層 出土遺物 実測図６



第 43 図　近世整地層 出土遺物 実測図７

中央の唐草の巻く方向が他と反対のものである。**226** は段顎とする。凹面は剥離する。**227・229・232** は SR203A 型式。上向きの花芯を持つ。**229** は顎部分の凸面側に縄目を残す。小片であるが **231** も花芯と唐草文の特徴から SR203A 型式の可能性が高い。瓦当面が薄く剥離する。**228** は SR203C 型式。段顎。平瓦部凸面に部分的に縄目を残す。**233** は小片で細かい型式は不明である。**234** は小片ではあるが、外区の圏線と珠文が認められ、SR203 型式と考えられる。**235 ～ 245** は SR204 型式。顎の形態がわかるものはすべて直線顎である。概ね瓦当部分のみ凹・凸面とも横ナデで調整痕を消す。**235・241** では凹面に摸骨痕が残される。**235** の凸面は縄目を 4cm程度の幅で部分的にナデ消す。**246** は瓦の型式は不明。瓦当表面が薄く剥離し、珠文と圏線の一部が残る。**247** は丸瓦。下端に比べて上端は幅が狭く、行基葺きの瓦と考えられる。丸瓦部の側縁の面取りはしない。**248 ～ 254** は平瓦。**248・253** は凸面に格子叩きを施すが、**248** は端部から 5 ～ 6cm程度は格子タタキ痕を残し、残りはナデ消す。凹面に模骨痕を残す。端部の面取りはしない。**249 ～ 251** は凸面に縄目を残す。いずれも側端部の面取りはしない。**251** は下端部 6cm程度をナデ消す。凹面には模骨痕を残す。ゆがみが著しい。**252** は凹凸面とも調整痕を残さずナデ消す。側縁部は凹面側から面取りをする。やや薄手。**254** は平瓦の一部。**255** は凹面側に布目痕があり、凸面側は突体状の粘土を貼り付ける。道具瓦の一種か。

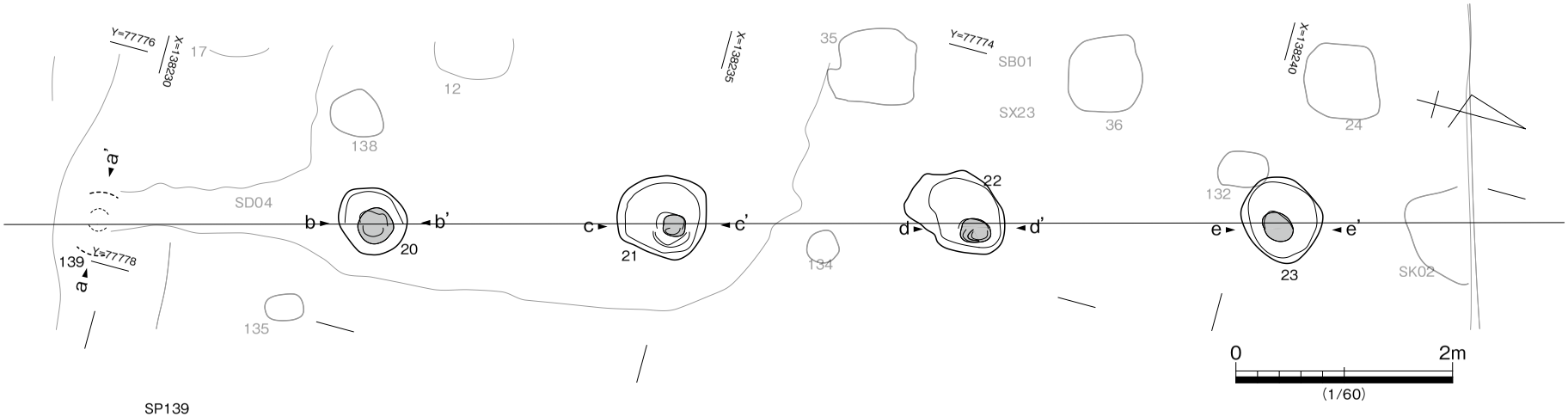
3　古代の遺構と遺物

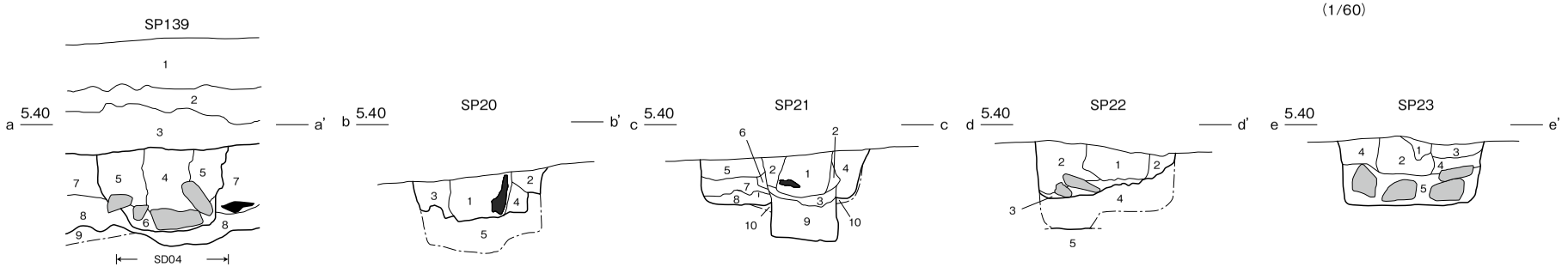
(1) 柵

SA01（調査時遺構名：SA01）（第 44 ～ 46 図）

2 区の谷最深部からやや西方丘陵寄り、古代整地層 2 の上面で検出した南北方向の柱穴列 SP20 ～ 23・139 を柵とした。このうち、SP139 は 2 区南壁断面での確認である。方位は N15° W、検出長は約 10.8m、柱間は約 2.7m（9 尺）である。柱穴の軸長は 60 ～ 78cm程度、柱痕の直径は概ね 30cm程度である。平面、断面で明瞭な柱痕が認められ、SP20・21 には柱材も残る。SP22・23・139 では柱痕の下位に根石が認められる。SB01 ～ 05 の掘立柱建物群は SA01 の西側に位置し、SA01 より東には建物群は認められない。また、白鳥廃寺跡の塔や西方基壇、北方基壇は SA01 を南へ延ばしたラインの西側に収まる。よって、SA01 は白鳥廃寺跡の伽藍域の東限を示す遺構と考えられる。後述する SD04 は、SA01 を構成する柱穴の下部にある。

遺物　**256 ～ 278** は SA01 を構成する柱穴から出土した。**256** は SP20 柱痕から出土した。須恵器杯。薄手で口縁端部がやや外反する。10 世紀前半（佐藤編年Ⅳ期中相）。**257 ～ 263** は SP21 から出土した。**258** は柱痕から出土した。**257** は須恵器杯。**258** は須恵器高台付杯。**259** は須恵器杯。**260** は須恵器高杯。**261** は丸瓦。凸面の縄目が残る。側端部の面取りはしない。**262・263** は平瓦。**262** は凸面の縄目が端部付近でナデ消され、部分的にナデ消しが施されている可能性がある。**264 ～ 269** は SP22 の掘り方から出土した。**264 ～ 265** は須恵器。**264** は杯小片。**265** は器種不明。**266** は土師器高杯。脚部で円形の穿孔が 2 箇所に残る。残存状況から 5 ～ 6 個所に穿孔があると考えられる。**267** は丸瓦。側端部の面取りはしない。**268・269** は平瓦。**268** は模骨痕が残り、凸面の縄目は下端部 10cm程度をナデ消す。**269** は凹面の布目痕をナデ消し、凸面は格子タタキを施す。**270 ～ 278** は SP23 から出土した。**270** は須恵器杯。10 世紀前半頃。**271・272** は丸瓦。**272** は凸面にわずかに縄目が残る。側端部は面取りをしない。**273 ～ 278** は平瓦。**273・274** は凹面に模骨痕を残し、凸面は格子タタキ痕を施す。**274** は部分的に格





1 N5/ 灰色砂質シルト層 【鋤床】
φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 10YR6/6 明黄褐色砂質シルトブロック含む
2 10YR7/6 明黄褐色粗砂層 【盛土】
3 N6/ 灰色粘土質シルト層 【近世整地層】
φ0.5 ～ 1.0cm の 10YR6/6 明黄褐色砂質シルトブロック含む
4 N4/ 灰色シルト質粘土層 【柱痕】
φ0.5cm の 7.5GY7/1 明緑灰色粘土ブロック少量含む
5 10YR6/2 灰黄褐色シルト層 【裏込め土】
φ0.5 ～ 1.0cm の 10YR6/1 褐灰色シルトブロック含む
6 N5/ 灰色シルト層 【置き土】
7 10YR6/1 褐灰色砂質シルト層～【古代整地層 2】
シルト質砂層
φ0.5 ～ 1.0cm の 10YR6/6 明黄褐色砂ブロック含む
8 N4/ 灰色粘土層 【古代堆積層】
φ0.5 ～ 1.0cm の 10YR7/3 にぶい黄橙～
2.5Y7/3 浅黄色シルト質粘土ブロック少量含む
9 2.5Y7/3 浅黄色粘土質シルト層 【基盤層】
一部グライ化

1 N3/ 暗灰色粘土層 【柱痕】
2 10YR5/1 褐灰色～ 【裏込め土】
10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト層
3 5B5/1 青灰色砂質シルト層 【裏込め土】
4 5B5/1 青灰色砂質シルト層 【裏込め土】
φ 1.0 ～ 3.0 ㎝の N4/ 灰色粘土ブロック含む
5 N2/ 黒色～ N3/ 暗灰色粘土層 【古代堆積層】
粗砂粒をラミナ状に含む

1 N3/ 暗灰色粘土層 【柱痕】
2 10YR4/1 褐灰色砂質シルト層 【柱痕】
3 N5/ 灰色シルト質細砂層 【柱痕】
4 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト層 【裏込め土】
φ0.5 ㎝の N5/ 灰色シルトブロック含む
5 7.5YR5/2 灰褐色砂質シルト層 【裏込め土】
φ0.5 ㎝の N5/ 灰色シルトブロック含む
6 N5/ 灰色粘土質シルト層 【裏込め土】
7 N4/ 灰色シルト質粘土層 【裏込め土】
8 N4/ 灰色シルト質砂層 【置き土】
9 N4/ 灰色粘土層 【柱痕】
10 N4/ 灰色粘土層 【基盤層】
砂粒少量含む

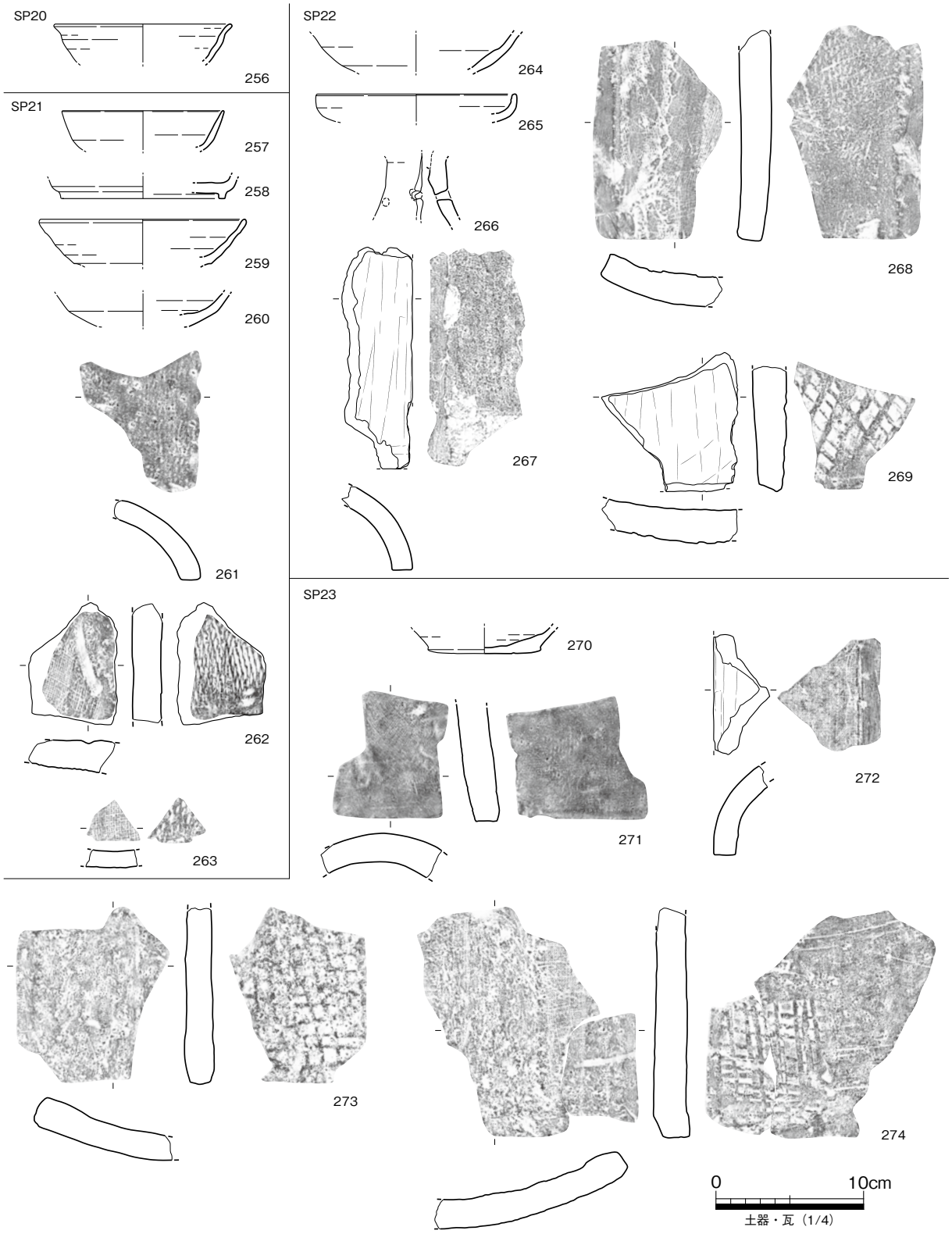
1 N4/ 灰色粘土層 【柱痕】
2 10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト層 【裏込め土】
φ0.5 ～ 1.0 ㎝の N5/ 灰色粘土ブロック含む
3 N5/ 灰色シルト質砂層 【置き土】
4 N3/ 暗灰色粘土層 【SD04】
5 5GY7/1 明オリーブ灰色シルト質砂層 【基盤層】

1 7.5YR5/2 灰褐色砂質シルト層 【柱痕】
2 N3/ 暗灰色粘土層 〔柱痕〕 【柱痕】
3 7.5YR5/3 にぶい褐色シルト質砂層 【裏込め土】
4 N5/ 灰色シルト質砂層 【裏込め土】
φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 1 0YR7/3 にぶい黄橙色シルトブロック含む
5 N5/ 灰色粘土質シルト層 【置き土】

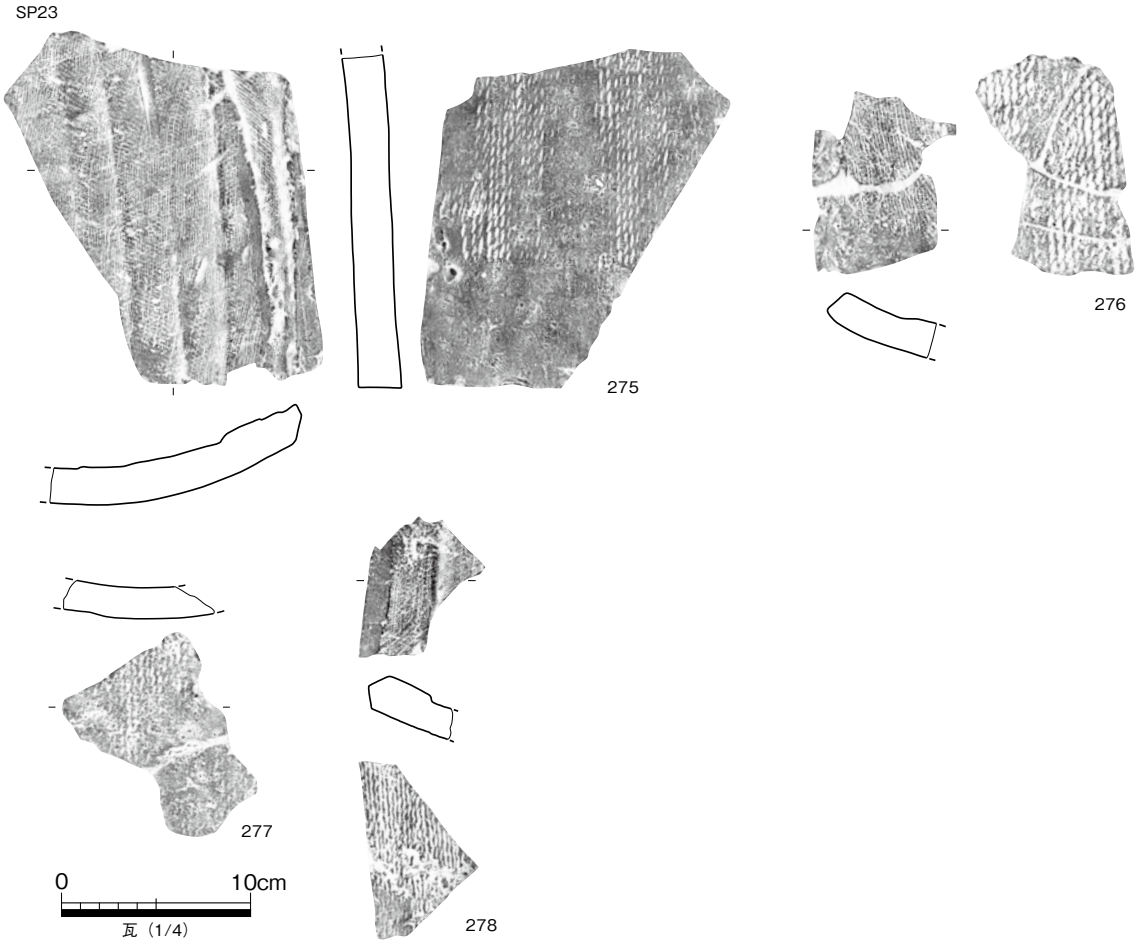
0 1m
(1/30)

柱痕
石
柱材
土器・瓦

第 44 図　SA01 平断面図



第 45 図　SA01 出土遺物 実測図 1



第 46 図　SA01 出土遺物実測図 2

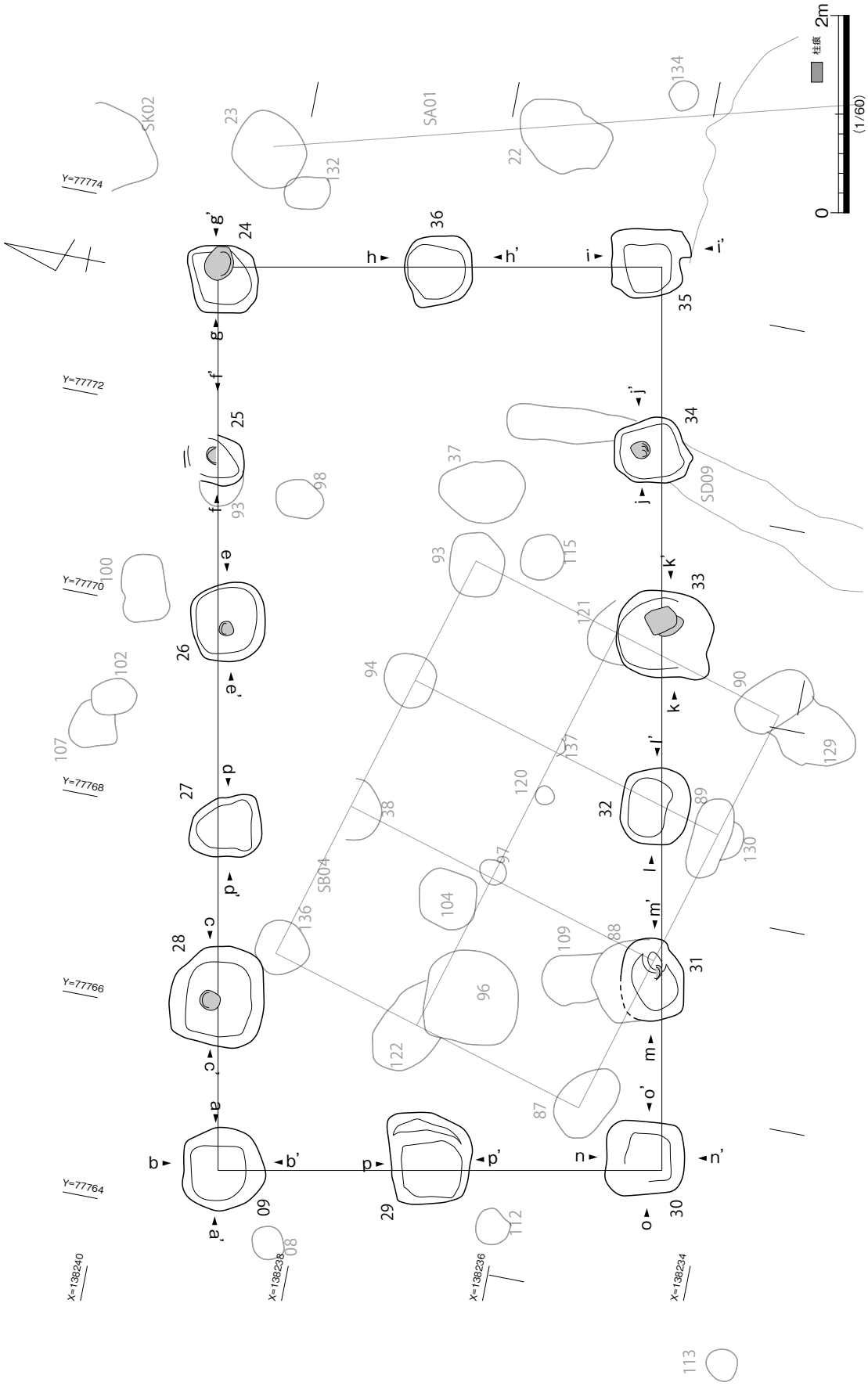
子タタキ痕をナデ消している。**275** は凹面には模骨痕、凸面には縄目痕が残るが、縄目痕は下部 6cm程度をナデ消す。**276 ～ 278** は凸面に縄目を残す。**276・278** は模骨痕が残る。

図化はしていないが、樹種同定を行った結果、SP20 の柱の樹種はアスナロ、SP21 の柱の樹種はヒノキである。

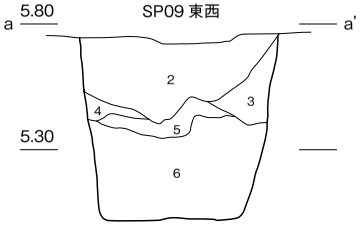
柱穴からは比較的多くの遺物が出土した。柱穴からは、古代堆積層や古代整地層 2 で出土する 8 世紀前半頃の須恵器とともに 10 世紀前半の須恵器が出土した。瓦は丸瓦、平瓦が出土した。丸瓦は側端部の面取りをしない。平瓦は 6 個体で模骨痕が観察できた。凸面調整は格子タタキ（3 個体）と縄目（7 個体）がみられる。**274** では格子タタキ痕が端部まで残されている一方、**268・275** では縄目痕は端部下部 5 ～ 6cm程度をナデ消す。端部の面取りはみられない。

時期　古代整地層 2 上面から掘り込まれた遺構であるため、上限は 8 世紀前葉である。**256・270** は 10 世紀前半まで下るものであり、下限は 10 世紀前半頃と考えられる。

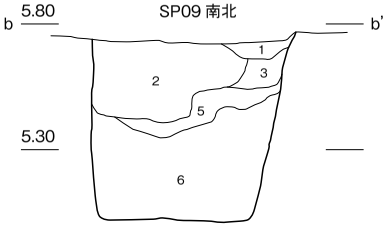
(2) 掘立柱建物

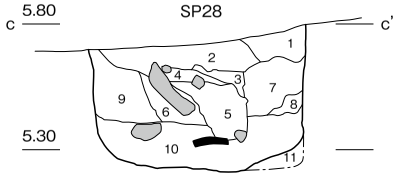


第 47 図　SB01 平面図



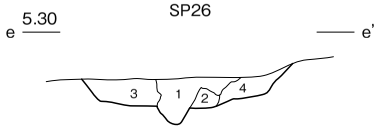
1　N5/ 灰色粘土質シルト層　【埋め戻し土】
2　10YR4/1 褐灰色シルト層　【埋め戻し土】
3　10YR7/4 にぶい黄橙色砂質シルト層　【埋め戻し土】
4　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト質砂層　【埋め戻し土】
5　10YR5/1 褐灰色砂質シルト層　【埋め戻し土】
6　10YR4/1 褐灰色砂質シルト層　【埋め戻し土】
φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 10YR7/4 にぶい黄橙色砂ブロック含む



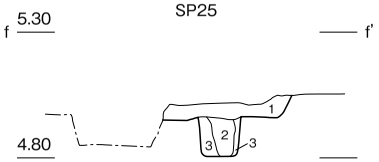


1　10YR5/1 褐灰色砂質シルト層　【柱腐喰後の堆積層】
φ0.5 ㎝の 10BG7/1 明青灰色シルトブロック含む
2　10BG7/1 明青灰色砂質シルト層　【柱腐喰後の堆積層】
φ0.5 ㎝の 7.5YR5/6 明褐色砂ブロック少量含む
3　7.5YR5/6 明褐色砂質シルト層　【柱痕】
φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 10BG7/1 明青灰色シルトブロック含む
4　10BG7/1 明青灰色粘土質シルト層　【柱痕】
5　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト層　【柱痕】
φ0.5 ～ 1.0 ㎝の N5/ 灰色シルトブロック含む
6　N4/ 灰色粘土質シルト　【裏込め土】
7　10YR5/1 褐灰色シルト層　【裏込め土】
φ0.5 ～ 2.0 ㎝の 10BG7/1 明青灰色シルトブロック含む
8　N4/ 灰色粘土質シルト層　【裏込め土】
9　10YR5/1 褐灰色シルト層　【裏込め土】
φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 10BG7/1 明青灰色シルトブロック含む
10　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト質粘土【置き土】
φ1.0 ～ 3.0 ㎝の N5/ 灰色粘土ブロック含む
11　7.5YR6/8 橙色シルト質粘土層　【基盤層】

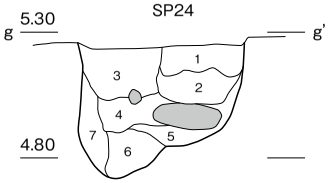
1　5Y4/1 灰色シルト層　【置き土または埋め戻し土】
φ0.5 ㎝の 7.5YR5/6 明褐色シルトブロック含む
2　10YR5/4 にぶい黄褐色粘土質シルト層　【基盤層】



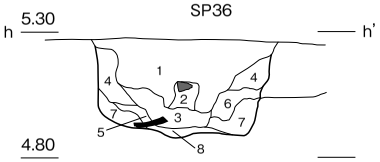
1　2.5Y5/1 黄灰色シルト層　【柱痕】
2　2.5Y6/2 灰黄色シルト層　【裏込め土】
3　10YR5/1 褐灰色シルト層　【裏込め土】
4　10YR5/1 褐灰色シルト層　【裏込め土】



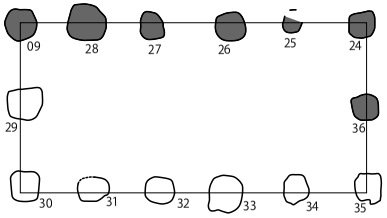
1　2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト層　【柱腐喰後の堆積層】
φ0.5 ㎝の 10YR6/4 にぶい黄橙色シルトブロック含む
2　2.5GY7/1 明オリーブ灰色粘土質シルト層　【柱痕】
3　N4/ 灰色粘土層　【柱痕】



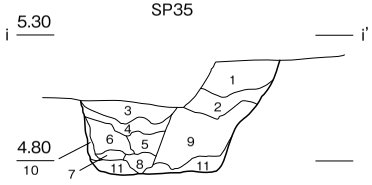
1　10YR6/3 にぶい黄橙色シルト質粗砂層　【柱痕】
2　10YR5/1 褐灰色シルト層　【柱痕】
φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 7.5YR5/6 明褐色粗砂 (基盤層) ブロック含む
3　7.5YR5/6 明褐色シルト質粗砂層　【裏込め土】
φ1.0 ～ 3.0 ㎝の N/4 灰色シルトブロック含む
4　N4/ 灰色粘土質シルト層　【置き土】
φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 7.5GY7/1 明緑灰色砂質シルトブロック少量含む
5　2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト層　【置き土】
6　2.5Y6/2 黄色シルト質砂層　【置き土】
φ0.5 ～ 1.0 ㎝の N4/ 灰色シルトブロック少量含む
7　5Y5/1 灰色シルト層　【置き土】
φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 7.5GY7/1 明緑灰色シルト (基盤層) ブロック含む



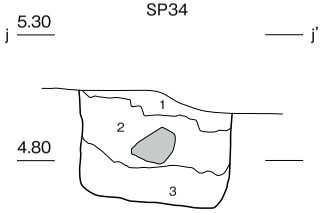
1　7.5YR5/4 にぶい褐色砂質シルト層　【柱腐喰後の堆積層】
φ0.5 ～ 2.0 ㎝の N6/ 灰色シルトブロック含む
2　N6/ 灰色粘土質シルト層　【柱材腐喰土】
粗砂粒含む
3　5Y5/1 灰色砂質シルト層　【柱痕】
φ1.0 ～ 3.0 ㎝の N4/ 灰色粘土ブロック含む
4　10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト層　【裏込め土】
φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 10YR5/6 黄褐色粗砂ブロック少量含む
5　10YR5/1 褐灰色粘土層　【裏込め土】
6　N5/ 灰色粘土質シルト層　【裏込め土】
φ1.0 ～ 2.0 ㎝の N4/ 灰色粘土ブロック少量含む
7　2.5Y5/1 黄灰砂質シルト層　【裏込め土】
φ0.5 ～ 1.0 ㎝の N4/ 灰色シルトブロック含む
8　2.5Y6/1 黄灰色粘土層　【置き土】



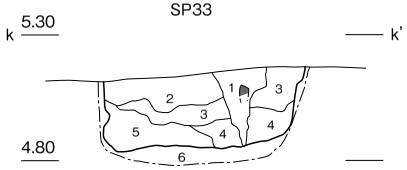
第 48 図　SB01 断面図 1



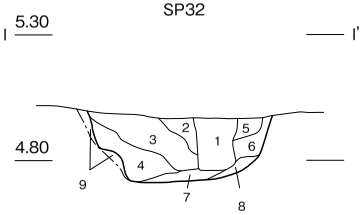
1　7.5YR6/4 にぶい橙色砂質シルト層　【裏込め土または柱腐喰後の堆積土】
　φ0.5 ～ 1.0cm の N5/ 灰色シルトブロック含む
2　10YR5/1 褐灰色砂質シルト層　【裏込め土または柱腐喰後の堆積土】
　φ0.5 ～ 1.0cm の 7.5YR6/4 にぶい褐色粗砂ブロック少量含む
3　2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト層　【柱痕】
　φ0.5 ～ 1.0cm の 10YR6/4 にぶい褐色粗砂ブロック少量含む
4　N4/ 灰色粘土質シルト層　【柱痕】
　φ0.5 ～ 2.0cm の 5Y6/1 灰色シルトブロック少量含む
5　N4/ 灰色粘土質シルト層　【柱痕】
　φ1.0 ～ 2.0cm の N5/ 灰色粘土ブロック含む
6　N5/ 灰色粘土質シルト層　【柱痕】
7　N4/ 灰色粘土質シルト層　【柱痕】
8　N6/ 灰色粘土層　【柱痕、柱材腐喰土】
9　5Y6/1 灰色砂質シルト層　【裏込め土】
　φ0.5cm の 10YR6/4 にぶい黄橙色粗砂ブロック少量含む
10　5Y6/1 灰色砂質シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0cm の N4/ 灰色粘土ブロック含む　〔裏込め土〕
11　N6/ 灰色シルト質粘土層　【置き土】
　φ0.5 ～ 2.0cm の 7.5GY7/1 明緑灰色砂質シルト (基盤層) ブロック含む



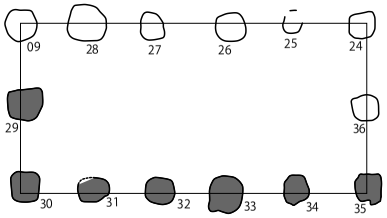
1　2.5Y5/1 黄灰色シルト層
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 10YR6/4 にぶい黄橙色シルトブロック含む
2　10YR4/1 褐灰色シルト層
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト質砂ブロック含む
3　N3/ 暗灰色シルト質粘土層

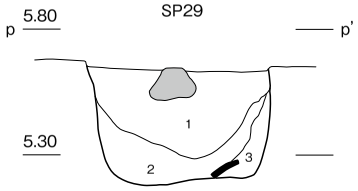


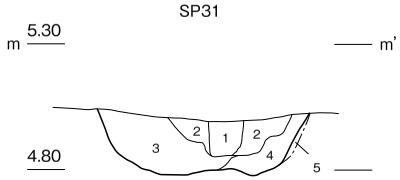
1　N3/ 暗灰色粘土層　【柱痕】
2　10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ㎝の 7.5YR5/6 明褐色シルトブロック含む
3　10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ㎝の 7.5YR5/6 明褐色シルトブロック含む
4　N4/ 灰色粘土質シルト層　【裏込め土】
　5GY7/1 明オリーブ灰色シルト層を帯状に含む
5　5Y5/1 灰色シルト層
　φ0.5 ㎝の 7.5YR5/6 明褐色シルトブロック含む
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 5GY7/1 明オリーブ灰色シルトブロック含む
6　5GY7/1 明オリーブ灰色粘土質シルト層　【基盤層】



1　N4/ 灰色粘土質シルト層　【柱痕】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 7.5YR5/6 明褐色シルトブロック少量含む
2　N6/ 灰色シルト層　【裏込め土】
3　10YR4/1 褐灰色シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 7.5YR5/6 明褐色シルトブロック含む
4　N4/ 灰色シルト質粘土層　【裏込め土】
5　10YR4/1 褐灰色シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 7.5YR5/6 明褐色シルトブロック含む
6　10YR4/1 灰色シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ㎝の 7.5YR5/6 明褐色シルトブロック少量含む
7　5B6/1 青灰色シルト質粘土層　【置き土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 5Y7/4 浅黄色シルトブロック含む
8　5Y5/1 灰色粘土質シルト層　【置き土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝びの 10YR6/6 明黄褐色シルトブロック少量含む
9　10YR6/4 にぶい黄橙色粘土質シルト層　【基盤層】







1　N4/ 灰色粘土質シルト層　【柱痕】
　上位は２層に近い
2　5Y5/1 灰色砂質シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の N4/ 灰色シルト層、5 層ブロック含む
3　7.5Y 6 6/2 灰オリーブ色砂質シルト層　【裏込め土】
4　N4/ 灰色シルト質粘土層　【裏込め土】
5　10BG6/1 青灰色砂質シルト層　【基盤層】

1　10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト層　【埋め戻し土】
2　10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト層　【埋め戻し土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の N5/ 灰色シルトブロック含む

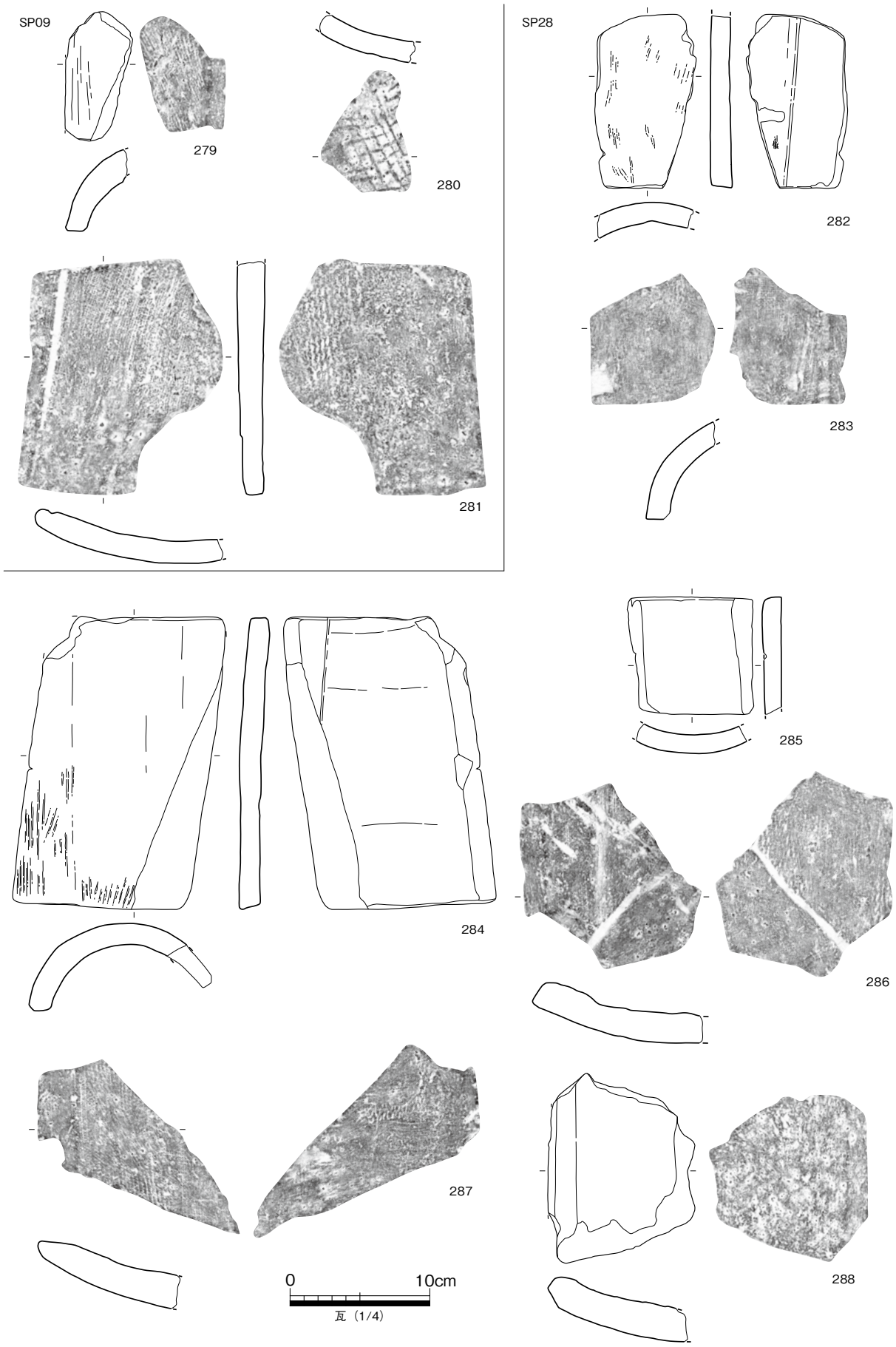
1　10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト層　【埋め戻し土】
2　10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト層　【埋め戻し土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の N5/ 灰色シルトブロック含む

1　N5/ 灰色砂質シルト層　【柱抜き取り後の埋め戻し土】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 7.5YR5/6 明褐色砂ブロック多量に含む
2　10YR5/2 灰黄褐色シルト層　【置き土または柱抜き取り後の埋め戻し土】
　Mn 多量に含む
3　10YR6/3 にぶい黄橙色粘土質シルト層　【置き土または柱抜き取り後の埋め戻し土】

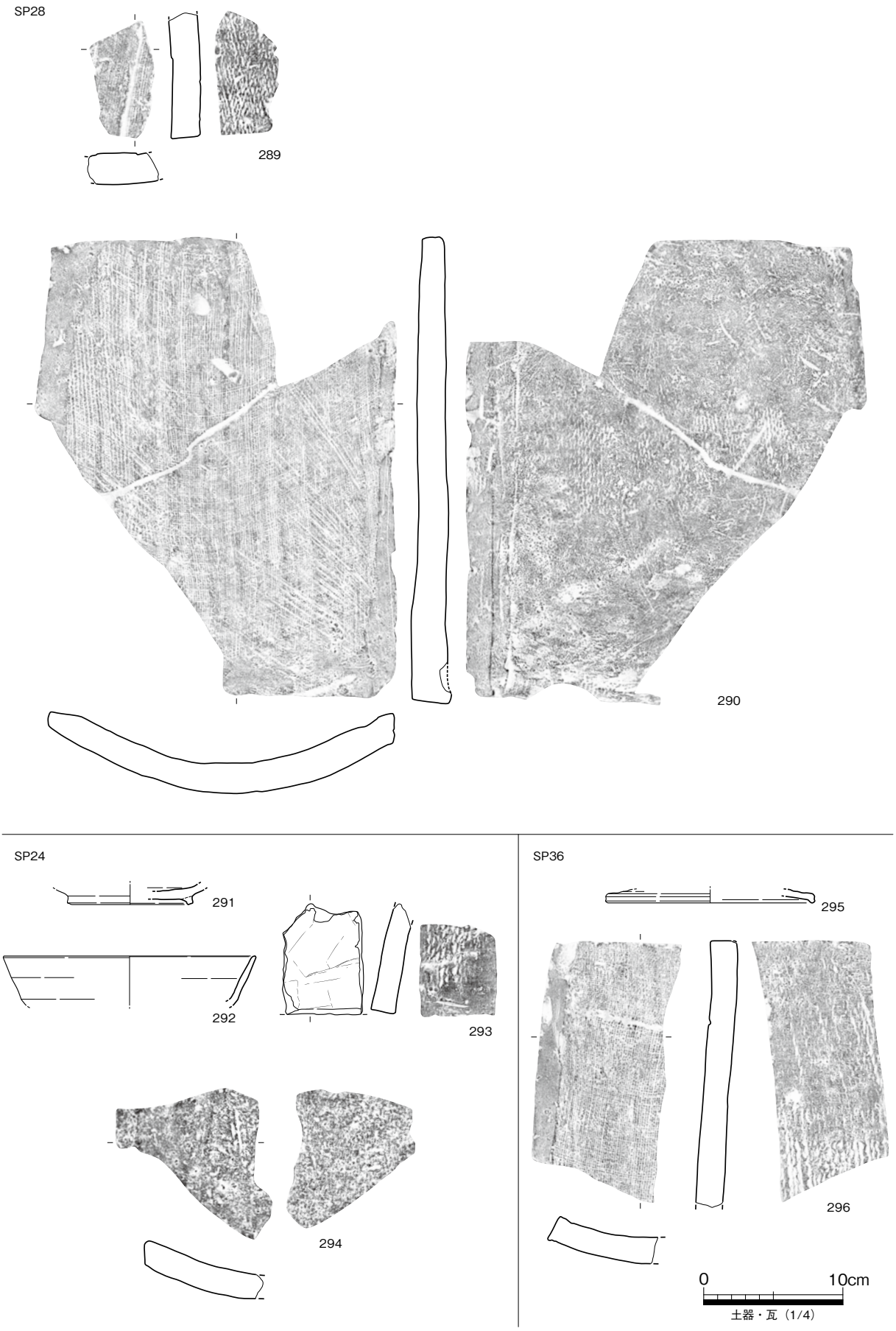
0　1m
(1/30)

柱材
石
土器・瓦

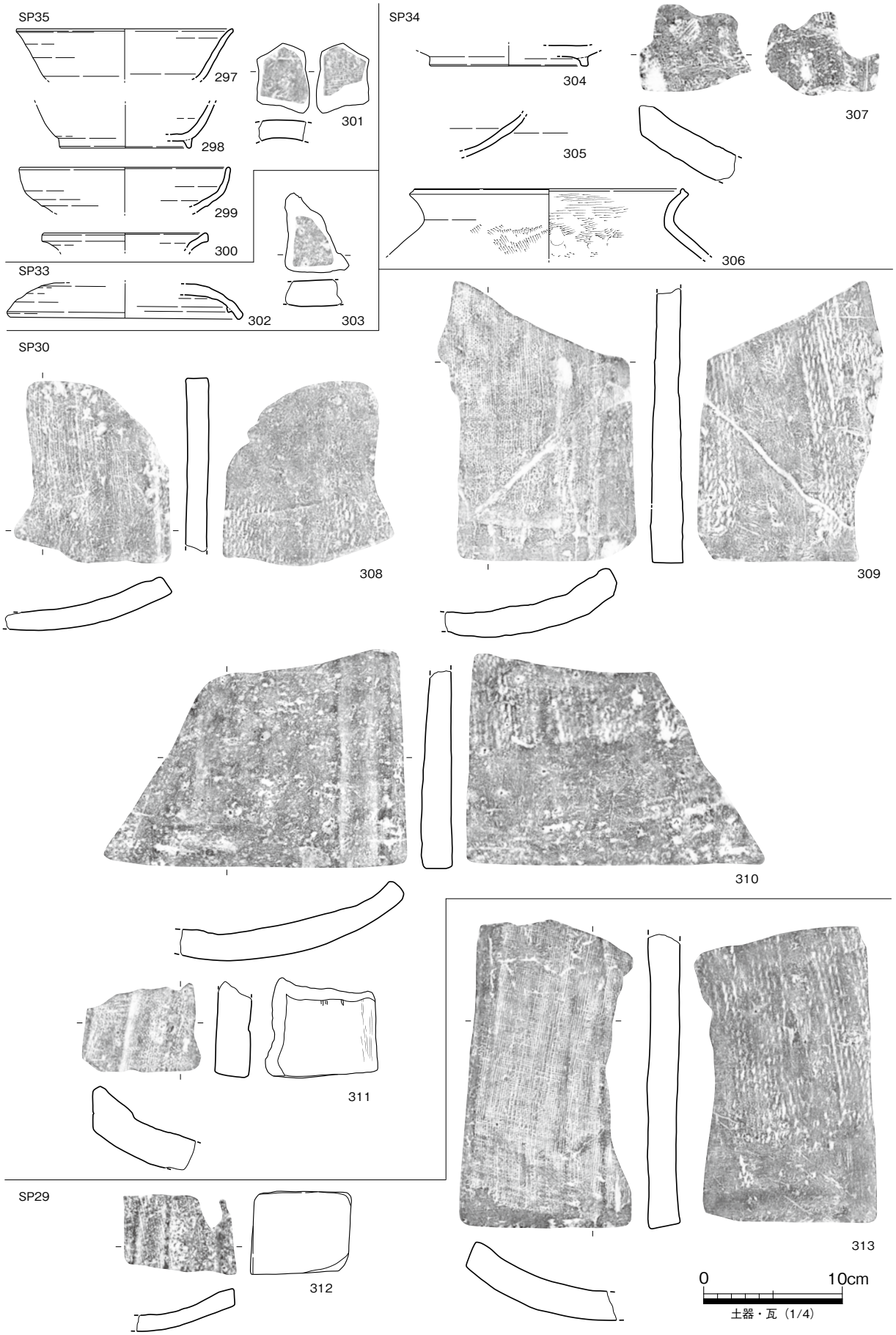
第 49 図　SB01 断面図 2



第 50 図　SB01 出土遺物 実測図 1



第 51 図　SB01 出土遺物 実測図２



第 52 図　SB01 出土遺物 実測図３

SB01（調査時遺構名：SB01）（第 47 ～ 52 図）

３区で検出した５間×２間の掘立柱建物で、長軸は東西に向く。主軸方向は南にある SB02 と近く、SB02 と東辺をほぼそろえる。建物方位は N79° E、桁行約 9.0m（30 尺）、梁間約 4.5m（15 尺）、桁行の柱間は約 1.8m（6 尺）、梁間の柱間は約 2.25m（7.5 尺）である。SB04 を構成する SP121･88 に後出する。より谷部に近い東辺の柱穴は古代整地層２上面から掘り込まれる。柱穴は概ね隅丸方形、1 辺 65 ～ 80cm、SP28・26・25・24・36・35・33・32・31 には柱痕が残り、柱痕の直径は 30cm程度と考えられる。SP24 のように柱痕下位に根石が認められる柱穴もある。その他の柱穴は、柱抜き取り後に埋め戻されたようである。

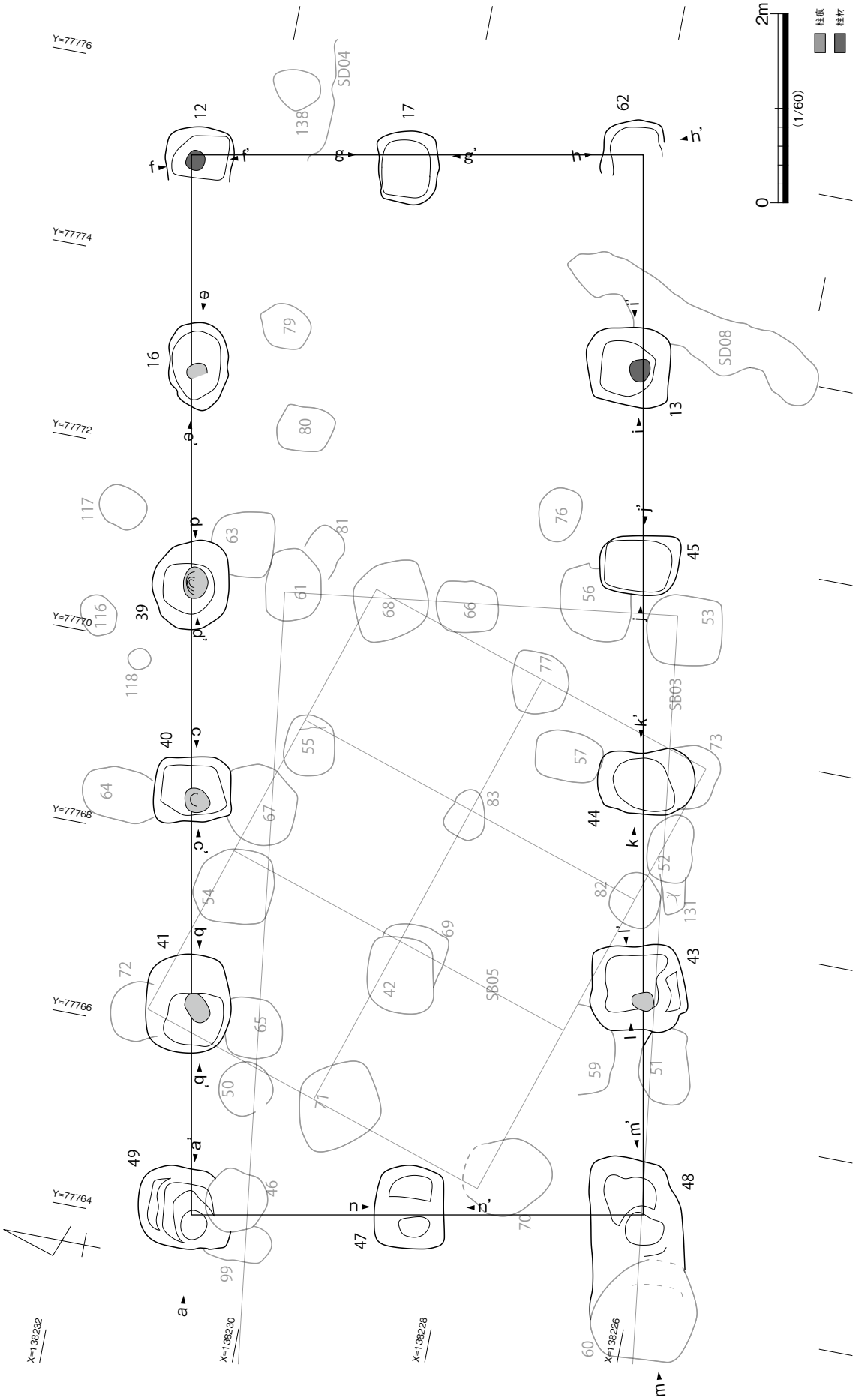
遺物　**279 ～ 313** は SB01 を構成する柱穴から出土した遺物である。**279 ～ 281** は SP09 から出土した。**279** は丸瓦。側端部は面取りをしない。**280・281** は平瓦。**280** は凸面に格子タタキ痕を施す。**281** は凹面に模骨痕を残し、外面は縄目痕が残るが、下端部、側端部から 4cm程度はナデ消されている。**282 ～ 290** は SP28 から出土した。**282 ～ 284** は丸瓦。**282** は凸面に縄目をわずかに残す。**284** は小振りで玉縁を持たない行基葺きの瓦である。内外面とも磨滅が著しく、詳しい調整は不明であるが、凸面に縄目痕をわずかに残す。**247** の行基葺きの瓦より小振りである。**285 ～ 290** は平瓦。**286 ～ 290** は凹面に摸骨痕を残し、凸面には縄目痕がある。**286・287・290** は縄目痕を部分的にナデ消す。**287・290** の片側の側縁で凹面側に面取りがみられる。**290** は凹面に糸切り痕を残す。**291 ～ 294** は SP24 出土遺物。**291・292** は須恵器杯。**291** は高台付杯である。**293・294** は平瓦。**293** は凸面には縄目痕を残すが、凹面はナデにより調整痕・製作痕を残さない。**294** は柱痕から出土、**292・293** は掘り方から出土した。**295・296** は SP36 から出土。**295** は須恵器蓋。**296** は平瓦。摸骨痕があり、凸面には縄目を残すが、端部 10cm程度はナデ消す。歪みがある。**297 ～ 301** は SP35 から出土した。**297 ～ 300** は須恵器。**297** は杯。**298** は高台付杯。**299** は高杯。**300** は壺。**301** は丸瓦。**302・303** は SP33 から出土した。**302** は須恵器蓋。内面にわずかに返りが付く。**303** は平瓦小片。**304 ～ 307** は SP34 から出土した。**304・305** は須恵器。**304** は高台付杯、**305** は杯である。**306** は土師器甕。**307** は平瓦。凸面の縄目は一部ナデ消す。**305・307** は柱掘り方から出土した。**308 ～ 311** は SP30 から出土した平瓦。**309 ～ 311** は凹面に模骨痕を残す。**308 ～ 310** は凸面に縄目を残し、**309** は部分的に、**308** と **310** は端部から 6 ～ 8cm程度ナデ消す。**311** は残存範囲では調整がナデ消され、わずかに縄目痕が残る程度であるが、端部からの残存範囲が少ないので、欠損部である上部には縄目痕が残された可能性もある。**312・313** は SP29 から出土した平瓦である。ともに凹面には模骨痕がある。**313** は凸面の縄目を端部 6cm程度ナデ消す。図化していないが、SP33 の柱の樹種は、樹種同定の結果、ヒノキであることがわかった。

ピットからは一定量の平瓦が出土した。平瓦は凹面に摸骨痕を残すもの、凸面には縄目タタキを部分的にナデ消すものが多い。側縁部はほとんどの個体で面取りをしない。出土土器は古代堆積層や古代整地層２でみられた８世紀代の遺物が多い。

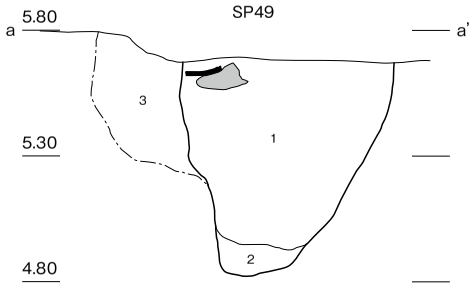
時期　古代整地層２上面の遺構であるため、上限は８世紀前葉である。

SB02（調査時遺構名；SB02）（第 53 ～ 59 図）

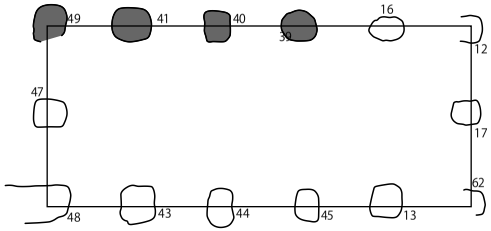
３区で検出した５間×２間の掘立柱建物で、長軸は東西に向く。建物方位は N79° E、桁行約 11.25m（37.5 尺）、梁間約 4.8m（16 尺）、桁行の柱間は約 2.25m（7.5 尺）、梁間の柱間は約 2.4m（8 尺）である。主軸方向は北にある SB01 と近く、SB01 と東辺をほぼそろえる。SB03 を構成する SP51・67・65・

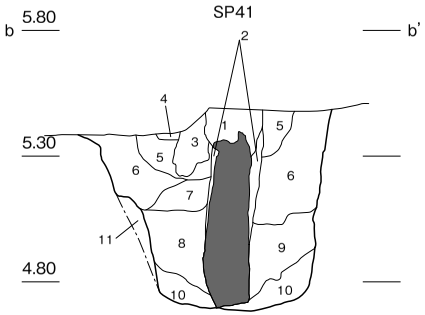


第 53 図　SB02 平面図

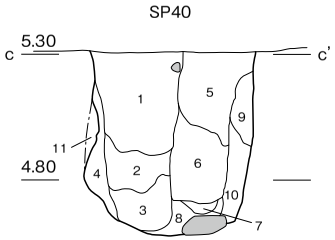


1　10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト層　【柱抜き取り後の埋め戻し土】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 2.5Y6/1 黄灰色シルトブロック含む
2　N4/ 灰色粘土層　【柱抜き取り後の埋め戻し土】
3　10YR5/1 褐灰～ 10YR5/2 灰黄褐色　【基盤層】
　砂質シルト層
　φ0.5 ～ 2.0 ㎝の 10YR4/1 褐灰色シルトブロック含む

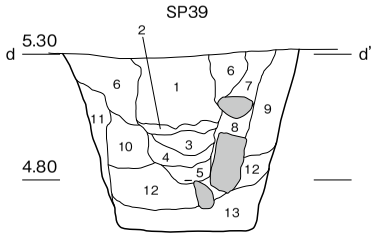




1　2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト層　【柱痕】
2　N3/ 暗灰色粘土層　【柱痕】
3　N4/ 灰色粘土質シルト層　【裏込め土】
4　10YR4/1 褐灰色砂質シルト層　【裏込め土】
5　10YR5/1 褐灰色砂質シルト層　【裏込め土】
6　10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の N5/ 灰色シルトブロック含む
7　N5/ 灰色粘土質シルト層　【裏込め土】
8　N4/ 灰色粘土層　【裏込め土】
9　N4/ 灰色シルト質粘土層　【裏込め土】
　粗砂粒含む
10　N3/ 暗灰色粘土層　【置き土】
　φ1.0 ～ 3.0 ㎝の 7.5GY7/1 明緑灰色
　シルトブロック含む
11　10BG7/1 明青灰色シルト層　【基盤層】



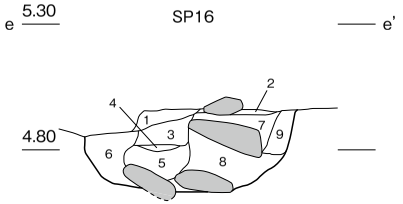
1　10YR5/1 1 褐灰色砂質シルト層　【柱痕】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の N4/ 灰色シルトブロック少量含む
　φ1.0 ～ 3.0 ㎝の 10YR6/6 明黄褐色粗砂 (基盤層)
　ブロック含む
2　N4/ 灰色シルト層　【柱痕】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 10YR5/4 にぶい黄褐色
　シルトブロック多量に含む
3　N4/ 灰色粘土質シルト層　【柱痕】
4　N6/ 灰色砂層
5　10YR5/1 褐灰色砂質シルト層　【裏込め土】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 10YR6/6 明黄褐色粗砂 (基盤層)
　ブロック含む
6　10YR4/1 褐灰色砂質シルト層　【裏込め土】
　φ1.0 ～ 3.0 ㎝の 10YR6/6 明黄褐色粗砂 (基盤層)
　ブロック含む
　N4/ 灰色シルトブロック含む
7　10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト層【裏込め土】
8　N4/ 灰色粘土質シルト層　【裏込め土】
9　N4/ 灰色シルト層　【裏込め土】
　φ1.0 ～ 3.0 ㎝の 10YR6/6 明黄褐色砂 (基盤層)
　ブロック含む
10　N4/ 灰色粘土質シルト層　【裏込め土】
　φ1.0cm の 10YR6/6 明黄褐色砂 (基盤層)
　ブロック少量含む
11　10YR6/6 明黄褐色砂層　【基盤層】



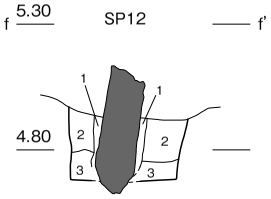
1　10YR6/3 にぶい黄橙色砂質シルト層　【柱痕】
　φ0.5 ～ 2.0 ㎝の 10YR6/1 褐灰色粘土ブロック少量含む
2　10Y6/1 灰色細砂層　【柱痕】
3　5B4/1 暗青灰色シルト質粘土層　【柱痕】
4　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質砂層　【柱痕】
5　N3/ 暗灰色シルト質粘土層　【柱痕】
6　10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 2.0 ㎝の N4/ 灰色粘土ブロック含む
7　10YR6/1 褐灰色砂質シルト層　【裏込め土】
　φ3.0 ～ 5.0 ㎝の 7.5YR5/6 明褐色砂ブロック含む
8　N5/ 灰色シルト層　【裏込め土】
9　2.5Y5/1 黄灰色シルト質砂層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 2.0 ㎝の 2.5Y6/2 灰黄色砂ブロック含む
10　2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 2.5Y6/2 灰黄色砂ブロック少量含む
11　2.5Y6/4 にぶい黄色粘土質シルト層　【裏込め土】
　φ1.0 ～ 3.0 ㎝の N5/ 灰色シルトブロック含む
12　N5/ 灰色粘土質シルト層　【裏込め土】
13　N4/ 灰色粘土層　【裏込め土】

0　1m
(1/30)
石
柱材
土器・瓦

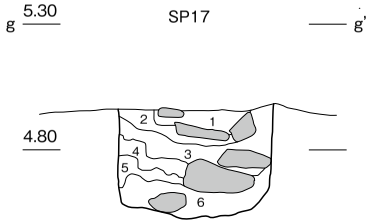
第 54 図　SB02 断面図 1



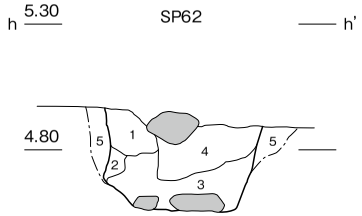
1　10YR6/3 にぶい黄橙色砂質シルト層【柱抜き取り後の堆積土】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の N4/ 灰色粘土・
　2.5Y7/2 灰黄色細砂ブロック多量に含む
2　2.5Y6/3 にぶい黄色粗砂層【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の N4/ 灰色粘土ブロック含む
3　N4/ 灰色粘土層【柱痕】
　5 層に比べて砂粒を含む量が多い
4　2.5GY7/1 明オリーブ灰色砂層【柱痕】
5　N4/ 灰色粘土層【柱痕】
6　10Y6/1 灰色砂質シルト層【裏込め土】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の N4/ 灰色粘土ブロック含む
7　5Y5/1 灰色粘土質シルト層【裏込め土】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の N4/ 灰色粘土ブロック含む
8　2.5GY6/1 オリーブ灰色砂質シルト層【裏込め土】
　φ1.0 ～ 3.0 ㎝の N4/ 灰色粘土ブロック含む
　粗砂粒含む
9　2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト層【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の N4/ 灰色粘土ブロック少量含む



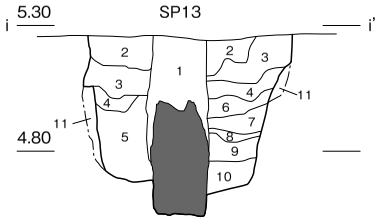
1　N3/ 暗灰色粘土層【柱材周囲の土】
2　7.5GY7/1 明緑灰色シルト質砂層【裏込め土】
3　N3/ 暗灰色粘土層【裏込め土】



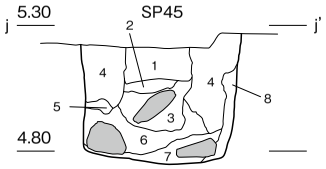
1　5Y5/1 灰色粘土層【置き土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の１０YR６/４にぶい黄橙色
　シルトブロック多量に含む
2　N4/ 灰色粘土層【置き土】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 2.5GY6/1 オリーブ灰色
　シルトブロック含む
3　2.5GY6/1 オリーブ灰色シルト層【置き土】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の N4/ 灰色粘土ブロック含む
4　N4/ 灰色粘土層【置き土】
　φ1.0 ～ 3.0 ㎝の 2.5GY6/1 オリーブ灰色
　粘土質シルトブロック少量含む
5　2.5GY6/1 オリーブ灰色シルト質粘土層【置き土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の N4/ 灰色シルトブロック少量含む
6　N3/ 暗灰色粘土層【置き土】



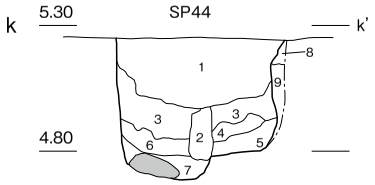
1　N4/ 灰色粘土層【裏込め土】
　φ1.0 ～ 3.0 ㎝の 5GY7/1 明オリーブ灰色
　粘土ブロック多量に含む
2　5GY7/1 明オリーブ灰色粘土層【裏込め土】
　φ1.0 ～ 3.0 ㎝の N4/ 灰色粘土ブロック含む
3　N4/ 灰色粘土層【裏込め土】
　φ1.0 ～ 3.0 ㎝の 5GY7/1 明オリーブ灰色
　粘土ブロック含む
4　N4/ 灰色粘土層【柱痕】
　φ1.0 ～ 5.0 ㎝の 5GY7/1 明オリーブ灰色
　粘土ブロック多量に含む
5　5GY6/1 オリーブ灰色粘土層【基盤層】



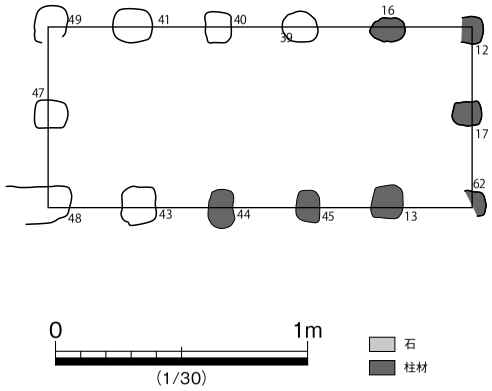
1　N2/ 黒色粘土層【柱痕】
2　10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト層【裏込め土】
3　N4/ 灰色粘土質シルト層【裏込め土】
　φ1.0 ～ 3.0 ㎝の 7.5GY7/1 明緑灰色
　粘土ブロック含む
4　7.5GY7/1 明緑灰色砂質シルト層【裏込め土】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の N4/ 灰色粘土ブロック少量含む
5　N4/ 灰色粘土質シルト層【裏込め土】
6　N5/ 灰色粘土質シルト層【裏込め土】
　φ0.5 ㎝の 7.5GY7/1 明緑灰色
　粘土ブロック少量含む
7　7.5GY7/1 明緑灰色シルト層【裏込め土】
　φ1.0 ～ 3.0 ㎝の N4/ 灰色粘土ブロック含む
8　N3/ 暗灰色粘土層【裏込め土】
9　7.5GY7/1 明緑灰色シルト層【裏込め土】
10　N3/ 暗灰色粘土層【裏込め土】
11　N5/ 灰色シルト質粘土層【基盤層】



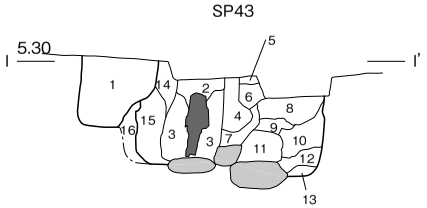
1　10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト層【柱痕】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の N4/ 灰色粘土ブロック少量含む
　2.5Y5/1 黄灰色シルトブロック含む
2　N5/ 灰色シルト質粘土層【柱痕】
3　5Y7/1 灰白色砂層【置き土】
　φ1.0 ～ 3.0 ㎝の 10YR5/4 にぶい黄褐色
　粘土質シルトブロック含む
4　10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト層【裏込め土】
　φ1.0 ～ 3.0 ㎝の N4/ 灰色粘土ブロック含む
5　2.5Y6/1 黄灰色シルト層【裏込め土】
6　N4/ 灰色粘土層【裏込め土】
7　N3/ 暗灰色粘土層【裏込め土】
8　7.5Y6/1 灰色シルト層【裏込め土】
　φ1.0 ～ 3.0 ㎝の N4/ 灰色粘土ブロック含む



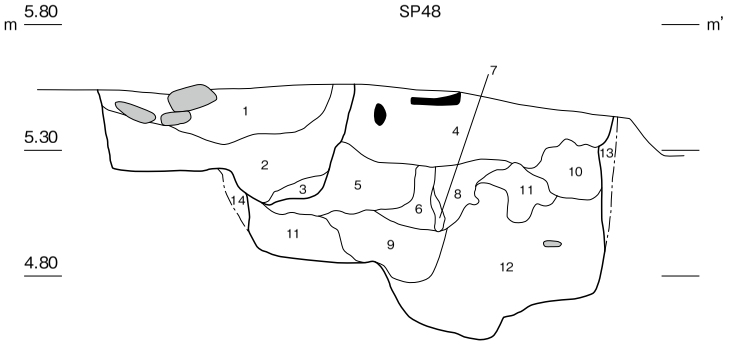
1　10YR6/4 にぶい黄橙色砂質シルト層【柱腐喰後の堆積層】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の N5/ 灰色シルトブロック多量に含む
2　N4/ 灰色シルト質粘土層【柱痕】
3　N4/ 灰色砂質シルト層【裏込め土】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 7.5YR6/6 橙色砂質シルトブロック含む
　2.5GY7/1 明オリーブ灰色シルトブロック含む
4　N5/ 灰色シルト質粘土層【裏込め土】
5　2.5Y62 灰黄色砂質シルト層【裏込め土】
6　N4/ 灰色粘土質シルト層【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 5GY7/1 明オリーブ灰色
　シルトブロック少量含む
7　N5/ 灰色粘土質シルト層【置き土】
　φ0.5 ～ 2.0 ㎝の 5GY7/1 明オリーブ灰色
　シルトブロック多量に含む
8　10YR4/6 褐色砂質シルト層【基盤層】
9　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト層【基盤層】



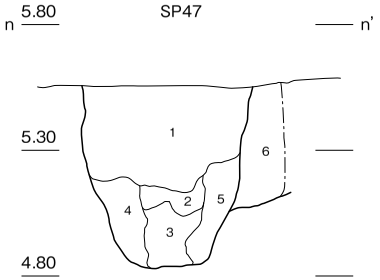
第 55 図　SB02 断面図 2



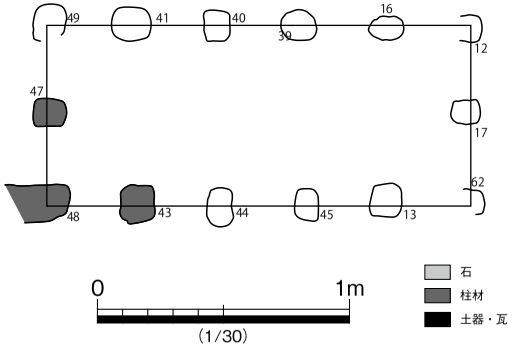
1　7.5YR5/3 にぶい褐色砂質シルト層
2　2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト層　【柱痕または柱腐喰後の堆積層】
3　N3/ 暗灰色粘土層　【柱痕】
4　2.5Y7/1 灰白色～ 2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト層【裏込め土】
5　10YR7/8 黄橙色粗砂層、基盤層ブロック　【裏込め土】
6　7.5YR5/4 にぶい褐色粘土層、基盤層ブロック　【裏込め土】
7　7.5GY7/1 明緑灰色粘土層　【裏込め土】
　φ0.5 ㎝の N5/ 灰色粘土ブロック含む
8　10YR6/6 明黄褐色粘土層　【裏込め土】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 2.5Y7/3 浅黄色・N5/ 灰色粘土ブロック多量に含む
9　2.5Y5/1 黄灰色シルト層　【裏込め土】
10　2.5Y5/1 黄灰色粘土層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の N4/ 灰色・10YR6/6 明黄褐色粘土ブロック多量に含む
11　風化礫　【裏込め土】
12　N5/ 灰色粘土質シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 5GY7/1 明オリーブ灰色粘土ブロック含む
13　2.5GY5/1 オリーブ灰色粘土層　【裏込め土】
14　5Y5/1 灰色砂質シルト層　【裏込め土】
15　2.5Y8/2 灰白色粘土質シルト層　【裏込め土】
16　10YR7/6 明黄褐色シルト質粘土層　【基盤層】



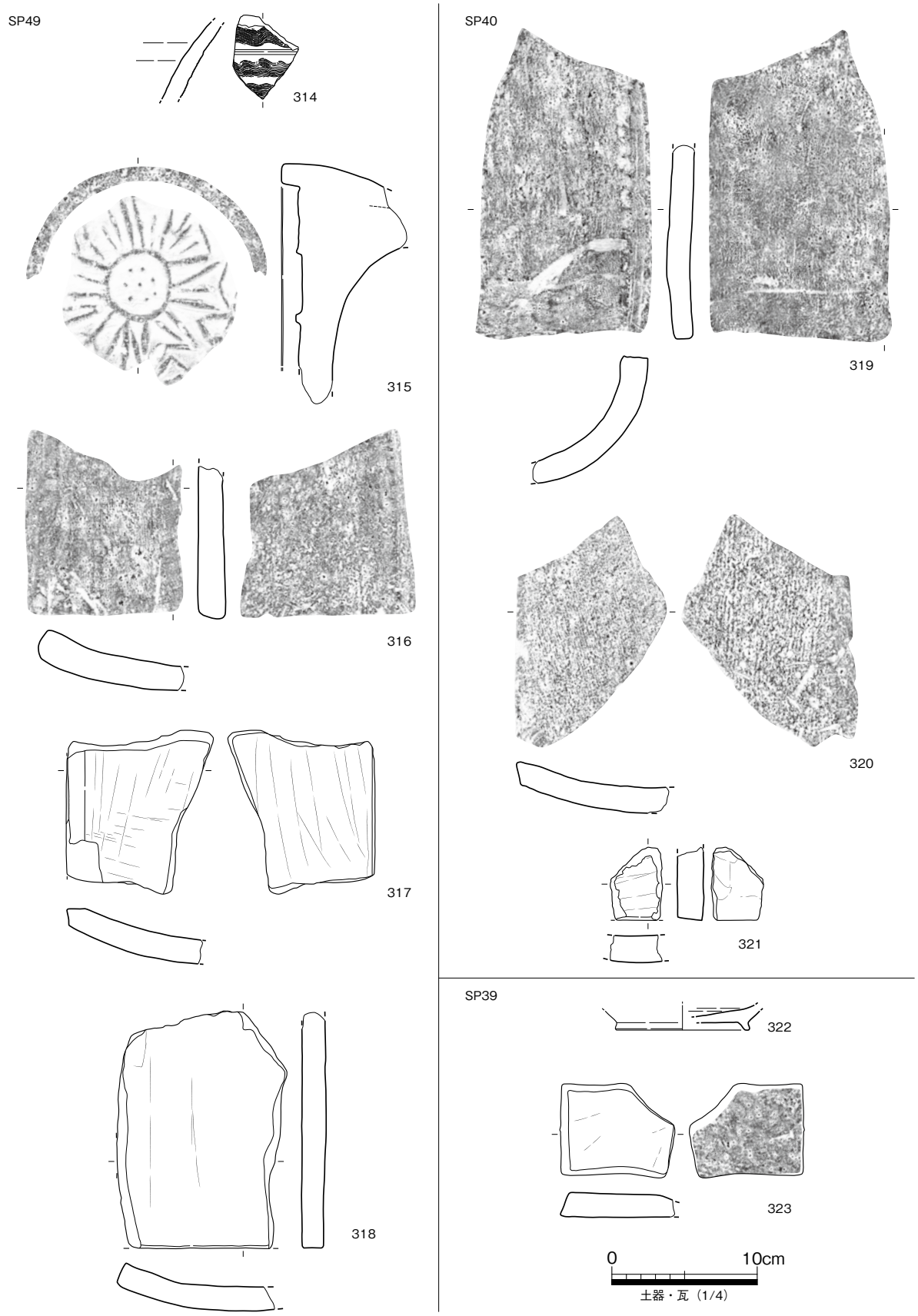
1　10YR6/2 灰黄褐色シルト質砂層　【SP60】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 10YR6/1 褐灰色シルトブロック含む
2　10YR6/1 褐灰色砂質シルト層　【SP60】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 7.5YR5/6 明褐色砂ブロック含む
3　2.5Y4/1 黄灰色シルト質粘土層　【SP60】
4　10YR5/1 褐灰色砂質シルト層　【SP48 抜き取り痕】
　φ0.5 ～ 2.0 ㎝の 7.5YR5/6 明褐色砂ブロック含む
5　10YR6/4 にぶい黄橙色粘土質シルト層　【SP48 抜き取り痕】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 10YR4/1 褐灰色シルト・10YR7/6 明黄褐色シルト質粘土ブロック多量に含む
6　N3/ 暗灰色粘土層　【SP48 抜き取り痕】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト質粘土・5GY7/1 明オリーブ灰色粘土ブロック少量含む
7　2.5GY7/1 明オリーブ灰色砂質シルト層　【SP48 抜き取り痕】
8　2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト層　【SP48 抜き取り痕】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 5Y6/2 灰オリーブ色シルトブロック含む
9　10YR7/6 明黄褐色砂質シルト層　【SP48 抜き取り痕】
　φ1.0 ～ 3.0 ㎝の N4/ 灰色シルト・5GY7/1 明オリーブ灰色粘土ブロック多量に含む
10　10YR6/6 明黄褐色砂質シルト層　【SP48 抜き取り痕】
11　10YR6/1 褐灰色砂質シルト層　【SP48 抜き取り痕】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の N4/ 灰色シルトブロック少量含む
12　N4/ 灰色シルト質粘土層　【SP48 置き土または裏込め土】
　φ1.0 ～ 3.0 ㎝の 10YR6/4 にぶい黄橙色・5GY7/1 明オリーブ灰色粘土ブロック含む
13　10YR5/6 黄褐色粘土質シルト層　【基盤層】
14　【基盤層】



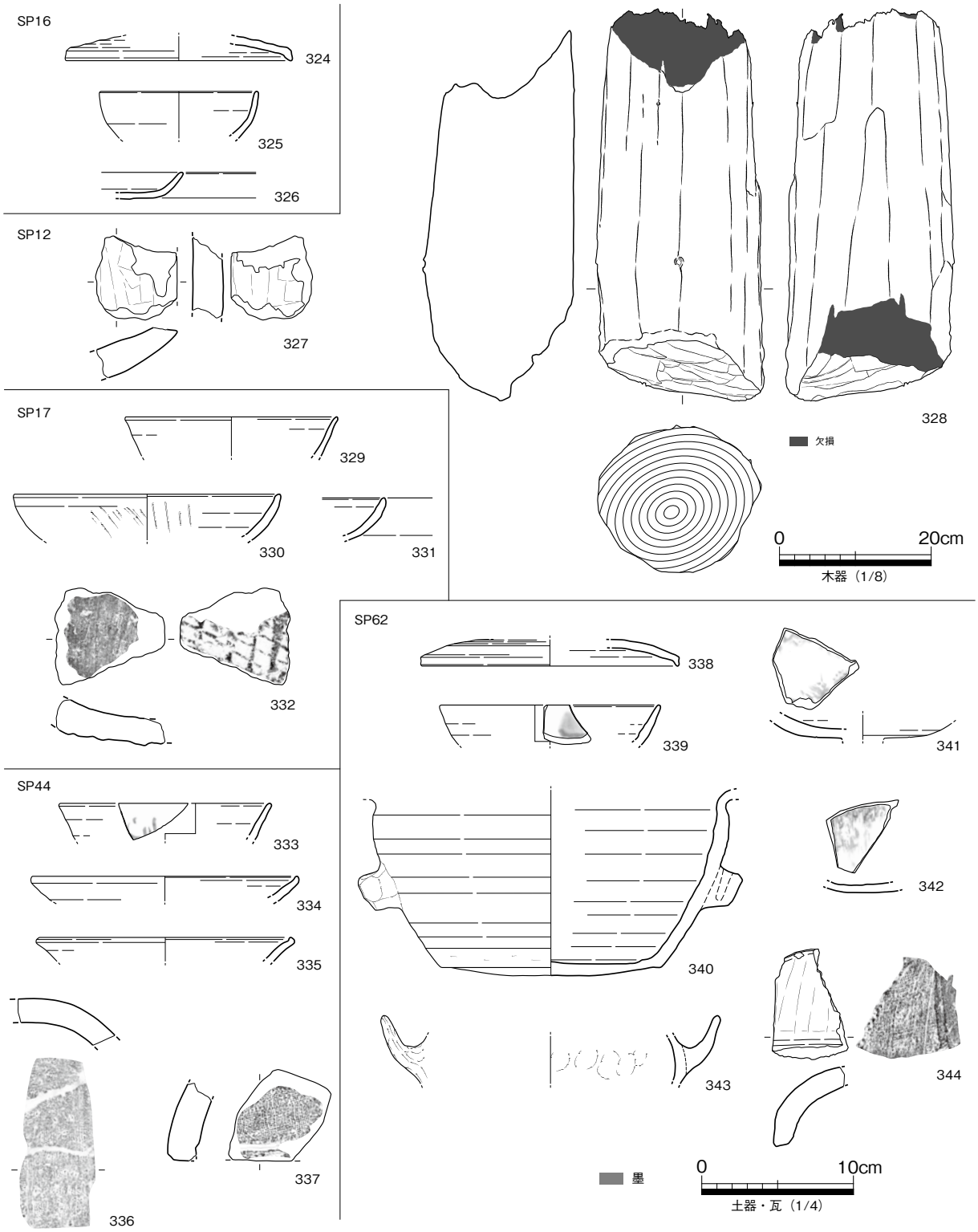
1　10YR4/1 褐灰色砂質シルト層　【柱腐喰後の堆積層】
　φ0.5 ～ 2.0 ㎝の 10YR6/6 明黄褐色粘土質シルトブロック含む
2　2.5Y4/1 黄灰色シルト層　【柱痕】
　φ0.5 ～ 2.0 ㎝の 10YR6/4 にぶい黄橙色シルトブロック含む
3　2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト層　【柱痕】
　φ0.5 ㎝の 10YR6/4 にぶい黄橙色シルトブロック少量含む
4　10YR5/1 褐灰色シルト層　【裏込め土】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 10YR6/4 にぶい黄橙色シルトブロック多量に含む
5　2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト層　【裏込め土】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 10YR6/4 にぶい黄橙色シルトブロック多量に含む
6　10YR5/1 褐灰色砂質シルト層　【整地層】
　φ0.5 ～ 1.0 の N4/ 灰色シルトブロック含む



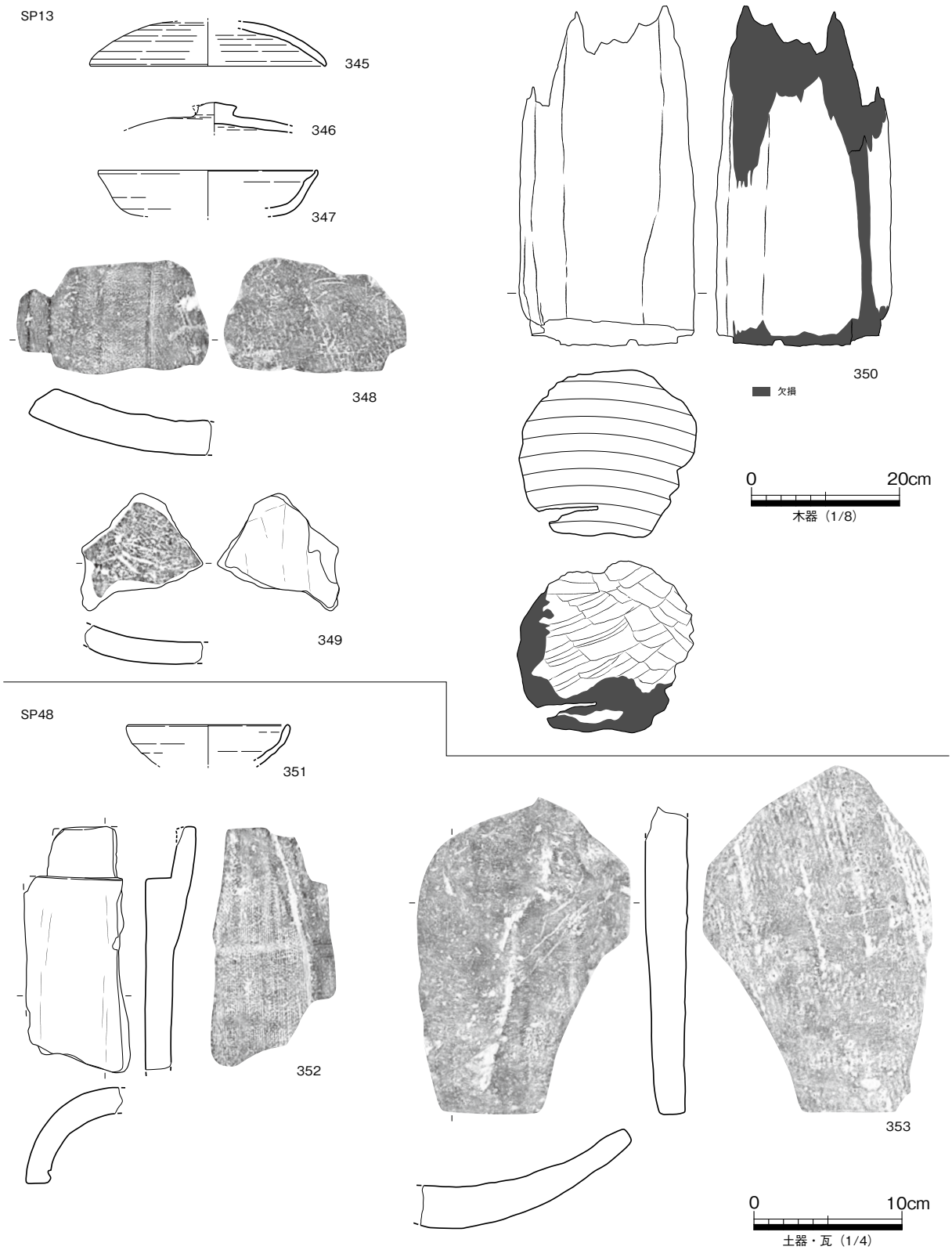
第 56 図　SB02　断面図 3



第 57 図　SB02 出土遺物 実測図 1



第 58 図　SB02 出土遺物 実測図２



第 59 図　SB02 出土遺物 実測図３

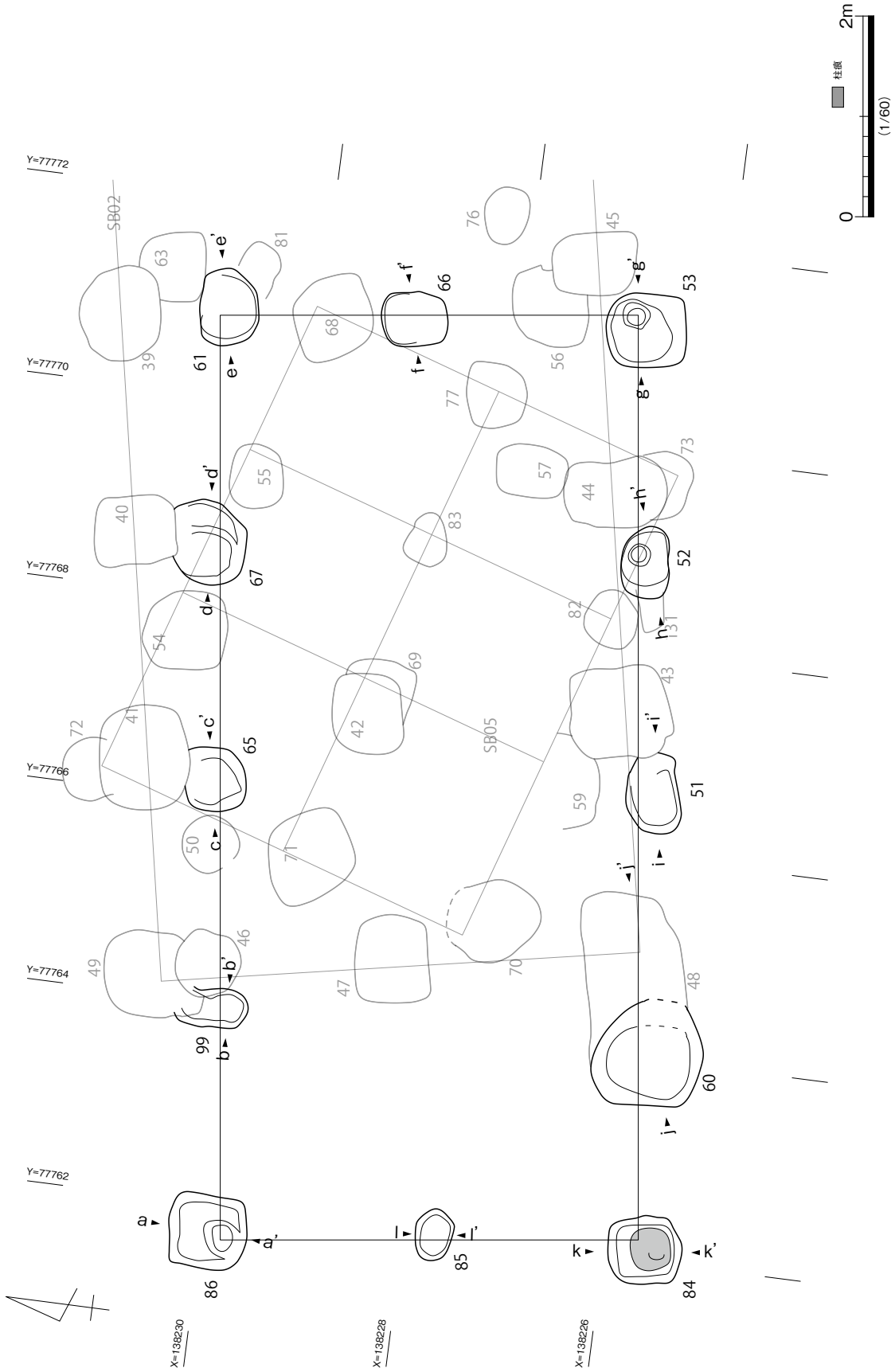
99 に後出する。発掘調査時には、SB02 の南西隅柱穴 SP48 が、SB03 の南辺柱穴 SP60 に先行するとした。しかし、前述のように 4 か所の柱穴間で SB02 の後出が確認されているため、SP48 は SP60 に後出するとするのが妥当であろう。ただし、SP48・60 の断面図では調査時の記録どおり提示している。より谷部に近い東部の柱穴は古代整地層 2 上面から掘り込まれる。柱穴は概ね隅丸方形で、1 辺 60 ～ 90 cm、柱痕の直径は 30cm程度である。SP41・12・13・43 には柱が残り、SP16・40・39・62・45・44・47 には柱痕が確認される。その他の柱穴は柱が抜き取られた後に埋め戻されている。SP16・17・40・43・44・62 には柱穴の底に石を置き根石とする。

遺物　**314 ～ 353** は SB02 を構成する柱穴から出土した。**314 ～ 318** は SP49 から出土した。**314** は須恵器甕片。頸部外面に波状文を施す。**315** は軒丸瓦。ピットの検出面に近い位置で出土した。白鳥廃寺ではこれまで知られていない型式である。弁の形状をみれば、文様は SR103 型式の退化型式と考えられるが、瓦当厚は SR103 型式の瓦に比べて薄く、焼成は軟質で、製作技法からは類似するところは認められない。**316 ～ 318** は平瓦。全体的に摩滅が著しい。**317** は凹・凸面とも調整をナデ消す。側端部は両面から面取りをする。白鳥廃寺の中では古い製作技法によるものである。**318** は凹面に摸骨痕を残す。**319 ～ 321** は SP40 から出土した。**319** は丸瓦。側縁部は面取りしないが、下端部を広く面取りする。**320・321** は平瓦。**322・323** は SP39 から出土した。**322** は柱掘り方から出土。須恵器高台付杯底部。**323** は平瓦。柱痕から出土した。**324 ～ 326** は SP16 から出土した。**324・325** は須恵器。**324** は蓋。**325** は高杯杯部と考えられる。**326** は土師器皿。**327** は SP12 出土遺物。平瓦小片。**328** は SP12 柱材。樹種同定の結果、ヒノキであった。辺材部まで残るもので、直径 22cmが残る。木口を使用する。柱の下部は平らになるようていねいに削られている。**329 ～ 332** は SP17 から出土した。**329** は須恵器杯。**330・331** は土師器杯。**330** は内面に暗文を施す。**332** は平瓦。凹面の布目はナデ消し、凸面は格子タタキ痕が残る。**333 ～ 337** は SP44 から出土した。**333** は須恵器。体部外面に墨痕が認められる。**334・335** は土師器杯。口縁端部は内側にわずかに丸くする。**336・337** は丸瓦。**338 ～ 344** は SP62 から出土した。**338 ～ 342** は須恵器。**338** は蓋。**339** は杯。体部内面に墨痕が残る。**340** は鉢。体部 2 か所に把手が付く。**341・342** は転用硯。**341** は蓋内面、**342** は壷体部内面に墨痕が残る。**343** は土師器甕の把手部分。**344** は丸瓦の玉縁部分。下端に丸瓦の本体を取り付けるためのナデ調整の痕跡が残る。**345 ～ 350** は SP13 出土遺物。**345・347・349** は柱掘り方から出土した。**345・346** は須恵器蓋。**347** は土師器杯。口縁端部内面をわずかに屈曲させる。**348・349** は平瓦。**348** は凹面に模骨痕を残す。凸面の縄目は一部ナデ消す。**349** は凸面の調整をナデ消す。**350** は柱材。樹種同定の結果はヒノキであった。直径 24cm程度残る。**328** とは異なり芯去削出により材を調達し、板目材を使用する。柱の下部は 1 方向に削って平らにする。**351 ～ 353** は SP48 から出土した。**351** は須恵器杯。**352** は丸瓦。**353** は平瓦。凸面の縄目は下部6cm程度をナデ消す。図化していないが、SP41・43の柱は、樹種同定の結果ヒノキであった。

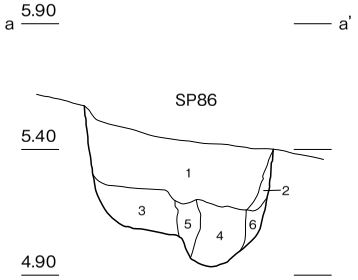
柱穴からは 8 世紀代までの土器が出土すると考えられる。瓦は凹面に摸骨痕、凸面は縄目痕をナデ消すものが認められるが、磨滅により調整が不明であるものも多い。柱穴からの出土遺物は多い。

時期　古代整地層 2 を掘り込むこと、SB01 と同時期と考えられることから 8 世紀前葉以降と考えられる。

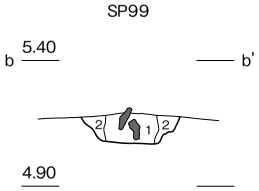
柱材の年代測定を実施した。その結果については、第 4 章第 1 節・第 2 節で報告する。



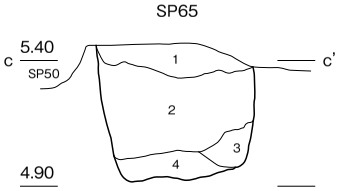
第 60 図　SB03 平面図



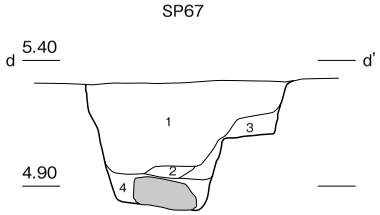
1　10YR4/1 褐灰色シルト層　【柱抜き取り後の埋め戻し土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 7.5YR5/6 明褐色砂ブロック少量含む
2　7.5Y5/1 灰色粘土質シルト層
3　10YR6/3 にぶい黄橙色粘土質シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ㎝の N4/ 灰色シルト質粘土ブロック少量含む
4　10YR6/2 灰黄褐色シルト質粘土層　【柱痕】
5　10YR5/1 褐灰色シルト質粘土層　【裏込め土】
6　10YR5/1 褐灰色シルト質粘土層　【裏込め土】



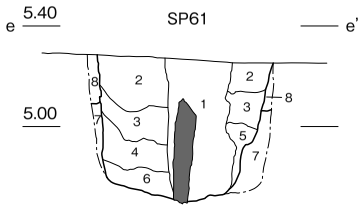
1　N3/ 暗灰色粘土層　【柱痕】
2　N5/ 灰色シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 2.5Y7/1 灰白色シルトブロック含む



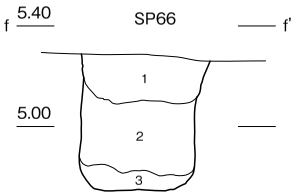
1　10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト層　【柱抜き取り後の埋め戻し土 ?】
　φ0.5 ～ 2.0 ㎝の 7.5YR5/6 明褐色砂ブロック含む
2　10YR5/1 褐灰色砂質シルト層　【柱抜き取り後の埋め戻し土 ?】
　φ0.5 ～ 2.0 ㎝の 7.5YR4/6 褐色砂質シルトブロック多量に含む
3　10YR4/1 褐灰色シルト層　【柱抜き取り後の埋め戻し土 ?】
4　N4/ 灰色シルト質粘土層　【置き土？】
　φ0.5　㎝の 5BG7/1 明青灰色シルトブロック少量含む



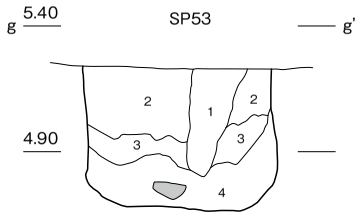
1　10YR5/1 褐灰色シルト質砂層【柱抜き取り後の埋め戻し土】
　φ0.5 ～ 2.0 ㎝の 7.5YR5/6 明褐褐色砂ブロック含む
2　N4/ 灰色シルト質粘土層　【柱抜き取り後の埋め戻し土】
　炭化物少量含む
3　10YR4/1 褐灰色シルト質砂層【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の N4/ 灰色シルトブロック含む
4　N5/ 灰色粘土質シルト層　【置き土】



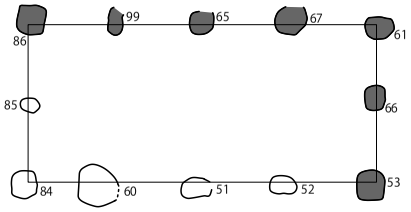
1　N3/ 暗灰色粘土層　【柱痕】
　砂粒含む
2　10YR6/3 にぶい黄橙色砂質シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の N5/ 灰色シルトブロック含む
3　10G6/1 緑灰色シルト質粗砂層　【裏込め土】
4　N5/ 灰色砂質シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の N4/ 灰色粘土ブロック含む
5　5GY6/1 オリーブ灰色シルト質砂層　【裏込め土】
6　10G6/1 緑灰色シルト質粘土層　【裏込め土】
7　10G6/1 緑灰色粗砂層　【基盤層】
8　【古代整地層２】

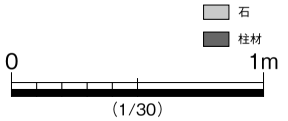


1　10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト層【柱抜き取り後の埋め戻し土】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 7.5YR5/6 明褐色砂ブロック多量に含む
2　N5/ 灰色粘土質シルト層　【柱抜き取り後の埋め戻し土】
　φ1.0 ～ 3.0 ㎝ 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト質粘土ブロック含む
3　2.5Y5/1 黄灰色シルト質砂層　【柱抜き取り後の埋め戻し土】

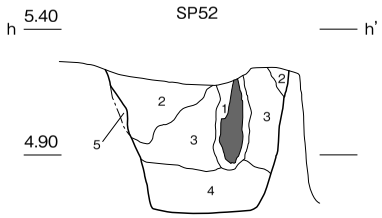


1　10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト層　【柱痕】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 2.5Y6/1 黄灰色シルトブロック・
　N4/ 灰色シルトブロック含む
2　10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト層　【裏込め土】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 2.5Y6/1 黄灰色シルトブロック多量に含む
3　N4/ 灰色シルト層　【裏込め土】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 10YR7/6 明黄褐色シルトブロック多量に含む
4　N4/ 灰色粘土質シルト層　【置き土】
　φ1.0 ～ 3.0 ㎝の 5GY7/1 明オリーブ灰色
　粘土質シルトブロック多量に含む

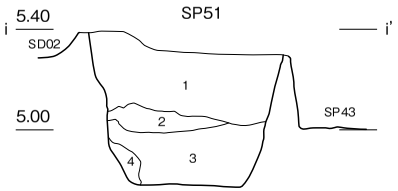




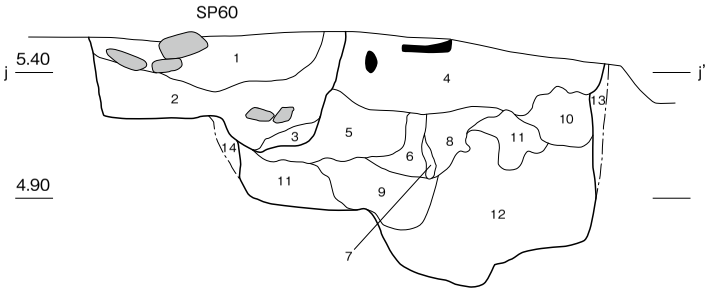
第 61 図　SB03 断面図 1



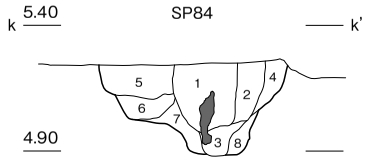
1　N3/ 暗灰色粘土層　【柱痕】
2　10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 2.0 ㎝の N4/ 灰色シルト・
　10YR6/6 明黄褐色シルトブロック多量に含む
3　5GY7/1 明オリーブ灰色シルト層　【裏込め土】
　φ1.0 ～ 3.0 ㎝の N4/ 灰色シルトブロック多量に含む
4　N3/ 暗灰色シルト質粘土層　【置き土】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 5GY7/1 明オリーブ灰色粘土質シルトブロック含む
5　10YR6/4 にぶい黄橙色粘土質シルト層　【基盤層】



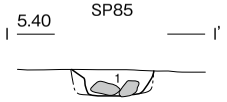
1　10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト層　【柱抜き取り後の埋め戻し土】
　φ1.0 ～ 3.0 ㎝の N4/ 灰色シルトブロック多量に含む
　10YR6/6 明黄褐色砂ブロック含む
2　2.5Y6/2 灰黄色シルト質砂層　【柱抜き取り後の埋め戻し土】
3　2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト層　【柱抜き取り後の埋め戻し土】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 10YR6/6 明黄褐色砂ブロック少量含む
4　2.5Y7/2 灰黄色砂層　【柱抜き取り後の埋め戻し土】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の N4/ 灰色シルトブロック少量含む



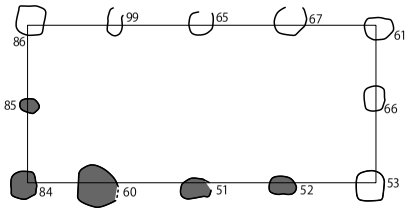
1　10YR6/2 灰黄褐色シルト質砂層　【SP60】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 10YR6/1 褐灰色シルトブロック含む
2　10YR6/1 褐灰色砂質シルト層　【SP60】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 7.5YR5/6 明褐色砂ブロック含む
3　2.5Y4/1 黄灰色シルト質粘土層　【SP60】
4　10YR5/1 褐灰色砂質シルト層　【SP48 抜き取り痕】
　φ0.5 ～ 2.0 ㎝の 7.5YR5/6 明褐色砂ブロック含む
5　10YR6/4 にぶい黄橙色粘土質シルト層　【SP48 抜き取り痕】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 10YR4/1 褐灰色シルト・
　10YR7/6 明黄褐色シルト質粘土ブロック多量に含む
6　N3/ 暗灰色粘土層　【SP48 抜き取り痕】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト質粘土・
　5GY7/1 明オリーブ灰色粘土ブロック少量含む
7　2.5GY7/1 明オリーブ灰色砂質シルト層　【SP48 抜き取り痕】
8　2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト層　【SP48 抜き取り痕】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 5Y6/2 灰オリーブ色シルトブロック含む
9　10YR7/6 明黄褐色砂質シルト層　【SP48 抜き取り痕】
　φ1.0 ～ 3.0 ㎝の N4/ 灰色シルト・
　5GY7/1 明オリーブ灰色粘土ブロック多量に含む
10　10YR6/6 明黄褐色砂質シルト層　【SP48 抜き取り痕】
11　10YR6/1 褐灰色砂質シルト層　【SP48 抜き取り痕】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の N4/ 灰色シルトブロック少量含む
12　N4/ 灰色シルト質粘土層　【置き土または裏込め土】
　φ1.0 ～ 3.0 ㎝の 10YR6/4 にぶい黄橙色・
　5GY7/1 明オリーブ灰色粘土ブロック含む
13　10YR5/6 黄褐色粘土質シルト層　【基盤層】
14　【基盤層】

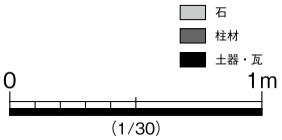


1　N4/ 灰色粘土質シルト層　【柱痕】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 2.5Y6/1 黄灰色シルトブロック含む
2　N4/ 灰色粘土質シルト層　【柱痕】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 10YR6/4 にぶい黄橙色シルトブロック少量含む
3　N5/ 灰色粘土層　【柱痕】
　φ0.5 ㎝の 10GY7/1 明緑灰色シルト質粘土ブロック少量含む
4　N4/ 灰色砂質シルト層　【裏込め土】
5　10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 2.5Y6/1 黄灰色シルトブロック含む
6　N3/ 暗灰色砂質シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 5GY7/1 明オリーブ灰色差質シルトブロック少量含む
7　5GY7/1 明オリーブ灰色粘土質シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 2.0 ㎝の N4/ 灰色粘土質シルト含む
8　10YR5/1 褐灰色粘土層　【裏込め土】

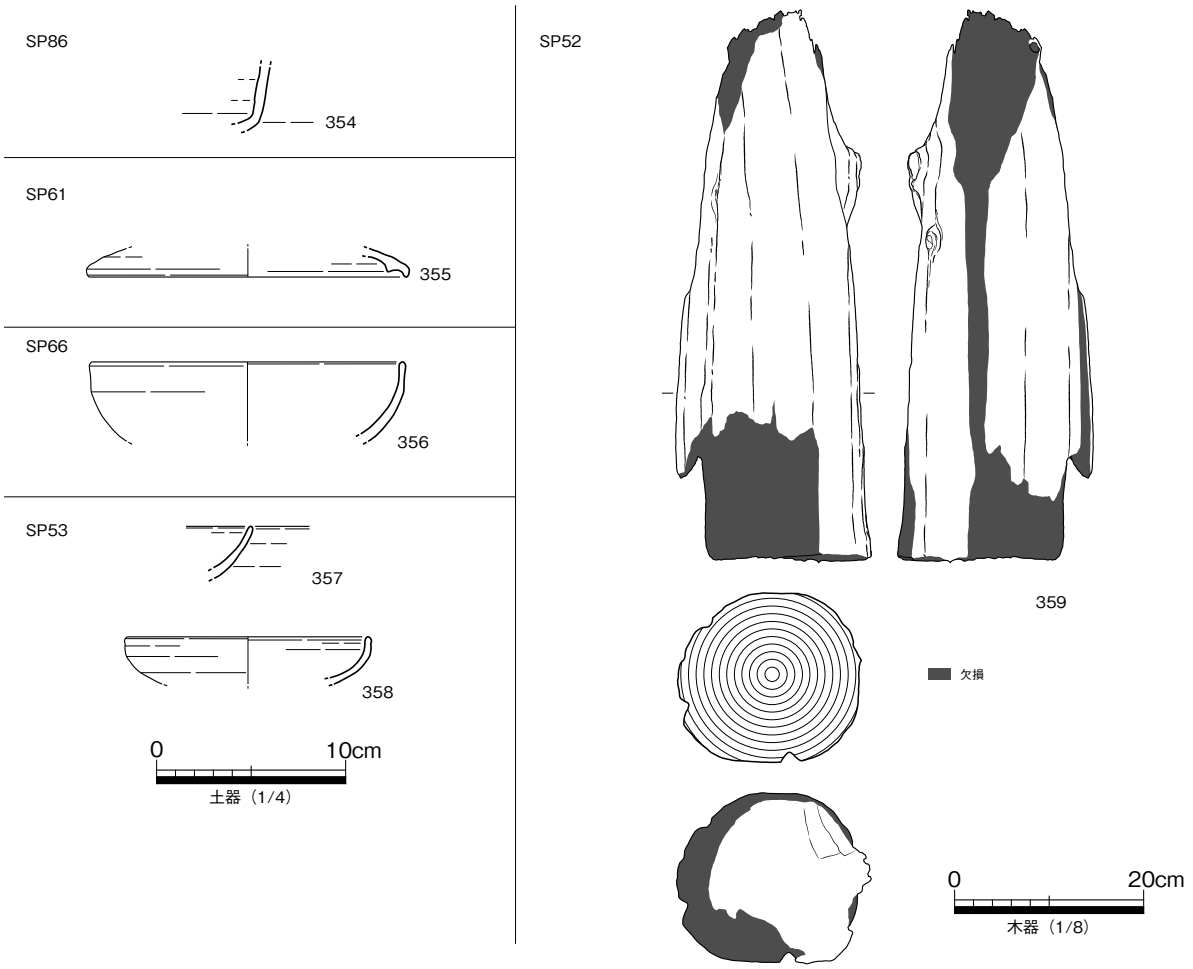


1　10YR5/1 褐灰色シルト層　【置き土】
　φ0.5 ㎝の 7.5YR5/6 明褐色シルトブロック含む





第 62 図　SB03 断面図 2



第 63 図　SB03 出土遺物実測図

SB03（調査時遺構名：SB03）（第 60 ～ 63 図）

3 区で検出した 4 間× 2 間の掘立柱建物で、長軸は東西に向く。建物方位は N83° E、桁行約 9.0m（30 尺）、梁間約 4.2m（14 尺）、桁行の柱間は約 2.25m（7.5 尺）、梁間の柱間は約 2.1m（7 尺）である。主軸方向を SB01・02 と概ね揃う。柱穴は隅丸方形または不整形で一辺 50 ～ 75cm程度、柱痕は直径 20 ～ 30cm程度である。SB02 で述べたとおり、複数の柱穴の先後関係から SB03 は SB02 に先行することが確実である。SB03 南辺の SP60 も、調査時には SB02 南西隅柱穴 SP48 に後出するとしたが、両柱穴の構築順序は逆転するとみたほうがいいだろう。SP99・61・52・84 には柱が残り、SP86・53 には柱痕が認められる。その他の柱穴は柱抜き取り後に埋め戻されたと考えられる。SP67 には抜き取り痕の直下に根石が残される。

遺物　**354** は SP86 から出土した。須恵器杯。底部と体部の境付近である。**355** は SP61 から出土した。須恵器蓋。内面にわずかに返りが付く。**356** は SP66 から出土した。土師器杯。小片。**357・358** は SP53 から出土した。**357** は須恵器杯、**358** は須恵器高杯である。**359** は SP52 の柱材。直径 20cm程度残り、木口を利用する。柱材の底部は平らに仕上げる。樹種同定の結果はヒノキであった。図化していないが、SP61・84・99 の柱の樹種同定の結果もヒノキである。

概ね 8 世紀前半代までの遺物が出土する。SA01・SB01・SB02 に比べて、柱穴からの出土遺物量は少なく、瓦は出土していない。

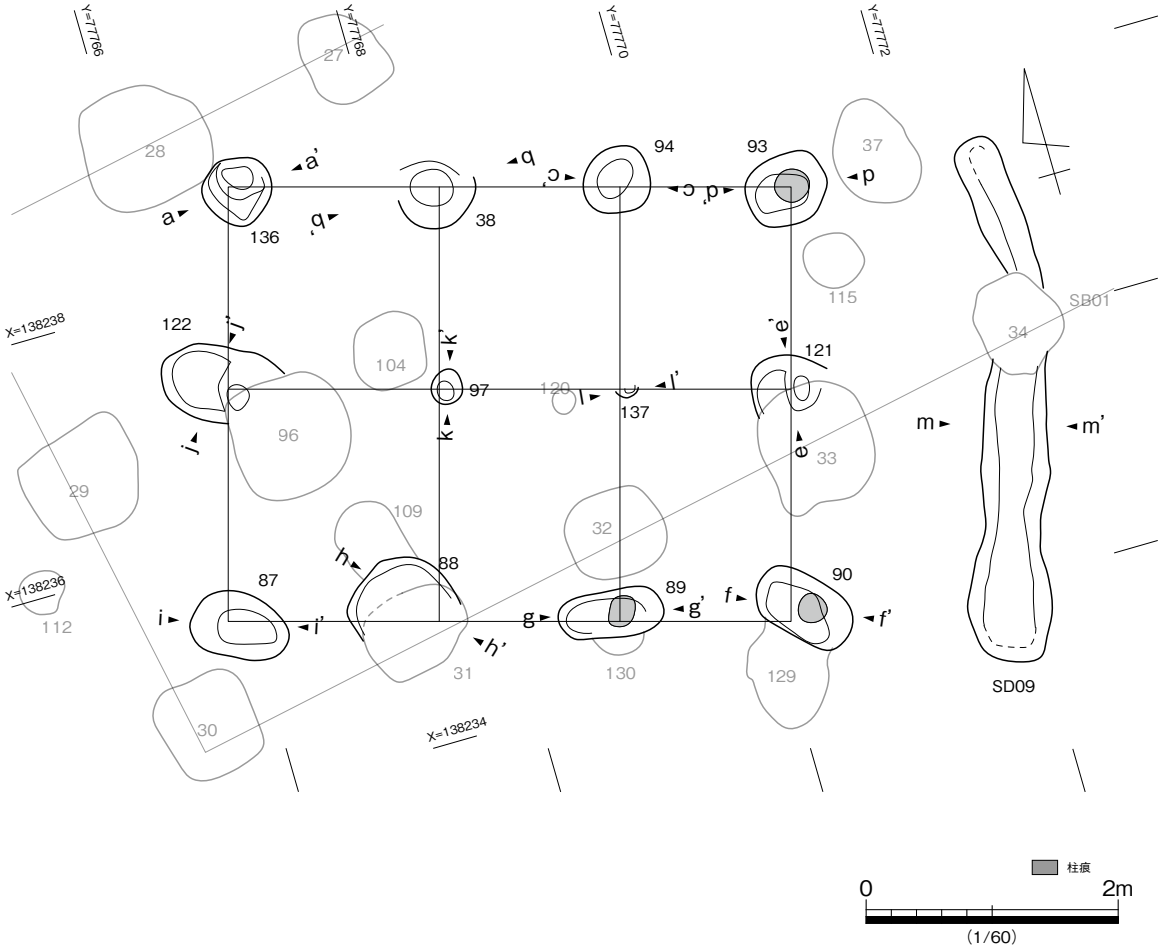
時期　古代整地層２を掘り込むことから８世紀前半代以降で、SB02 の柱穴に掘り込まれることからそれ以前と考えられる。

柱材の年代測定を実施した。その結果については、第４章第１節、第２節で報告する。

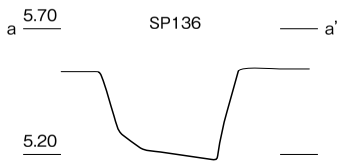
SB04・SD09（調査時遺構名：SB04・SD09）（第 64 ～ 66 図）

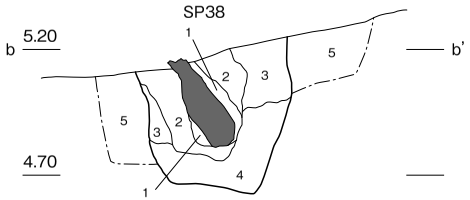
３区で検出した３間×２間の掘立柱建物で、建物方位は N74° W、桁行約 4.5m（15 尺）、梁間約 3.3m（11 尺）、桁行の柱間は約 1.5m（５尺）、梁間の柱間は約 1.65m（5.5 尺）である。側柱の柱穴は円形または楕円形で、直径 50 ～ 60㎝でやや小振りである。柱痕は直径 25 ～ 40㎝、SP97・137 の柱掘り方は概ね円形で直径 20 ～ 30㎝程度と小規模なため、束柱と考えられる。長軸方向は北西 - 南東を示し、白鳥廃寺跡の塔や西方建物、北方基壇、SB01 ～ 03・06 の主軸方向とは大きく異なる。SB04 の所在地点は北西丘陵裾付近で、SB04 長軸方向は周辺の等高線に直交する。長軸方向をほぼそろえる SB05 とともに、SB04 は白鳥廃寺跡の主軸方向ではなく、地形に合わせて築かれたとみられる。谷部寄りの東部の柱穴は、古代整地層２上面から掘り込まれる。南西辺の SP88 は、SB01 南辺の柱穴 SP31 に先行する。SP38・94・93・89 には柱が残り、SP90・97 には柱痕が確認される。いずれも認められない SP87・122 は柱が抜き取られたのだろう。

SD09 は SB04 の東側梁間柱穴列から約 1.8 m（６尺）東側に沿う位置で検出した溝である。溝の延

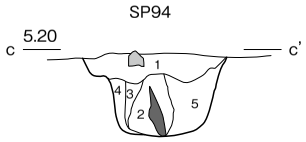


第 64 図　SB04 平面図

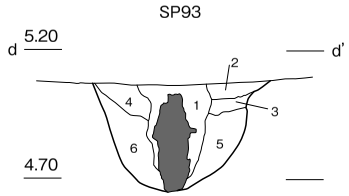




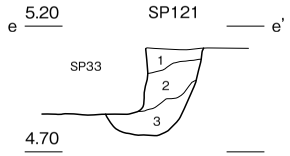
1　N3/ 暗灰色粘土層　【柱痕】
2　N4/ 灰色粘土質シルト層　【柱痕】
3　5Y5/1 灰色粘土質シルト層　【裏込め土】
φ1.0 ～ 2.0cm の 5Y5/2 灰オリーブ色シルトブロック含む
4　N5/ 灰色砂質シルト層　【置き土】
5　【基盤層】



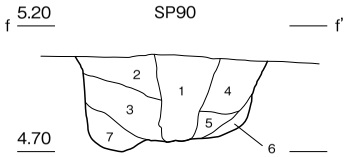
1　N5/ 灰色シルト層　【柱腐喰後の堆積層】
2　N4/ 灰色粘土質シルト層　【柱痕】
3　N3/ 暗灰色シルト質砂層　【柱痕】
4　5Y4/1 灰色シルト層　【裏込め土】
φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 7.5GY7/1 明緑灰色シルトブロック含む
5　N5/ 灰色シルト質砂層　【裏込め土】



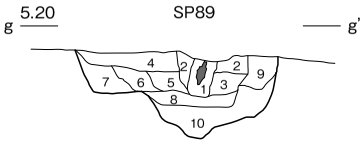
1　N4/ 灰色粘土質シルト層　【柱痕】
2　2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト層　【裏込め土】
3　N4/ 灰色シルト質砂層　【裏込め土】
4　2.5Y4.1 黄灰色砂質シルト層　【裏込め土】
φ0.5 ～ 1.0cm の 2.5Y7/1 灰黄色シルトブロック含む
5　N4/ 灰色粘土質シルト層　【裏込め土】
φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルトブロック含む
6　N4/ 灰色シルト質砂層　【裏込め土】



1　10YR4/1 褐灰色シルト層　【柱抜き取り後の堆積層】
φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 7.5YR5/6 明褐色砂ブロック少量含む
2　10YR4/1 褐灰色シルト層　【柱抜き取り後の堆積層】
φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 7.5YR5/6 明褐色砂ブロック・N4/ 灰色シルトブロック少量含む
3　N4/ 灰色粘土質シルト層　【置き土】

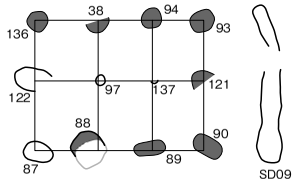


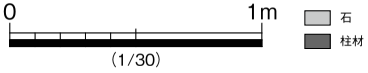
1　N4/ 灰色粘土質シルト層　【柱痕】
2　2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト層　【裏込め土】
φ0.5 ㎝の 7.5YR5/6 明褐色砂ブロック少量含む
3　2.5Y5/1 黄灰色シルト質砂層　【裏込め土】
φ1.0 ～ 5.0 ㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルトブロック含む
4　2.5Y5/1 黄灰色シルト質砂層　【裏込め土】
φ1.0 ～ 3.0 ㎝の 2.5Y6/3 にぶい黄色シルトブロック含む
5　5Y5/1 灰色砂質シルト層　【裏込め土】
φ1.0 ～ 3.0 ㎝の N4/ 灰色シルトブロック少量含む
6　5Y5/1 灰色シルト質砂層　【裏込め土】
φ1.0 ～ 3.0 ㎝の 10YR6/6 明黄褐色シルト質砂ブロック多量に含む
7　N3/ 暗灰色粘土層　【置き土】



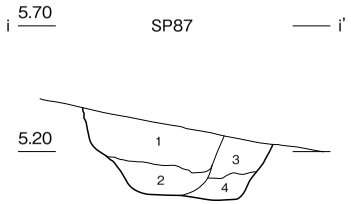
1　N3/ 暗灰色粘土層　【柱痕】
2　N5/ 灰色砂質シルト層　【柱痕】
3　N4/ 灰色粘土質シルト層　【柱痕】
粗砂粒含む
4　2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト層　【裏込め土】
粗砂粒含む
5　N4/ 灰色砂質シルト層　【裏込め土】
粗砂粒含む
6　N3/ 暗灰色砂質シルト層　【裏込め土】
粗砂粒含む
7　2.5Y5/1 黄灰色シルト質砂層　【裏込め土】
粗砂粒含む
8　N4/ 灰色シルト質粘土層　【裏込め土】
9　N5/ 灰色シルト層　【裏込め土】
φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 5GY7/1 明オリーブ灰色シルトブロック少量含む
10　5GY7/1 明オリーブ灰色シルト質粘土層　【置き土】
φ0.5 ㎝の N4/ 灰色シルトブロック含む

1　2.5Y7/1 灰白色シルト層　【SP88】
φ0.5 ～ 2.0 ㎝の N4/ 灰色シルトブロック少量含む

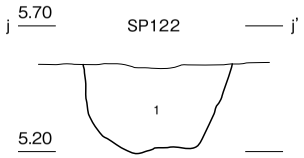




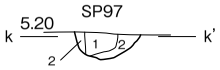
第 65 図　SB04 断面図 1



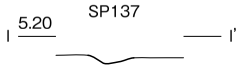
1　10YR5/1 褐灰色砂質シルト層
　　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 7.5YR5/4 にぶい褐色砂ブロック多量に含む
2　5Y5/1 灰色シルト層
3　10YR5/2 灰黄褐色シルト層　【裏込め土】
　　φ0.5 ～ 2.0 ㎝の 7.5YR5/4 にぶい褐色砂ブロック多量に含む
4　N4/ 灰色粘土質シルト層　【裏込め土】

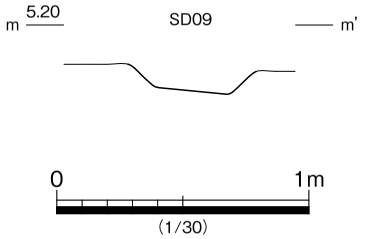


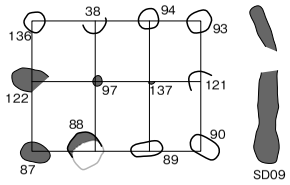
1　10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト層　【柱抜き取り後の堆積層？】
　　φ0.5 ～ 2.0 ㎝の N5/ 灰色シルトブロック含む

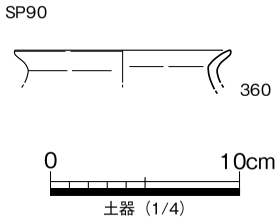


1　N4/ 灰灰色粘土質シルト層　【柱痕】
2　2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト層　【裏込め土】









第 66 図　SB04 断面図 2

長は約 4.2 ｍで、幅 48㎝、深さ 10㎝程度である。SB04 よりやや低い谷寄りに位置する。SB01 を構成する SP34 に切り込まれ、SB01 より古い。掘立柱建物群が立地する谷筋は東へ向けて傾斜しており、SB04 との位置関係から、排水に関わる溝と考えられる。

遺物　360 は SP90 から出土した。弥生土器甕。摩滅が著しい。混入と考えられる。図化していないが、樹種同定の結果、SP93 から出土した柱はマツ属複維管束亜属、SP38・94 の柱の樹種はヒノキである。遺物の出土量は少なく、瓦は出土しなかった。

時期　SB04 は古代整地層２から掘り込まれるため、8 世紀前葉以降である。遺構の先後関係から、SB01 より古く、遺構の主軸方向から SB05 と同時期と考えられる。

柱材の年代測定を実施した。その結果については、第 4 章第 1 節・第 2 節で報告する。

SB05・SD08（調査時遺構名：SB05・SD08）（第 67 ～ 69 図）

3 区で検出した 3 間 × 2 間の掘立柱建物で、建物方位は N72° W、桁行約 4.95m（16.5 尺）、梁間約 3.9m（13 尺）、桁行の柱間は 1.65m（5.5 尺）、梁間の柱間は 1.95m（6.5 尺）である。SB04 と同様の構造であれば、SP69・83 は束柱と推測される。柱穴は隅丸方形、不整円形で、長軸 60 ～ 75㎝程度である。南西辺の SP73・59 は、SB03 を構成する SP44・43 に先行する。長軸方向は北西 - 南東を示し、白鳥廃寺跡の塔や西方建物、北方基壇、SB01 ～ 03・06 の主軸方向とは大きく異なる。類似する主軸方向の SB04 と同様、SB05 は地形に応じて、長軸方向を等高線に直交させて配置されたと考えられる。SP54 には柱が残り、SP55・68・77・59・71・83 には柱痕が確認される。SP54 の柱直下、SP59・73・82 の柱痕直下には根石が置かれていた。SP70 の柱は抜き取られている。柱穴は古代整地層 2 上面から掘り込まれる。

SB05 からやや東の低い地点には、SB05 の東南辺にほぼ平行する溝 SD08 が設けられる。SB05 の東南辺梁間柱穴列から 4.05 ｍ（13.5 尺）程度東南側で検出した溝である。検出長は約 3 ｍ、幅 45㎝、深さ 18㎝を測る。SB02 を構成する SP13 に切り込まれ、SB02 より古い。SD08 周辺の古代整地層 2 上面に炭化物が分布していた。SD08 は SD09 と同様建物の排水に関わる溝と考えられる。

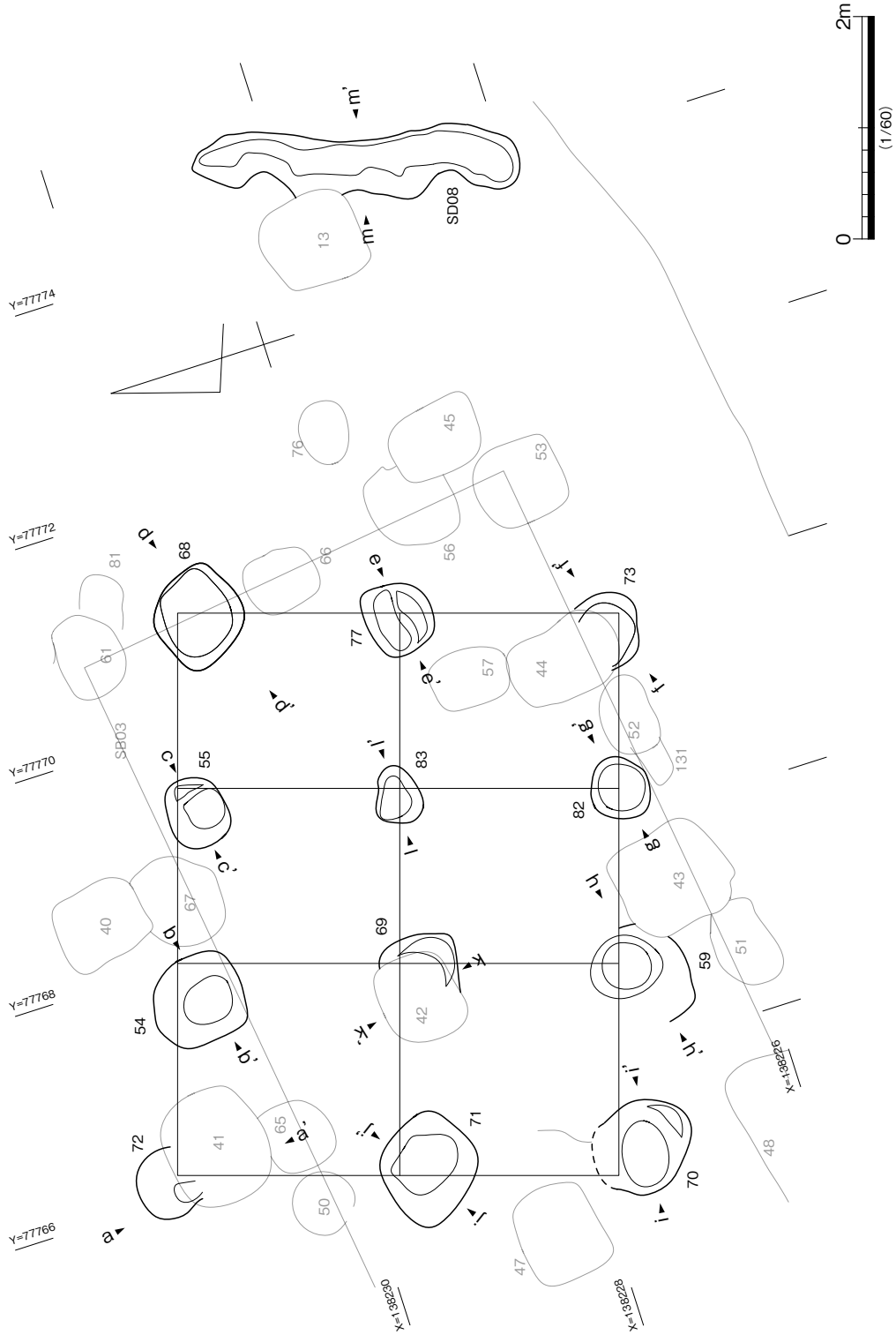
遺物　361 は SP73 から出土した。土師器高杯脚部。ピット埋土中からはほとんど遺物は出土せず、瓦も出土しなかった。

時期　古代整地層 2 上面の遺構であるため、8 世紀前葉を上限とする。遺構の前後関係から SB02 より古く、主軸方向から SB04 と同時期と考えられる。

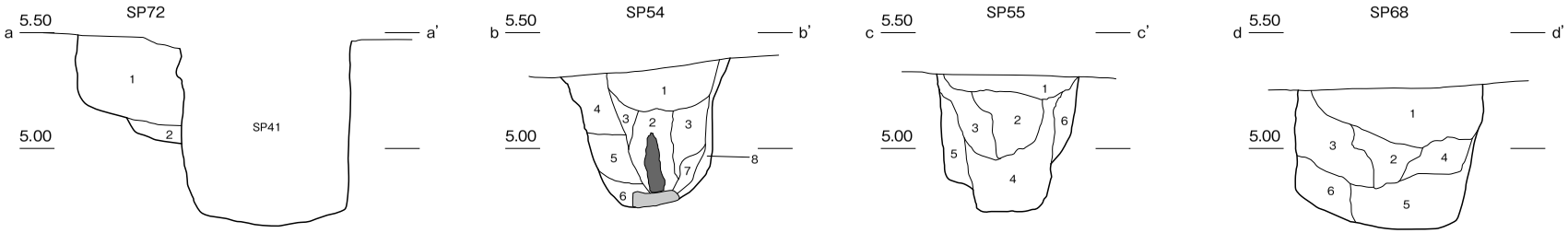
SB06（調査時遺構名：SB06）（第 70 図）

3 区南端部で検出した 3 基の柱穴列で、3.6m(12 尺）分を検出した。建物方位は N76° E、柱間は約 1.8m（6 尺）である。SP126 の東では柱穴を確認できなかったため、柵ではなく SP126 を北東隅とする建物と判断した。SP124 は古代整地層 2 に覆われており、SB06 の構築時期は、古代整地層 2 上面の遺構である SB01 ～ 05、SA01 より古い。古代整地層 2 の下位にある古代整地層 1 と SB06 との直接の先後関係は不明であるが、4-4’断面では、SP124 の 5.5m 西で古代整地層 1 の上面から掘り込まれる柱穴が存在するため、SB06 も古代整地層 1 形成後の構築と考えたい。

遺物　362・363 は SP124 から出土した。ともに須恵器杯。**364・365** は SP125 から出土した。**364** は須恵器杯小片。**365** は土師器杯。内面には暗文がわずかに残る。ピットからは 8 世紀前半代までの遺物が出土しているが遺物量は少ない。瓦の出土はなかった。



第 67 図　SB05 平面図

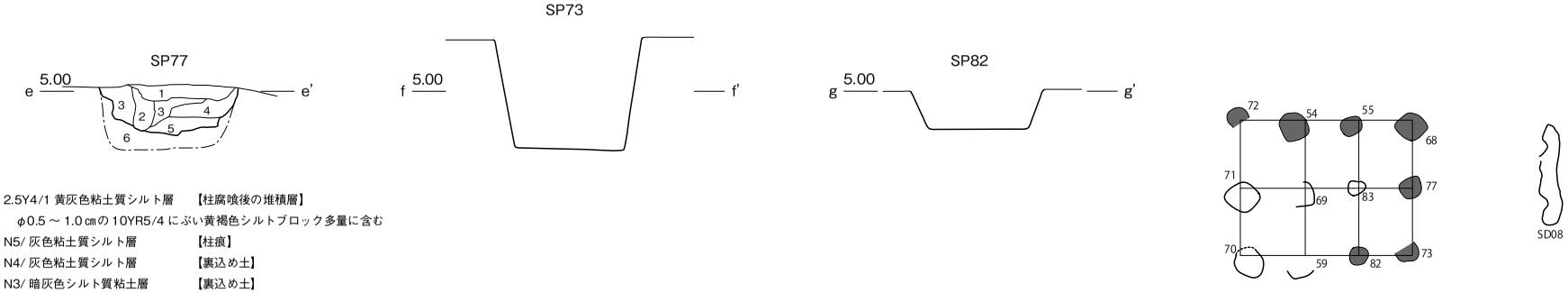


1　10YR5/1 1 褐灰色砂質シルト層　【柱抜き取り後の堆積層？】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の N5/ 灰色シルトブロック含む
2　N5/ 灰色粘土質シルト層　【置き土？】

1　10YR4/1 褐灰色砂質シルト層　【柱腐喰後の堆積層】
　φ0.5 ㎝の 2.5Y7/1 灰白色シルトブロック含む
2　N4/ 灰色粘土層　【柱痕】
3　N4/ 灰色粘土質シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 2.5Y7/1 灰白色シルトブロック含む
4　N5/ 灰色砂質シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 2.0 ㎝の 10YR6/6 明黄褐色砂ブロック少量含む
5　N3/ 暗灰色粘土質シルト層　【裏込め土】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 5GY7/1 明オリーブ灰色シルトブロック含む
6　N3/ 暗灰色シルト質砂層　【置き土】
7　N3/ 暗灰色粘土質シルト層　【裏込め土】
8　10YR6/2 灰黄褐色シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の N4/ 灰色シルトブロック含む

1　10YR6/2 灰黄褐色シルト質砂層　【柱材腐喰後の堆積層】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 10YR5/6 黄褐色砂ブロック含む
2　5BG7/1 明青灰色シルト質粘土層　【柱痕】
3　10YR5/2 灰黄褐色粘土質シルト層　【裏込め土】
4　N4/ 灰色シルト層　【置き土】
5　N5/ 灰色粘土質シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 5BG7/1 明青灰色シルト質粘土ブロック含む
6　10YR6/4 にぶい黄橙色砂質シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の N4/ 灰色シルトブロック含む

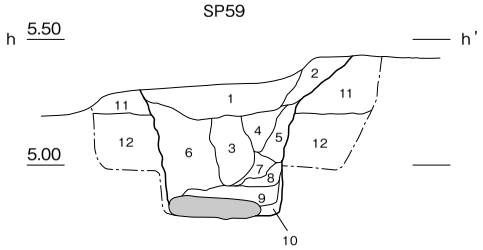
1　10YR6/1 褐灰色砂質シルト層　【柱腐喰後の堆積層】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 10YR5/6 黄褐色砂ブロック少量含む
2　N5/ 灰色シルト質粘土層　【柱痕】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 10YR6/4 にぶい黄橙色砂質シルトブロック少量含む
3　10YR6/4 にぶい黄橙色粘土質シルト層　【裏込め土】
　φ1.0 ～ 3.0 ㎝の N3/ 暗灰色粘土・N4/ 灰色シルト質粘土ブロック多量に含む
4　N3/ 暗灰色粘土層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の N5/ 灰色砂ブロック少量含む
5　N4/ 灰色粘土層　【置き土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の N5/ 灰色砂ブロック少量含む
6　5Y5/1 灰色砂層　【置き土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の N3/ 暗灰色粘土ブロック少量含む



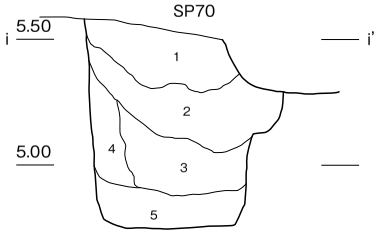
1　2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト層　【柱腐喰後の堆積層】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 10YR5/4 にぶい黄褐色シルトブロック多量に含む
2　N5/ 灰色粘土質シルト層　【柱痕】
3　N4/ 灰色粘土質シルト層　【裏込め土】
4　N3/ 暗灰色シルト質粘土層　【裏込め土】
　粗砂粒含む
5　N5/ 灰色粘土質シルト層　【置き土？裏込め土？】
6　2.5Y6/2 灰黄色砂層　【基盤層】

0　1m
（1/30）
石
柱材

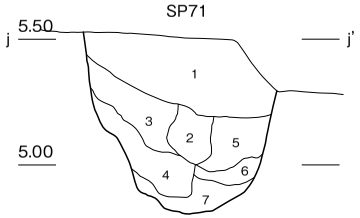
第 68 図　SB05 断面図 1



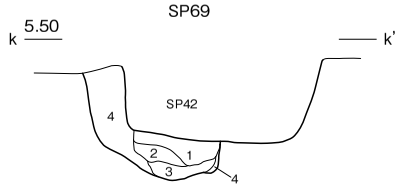
1　10YR5/1 褐灰色シルト質砂層　【柱腐喰後の堆積層】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 7.5YR5/6 明褐色砂ブロック含む
2　10YR6/1 褐灰色シルト層　【柱腐喰後の堆積層】
3　2.5Y6/1 黄灰色粘土質シルト層　【柱痕】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 7.5YR6/6 橙色シルトブロック少量含む
4　10YR6/1 褐灰色シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 10YR5/6 黄褐色砂ブロック含む
5　10YR4/1 褐灰色砂質シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 2.5Y7/1 灰白色シルトブロック含む
6　10YR4/1 褐灰色砂質シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 2.0 ㎝の 7.5YR5/6 明褐色砂ブロック多量に含む
7　N3/ 暗灰色シルト層　【裏込め土】
8　10YR6/4 にぶい黄橙色砂質シルト層【裏込め土】
　φ0.5 ～ 2.0 ㎝の N5/ 灰色シルトブロック含む
9　N4/ 灰色シルト層　【置き土】
10　10YR6/4 にぶい黄橙色シルト層　【置き土】
11　基盤層　【基盤層】
12　基盤層　【基盤層】



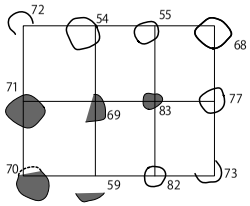
1　10YR4/1 褐灰色砂質シルト層　【柱抜き取り後の埋め戻し土】
　φ0.5 ～ 2.0 ㎝の 7.5YR5/4 にぶい褐色砂ブロック含む
2　2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト層　【柱抜き取り後の埋め戻し土】
　φ1.0 ～ 3.0 ㎝の 7.5YR5/4 にぶい褐色砂ブロック含む
3　N4/ 灰色粘土質シルト層　【柱抜き取り後の埋め戻し土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 10YR6/2 灰黄褐色シルトブロック含む
4　10YR5/1 褐灰色シルト質砂層　【柱抜き取り後の埋め戻し土】
5　N4/ 灰色粘土質シルト層　【置き土？】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 10GY6/1 緑灰色シルトブロック含む

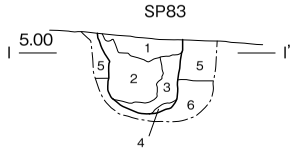


1　10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト層　【柱腐喰後の堆積土】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 7.5YR5/4 にぶい褐色砂ブロック含む
2　10YR6/1 褐灰色シルト質砂層　【柱痕】
3　2.5Y6/1 黄灰色粘土質シルト層　【裏込め土】
4　N4/ 灰色砂質シルト層　【置き土】
5　10YR6/1 褐灰色粗砂層　【裏込め土】
6　2.5Y4/1 黄灰色シルト質砂層　【置き土】
7　N4/ 灰色粘土質シルト層　【置き土】
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 5GY7/1 明オリーブ灰色シルト質粘土ブロック含む

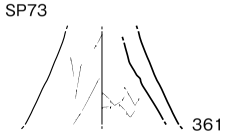


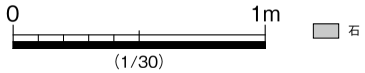
1　N5/ 灰色シルト質粘土層
　φ1.0 ～ 2.0 ㎝の 10YR5/6 黄褐色粘土質シルトブロック含む
2　N4/ 灰色シルト質粘土層
3　N3/ 暗灰色粘土層
4　2.5Y5/1 黄灰色シルト質砂層【裏込め土】

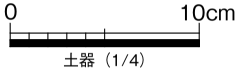




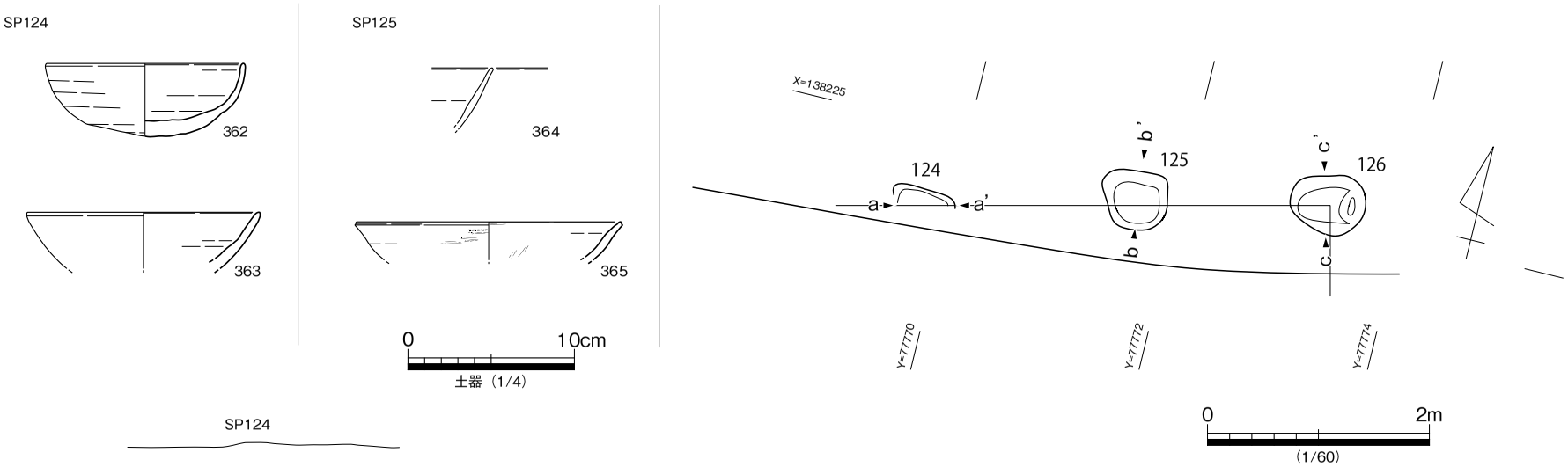
1　2.5Y5/1 黄灰色シルト層　【柱腐喰後の堆積層】
　φ0.5 ～ 2.0 ㎝の 10YR6/4 にぶい黄橙色シルトブロック多量に含む
2　N4/ 灰色粘土質シルト層　【柱痕】
3　N4/ 灰色シルト質粘土層　【裏込め土】
　粗砂粒含む
4　N5/ 灰色シルト質粘土層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 2.5GY7/1 明オリーブ灰色粘土ブロック含む
5　10YR6/4 にぶい黄橙色粘土質シルト層　【基盤層】
6　4GY7/1 明オリーブ灰色シルト層
※1 ～ 4 層が柱痕の可能性も

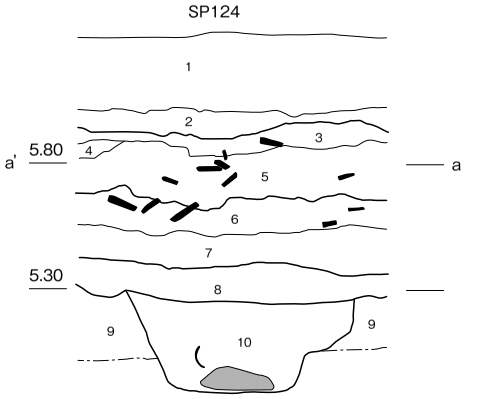


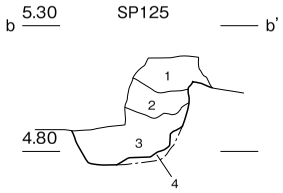


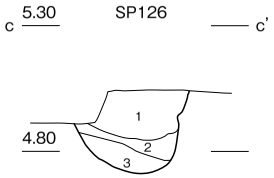


第 69 図　SB05 断面図 2









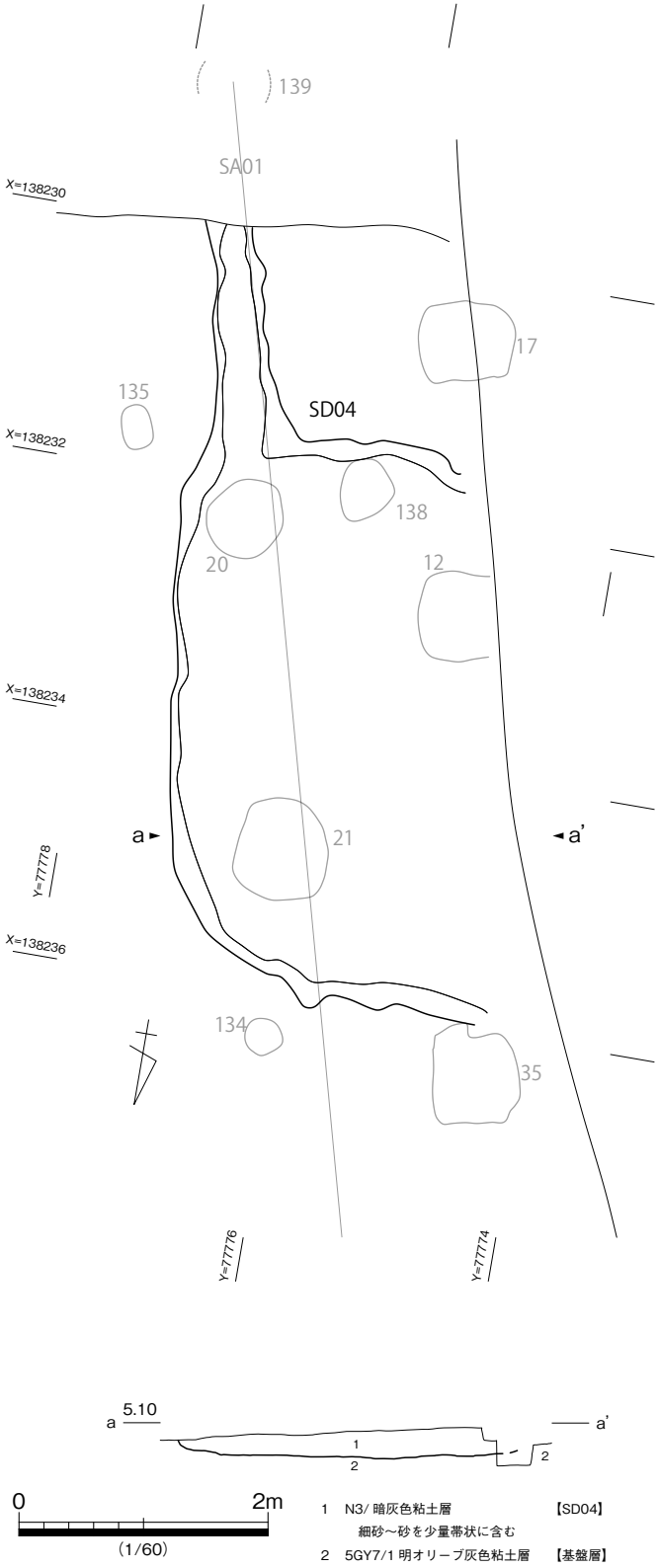
1　【耕作土】
2　【鋤床】
3　7.5YR6/4 にぶい橙色シルト層　【旧鋤床】
4　2.5Y8/4 黄灰色粘土質シルト層　【近世整地層】
5　10YR6/1 褐灰 1 色シルト質砂層　【近世整地層】
　φ1.0 ～ 3.0cm の N6/ 灰色粘土・
　φ0.5 ～ 1.0cm の 10YR7/4 にぶい黄橙色シルトブロック多量に含む
6　2.5Y6/1 黄灰色シルト質粘土層　【中世～近世堆積層】
7　2.5Y7/2 灰黄色～ 2.5Y7/3 浅黄色シルト質砂層　【中世～近世堆積層】
8　10YR4/1 褐灰色砂質シルト層　【古代整地層２】
　φ0.5 ～ 1.0cm の 2.5Y6/2 灰黄色シルト (基盤層) ブロック少量含む
9　2.5Y6/2 灰黄色粘土～ 10YR7/4 にぶい黄橙色シルト層　【基盤層】
10　N4/ 灰色粘土層

1　10YR4/1 褐灰色シルト質粘土層　【柱抜き取り後の堆積層？】
　φ0.5 ～ 1.0cm の 10YR5/6 黄褐色粘土ブロック含む
2　N4/ 灰色粘土層　【柱抜き取り後の堆積層？】
　φ1.0 ～ 2.0cm の 5GY7/1 明オリーブ灰色粘土ブロック含む
3　N3/ 暗灰色粘土層　【柱抜き取り後の堆積層？】
4　5GY7/1 明オリーブ灰色粘土層　【基盤層】

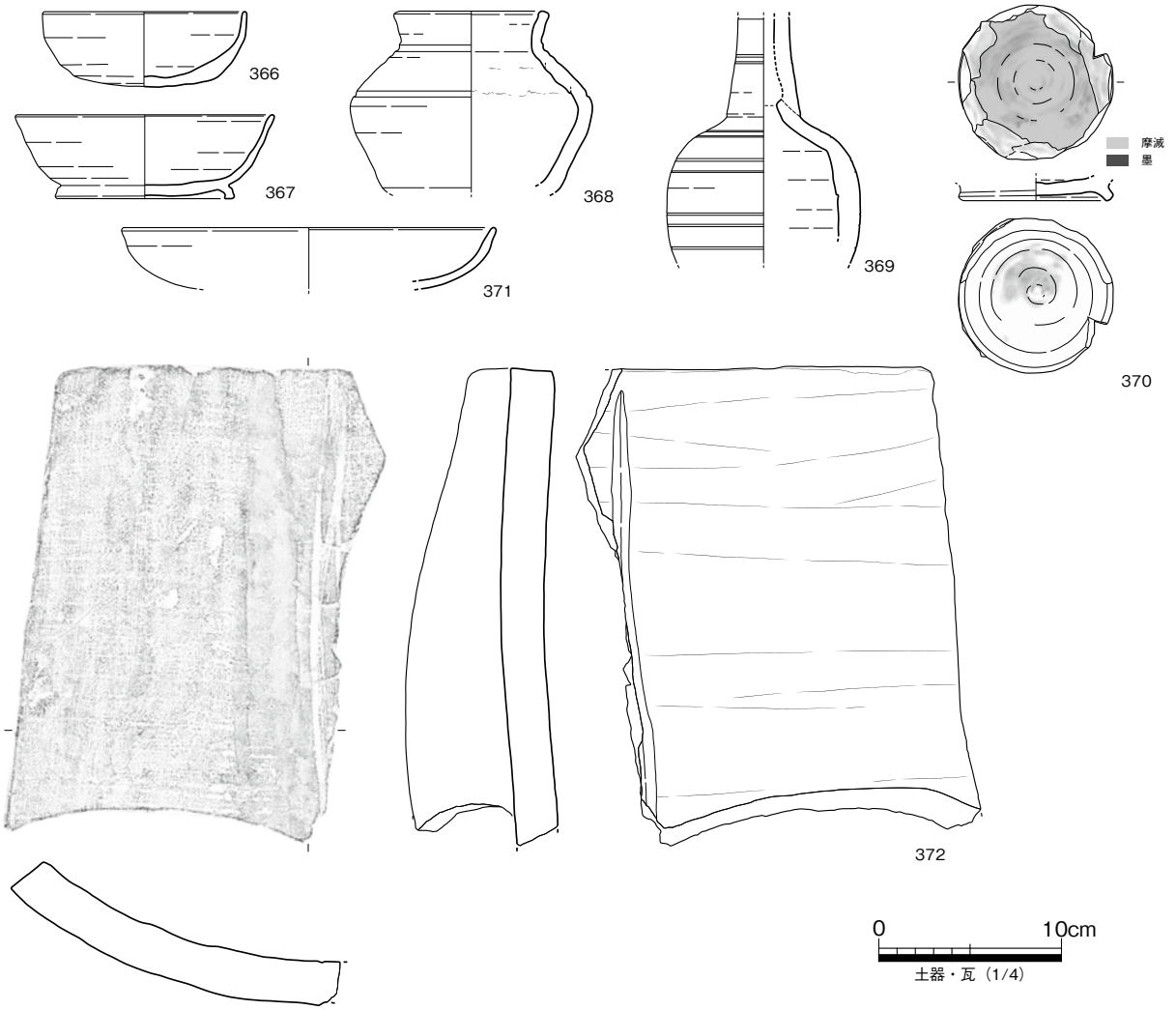
1　N4/ 灰色粘土層　【柱抜き取り後の堆積層？】
　φ1.0 ～ 2.0cm の 5GY7/1 明オリーブ灰色粘土・10YR5/6 黄褐色粘土ブロック含む
2　N4/ 灰色粘土層　【柱抜き取り後の堆積層？】
3　5GY7/1 明オリーブ灰色粘土層　【柱抜き取り後の堆積層？】
　φ1.0 ～ 2.0cm の N4/ 灰色粘土ブロック少量含む

0　1m
(1/30)
石
土器・瓦

第 70 図　SB06 平断面図・出土遺物実測図



第 71 図　SD04 平断面図



第 72 図　SD04 出土遺物実測図

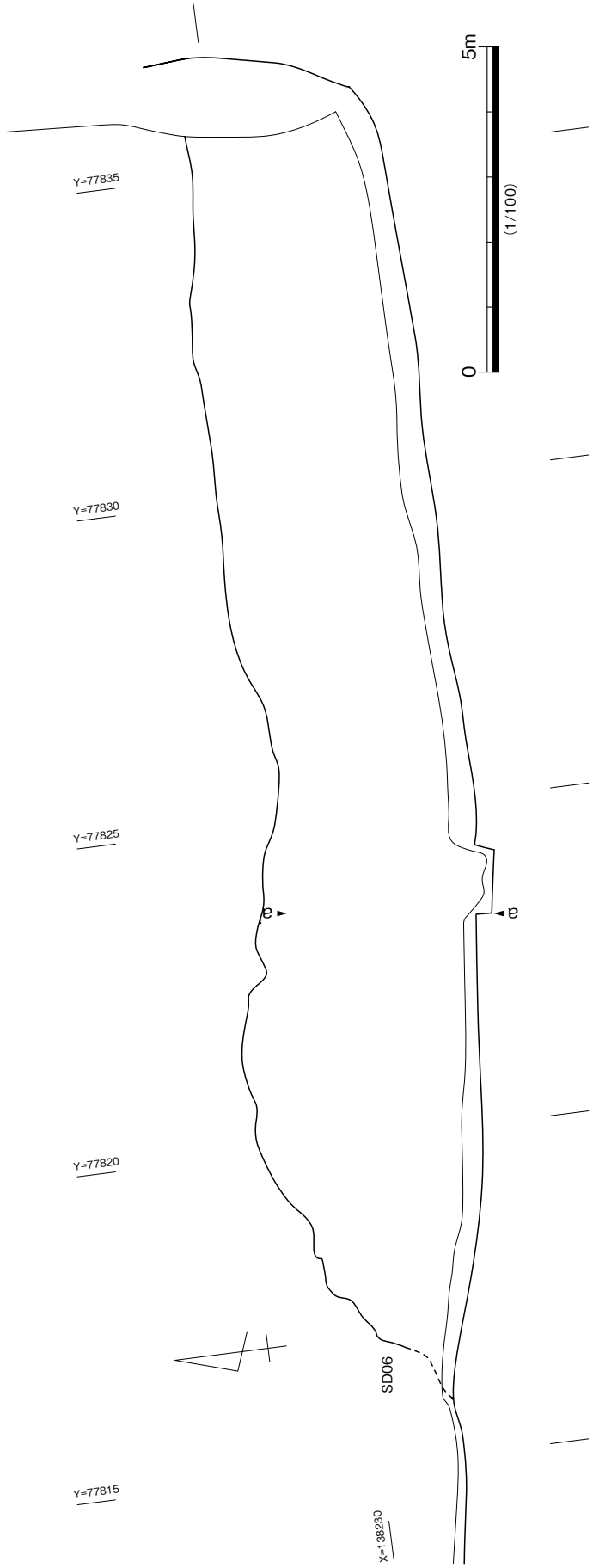
時期　古代整地層２形成以前の遺構であるため、下限は８世紀前葉となる。上限は白鳥廃寺創建時期の７世紀末～８世紀初頭だろう。

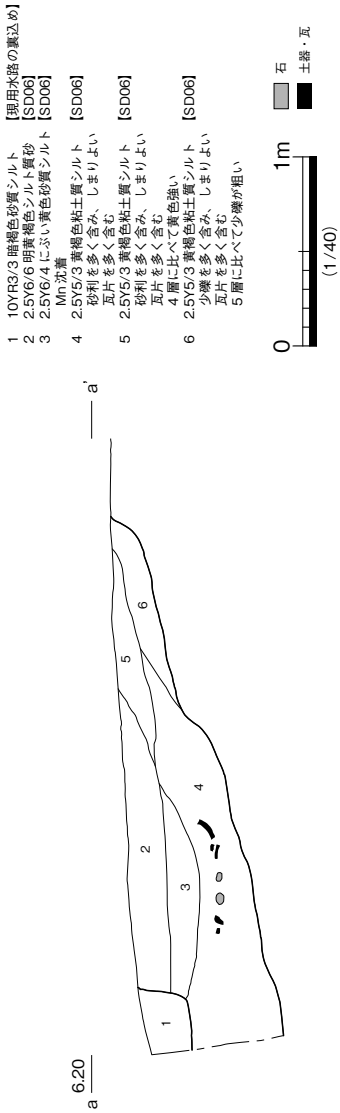
(3) 溝

SD04（調査時遺構名：SD04）（第 71・72 図）

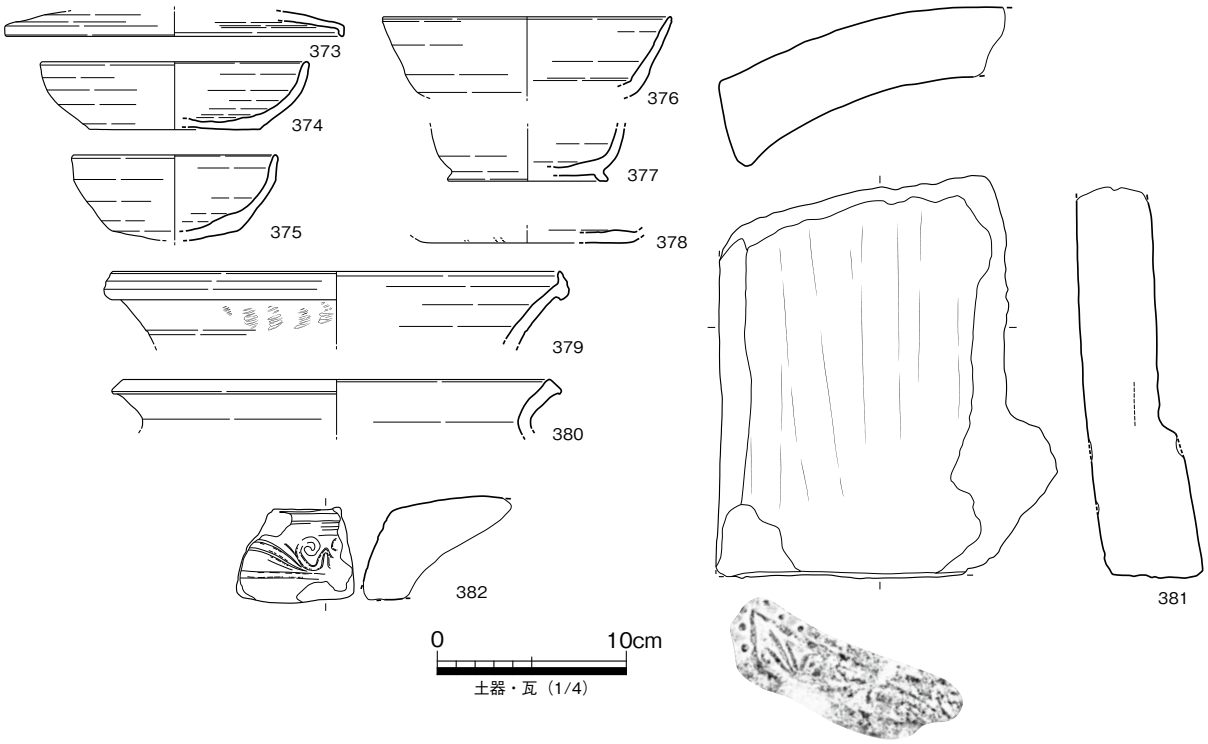
２区南部で、基盤層が窪み、古代堆積層が堆積していた個所を SD04 として調査した。南端付近では幅 40cm程度、深さ 13cm程度であるが、北側では幅 2.6m 以上、長さ 4.5m、深さ 20cm程度の楕円形状の窪みとなる。SD04 の位置は、後出する柵 SA01 を構成する SP21・20・139 にほぼ沿っている。SA01 は古代整地層２形成以後の白鳥廃寺跡伽藍域の東限にあたる遺構と考えられる。時期をさかのぼって SA01 とほぼ同位置にある SD04 は、古代堆積層形成以前（白鳥廃寺跡創建期）の寺域東限を示す溝の可能性がある。

遺物　**366 ～ 370** は須恵器。**366** は杯。**367** は高台付杯。**368** は壺。頸部と体部に１条ずつ沈線が巡る。**369** は水瓶形の壺。２条１組と考えられる沈線が頸部に１組、体部に４組認められる。金属器の写しで仏具に関わる壺と考えられる。**370** は転用硯。壺の体部を打ち欠き、底部内面を硯として利用する。





第 73 図　SD06 平断面図



第 74 図　SD06 出土遺物実測図

外面にもわずかに墨痕が残る。**367・368・370** は古代堆積層の遺物と接合関係にある。**371** は土師器皿。**372** は平瓦。凹面に摸骨痕が残る。凸面の調整痕をきれいにナデ消す。平瓦が縦方向に割れている付近で凹・凸面ともに割れに沿ってヘラ描きを施しており、意図的に割って熨斗瓦等の道具瓦として使用した可能性もある。

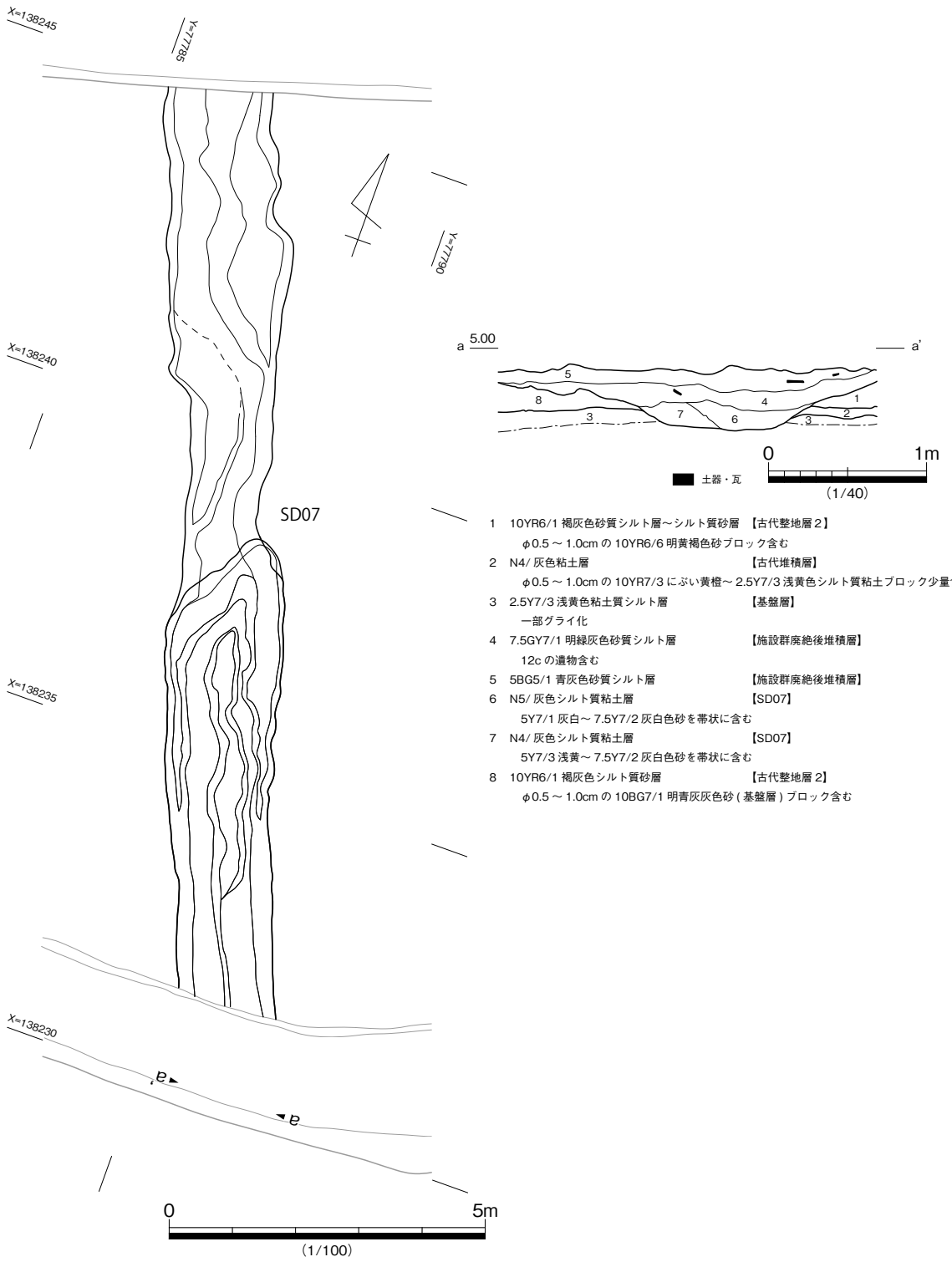
時期　8 世紀前葉の古代堆積層以前に形成されているため、下限は 8 世紀前葉である。塔基壇出土須恵器から白鳥廃寺跡の創建は 7 世紀末～ 8 世初頭と考えられるため、SD04 の上限も 7 世紀末となる。

SD06（調査時遺構名：SD06）（第 73・74 図）

1 区南端の北東丘陵部先端部にカットして形成された遺構を溝として調査した。SD06 が丘陵先端部のカットのみであれば、この南側になんらかの施設が設置された可能性が考えられる。調査地内で確認されなかった SD06 の南側の立ち上がりが調査地外の南にまで広がるのであれば、東西方向の大きな溝となる。東の湊川に向かって排水路として機能した可能性もあるが、SD06 の底のレベルは西側と東側ではそれほど変化はない。遺構内に堆積した層は、基本的には丘陵上位からの流土とみられるが、古代の遺物が一定量認められる。このため、今回の調査では検出されなかったが、丘陵上に古代の遺構の存在を考えておく必要がある（流出している可能性もある）。遺物はそれほど摩滅しておらず、近くから流出したものであろう。

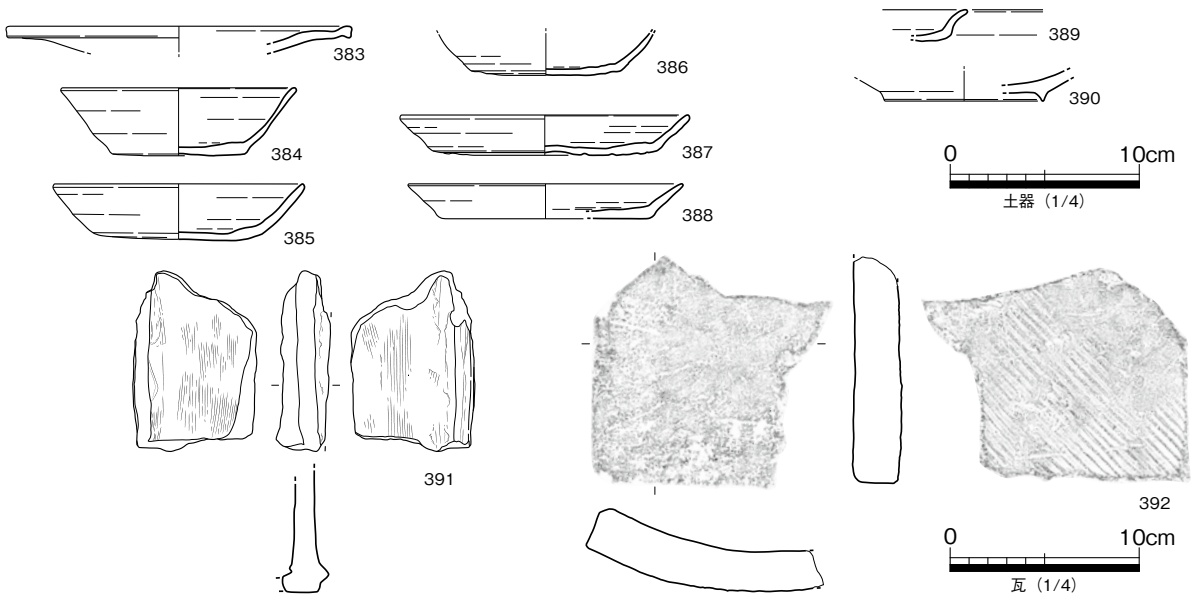
遺物　**373** ～ **380** は須恵器。**373** は蓋。**374** ～ **376** は杯。**377** は高台付杯。**378** は皿。内外面に火ダスキが認められる。**379・380** は甕。**379** は頸部外面に波状文が残る。**381・382** は軒平瓦。ともに SR203A 型式。**381** は段顎を呈する。摩滅のため調整は不明である。**382** は瓦当小片。出土遺物は 8 世紀前半以降で、**378** は 9 世紀代以降と考えられる。

時期　谷部の整地や施設群を整備する 8 世紀前葉以降と考えられる。



1　10YR6/1 褐灰色砂質シルト層～シルト質砂層　【古代整地層２】
　φ0.5 ～ 1.0cm の 10YR6/6 明黄褐色砂ブロック含む
2　N4/ 灰色粘土層　【古代堆積層】
　φ0.5 ～ 1.0cm の 10YR7/3 にぶい黄橙～ 2.5Y7/3 浅黄色シルト質粘土ブロック少量含む
3　2.5Y7/3 浅黄色粘土質シルト層　【基盤層】
　一部グライ化
4　7.5GY7/1 明緑灰色砂質シルト層　【施設群廃絶後堆積層】
　12c の遺物含む
5　5BG5/1 青灰色砂質シルト層　【施設群廃絶後堆積層】
6　N5/ 灰色シルト質粘土層　【SD07】
　5Y7/1 灰白～ 7.5Y7/2 灰白色砂を帯状に含む
7　N4/ 灰色シルト質粘土層　【SD07】
　5Y7/3 浅黄～ 7.5Y7/2 灰白色砂を帯状に含む
8　10YR6/1 褐灰色シルト質砂層　【古代整地層 2】
　φ0.5 ～ 1.0cm の 10BG7/1 明青灰灰色砂 (基盤層) ブロック含む

第 75 図　SD07 平断面図



第 76 図　SD07 出土遺物実測図

SD07（調査時遺構名：SD07)（第 75・76 図）

2 区谷最深部に等高線に直交して掘削された溝で、掘り込み面は古代整地層 2 上面である。2 区北半部付近を北端とし、2 区南端部から調査地外に伸びる。主軸方向は伽藍域東限を示す柵 SA01 に概ね合致する。SD07 は、古代整地層 2 による谷部の整地、および SB01 ～ 05 等の施設群の設置に際して、上流および伽藍域からの流水を集めて排水する機能を担っていたと推測される。最終的には、古代整地層 2 直上に堆積する施設群廃絶後堆積層によって埋没する。

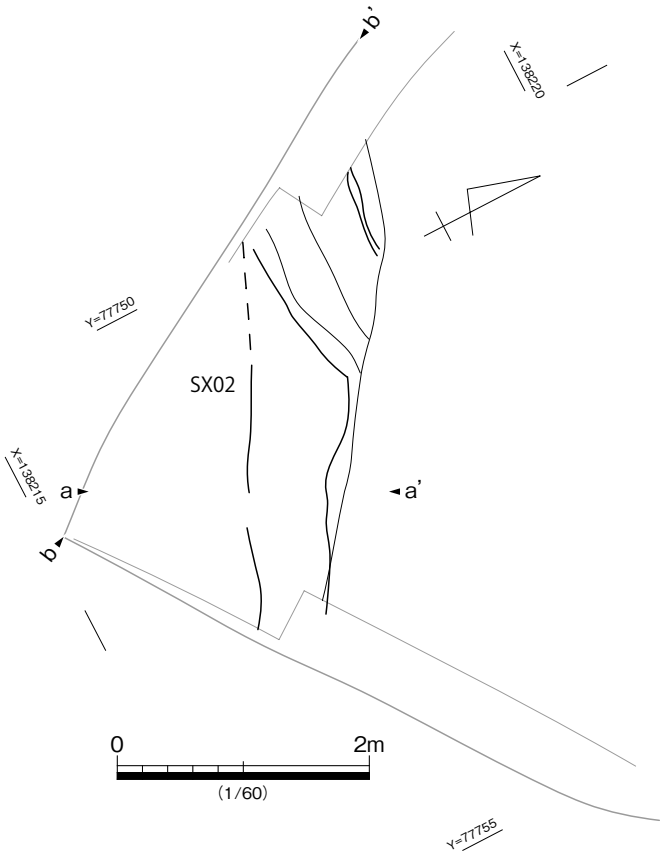
遺物　**383 ～ 388** は須恵器。**383** は蓋。歪みが著しい。**384 ～ 386** は杯。**387・388** は皿。**389 ～ 391** は土師器。**389** は皿小片。摩滅が著しい。**390** は椀。**391** は移動式竈。鍔の部分。**392** は平瓦。凹面は布目痕をナデ消し､凸面は平行タタキを施す。残存部分の割れ口付近のタタキ痕はナデ消しており、下端部以外はナデ消している可能性もある。平行タタキは報告遺物中唯一の例である。

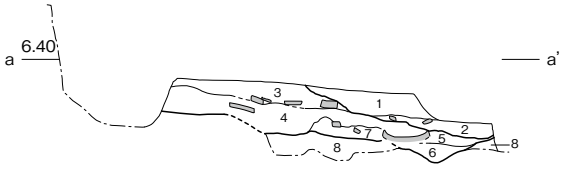
時期　出土遺物のうち、須恵器杯・皿、土師器椀はとも 10 世紀前半と考えられる。凹面をナデ消し凸面に平行タタキを施す瓦はこの時期に伴うものかもしれない。古代堆積層、および古代整地層 2 以後の掘削であるため、8 世紀前葉を上限とする。最終埋没は、伽藍域廃絶時期の 10 世紀前葉から少し下った時期とみられる。出土遺物もそれを表している。

(4) 性格不明遺構・土坑

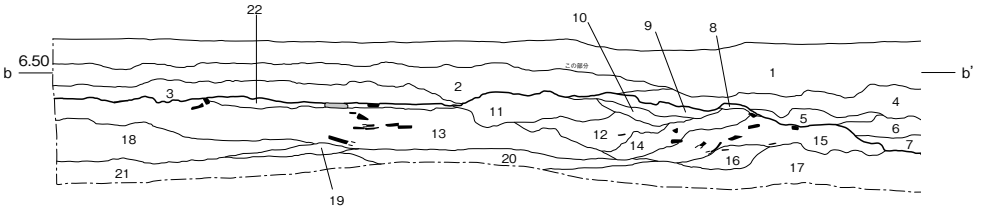
SX02（調査時遺構名：SX02）（第 77・78 図）

3 区南西隅にある古代の瓦を包含する層を SX02 として調査した。基盤層直上に褐灰色砂質シルト層がやや厚く広く堆積し、その北東側に灰黄褐色シルト質砂層、にぶい黄褐色シルト質粘土層等が南から順次堆積したような状況で、その北東側に、SX02 の上部で近世整地層が堆積する。当初、基壇状の盛土の可能性を考えて調査したが、調査地外の南に隣接する、大川広域行政組合による白鳥廃寺跡北方基壇付近の 2013 年調査の成果を受けて、北方基壇北辺裾に堆積した土と判断した。よって、SX02 に含まれる瓦と土は北方基壇に由来することになる。





1　5B5/1 青灰色砂質シルト層　【近世整地層】
　Mn 含む　２層とよく似るが、砂粒多く含む
2　5B5/1 青灰色砂質シルト層　【近世整地層】
　Mn 含む
3　10YR6/2 灰黄褐色シルト質砂層　【SX02】
4　10YR5/1 褐灰色砂質シルト層　【SX02】
5　10BG7/1 明青灰色砂層　【SX02】
6　5B4/1 暗青灰色シルト層　【SX02】
7　7.5YR3/1 黒褐色粘土質シルト層　【SX02】
　本質的には４層と同じか
8　7.5YR8/2 灰白色～ 7.5YR6/6 橙色粗砂層　【基盤層】



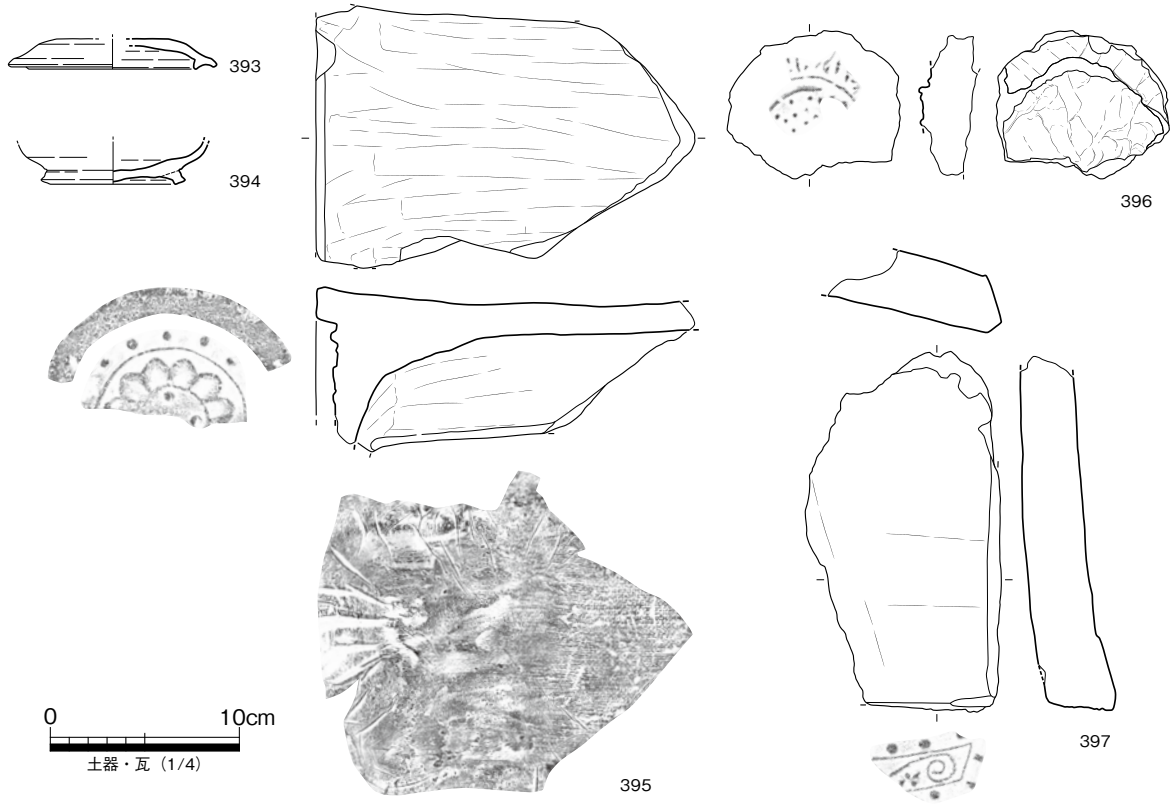
1　【耕作土】
2　2.5Y5/1 黄灰色シルト質砂層　【旧耕作土】
3　10YR5/2 灰黄褐色シルト質砂層
　Mn 含む
4　10YR5/2 灰黄褐色シルト質砂層
　7.5YR7/6 橙色粗砂を部分的に含む
　花崗岩の風化土が主体
5　10BG5/1 青灰色砂質シルト層
6　5B5/1 青灰色砂質シルト層
　Mn 含む
　８層とよく似るが、砂粒多く含む
7　5B5/1 青灰色砂質シルト層　【近世整地層】
　Mn 含む
8　2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト層　【SX02】
9　10YR7/4 にぶい黄橙色シルト質砂層　【SX02】
　φ0.5 ～ 1.0cm の 10YR7/2 にぶい黄橙色粘土ブロック少量含む
　粗砂層含む
10　10YR7/6 明黄褐色シルト質砂層　【SX02】
　φ0.5 ～ 2.0cm の 10YR7/2 にぶい黄橙色粘土ブロック含む
11　10YR6/2 灰黄褐色シルト質砂層　【SX02】
12　10YR5/2 灰黄褐色シルト質砂層　【SX02】
　φ0.5cm の 10YR7/2 にぶい黄橙色粘土ブロック少量含む
13　10YR5/1 褐灰色砂質シルト層　【SX02】
14　10YR7/3 にぶい黄橙～ 10YR7/6 明黄褐色シルト質粘土層　【SX02】
15　10YR6/4 にぶい黄橙色砂質シルト層　【SX02】
16　10YR5/1 褐灰色シルト質砂層　【SX02】
17　7.5YR8/2 灰白～ 7.5YR6/6 橙色粗砂層　【岩盤】
18　10YR7/4 にぶい黄橙色粗砂層
　φ1.0 ～ 5.0cm の 10YR4/3 にぶい黄褐色砂ブロック含む
19　10YR6/4 にぶい黄橙色粘土質シルト層
　φ0.5 ～ 1.0cm の N5/ 灰色シルトブロック含む
20　10YR6/3 にぶい黄橙色シルト質砂層　【古代以前の流土】
21　10YR5/1 褐灰色シルト層　【古代以前の流土又は基盤層】
22　5Y6/2 灰オリーブ色砂質シルト層　【SX02】

※13 層　SR105 型式軒丸瓦出土

石
柱材
土器・瓦

0　1m
(1/40)

第 77 図　SX02 平断面図



第 78 図　SX02 出土遺物実測図

遺物　**393・394** は須恵器。**393** は蓋。内面に返りが付く。**394** は壺底部。**395・396** は軒丸瓦。**395** は SR105 型式。瓦当裏面には接合粘土を多く足す。**396** は SR103 型式。瓦当面は磨滅するが、中房が突出し、中房の外側の圏線に珠文がないことから、SR103A 型式である。瓦当裏面は全体に剥離し、剥離面には指押さえ痕が顕著に残る。**397** は軒平瓦。SR204 型式。顎部は直線顎であるが、わずかに段を持つ。凹・凸面とも摩滅により調整は不明である。**395** の SR105 型式と組む軒平瓦と考えられる。

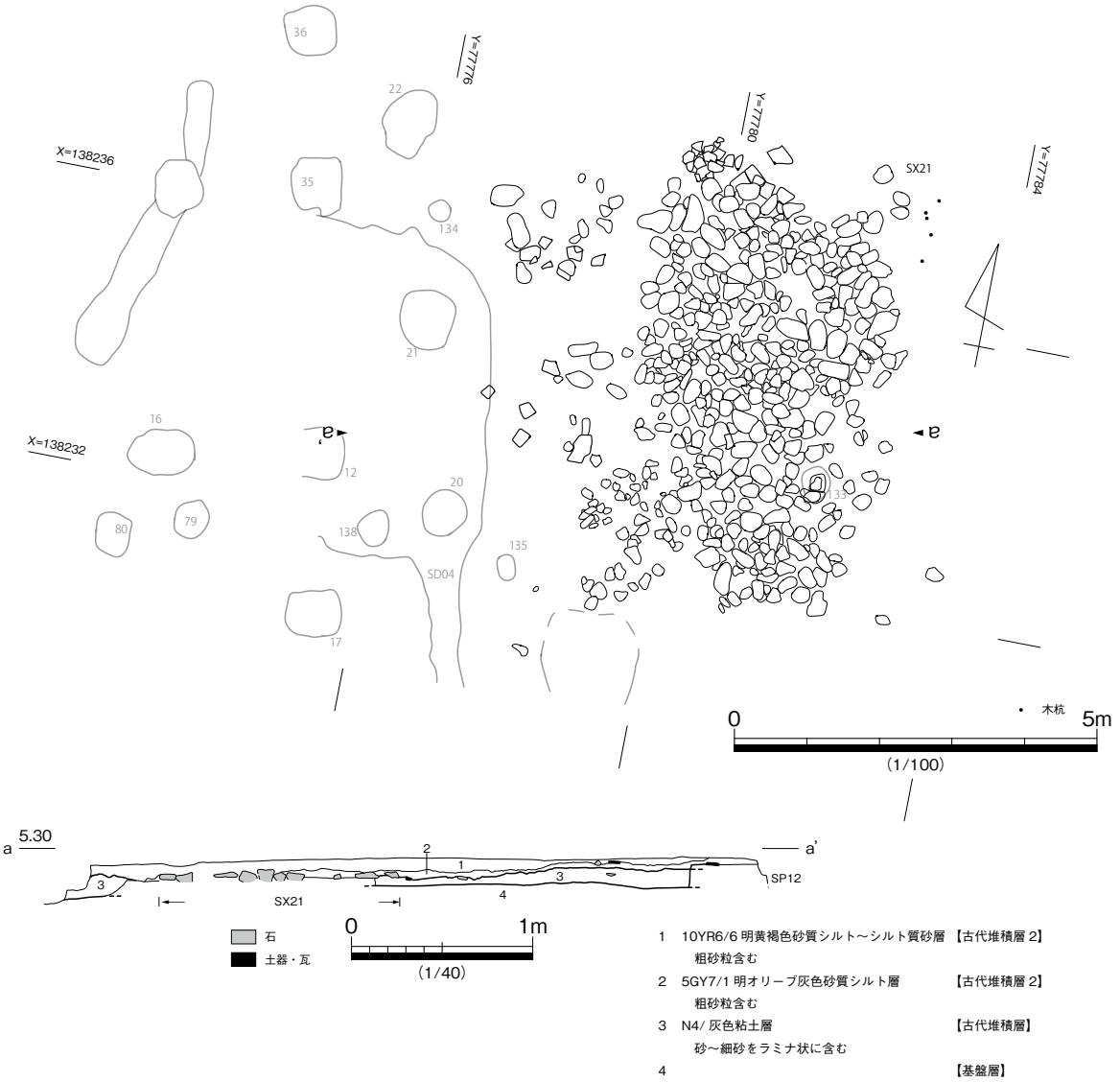
時期　**395・397** の瓦が出土することから、平安時代以降に堆積したと考えられる。

SX21（調査時遺構名：SX21）（第 79 ～ 82 図）

谷最深部のやや北西丘陵寄りで検出した遺構で、古代堆積層上に広がる礫群である。礫の間には比較的残存状況が良好な瓦も多く含まれていた。SX21 上に古代整地層 2 が形成される。当該箇所は、白鳥廃寺跡伽藍域東限の遺構とみられる SD04 や SA01 の外側（谷最深部側）にあたる。SX21 は、古代整地層 2 で盛土するに際して、伽藍域外側に不要な礫や瓦を廃棄したものの可能性がある。また、付近は谷最深部に近く、湿地状を呈していたとみられるため、古代整地層 2 に伴う簡易な地業が SX21 の可能性も考えられる。

遺物　**398** は須恵器蓋。内面に小さい返りが付く。**399 ～ 403** は平瓦。**399・401 ～ 403** には凹面に摸骨痕がある。凸面には縄目が残るが、ほとんどはナデ消されている。**400** は凹・凸面とも調整痕をナデ消す。

時期　古代堆積層上面で、古代整地層 2 形成に伴うため、8 世紀前葉と考えられる。SB06 以外の掘立柱建物群が造成される以前の遺構である。平瓦は、凹・凸面ともナデ消しにより調整痕を残さない **400** を除き、凹面には摸骨痕を残し、凸面の縄目痕はほとんどナデ消している。また、**399** を除き側端



第 79 図　SX21 平断面図

面の凹面側を面取りする。白鳥廃寺創建期の瓦を反映するものと考えられる。

SK01（調査時遺構名：SK01）（第 83 図）

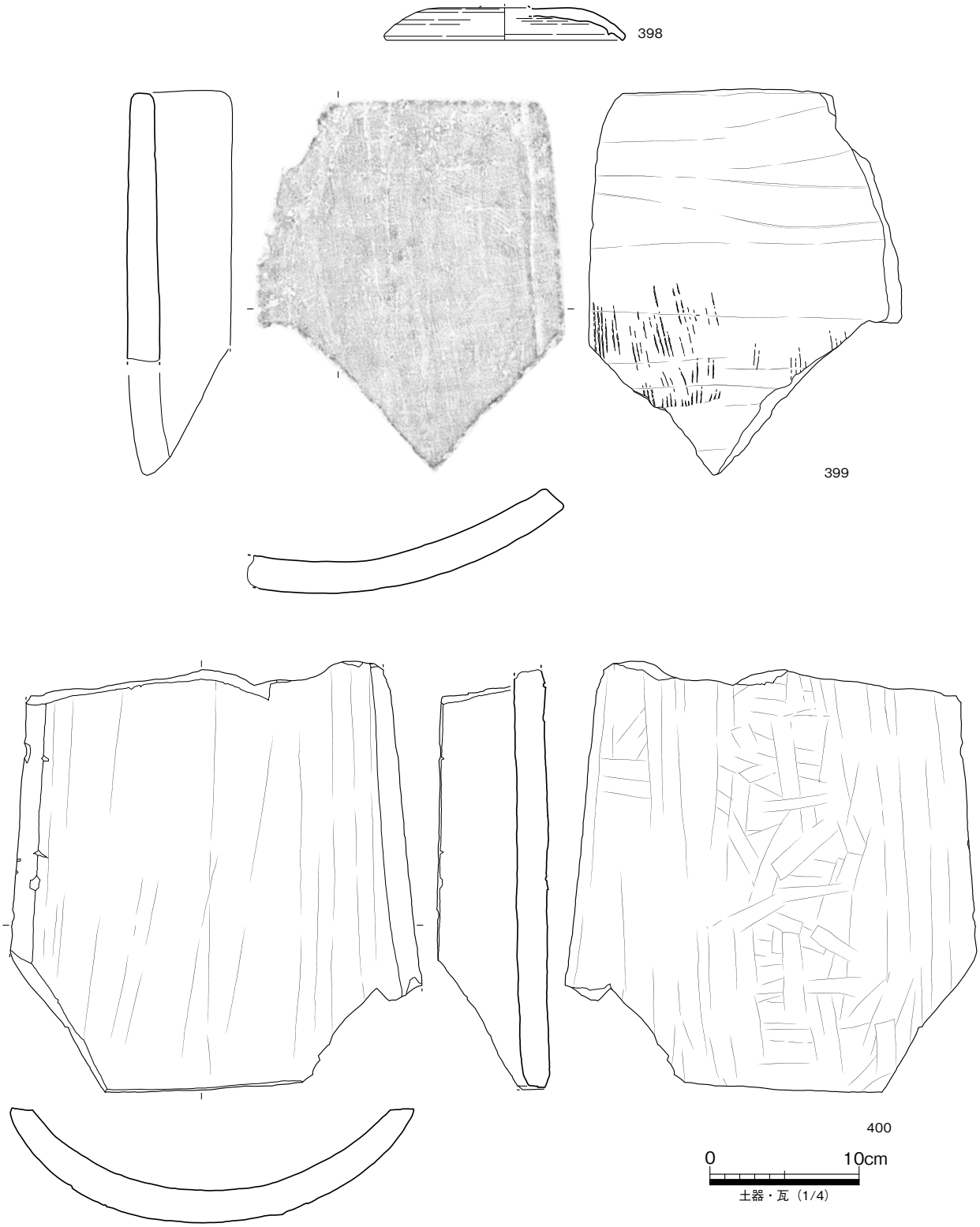
3 区南西部、北西丘陵裾の基盤層上面で検出した平面形が長楕円形に近い土坑である。基盤層に由来する埋土には平瓦の小片が多数包含されていた。平瓦は小片ばかりであったが、大半が模骨痕を残すもので、凸面の調整は縄目痕、格子タタキ痕が認められ、ナデ消されるものとナデ消しされないものがあった。

遺物　**404** は弥生土器甕底部小片。**405** は土師器甕。

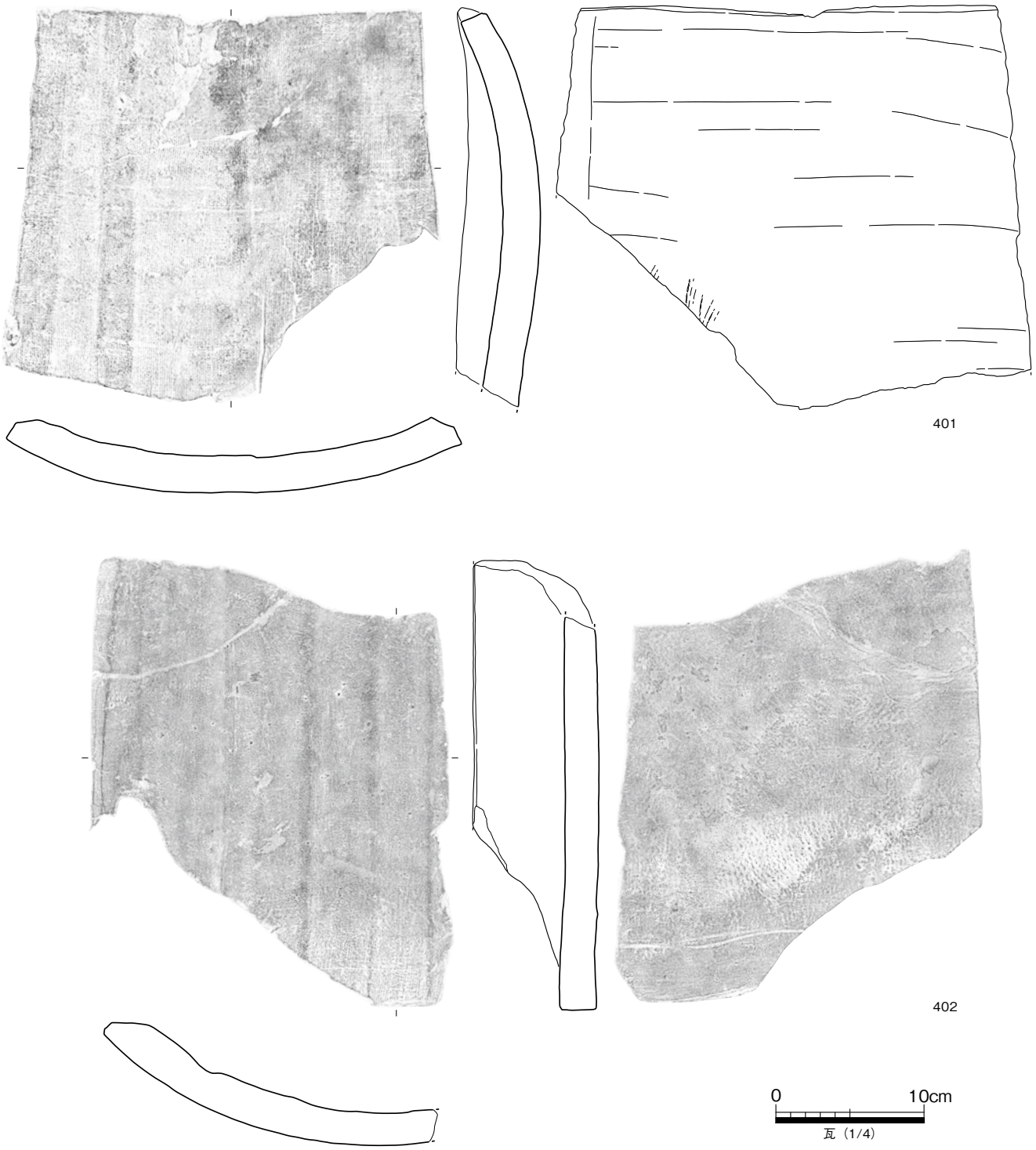
時期　SK01 周辺には古代整地層 2 は認められず、層位関係からの時期特定は難しい。

SK02（調査時遺構名：SK02）（第 83 図）

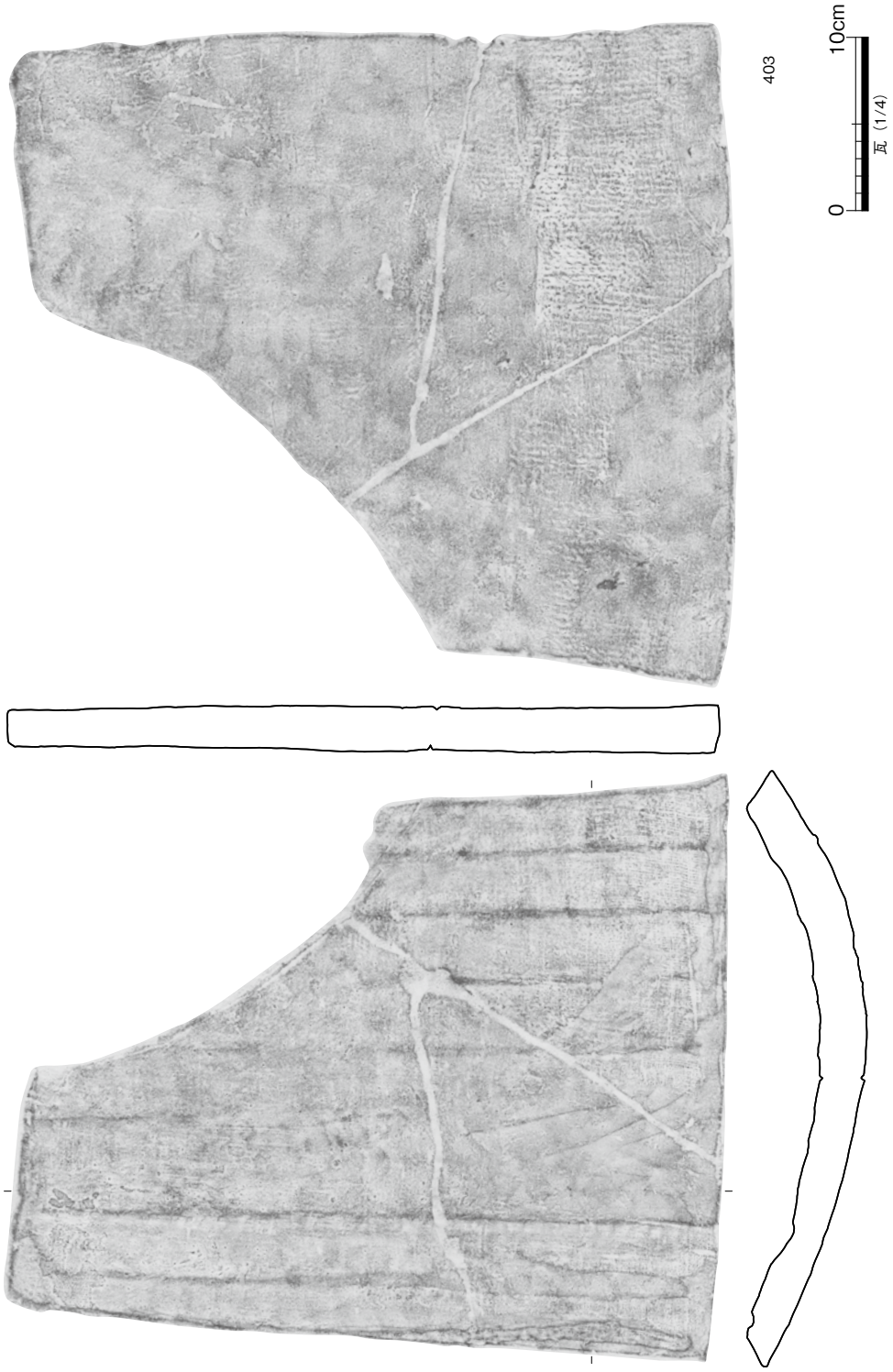
2 区中央付近、SA01 のほぼライン上の北側で検出した。SA01 の最も北側の柱穴から約 1.5 m（6 尺）北側に位置する。古代堆積層より上位で検出された遺構で、浅いため土坑として調査したが、柱穴の可



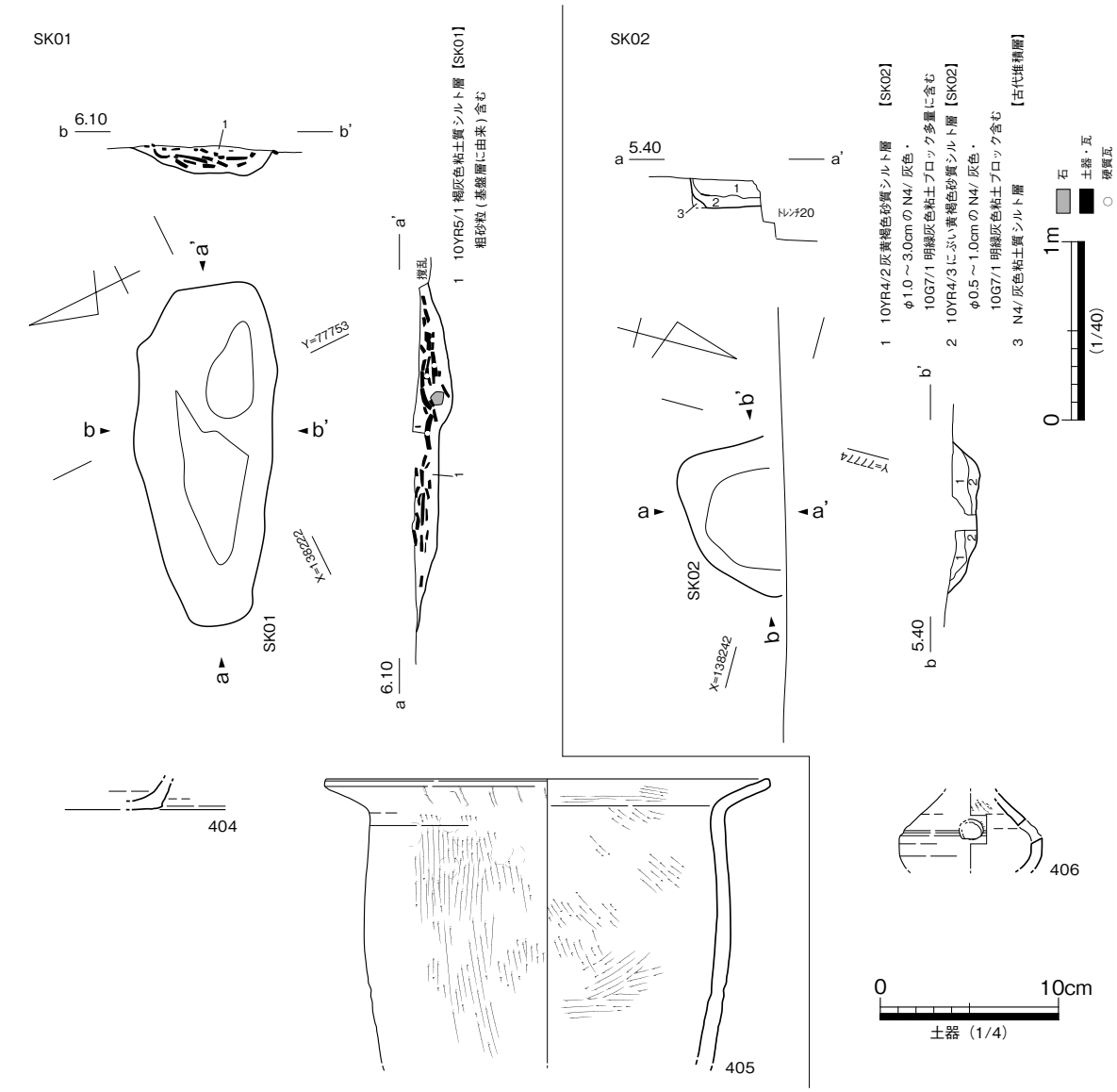
第 80 図　SX21 出土遺物実測図 1



第 81 図　SX21 出土遺物 実測図２



第 82 図　SX21 出土遺物実測図 3



第 83 図　SK01 平断面図 出土遺物・SK02 平断面図 出土遺物実測図

能性もある。埋土中からは須恵器ハソウ片と摩滅が進んだ平瓦片が出土した。

遺物　406 は須恵器ハソウ。7 世紀初頭～中葉（TK209 ～ TK217 型式並行期）。

時期　古代堆積層形成後の遺構であるため、8 世紀前葉以後である。

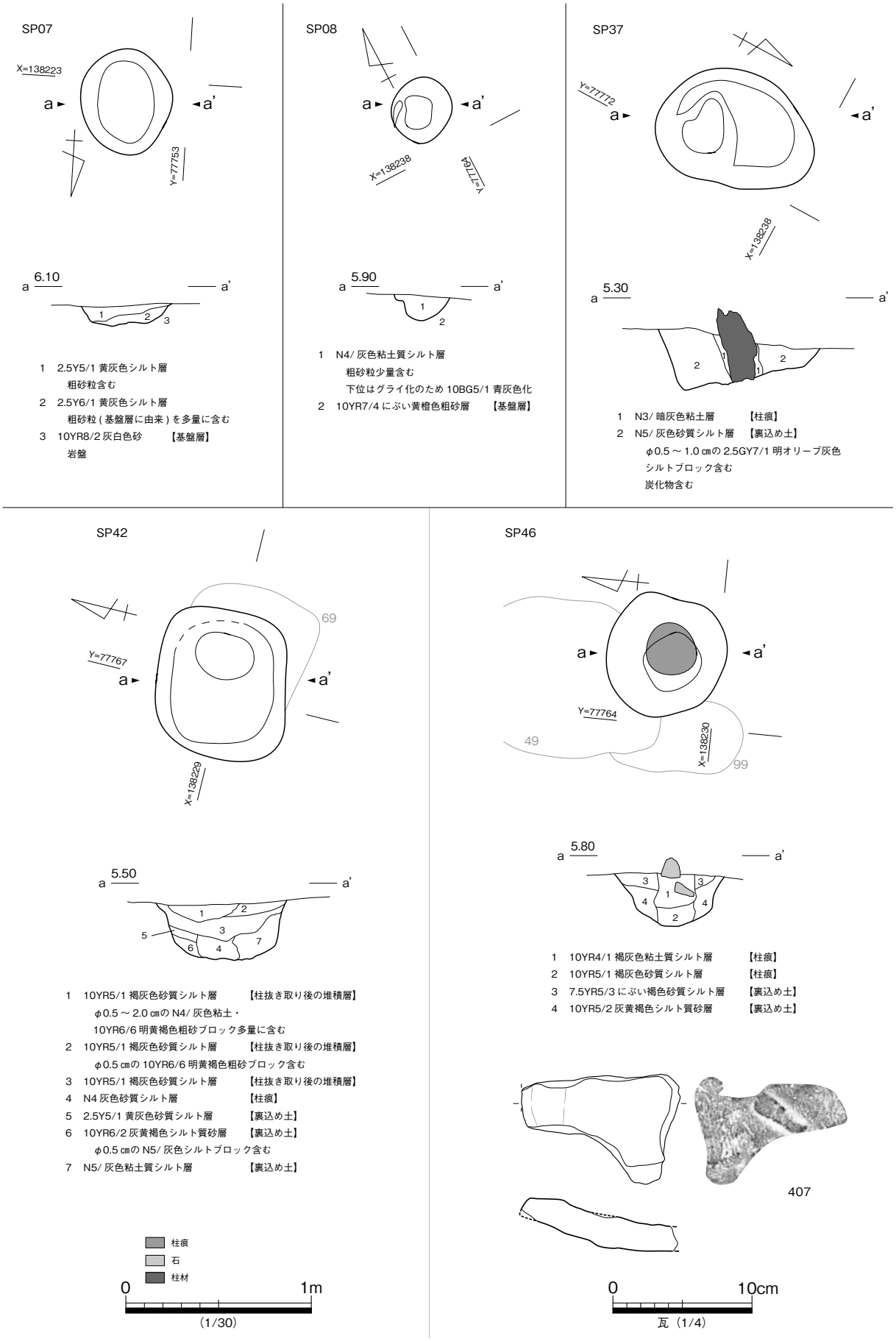
(5) ピット

ピットは 2 区西端部付近から 3 区にかけて検出した。SA01 より東側ではほとんど検出されず、SD07 より東側では皆無であった。また、SB01 より北側でもほとんど検出されなかった。

時期については、いずれも掘り込む層位が古代整地層 2 又は、それより下面であること、埋土や周辺の遺構検出状況から、古代の遺構と同時期のものと考えられる。

SP07（第 84 図）

3 区南西隅付近、SK01 の北側で検出した。ほぼ円形で、直径 57cm、深さ 12cmを測る。埋土中からは瓦片が出土した。



第 84 図　SP07・SP08・SP37・SP42・SP46 平断面図

SP46 出土遺物実測図

時期　検出層位、埋土、出土遺物から、古代の遺構と考えられる。

SP08（第 84 図）

3 区北部、SB01 北西隅ピット SP09 の南西に隣接して検出した。円形で直径 36㎝、深さ 14㎝の小規模のピットである。埋土中からは瓦片が出土した。

時期　検出層位、埋土、出土遺物から、古代の遺構と考えられる。

SP37（第 84 図）

3 区北部、SB04 北東隅ピット SP93 の東側で検出した。楕円形で長軸 87㎝、短軸 62㎝、深さ 30㎝程度、柱の直径は約 20㎝である。SB04、SB01 を構成するピットとほぼ同じ規模で、ピットの長軸方向は SB01 とほぼ揃う。ピットからは土器小片と柱材が出土した。樹種同定の結果、クスノキ科の樹木であった。

時期　検出層位、埋土から古代の遺構と考えられる。

SP42（第 84 図）

3 区南部、SB02、SB05 に隣接して検出した。SB02 の西側柱穴列の 1 穴東側である SP43・SP41 のほぼ中間で、西・東側梁間の中央の柱穴である SP47 と SP17 を結ぶ線上に位置し、柱穴の軸も揃うので、SB02 を構成するピットの可能性もある。その場合は、SB02 は西側に間仕切りを持つ建物になる。SB05 を構成する SP69 を切り込む。隅丸方形で長軸 80㎝、短軸 70㎝、深さは 30㎝を測る。柱の抜取り痕跡を残し、柱穴の下部にのみ柱痕を残す。柱痕の直径は約 20㎝である。埋土中からは遺物は出土しなかった。

時期　検出層位、埋土から古代の遺構と考えられる。

SP46（第 84 図）

3 区南部、SB02 北西隅ピット SP49、SB03 を構成するピット SP99 の上部から切り込む。ほぼ円形で、直径 65㎝程度、深さ 30㎝で、直径 20㎝程度の柱痕跡が残る。埋土中からは磨滅が進んだ平瓦片が出土した。

遺物　**407** は平瓦。摩滅が進む。凸面に縄目痕が確認できる。

時期　検出層位、埋土、出土遺物から、古代の遺構と考えられる。遺構の先後関係から SB02、SB03 よりも新しい。

SP50（第 85 図）

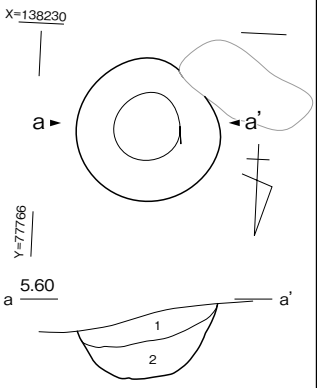
3 区南部、SP46 の東側で検出した。円形で直径 57㎝、深さ 24㎝を測る。柱痕跡等は認められなかった。埋土中からは瓦片が出土した。

時期　検出層位、埋土、出土遺物から、古代の遺構と考えられる。

SP56（第 85 図）

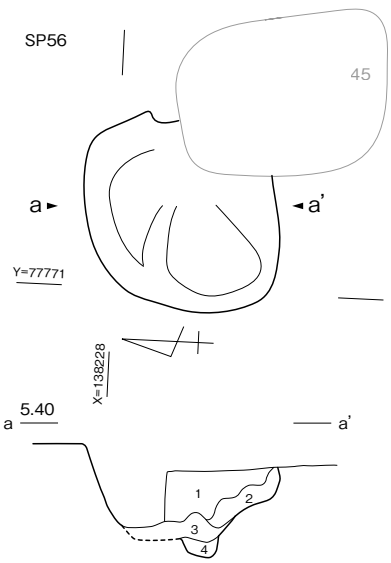
3 区南部で検出した。SB05 東側柱穴列の、中央の柱穴の約 0.9 m東側で、桁行側の中央の柱筋の延長

SP50



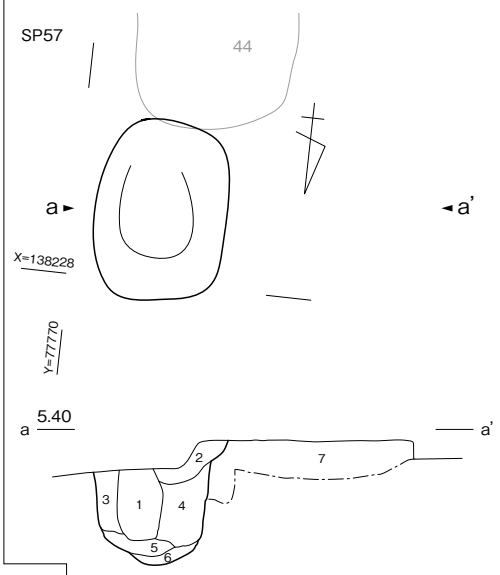
1　10YR5/1 褐灰色砂質シルト層
　φ0.5cm の 7.5YR5/6 明褐色砂ブロック少量含む
2　N4/ 灰色シルト質粘土層

SP56



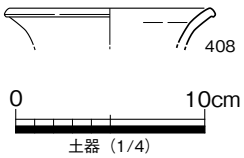
1　105/2 灰黄褐色粘土質シルト層　【柱抜き取り後の埋め戻し土】
　φ1.0 ～ 3.0cm の N4/ 灰色シルト質粘土・10YR7/2 にぶい黄橙色シルトブロック多量に含む
2　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質粘土層【柱抜き取り後の埋め戻し土】
　φ1.0 ～ 2.0cm の 10YR7/2 にぶい黄橙色シルトブロック少量含む
3　5GY7/1 明オリーブ灰色砂質シルト層【柱抜き取り後の埋め戻し土】
　φ1.0 ～ 2.0cm の 10YR7/2 にぶい黄橙色シルトブロック含む
4　N4/ 灰色粘土質シルト層　【柱痕】
　φ0.5 ～ 1.0cm の 5GY7/1 明オリーブ灰色砂ブロック含む

SP57

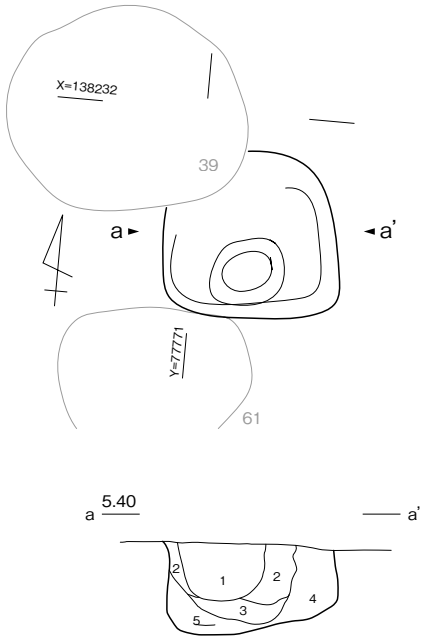


1　10YR4/1 褐灰色砂質シルト層　【柱痕】
　φ1.0 ～ 3.cm の N4/ 灰色シルトブロック少量含む
2　10R4/1 褐灰色砂質シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 2.cm の 7.5YR5/6 明褐色砂ブロック含む
3　2.5Y5/1 黄灰色シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 2.cm の N4/ 灰色シルトブロック含む
　φ0.5 ～ 1.cm の 7.5YR5/6 明褐色砂ブロック少量含む
4　N4/ 灰色シルト質粘土層　【裏込め土】
　φ1.0 ～ 3.0cm の 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト質粘土ブロック多量に含む
5　N3/ 暗灰色シルト質粘土層　【置き土】
6　10YR5/1 褐灰色シルト質砂層　【置き土】
7　10YR5/2 灰黄褐色シルト質砂層　【古代整地層２】

SP63

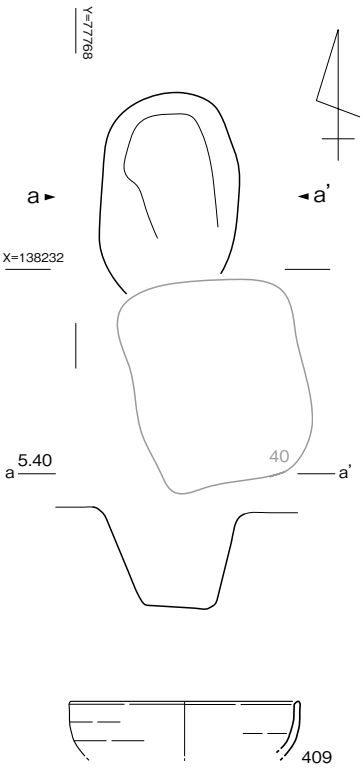


土器（1/4）

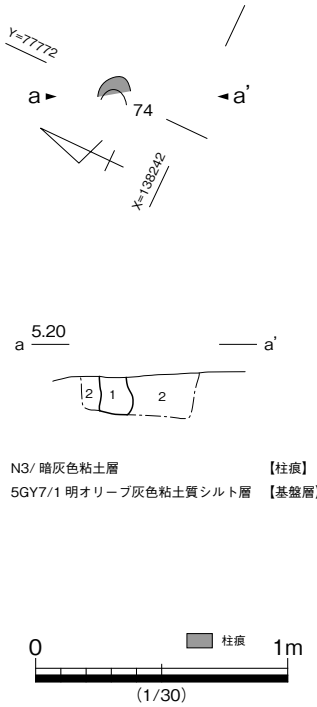


1　10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト層
　N5/ 灰色シルト層・7.5YR5/4 にぶい褐色粗砂層を帯状に含む
2　N5/ 灰色シルト質砂層
　φ0.5 ～ 1.0cm の 7.5YR5/4 にぶい褐色砂ブロック含む
3　N4/ 灰色シルト質粘土層
4　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質砂層【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0cm の N5/ 灰色シルトブロック含む
5　10YR5/2 灰黄褐色粘土質シルト層【置き土】
　φ1.0 ～ 2.0cm の N4/ 灰色粘土質シルトブロック含む

SP64



SP74



(1/30)

1　N3/ 暗灰色粘土層　【柱痕】
2　5GY7/1 明オリーブ灰色粘土質シルト層　【基盤層】

第 85 図　SP50・SP56・SP57・SP63・SP64・SP74 平断面図

SP63・SP64 出土遺物実測図

上に位置する。楕円形で長軸 90cm、短軸 75cm、深さ 40cmである。柱の抜取り痕跡が認められる。このピットは SB02 を構成する SP45 に掘り込まれる。埋土中からは土器小片が出土した。

時期　検出層位、埋土、出土遺物から、古代の遺構と考えられる。SB02 を構成するピットに掘り込まれることから、SB02 より古い。

SP57（第 85 図）

3 区南部、SB02・03・05 内で検出した。SP44 との前後関係は不明である。隅丸方形で、長軸 72cm、短軸 54cm、深さ 50cmである。直径 16cm程度の柱痕跡が認められた。埋土中からは土器小片が出土した。

時期　検出層位、埋土から古代の遺構と考えられる。

SP63（第 85 図）

3 区中央部付近で検出した。SB02 を構成する SP39 に切り込まれる。隅丸方形で 1 辺 65 ～ 70cm、深さ 35cm程度である。

遺物　**408** は須恵器壺口縁部。

時期　検出層位、埋土、出土遺物から古代の遺構と考えられる。SB02 を構成するピットに掘り込まれており、SB02 よりは古い。

SP64（第 85 図）

3 区中央付近で検出した。SB02 の北側柱列 SP40 の北側に接し、これに掘り込まれる。楕円形で長軸 90cm、短軸 54cm、深さ 40cmを測る。柱痕跡は認められなかった。SB02 に掘り込まれる小ピットは他にもいくつか見られ、SB02 に関係するピットの可能性もあるかもしれない。埋土中からは土器小片、瓦小片が出土した。

遺物　**409** は須恵器杯。

時期　検出層位、出土遺物から古代の遺構と考えられる。SB02 を構成するピットに掘り込まれることから、SB02 より古い。

SP74（第 85 図）

2 区で 3 区との境付近やや北寄り、トレンチの中で検出した。検出時の規模・形状は直径 15cm、深さ 15cmの円形であったが、柱材しか残っておらず、本来はの規模はもっと大きかったと考えられる。出土遺物はなかった。

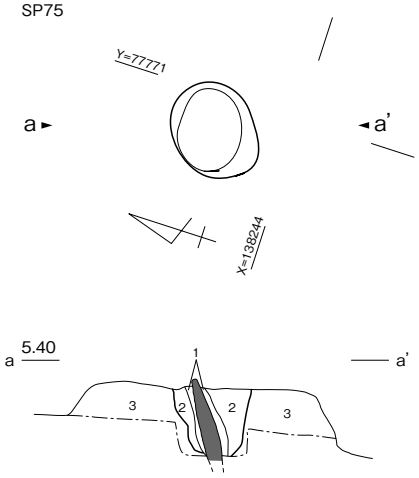
時期　検出層位、埋土から古代の遺構と考えられる。

SP75（第 86 図）

2 区で 3 区との境界付近北寄りで検出した。SP74 の約 2.4m北側で検出した。概ね円形で直径 38cm程度、深さは 27cm程度を検出した。直径 12cm程度の柱痕があり、柱材を残す。埋土中からは出土遺物はなかった。

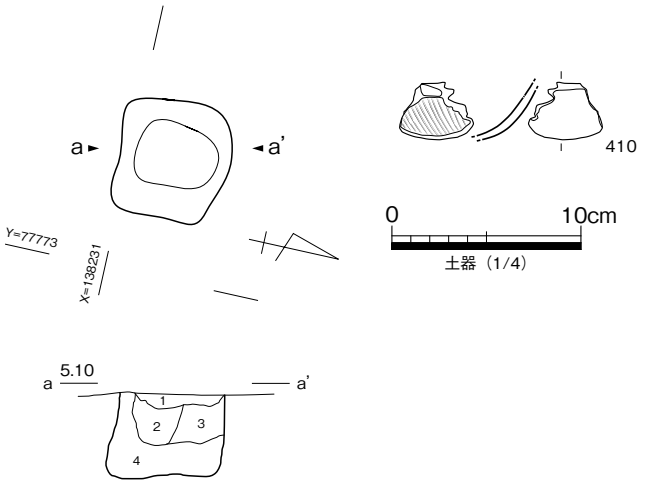
時期　検出層位、埋土から古代の遺構と考えられる。

SP75



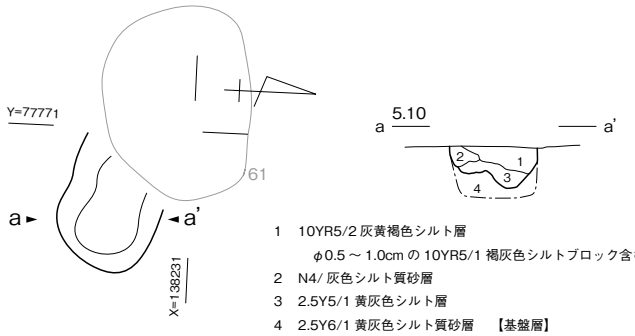
1　N3/ 暗灰色粘土層　【柱痕】
2　10G5/1 緑灰色砂質シルト層　【裏込め土】
3　N5/ 灰色粘土質シルト層　【基盤層】

SP80



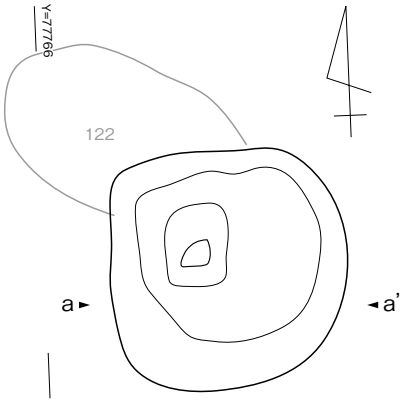
1　5Y5/1 灰色シルト層　【柱腐喰後の堆積層】
　φ0.5 ～ 1.0cm の 7.5YR5/6 明褐色シルト・
　2.5Y7/2 灰黄色シルトブロック含む
2　N4/ 灰色シルト質粘土層　【柱痕？】
3　N5/ 灰色砂質シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 1.0cm の 7.5YR5/6 明褐色シルトブロック含む
4　N5/ 灰色粘土質シルト層　【置き土？裏込め土？】

SP81

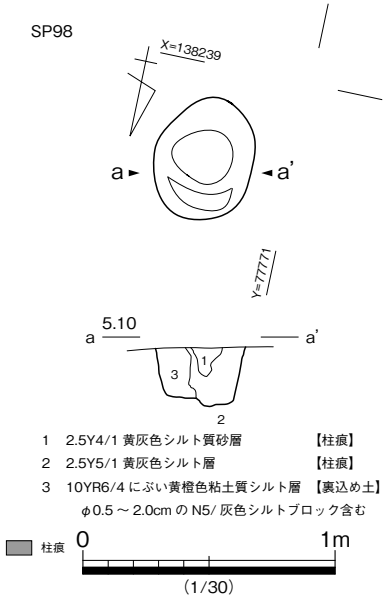


1　10YR5/2 灰黄褐色シルト層
　φ0.5 ～ 1.0cm の 10YR5/1 褐灰色シルトブロック含む
2　N4/ 灰色シルト質砂層
3　2.5Y5/1 黄灰色シルト層
4　2.5Y6/1 黄灰色シルト質砂層　【基盤層】

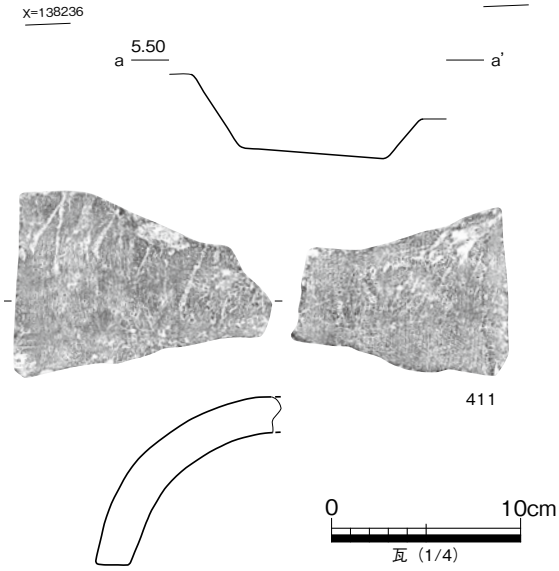
SP96



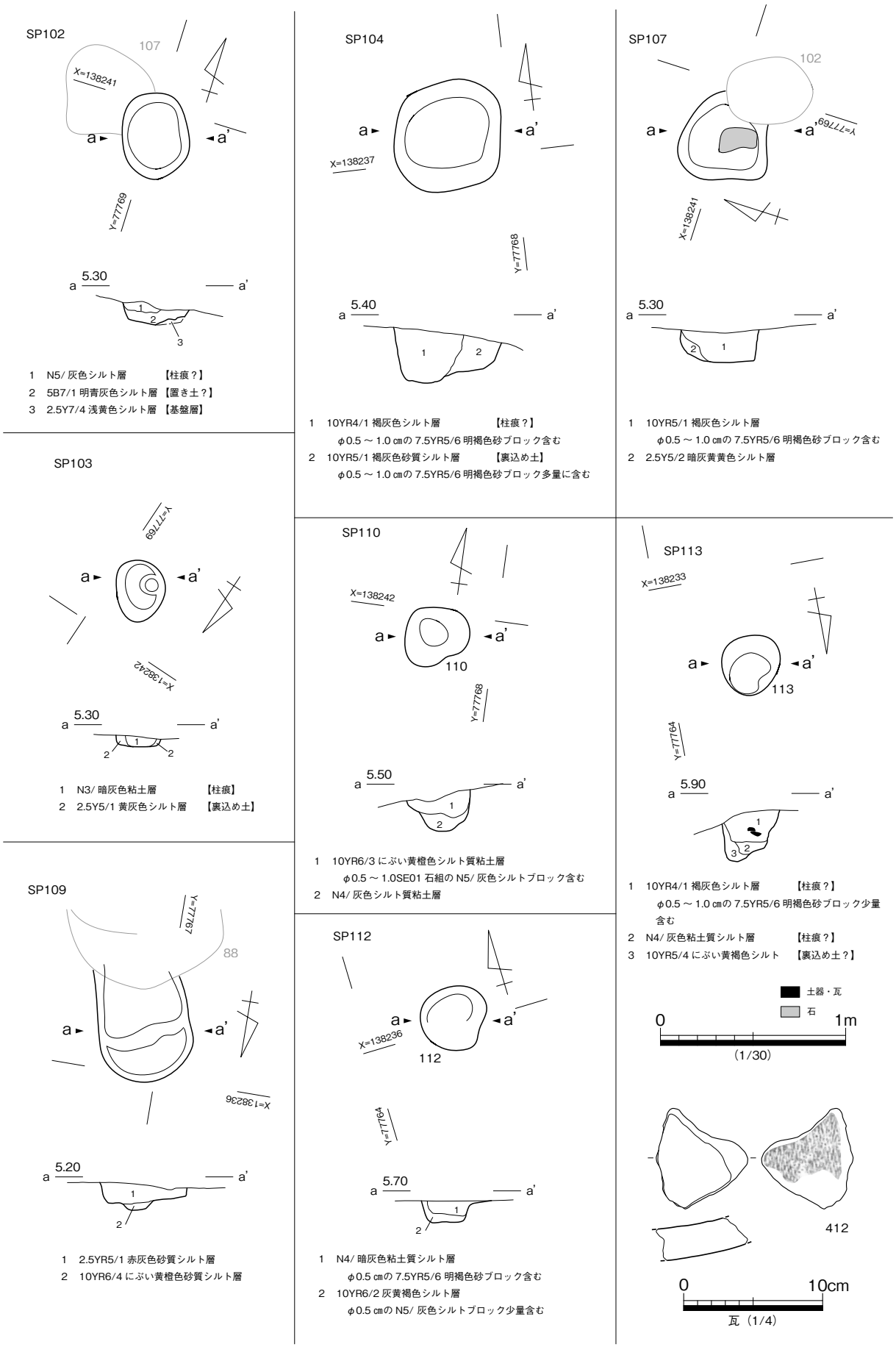
SP98



1　2.5Y4/1 黄灰色シルト質砂層　【柱痕】
2　2.5Y5/1 黄灰色シルト層　【柱痕】
3　10YR6/4 にぶい黄橙色粘土質シルト層　【裏込め土】
　φ0.5 ～ 2.0cm の N5/ 灰色シルトブロック含む



第 86 図　SP75・SP80・SP81・SP96・SP98 平断面図
SP80・SP96 出土遺物実測図



第 87 図　SP102 ～ SP104・SP107・SP109・SP110・SP112・SP113 平断面図

SP113 出土遺物実測図

SP80（第 86 図）

3 区 SB03 の北側柱穴列の延長上、東隅柱穴から約 1.8m 東側で検出した隅丸方形の柱穴である。1 辺約 42cm、深さ 30cm、直径約 18cmの柱痕を残す。

遺物　**410** は土師器杯。口縁端部の形状は欠損のため不明である。内面に斜方向の暗文を残す。8 世紀代。

時期　出土遺物から 8 世紀代と考えられる。

SP81（第 86 図）

3 区 SB03 北東隅柱穴 SP61 の南東に接して検出した隅丸長方形の柱穴である。遺構の先後関係により SB03 より古い。長径 40cm以上、短径 38cm、深さ 15cmを測る。埋土中からは出土遺物はなかった。

時期　検出層位、埋土から古代の遺構と考えられる。

SP96（第 86 図）

3 区北部、SB04 西側中央柱穴 SP122 と重複して検出した。SB01 の西側から 2 穴目の柱、SP28 と SP31 を結ぶ線上に位置する。遺構の前後関係より SB04 より新しい。隅丸方形で、1 辺 94cm、深さ 22 cmを測る。柱穴の大きさは SB01 と同程度である。埋土中からは丸瓦片が出土した。

遺物　**411** は丸瓦。摩滅が著しい。端面に面取りはしない。

時期　検出層位、出土遺物から古代の遺構と考えられる。SB04 を構成するピットを掘り込むことから、SB04 より新しい。

SP98（第 86 図）

3 区中央付近、SB04 北東隅柱穴 SP93 の約 2m北側で検出した。ほぼ円形で、直径 50cm、深さ 24cmを測る。直径約 20cmの柱痕が認められた。埋土中からは出土遺物はなかった。

時期　検出層位、埋土から古代の遺構と考えられる。

SP102（第 87 図）

3 区北部、SB01 の北側で検出した。楕円形で長径 45cm、短径 36cm、深さ 12cmを測る。埋土中からは出土遺物はなかった。

時期　検出層位、埋土から古代の遺構と考えられる。

SP103（第 87 図）

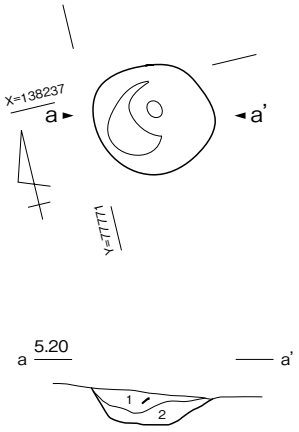
3 区北部、SP102 の北側約 1mで検出した。円形で直径 30cm、深さ 6cmで、直径 18cmの柱痕を残す。埋土中からは出土遺物はなかった。

時期　検出層位、埋土から古代の遺構と考えられる。

SP104（第 87 図）

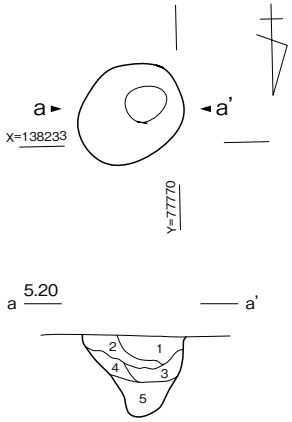
3 区中央付近、SB04-SP97 の西側にほぼ接して検出した。隅丸方形で 1 辺約 58cm、深さ 28cmを測る。埋土中からは土器小片が出土した。

SP115



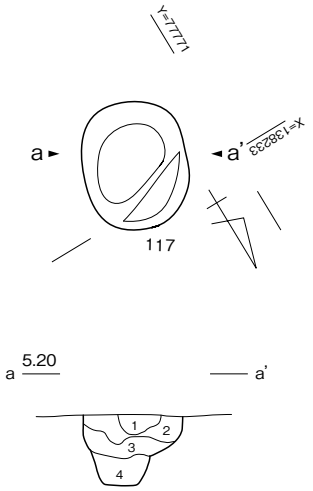
1　10YR5/1 褐灰色砂質シルト層
　φ0.5 ㎝の 10YR5/4 にぶい黄褐色砂ブロック含む
2　10YR5/1 褐灰色シルト層

SP116



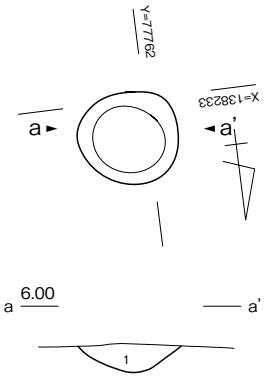
1　N5/ 灰色シルト層　【柱抜き取り後の埋め戻し土】
2　10YR6/1 褐灰色シルト層　【柱抜き取り後の埋め戻し土】
3　10YR6/3 にぶい黄橙色シルト層　【柱抜き取り後の埋め戻し土】
4　10YR5/4 にぶい黄褐色粘土質シルト層【柱抜き取り後の埋め戻し土】
5　N4/ 灰色粘土質シルト層　【柱痕】

SP117



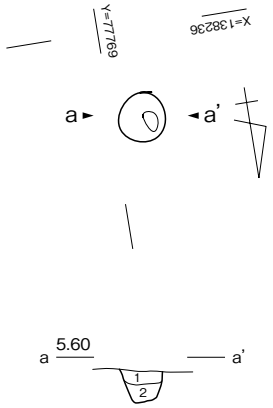
1　N4/ 灰色粘土質シルト層　【柱痕】
2　2.5Y5/1 黄灰色シルト層　【裏込め土】
3　10YR6/4 にぶい黄橙色砂質シルト層【裏込め土】
　φ0.5 ㎝の N5/ 灰色シルトブロック含む
4　5Y5/1 灰色シルト層　【裏込め土】

SP119



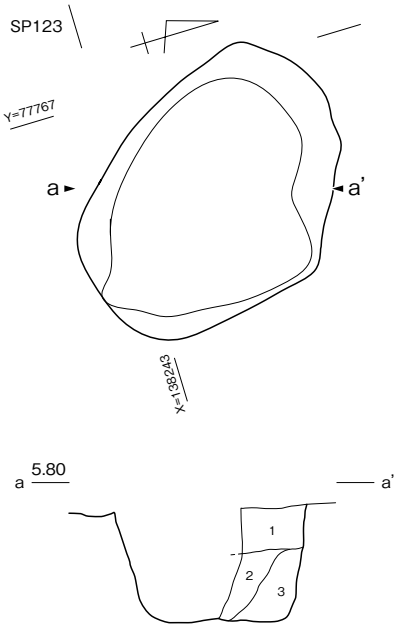
1　N4/ 灰色粘土質シルト層

SP120

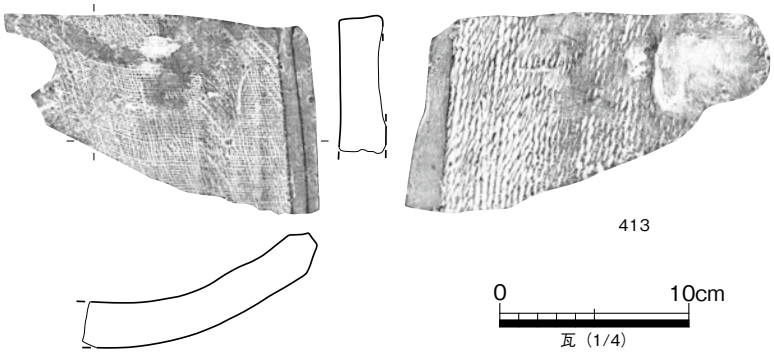


1　2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト層
2　N4/ 灰色砂質シルト層

SP123



1　N6/ 灰色シルト質粘土層
　φ0.5 ～ 1.0 ㎝の 7.5YR5/6 明褐色砂質シルトブロック含む
2　N5/ 灰色シルト質粘土層
3　7.5YR5/4 にぶい褐色シルト質砂層
　礫が風化したものか



土器・瓦

0　1m
（1/30）

第 88 図　SP115 ～ SP117・SP119・SP120・SP123 平断面図

SP119 出土遺物実測図

時期　検出層位、埋土から古代の遺構と考えられる。

SP107（第 87 図）

３区北部､SP102の西側に重複して検出した｡遺構の前後関係によりSP107が古い｡不整形で直径45㎝、深さ 15㎝を測る。柱穴の底部からは根石が出土した。埋土中からは出土遺物はなかった。

時期　検出層位、埋土から古代の遺構と考えられる。

SP109（第 87 図）

3 区中央付近、SB04 を構成する SP88 に重なって検出した。遺構の先後関係により SP88 より古い。楕円形で長軸 60㎝以上、短軸 48㎝、深さ 15㎝を測る。埋土中からは出土遺物はなかった。

時期　検出層位、埋土から古代の遺構と考えられる。柱穴の先後関係から、SB04 より古い。

SP110（第 87 図）

3 区北部、SP107 の北西約 1m の位置で検出した。不整円形で直径 36㎝、深さ 18㎝を測る。埋土中からは土器小片が出土した。

時期　検出層位、埋土から古代の遺構と考えられる。

SP112（第 87 図）

3 区北部、SB01 西側柱穴列の中央の柱穴 SP29 の南西にほぼ接して検出した。不整円形で直径 33㎝、深さ 12㎝を測る。埋土中からは出土遺物はなかった。

時期　検出層位、埋土から古代の遺構と考えられる。

SP113（第 87 図）

3 区中央付近､SB01 南西隅柱穴 SP30 の西側約 2 m で検出した｡ほぼ円形で直径 33㎝､深さ 24㎝を測る。直径 26㎝を測る柱痕が残り、柱痕には木片が残存していた。埋土中からは平瓦片が出土した。

遺物　**412** は平瓦。凸面には縄目が認められる。全体に摩滅が著しい。

時期　検出層位、埋土、出土遺物から古代の遺構と考えられる。

SP115（第 88 図）

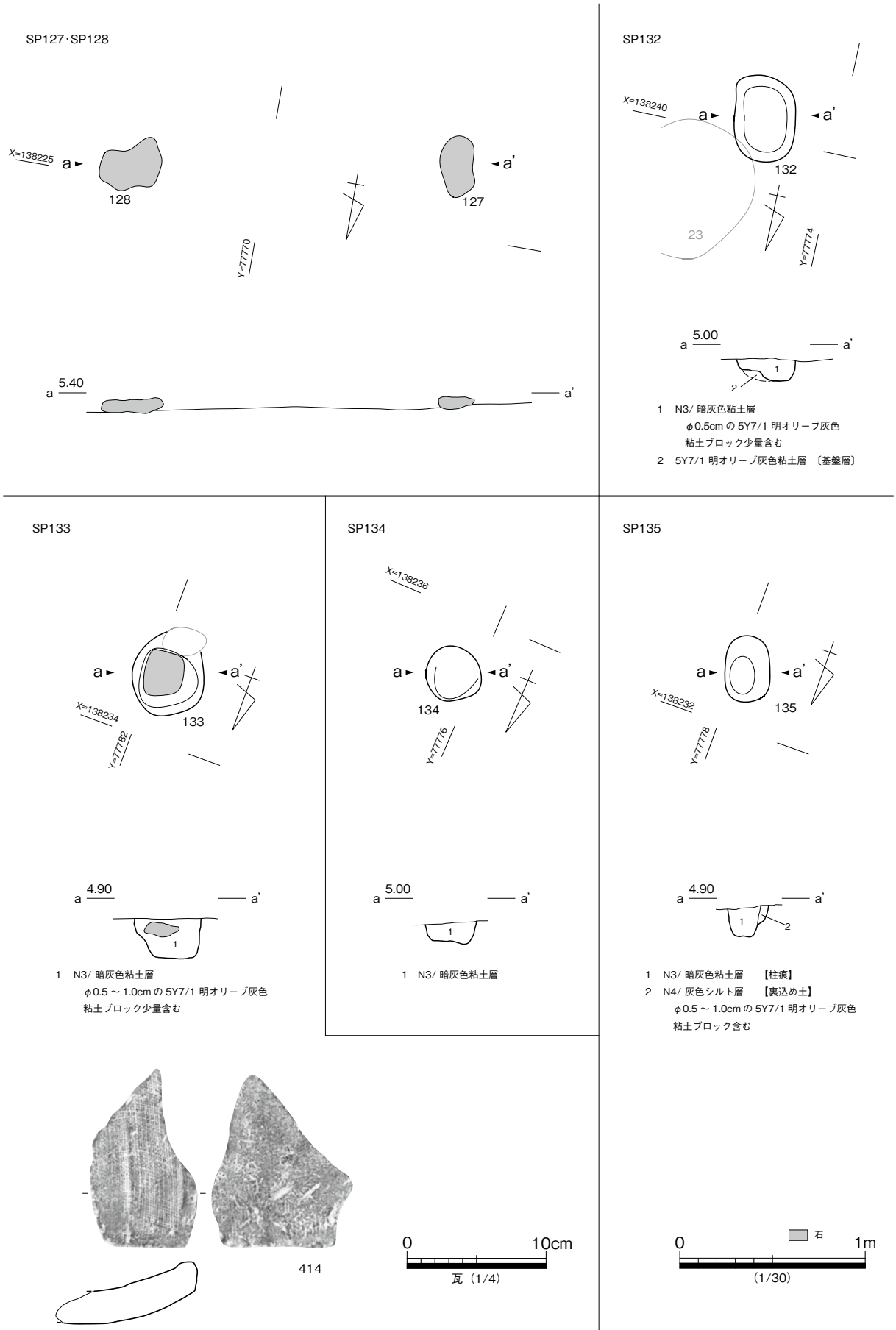
3 区中央部付近、SB04 北東隅柱穴 SP93 の南東にほぼ接して検出した。円形で直径 45㎝、深さ 12㎝を測る。

埋土中からは土器小片が出土した。

時期　検出層位、埋土、出土遺物から古代の遺構と考えられる。

SP116（第 88 図）

3 区中央付近、SB04 南東隅柱穴 SP90 の南側で検出した。楕円形で長軸 40㎝、短軸 36㎝、深さ 32㎝を測る。柱材は抜き取られるが、柱穴の底部に直径 20㎝程度の柱痕が残る。埋土中からは出土遺物はなかった。



第 89 図　SP127・SP128・SP132・SP133 ～ SP135 平断面図

SP133 出土遺物実測図

時期　検出層位、埋土、出土遺物から古代の遺構と考えられる。

SP117（第 88 図）

3区中央付近で検出した。SP116の東側約1.2ｍである。楕円形で直径50㎝、短径42㎝、深さ28㎝を測る。直径 18㎝程度の柱痕が残る。埋土中からは出土遺物はなかった。

時期　検出層位、埋土、出土遺物から古代の遺構と考えられる。

SP119（第 88 図）

3 区中央西端付近、SP113 の西南側約 1.5 ｍで検出した。円形で直径 39㎝、深さ 10㎝で、断面形状は浅い皿状を呈する。遺物を含む窪地状の遺構と考えられる。埋土中からは平瓦片が出土した。

遺物　**413** は平瓦。凹面には模骨痕、凸面には縄目痕が明瞭に残る。側縁端部は凹面、凸面側から面取りする。

時期　検出層位、埋土、出土遺物から古代の遺構と考えられる。

SP120（第 88 図）

3 区中央付近、SB04-SP137 の西に接して検出した。円形で直径 18㎝、深さ 12㎝を測る。埋土中からは出土遺物はなかった。

時期　検出層位、埋土から古代の遺構と考えられる。

SP123（第 88 図）

3 区北端付近で検出した。長楕円形で長軸 123㎝、短軸 92㎝、深さ 45㎝を測る。埋土中からは出土遺物はなかった。

時期　検出層位、埋土から古代の遺構と考えられる。

SP127・SP128（第 89 図）

3 区南端付近、SB06 の北側約 0.5 ｍでこれとほぼ並行して並ぶ 2 個の石を検出した。2 個の石の間の距離は 1.8 ｍ（6 尺）である。柱の礎石または柱穴の根石と考えられる。石の上面の標高は隣接する SB06 の掘り込み面より 10㎝程度高い。石の大きさはともに 33㎝× 18㎝程度である。SP128 から東では検出できなかったが、SP127 より西側は調査区外に延びる可能性がある。

時期　柱穴の根石であれば、本来の柱穴の掘り込み面は明らかにはできなかったが、周囲の遺構の検出状況から古代の遺構の可能性が高いと考えられる。

SP132（第 89 図）

2区中央西端付近、SA01を構成するSP23と重複し検出した。遺構の前後関係によりSP132の方が古い。楕円形で長軸 48㎝、短軸 36㎝、深さ 12㎝を測る。埋土中からは出土遺物はなかった。

時期　出土層位、埋土から古代の遺構と考えられる。SA01を構成するピットに掘り込まれることから、SA01 より古い。

SP133（第 89 図）

2 区南部、SX21 の礫の検出面で検出した。礫が被る部分もあり、SX21 より古い。概ね円形で直径 42cm、深さ 21cmを測る。埋土中の石は、設置された状態ではなく、SX21 の礫が落ち込んだものであろう。埋土中からは平瓦片が出土した。

遺物　**414** は平瓦。凹面には模骨痕を残す。凸面は縄目痕が残るが、ナデにより部分的に消えている。瓦の製作技法は SX21 に似る。

時期　出土層位、埋土、出土遺物から古代の遺構と考えられる。古代整地層 2 に伴う地業のための遺構と考えられる SX21 が上面を覆うことから、これより古い。

SP134（第 89 図）

2 区中央西端付近、SA01 の中央付近で検出した。円形で直径 30cm、深さ 12cmを測る。埋土中からは出土遺物はなかった。

時期　出土層位、埋土から古代の遺構と考えられる。

SP135（第 89 図）

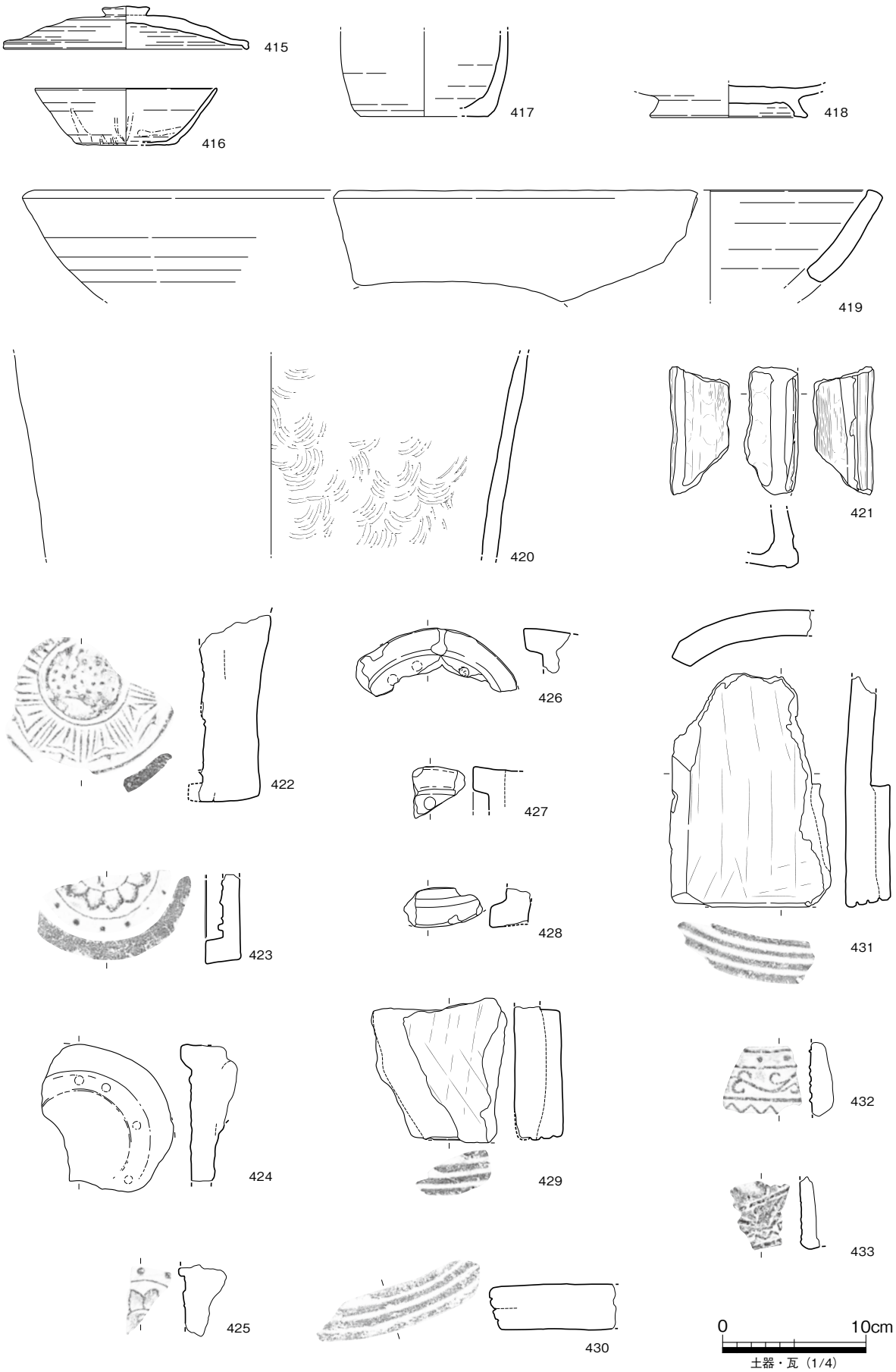
2 区西南部付近、SA01 の南部付近で SA01 の東側約 0.8m の位置で検出した。楕円形で長軸 34cm、短軸 24cm、深さ 15cmを測る。直径 16cm程度の柱痕が残る。埋土中からは出土遺物はなかった。

時期　出土層位、埋土から古代の遺構と考えられる。

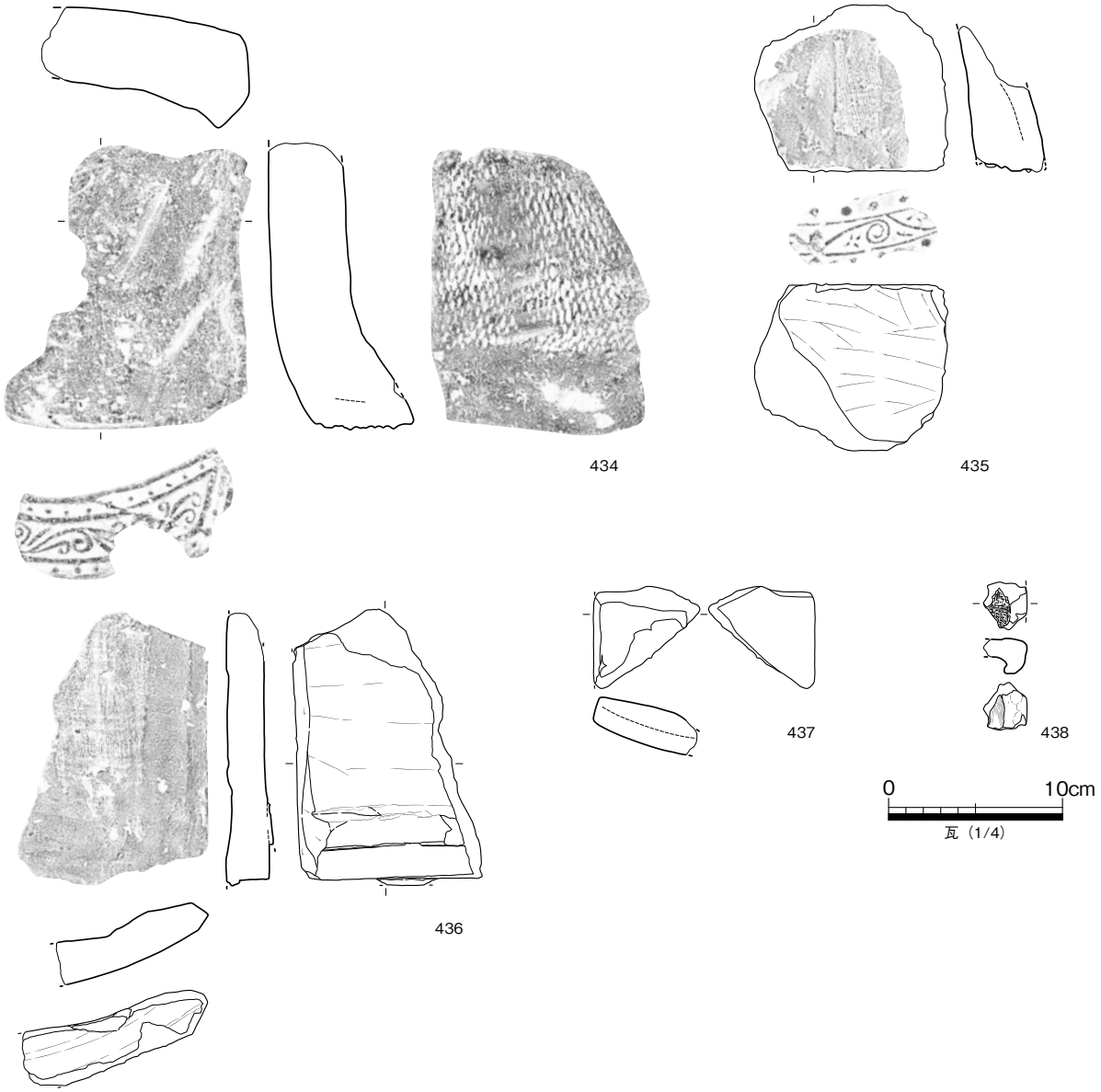
(6) 遺構外出土遺物（第 90・91 図）

2・3 区の概ね SA01 より西側、掘立柱建物群の調査途上で出土した遺物である。

415 ～ 420 は須恵器。**415** は蓋。**416** は杯。外面に火襷がかかる。**417** は壺。**418** は壺底部。**419** は SA01 の北方の撹乱から出土した盤である。接合はしないものの、同一個体とみられる破片が古代整地層 2 や施設群廃絶後堆積層から出土しており、本来は古代整地層 2 に伴っていた可能性が高い。**420** は甑か。焼成は土師器であるが、内面に青海波文の当て具痕があり、焼成不良の須恵器であろう。**421** は土師器竈。焚き口の鍔部分の一部が残る。**422 ～ 428** は軒丸瓦。**422** は SR103A 型式。中房は突出し、瓦当は厚い。**423・425** は SR105 型式。**424・426・427** は外縁に珠文が残る。**424** は内区は摩滅し、文様は不明である。瓦当裏面に接合粘土を厚く足した痕跡が残り、SR105 型式の製作技法と共通する。**424・426・427** は、珠文、額縁、瓦当の大きさから SR105 型式の可能性が高い。**428** は額縁のみ残る。**429 ～ 436** は軒平瓦。**429 ～ 431** は SR201 型式。いずれも平瓦の先端に幅 8cm、厚さ 1.2cm程度の帯状の粘土を足し、瓦当とする。**431** の平瓦部分の側縁は凹凸両面から面取りする。**432・433** は SR202 型式瓦当小片。ともに厚さ 1 ～ 1.5cm程度剥離する。上側の外区は珠文、下側の外区は鋸歯文である。SR202 型式の製作技法は、平面の下部に接合粘土を足して顎を作り、その先端に厚さ 1 ～ 1.5cm程度の板状粘土を貼り、瓦当文様を付ける。**434** は SR203A 型式。右側上部に斜め方向の范傷がある。瓦当部分は、凹面・凸面両側と瓦当面に粘土を足す包み込み技法によって作り、曲線顎としている。凸面には縄目が全体に残り、顎部分について縄目をナデ消す。山下岡前遺跡で出土した他の SR203A 型式とは顎の形態や平瓦の調整方法が異なる。**435** は SR204 型式。**436** は軒平瓦で瓦当面が剥離したもの。顎部分と瓦当の剥離痕がある。顎を幅 4cm程度の粘土を貼り付けて瓦当面を作り、その端部に粘土を貼



第 90 図　谷部遺構外 出土遺物実測図 1



第 91 図　谷部遺構外 出土遺物実測図 2

り付けて瓦当面としたと考えられる。**432・433** のように薄く剥離した瓦当面が貼り付けられると考えられ、製作技法の特徴から SR202 型式と考えられる。凸面に接合粘土の痕跡が残り、調整はナデ消している。凹面には模骨痕が残る。**437** は摩滅が著しいが、軒平瓦の瓦当が剝れたものである可能性もある。**438** は凹面に布目が残る。瓦小片。

416 は 10 世紀前葉（Ⅳ期中相）に位置づけられる。白鳥廃寺跡 1 ～ 3 次調査出土資料を含めて、10 世紀前後の資料でもっとも新しい時期を示すのが本資料である。現時点では、この資料を根拠に白鳥廃寺跡伽藍域の下限時期を 10 世紀前葉と考えておく。

（註）

(2) 乗松真也･中里伸明 2005「香川県西部地域における後期古墳の階層性と鉄鏃」『香川県埋蔵文化財センター研究紀要』Ⅰ .pp.63-88

(3) 乗松真也 2021「白鳥廃寺跡の伽藍配置と変遷　―1 ～ 3 次調査の再検討―」香川県埋蔵文化財センター編『香川県埋蔵文化財センター年報　令和元年度』香川県埋蔵文化財センター

(4) 亀田修一・亀田菜穂子 1998「塑像螺髪に関する覚書」『網干善教先生古稀記念　下」網干善教先生古稀記念会

第４章　自然科学分析

第１節　放射性炭素年代測定 (令和元年度実施)

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
伊藤　茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹
Zaur Lomtatidze・小林克也

1　はじめに

香川県東かがわ市の山下岡前遺跡から出土した試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。また、同一試料の樹種同定も行われている（第４章第３節　樹種同定を参照）。

2　試料と方法

試料は、3 区の SP13-SB02 から出土した柱（試料 No.1）、SP12-SB02 から出土した柱（試料 No.2）、SP52-SB03 から出土した柱（試料 No.3）、SP93-SB04 から出土した柱（試料 No.4）の、計４点である。試料 No.1 ～ 3 はウィグルマッチング法を用いた年代測定を、試料 No.4 は単体での年代測定を行なった。発掘調査所見では、いずれの遺構も８世紀前葉以降と考えられている。

SP13-SB02 から出土した試料 No.1 の樹種はヒノキ、年輪数は 165 年で、最終形成年輪は残っていなかった。試料の採取位置は、外側から１～５年輪目（PLD-39953）、81 ～ 85 年輪目（PLD-39954）、161 ～ 165 年輪目（PLD-39955）の３か所である。

SP12-SB02 から出土した試料 No.2 の樹種はヒノキ、年輪数は 151 年で、最終形成年輪は残っていなかったが、辺材部が残っていた。試料の採取位置は、外側から１～５年輪目（PLD-39956）、71 ～ 75 年輪目（PLD-39957）、146 ～ 150 年輪目（PLD-39958）の３か所である。

SP52-SB03 から出土した試料 No.3 の樹種はヒノキ、年輪数は 63 年で、最終形成年輪は残っていなかったが、辺材部が残っていた。試料の採取位置は、外側から１～５年輪目（PLD-39959）、26 ～ 30 年輪目（PLD-39960）、56 ～ 60 年輪目（PLD-39961）の３か所である。

SP93-SB04 から出土した試料 No.4（PLD-39962）の樹種はマツ属複維管束亜属で、最終形成年輪は残っていなかった。測定試料の情報、調製データは第１、２表のとおりである。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C 年代、暦年代を算出した。

3　結果

第３～６表に同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、第３～５表にはさらにウィグルマッチング結果を、第 92 ～ 94 図にウィグルマッチング結果を、第 95 図に単体測定試料の暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下１桁を丸

めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C 年代（yrBP）の算出には、^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差（± 1 σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示す。

なお、暦年較正、ウィグルマッチング法の詳細は以下のとおりである。

[暦年較正]

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い（^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.3（較正曲線データ:IntCal13）を使用した。なお、1 σ暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2 σ暦年代範囲は 95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

[ウィグルマッチング法]

ウィグルマッチング法とは、複数の試料を測定し、それぞれの試料間の年代差の情報を用いて試料の年代パターンと較正曲線のパターンが最も一致する年代値を算出することによって、高精度で年代値を求める方法である。測定では、得られた年輪数が確認できる木材について、1 年毎或いは数年分をまとめた年輪を数点用意し、それぞれ年代測定を行う。個々の測定値から暦年較正を行い、得られた確率分布を最外試料と当該試料の中心値の差だけずらしてすべてを掛け合わせることにより最外試料の確率分布を算出し、年代範囲を求める。なお、得られた最外試料の年代範囲は、まとめた 5 年輪の中心の年代を表している。したがって、試料となった木材の最外年輪年代を得るためには、最外試料の中心よりも外側にある年輪数 2 年（2.5 年を小数以下切り捨て）を考慮する必要がある。

4　考察

以下、2 σ暦年代範囲（確率 95.4%）に着目して結果を整理する。

SP13-SB02 の試料 No.1 の最外年輪年代は 587-652 cal AD (95.4%) で、6 世紀後半～ 7 世紀中頃の暦年代を示した。これは、古墳時代後期～飛鳥時代に相当する。なお、試料 No.1 には最終形成年輪は残っていなかった。木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。今回の測定結果は古木効果の影響を受けている可能性があり、その場合、実際に枯死もしくは伐採された年代は測定結果よりも新しい年代であると考えられる。

SP12-SB02 の試料 No.2 の最外年輪年代は 427-472 cal AD (95.4%) で、5 世紀代の暦年代を示した。これは、古墳時代中期に相当する。なお、試料 No.2 には最終形成年輪は残っていないが、辺材部が残っていた。よって、試料 No.2 は木材が実際に伐採された年代に近い年代を示していると考えられる。

SP52-SB03 の試料 No.3 の最外年輪年代は 487-540 cal AD (95.4%) で、5 世紀後半～ 6 世紀前半の暦年

代を示した。これは、古墳時代中期～後期に相当する。なお、試料 No.3 には最終形成年輪は残っていないが、辺材部が残っていた。よって、試料 No.3 は木材が実際に伐採された年代に近い年代を示していると考えられる。

SP93-SB04 の試料 No.4 は 589-654 cal AD (95.4%) で、6 世紀後半～ 7 世紀中頃の暦年代を示した。これは、古墳時代後期～飛鳥時代に相当する。なお、試料 No.4 には最終形成年輪は残っていなかったため、測定結果は古木効果の影響を受けていると考えられる。

発掘調査所見では、いずれも８世紀以降の柱と考えられているが、試料 No.2 は５世紀代、試料 No.3 は５～６世紀、試料 No.1、4 は６～７世紀の暦年代を示した。試料 No.1 と 4 については、古木効果の影響により古い暦年代を示している可能性と、転用材であるために古い暦年代を示している可能性、あるいはその両方が影響している可能性が考えられる。試料 No.2 と 3 は辺材部を測定しているため、古木効果の影響で古い暦年代を示したとは考え難く、転用材を利用していた可能性が高い。

参考文献

Bronk Ramsey, C., van der Plicht, J., and Weninger, B. (2001) ‘Wiggle matching’ radiocarbon dates. Radiocarbon, 43(2A), 381-389.
Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の ^{14}C 年代編集委員会編「日本先史時代の ^{14}C 年代」日本第四紀学会, 3-20.

Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J.(2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0–50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

測定番号	遺跡・試料データ	報文番号	採取データ	前処理
PLD-39953	試料 No.1 調査区：3 区 グリッド：BI11 遺構：SP13-SB02 種類：生材（ヒノキ） 試料の性状：最終形成年輪以外 部位不明 年輪数：165 年 器種：柱 状態：dry	350	採取位置：外側から 1-5 年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-39954			採取位置：外側から 81-85 年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-39955			採取位置：外側から 161-165 年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-39956	試料 No.2 調査区：3 区 グリッド：BH09 遺構：SP12-SB02 種類：生材（ヒノキ） 試料の性状：辺材部 年輪数：151 年 器種：柱 状態：dry	328	採取位置：外側から 1-5 年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-39957			採取位置：外側から 71-75 年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-39958			採取位置：外側から 146-150 年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-39959	試料 No.3 調査区：3 区 グリッド：BH11 遺構：SP52-SB03 種類：生材（ヒノキ） 試料の性状：辺材部 年輪数：63 年 器種：柱 状態：dry	359	採取位置：外側から 1-5 年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-39960			採取位置：外側から 26-30 年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-39961			採取位置：外側から 56-60 年輪目	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）

第１表　ウィグルマッチング測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-39962	試料 No.4 調査区：3 区 遺構：SP93-SB04	種類：生材（マツ属複維管束亜属） 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 器種：柱 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）

第２表　単体測定試料および処理

測定番号	δ^{13}C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP ± 1 σ)	^{14}C 年代 (yrBP ± 1 σ)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲
PLD-39953 試料 No.1 外側から 1-5 年輪目	-23.30 ± 0.21	1429 ± 20	1430 ± 20	615-645 cal AD (68.2%)	594-655 cal AD (95.4%)
PLD-39954 試料 No.1 外側から 81-85 年輪目	-22.74 ± 0.19	1550 ± 21	1550 ± 20	432-491 cal AD (54.0%) 531-547 cal AD (14.2%)	427-560 cal AD (95.4%)
PLD-39955 試料 No.1 外側から 161-165 年輪目	-24.23 ± 0.12	1598 ± 20	1600 ± 20	417-433 cal AD (16.8%) 460-466 cal AD (4.3%) 489-533 cal AD (47.1%)	409-477 cal AD (44.1%) 483-536 cal AD (51.3%)
		最外試料年代		611-632 cal AD (68.2%)	585-650 cal AD (95.4%)
		最外年輪年代		613-634 cal AD (68.2%)	587-652 cal AD (95.4%)

第３表　試料 No.1（350）の放射性炭素年代測定、暦年較正、ウィグルマッチングの結果

測定番号	δ ^{13}C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP ± 1 σ)	^{14}C 年代 (yrBP ± 1 σ)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲
PLD-39956 試料 No.2 外側から 1-5 年輪目	-26.64 ± 0.14	1579 ± 20	1580 ± 20	427-435 cal AD (6.6%) 448-472 cal AD (19.3%) 487-534 cal AD (42.3%)	422-539 cal AD (95.4%)
PLD-39957 試料 No.2 外側から 71-75 年輪目	-26.02 ± 0.18	1677 ± 20	1675 ± 20	345-398 cal AD (68.2%)	265-272 cal AD (1.6%) 331-415 cal AD (93.8%)
PLD-39958 試料 No.2 外側から 146-150 年輪目	-28.09 ± 0.13	1786 ± 20	1785 ± 20	217-258 cal AD (42.5%) 284-322 cal AD (25.7%)	140-198 cal AD (15.3%) 208-262 cal AD (48.7%) 277-328 cal AD (31.4%)
		最外試料年代		446-466 cal AD (68.2%)	425-470 cal AD (95.4%)
		最外年輪年代		448-468 cal AD (68.2%)	427-472 cal AD (95.4%)

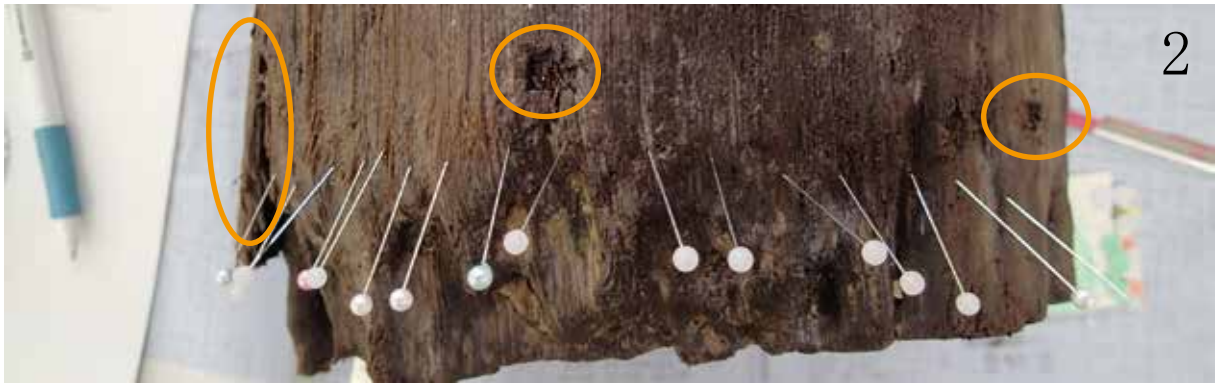
第４表　試料 No.2（328）の放射性炭素年代測定、暦年較正、ウィグルマッチングの結果

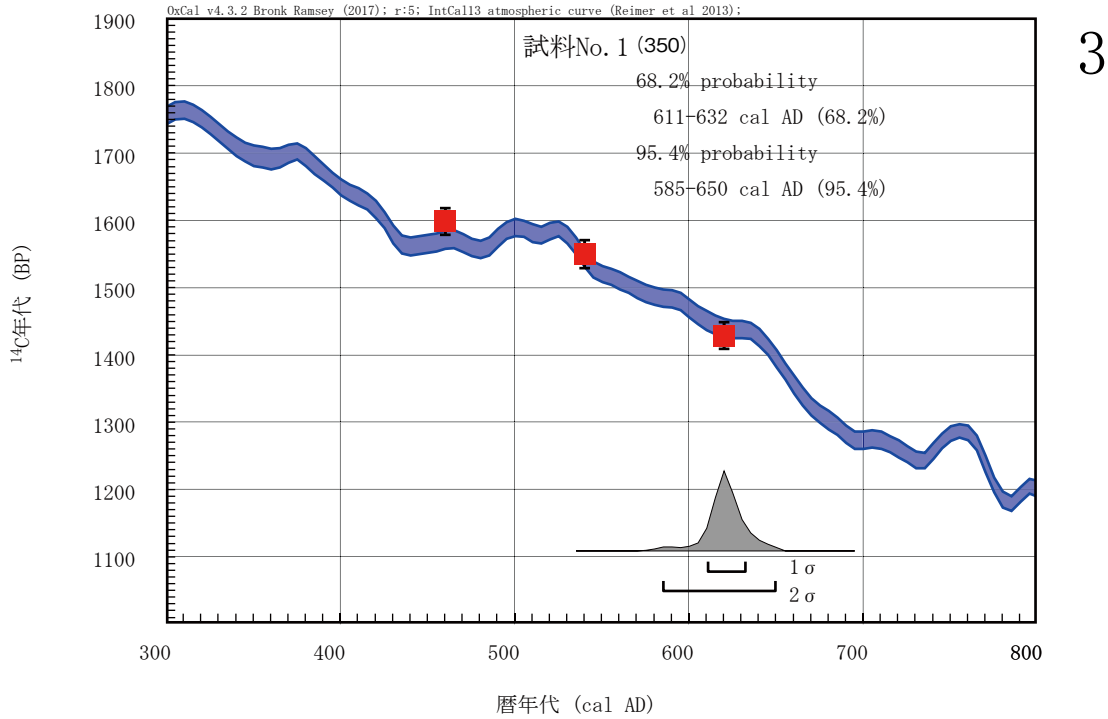
測定番号	δ ^{13}C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP ± 1 σ)	^{14}C 年代 (yrBP ± 1 σ)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲
PLD-39959 試料 No.3 外側から 1-5 年輪目	-24.63 ± 0.16	1602 ± 20	1600 ± 20	413-433 cal AD (22.2%) 490-532 cal AD (46.0%)	404-475 cal AD (46.1%) 484-536 cal AD (49.3%)
PLD-39960 試料 No.3 外側から 26-30 年輪目	-24.97 ± 0.25	1622 ± 21	1620 ± 20	396-429 cal AD (54.1%) 495-508 cal AD (10.2%) 521-527 cal AD (3.9%)	385-438 cal AD (61.4%) 444-473 cal AD (5.7%) 486-535 cal AD (28.3%)
PLD-39961 試料 No.3 外側から 56-60 年輪目	-24.13 ± 0.14	1571 ± 20	1570 ± 20	430-476 cal AD (42.7%) 484-494 cal AD (9.1%) 509-519 cal AD (9.1%) 528-536 cal AD (7.4%)	425-541 cal AD (95.4%)
		最外試料年代		515-534 cal AD (68.2%)	485-538 cal AD (95.4%)
		最外年輪年代		517-536 cal AD (68.2%)	487-540 cal AD (95.4%)

第５表　試料 No.3（359）の放射性炭素年代測定、暦年較正、ウィグルマッチングの結果

測定番号	δ ^{13}C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP ± 1 σ)	^{14}C 年代 (yrBP ± 1 σ)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲
PLD-39962 試料 No.4	-26.20 ± 0.17	1431 ± 21	1430 ± 20	611-645 cal AD (68.2%)	589-654 cal AD (95.4%)

第６表　試料 No.4　単体測定試料の放射性炭素年代測定および暦年軟正の結果



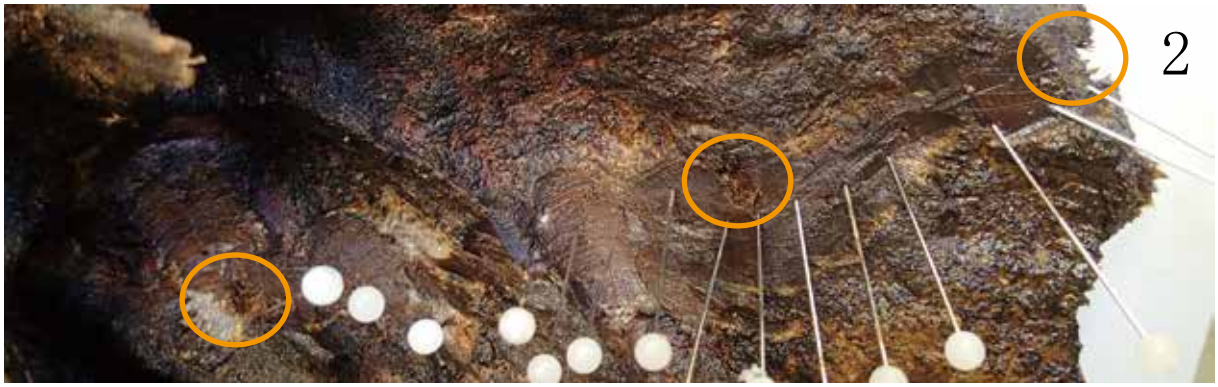


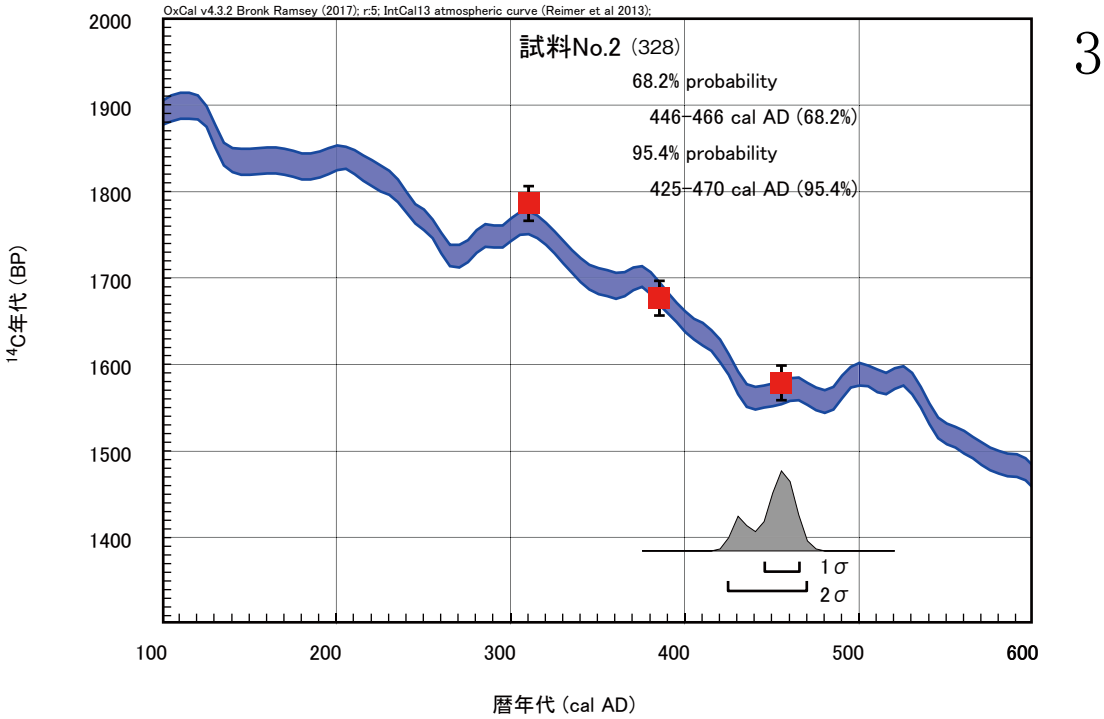
第 92 図　ウィグルマッチングを行なった試料（ピンの間隔は 10 年輪）（1）

1．試料 No. 1　年輪計測結果

2．試料 No. 1　測定結果の採取位置（PLD-39953 ～ 39955）

3．試料 No. 1　ウィグルマッチング結果



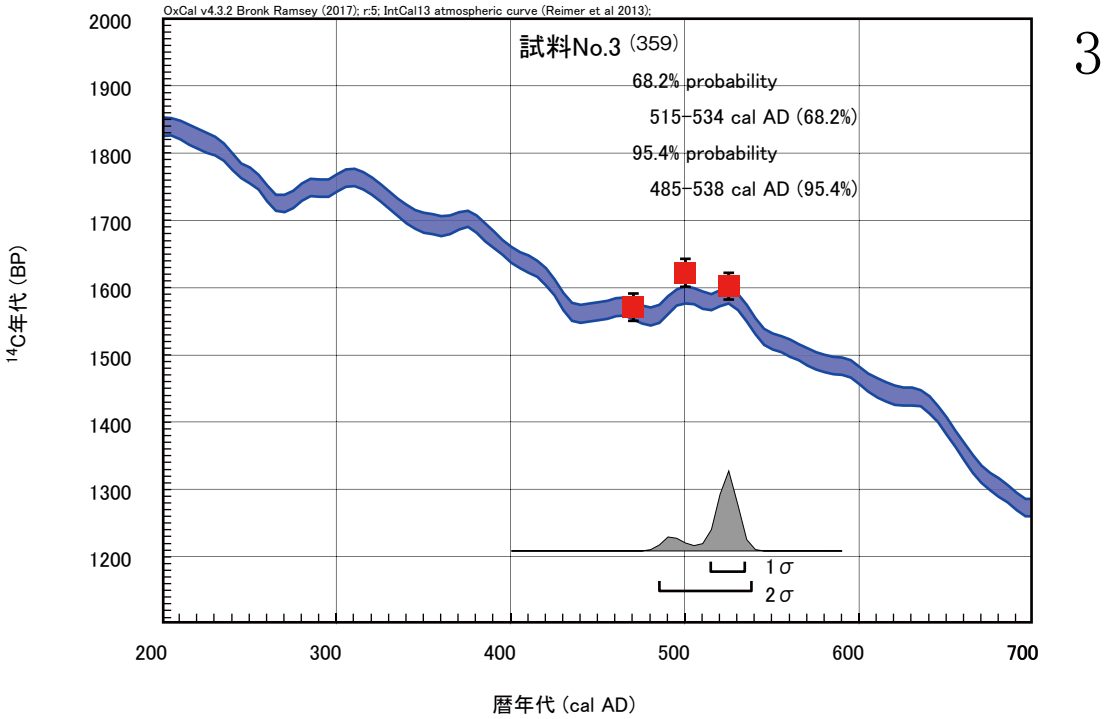


第 93 図　ウィグルマッチングを行なった試料（ピンの間隔は 10 年輪）（2）

1．試料 No. 2　年輪計測結果

2．試料 No. 2　測定結果の採取位置（PLD-39956 ～ 39958）

3．試料 No. 2　ウィグルマッチング結果

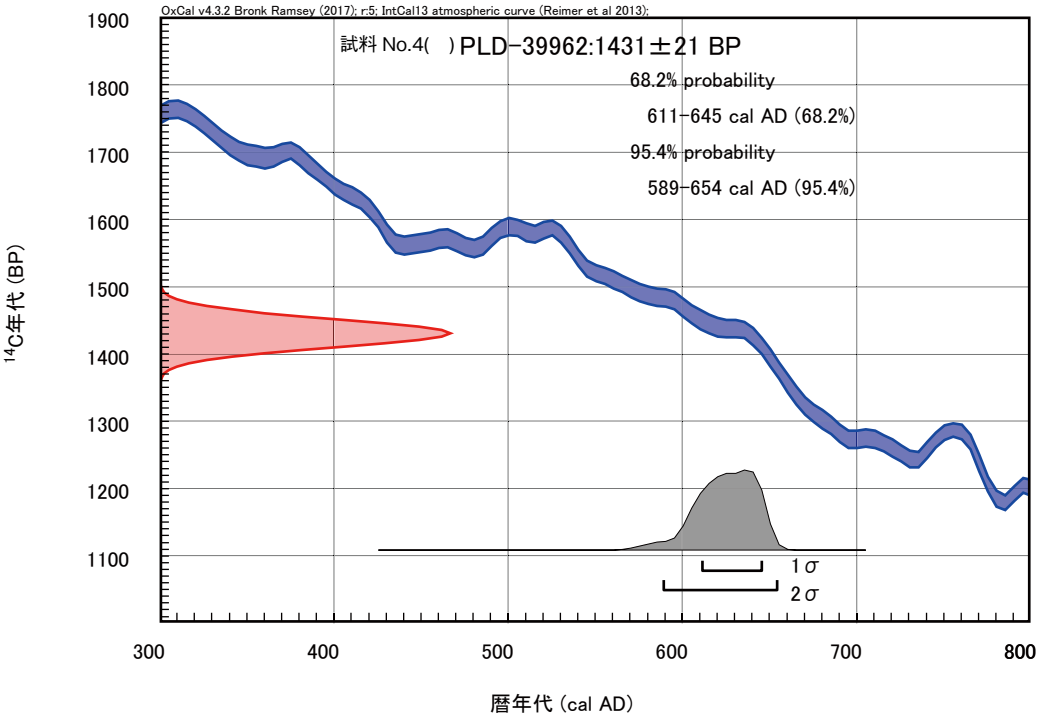


第 94 図　ウィグルマッチングを行なった試料（ピンの間隔は 10 年輪）（3）

1．試料 No. 3　年輪計測結果

2．試料 No. 3　測定結果の採取位置（PLD-39959 ～ 39961）

3．試料 No. 3　ウィグルマッチング結果



第 95 図　単体測定試料の年代測定結果

第 2 節　放射性炭素年代測定（令和 2 年度実施）

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
伊藤　茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹
Zaur Lomtatidze・小林克也

1　はじめに

香川県東かがわ市の山下岡前遺跡で出土した試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った。なお、同一試料を用いて樹種同定も行われている（第 4 章第 3 節　樹種同定参照）。

2　試料と方法

試料は、2 区 SP21-SA01 の試料 No.1（PLD-41535）、2 区 SP20-SA01 の試料 No.2（PLD-41536）、3 区 SP33-SB01 の試料 No.3（PLD-41537）、3 区 SP61-SB03 の試料 No.4（PLD-41538）、3 区 SP38-SB04 の試料 No.5（PLD-41539）、3 区 SP54-SB05 の試料 No.6（PLD-41540）、2 区 SP77-SB05 の試料 No.7（PLD-41541）、3 区 SP41-SB02 の試料 No.8（PLD-41542）、3 区 SP84-SB03 の試料 No.9（PLD-41543）、3 区 SP99-SB03 の試料 No.10（PLD-41544）、3 区 SP94-SB04 の試料 No.11（PLD-41545）の、計 11 点の出土生材である。

いずれの試料も最終形成年輪は残っていなかったが、試料 No.4、5、8、11 は辺材部が残っていた。また樹種同定の結果、試料 No.7 はカヤ、試料 No.1、3 ～ 5、8 ～ 11 はヒノキ、試料 No.2 はアスナロ、試料 No.6 はクスノキ科であった。測定試料の情報、調製データは第 7 表のとおりである。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C 年代、暦年代を算出した。

3　結果

第 8 表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、暦年較正結果を、第 96 図マルチプロット図を、第 97・98 図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C 年代（yrBP）の算出には、^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差（± 1 σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2％であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い（^{14}C の半減期 5730 ± 40 年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.3（較正曲線データ:IntCal20）を使用した。なお、1 σ暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2％信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2 σ暦年代範囲は 95.4％信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

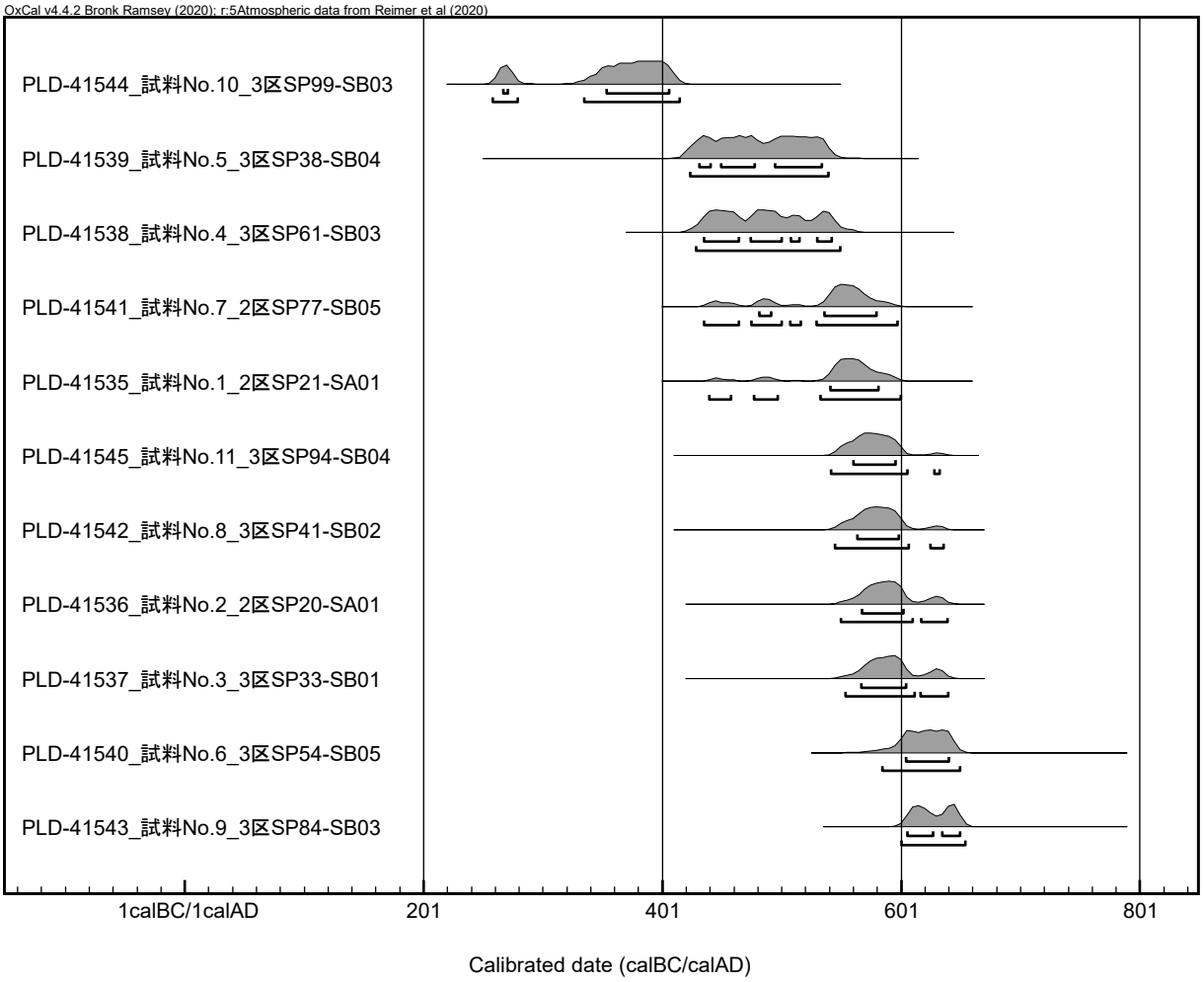
4　考察

以下、2 σ暦年代範囲（確率 95.4％）に着目して、暦年代の古い順に結果を整理する。

3 区 SP99-SB03 の試料 No.10（PLD-41544）は、260-278 cal AD (15.2%) および 337-414 cal AD (80.2%) で、3 世紀中頃～ 5 世紀前半の暦年代を示した。これは、古墳時代前期～中期に相当する。

3 区 SP38-SB04 の試料 No.5（PLD-41539）は 423-540 cal AD (95.4%)、3 区 SP61-SB03 の試料 No.4（PLD-41538）は 429-549 cal AD (95.4%) で、いずれも 5 世紀前半～ 6 世紀中頃の暦年代を示した。これは、古墳時代中期～後期に相当する。

2 区 SP77-SB05 の試料 No.7（PLD-41541）は 436-464 cal AD (10.2%)、475-500 cal AD (12.4%)、508-516 cal AD (1.5%)、530-597 cal AD (71.2%)、2 区 SP21-SA01 の試料 No.1（PLD-41535）は 439-451 cal AD (3.0%)、454-460 cal AD (1.1%)、478-496 cal AD (6.3%)、534-600 cal AD (85.1%) で、いずれも 5 世紀



第 96 図　マルチプロット図

前半～ 6 世紀末の暦年代を示した。これは、古墳時代中期～飛鳥時代に相当する。

3 区 SP94-SB04 の試料 No.11（PLD-41545）は 543-605 cal AD (93.9%) および 628-634 cal AD (1.5%)、3 区 SP41-SB02 の試料 No.8（PLD-41542）は 545-606 cal AD (91.2%) および 625-636 cal AD (4.2%)、2 区 SP20-SA01 の試料 No.2（PLD-41536）は 551-609 cal AD (83.6%) および 619-639 cal AD (11.8%)、3 区 SP33-SB01 の試料 No.3（PLD-41537）は 554-610 cal AD (80.1%) および 617-640 cal AD (15.3%) で、いずれも 6 世紀中頃～ 7 世紀前半の暦年代を示した。これは、古墳時代後期～飛鳥時代に相当する。

3 区 SP54-SB05 の試料 No.6（PLD-41540）は 587-650 cal AD (95.4%) で、6 世紀後半～ 7 世紀中頃の暦年代を示した。これは、古墳時代後期末～飛鳥時代に相当する。

3 区 SP84-SB03 の試料 No.9（PLD-41543）は 602-653 cal AD (95.4%) で、7 世紀初頭～中頃の暦年代を示した。これは、飛鳥時代に相当する。

なお、木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。今回の試料はいずれも最終形成年輪が残っていなかったため、測定結果は古木効果の影響を受けていると考えられ、試料の木が実際に枯死もしくは伐採された年代は、測定結果よりもやや新しい年代であると考えられる。ただし、試料 No.4、5、8、11 は辺材部が残っていたため、測定結果は枯死もしくは伐採された年代に近い年代を示していると考えられる。

参考文献

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の 14C 年代編集委員会編「日本先史時代の 14C 年代」：3-20，日本第四紀学会.

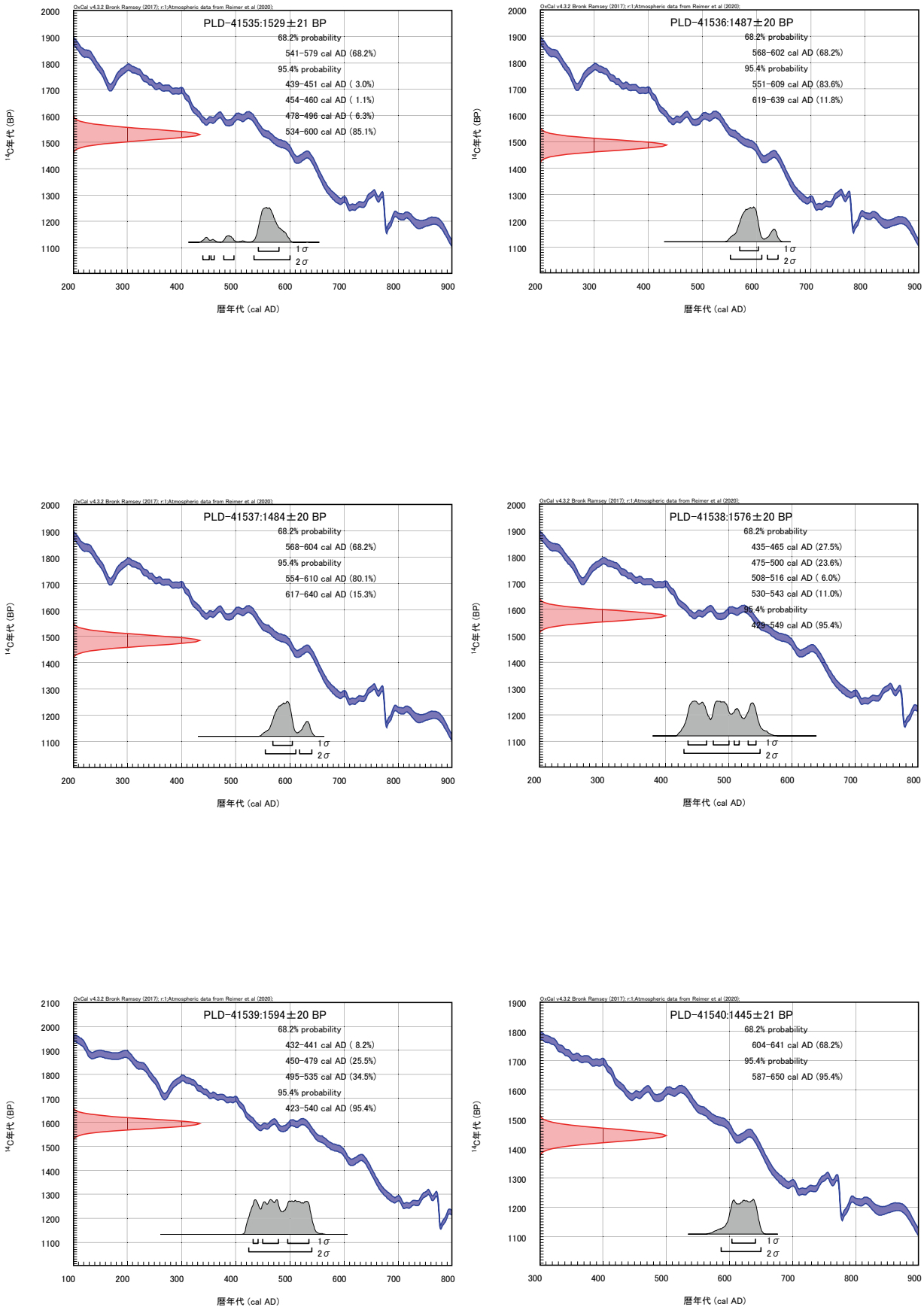
Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62(4), 1-33, doi:10.1017/RDC.2020.41. https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41 (cited 12 August 2020)

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-41535	試料 No.1 調査区：2 区 遺構：SP21-SA01 遺物 No.P0140	種類：生材（ヒノキ） 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 器種：柱 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41536	試料 No.2 調査区：2 区 遺構：SP20-SA01 遺物 No.P0149	種類：生材（アスナロ） 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 器種：柱 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41537	試料 No.3 調査区：3 区 遺構：SP33-SB01 遺物 No.P0193	種類：生材（ヒノキ） 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 器種：柱 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41538	試料 No.4 調査区：3 区 遺構：SP61-SB03 位置：BH10 遺物 No.P0139	種類：生材（ヒノキ） 試料の性状：辺材部 器種：柱 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41539	試料 No.5 調査区：3 区 遺構：SP38-SB04 位置：BH08 遺物 No.P0049	種類：生材（ヒノキ） 試料の性状：辺材部 器種：柱 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41540	試料 No.6 調査区：3 区 遺構：SP54-SB05 位置：BG10 遺物 No.P0121	種類：生材（クスノキ科） 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 器種：柱 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41541	試料 No.7 調査区：2 区 遺構：SP77-SB05 位置：BH10 遺物 No.P0158	種類：生材（カヤ） 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 器種：柱 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41542	試料 No.8 調査区：3 区 遺構：SP41-SB02 位置：BG10 遺物 No.P0055	種類：生材（ヒノキ） 試料の性状：辺材部 器種：柱 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41543	試料 No.9 調査区：3 区 遺構：SP84-SB03 遺物 No.P0209	種類：生材（ヒノキ） 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 器種：柱 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41544	試料 No.10 調査区：3 区 遺構：SP99-SB03 遺物 No.P0219	種類：生材（ヒノキ） 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 器種：柱 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）
PLD-41545	試料 No.11 調査区：3 区 遺構：SP94-SB04 遺物 No.P0182	種類：生材（ヒノキ） 試料の性状：辺材部 器種：柱 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）

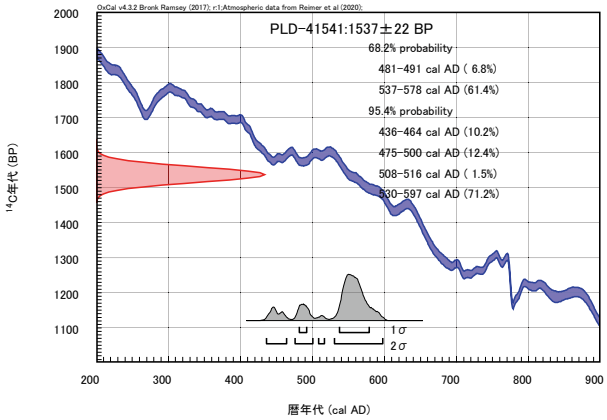
第７表　測定試料および処理

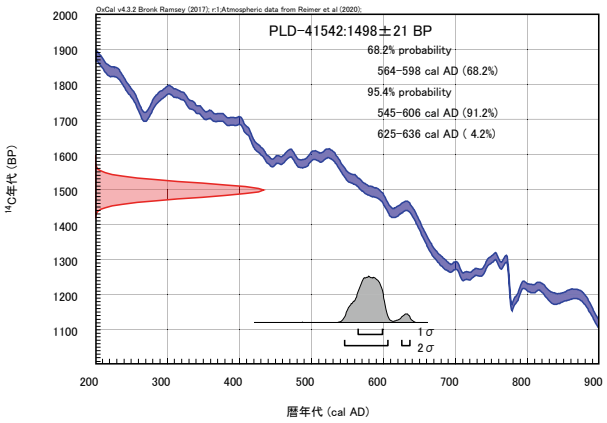
測定番号	δ 13C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP ± 1 σ)	14C 年代 (yrBP ± 1 σ)	14C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲
PLD-41535 試料 No.1 遺物 No.P0140	-25.09 ± 0.31	1529 ± 21	1530 ± 20	541-579 cal AD (68.2%)	439-451 cal AD (3.0%) 454-460 cal AD (1.1%) 478-496 cal AD (6.3%) 534-600 cal AD (85.1%)
PLD-41536 試料 No.2 遺物 No.P0149	-25.09 ± 0.23	1487 ± 20	1485 ± 20	568-602 cal AD (68.2%)	551-609 cal AD (83.6%) 619-639 cal AD (11.8%)
PLD-41537 試料 No.3 遺物 No.P0193	-26.36 ± 0.23	1484 ± 20	1485 ± 20	568-604 cal AD (68.2%)	554-610 cal AD (80.1%) 617-640 cal AD (15.3%)
PLD-41538 試料 No.4 遺物 No.P0139	-24.60 ± 0.24	1576 ± 20	1575 ± 20	435-465 cal AD (27.5%) 475-500 cal AD (23.6%) 508-516 cal AD (6.0%) 530-543 cal AD (11.0%)	429-549 cal AD (95.4%)
PLD-41539 試料 No.5 遺物 No.P0049	-23.19 ± 0.23	1594 ± 20	1595 ± 20	432-441 cal AD (8.2%) 450-479 cal AD (25.5%) 495-535 cal AD (34.5%)	423-540 cal AD (95.4%)
PLD-41540 試料 No.6 遺物 No.P0121	-27.97 ± 0.25	1445 ± 21	1445 ± 20	604-641 cal AD (68.2%)	587-650 cal AD (95.4%)
PLD-41541 試料 No.7 遺物 No.P0158	-22.27 ± 0.34	1537 ± 22	1535 ± 20	481-491 cal AD (6.8%) 537-578 cal AD (61.4%)	436-464 cal AD (10.2%) 475-500 cal AD (12.4%) 508-516 cal AD (1.5%) 530-597 cal AD (71.2%)
PLD-41542 試料 No.8 遺物 No.P0055	-24.80 ± 0.27	1498 ± 21	1500 ± 20	564-598 cal AD (68.2%)	545-606 cal AD (91.2%) 625-636 cal AD (4.2%)
PLD-41543 試料 No.9 遺物 No.P0209	-26.31 ± 0.25	1423 ± 20	1425 ± 20	606-625 cal AD (39.7%) 637-649 cal AD (28.5%)	602-653 cal AD (95.4%)
PLD-41544 試料 No.10 遺物 No.P0219	-27.96 ± 0.22	1696 ± 20	1695 ± 20	266-272 cal AD (6.9%) 351-356 cal AD (5.7%) 361-406 cal AD (55.7%)	260-278 cal AD (15.2%) 337-414 cal AD (80.2%)
PLD-41545 試料 No.11 遺物 No.P0182	-26.11 ± 0.26	1504 ± 21	1505 ± 20	561-596 cal AD (68.2%)	543-605 cal AD (93.9%) 628-634 cal AD (1.5%)

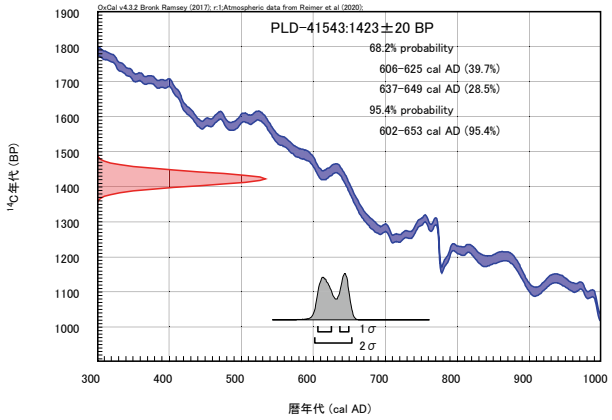
第８表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

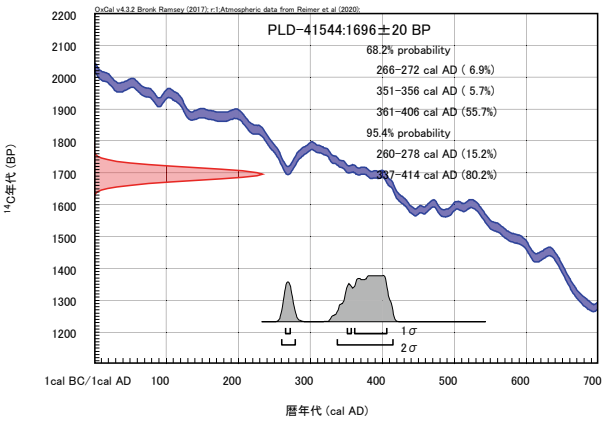


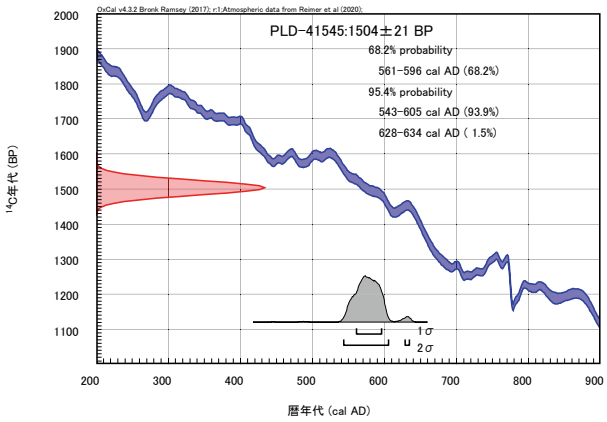
第 97 図　暦年較正結果（1）











第 98 図　暦年較正結果（2）

第３節　山下岡前遺跡出土木製品の樹種同定

小林克也（パレオ・ラボ）

1　はじめに

香川県東かがわ市の山下岡前遺跡から出土した木製品の樹種同定を行なった。なお、一部の試料を用いて放射性炭素年代測定も行った（第４章第１節・第２節参照）。

2　試料と方法

試料は、２区では柵跡であるSA01、柱穴であるSP74、３区ではSB01、SB02、SB03、SB04、SB05、SP100、SP37から出土した生材の柱、計20点である。時期については、いずれも８世紀以降と考えられている。各試料について、切片採取前に木取りの確認を行なった。

樹種同定は、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行なった。

3　結果

同定の結果、針葉樹ではマツ属複維管束亜属とカヤ、ヒノキ、アスナロの４分類群と、広葉樹ではクスノキ科１分類群の、計５分類群がみられた。ヒノキが15点で最も多く、クスノキ科が２点、マツ属複維管束亜属とカヤ、アスナロは各１点みられた。同定結果を第９表に、一覧を第10表に示す。

樹種	地区	2区				3区							合計
	遺構	SB01	SB05	SA01	SP74	SB01	SB02	SB03	SB04	SB05	SP100	SP37	
マツ属複維管束亜属									1				1
カヤ			1										1
ヒノキ		1		1	1	1	4	4	2		1		15
アスナロ				1									1
クスノキ科										1		1	2
	合計	1	1	2	1	1	4	4	3	1	1	1	20

第９表　山下岡前遺跡出土木製品の樹種同定結果

以下に、同定された材の特徴を記載し、図版に光学顕微鏡写真を示す。

(1) マツ属複維管束亜属　*Pinus* subgen. *Diploxylon*　マツ科　第99図　1a-1c(No.4)

仮道管と垂直および水平樹脂道、放射柔細胞および放射仮道管で構成される針葉樹である。放射組織は放射柔細胞と放射仮道管によって構成される。放射仮道管の内壁の肥厚は鋸歯状であり、分野壁孔は窓状となる。

マツ属複維管束亜属には、アカマツとクロマツがある。どちらも温帯から暖帯にかけて分布し、クロマツは海の近くに、アカマツは内陸地に生育しやすい。材質は類似し、重硬で切削等の加工は容易である。

(2) カヤ　*Torreya nucifera* (L.) Siebold et Zucc.　イチイ科　第99図　2a-2c(No.11)

仮道管と放射組織で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は単列で、1～5細胞高である。分野壁孔は小型のヒノキ型で、1分野に2～4個みられる。また、

仮道管の内壁には２本１対のらせん肥厚がみられる。

カヤは暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材は比較的重硬で弾力性に富み、切削等の加工は容易で、水湿によく耐える。

(3) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 第 99 図 3a-3c(No.8)、4c(No.1)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は単列で、高さ１～15 列である。分野壁孔はトウヒ～ヒノキ型で、１分野に２個みられる。

ヒノキは福島県以南の暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材はやや軽軟で加工しやすく、強度に優れ、耐朽性が高い。

(4) アスナロ *Thujopsis dolabrata* (L.f.) Siebold et Zucc. ヒノキ科 第 99 図 5a-5c(No.6)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行はやや急である。放射組織は単列で、高さ２～13 列となる。分野壁孔は小型のヒノキ～スギ型で、１分野に２～４個みられる。

アスナロは温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。針葉樹の中では比較的軽軟で、切削等の加工は比較的容易である。また精油分が多く、耐朽性に優れている。

(5) クスノキ科 Lauraceae 第 99 図 6a-6c(No.10)

小型の道管が単独ないし２～３個複合し、やや密に散在する散孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、1～2列となる。木部繊維内には、油細胞が認められる。

クスノキ科にはニッケイ属やタブノキ属、クロモジ属などがあり、暖帯を中心に分布する、主に常緑性の高木または低木である。

4 考察

樹種同定の結果、柱ではヒノキが最も多くみられ、クスノキ科が２点、マツ属複維管束亜属とカヤ、アスナロが各１点みられた。地区ごとにみると、２区ではヒノキ以外の樹種は、SA01 でアスナロ、3 区では SB04 でマツ属複維管束亜属、SB05 でカヤ、SB05 と SP37 でクスノキ科がみられた。

産出した針葉樹類はいずれも木理通直で真っすぐに生育し、加工性が良い。またマツ属複維管束亜属とカヤ、アスナロは、耐朽性が高い樹種である。またクスノキ科は、比較的堅硬な樹種で、耐朽性が高い樹種である（伊東ほか，2011）。柱材には、ヒノキと耐朽性の高い樹種が選択されていた可能性が考えられる。

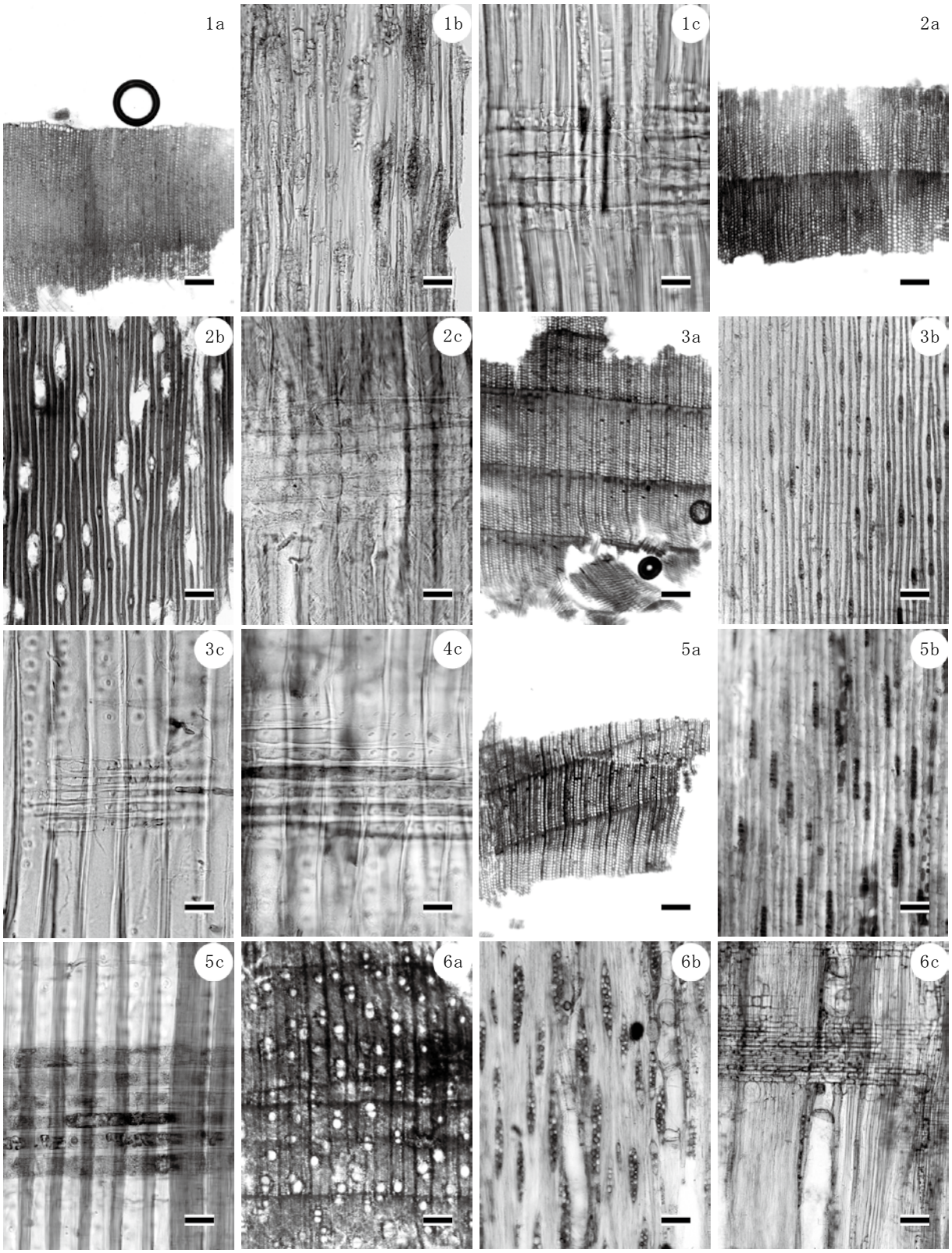
なお香川県内では、平安時代頃の柱にはヒノキが多くみられ、マツ属複維管束亜属とカヤ、アスナロも確認されており（伊東・山田編，2012）、山下岡前遺跡も柱の用材傾向は一致する。

引用文献

伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌．238p，海青社．
伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学―出土木製品用材データベース―．449p，海青社．

試料 No.	調査区	グリッド	遺構名	器種	樹種	木取り	時期	年代測定番号
1	3 区	BI11	SP13-SB02	柱	ヒノキ	芯去削出	8 世紀以降	PLD-39953 ～ 39955
2	3 区	BH09	SP12-SB02	柱	ヒノキ	芯持丸木	8 世紀以降	PLD-39956 ～ 39958
3	3 区	BH11	SP52-SB03	柱	ヒノキ	芯持丸木	8 世紀以降	PLD-39959 ～ 39961
4	3 区		SP93-SB04	柱	マツ属複維管束亜属	角材	8 世紀以降	PLD-39962
5	2 区		SP21-SA01	柱	ヒノキ	割れ	8 世紀以降	
6	2 区		SP20-SA01	柱	アスナロ	割れ	8 世紀以降	
7	3 区		SP33-SB01	柱	ヒノキ	割れ	8 世紀以降	
8	3 区	BH10	SP61-SB03	柱	ヒノキ	芯持丸木	8 世紀以降	
9	3 区	BH08	SP38-SB04	柱	ヒノキ	芯持丸木	8 世紀以降	
10	3 区	BG10	SP54-SB05	柱	クスノキ科	芯持丸木	8 世紀以降	
11	2 区	BH10	SP77-SB05	柱	カヤ	みかん割り	8 世紀以降	
12	2 区	BH09	SP33-SB01	柱	ヒノキ	割れ	8 世紀以降	
13	3 区	BG10	SP41-SB02	柱	ヒノキ	芯持丸木	8 世紀以降	
14	3 区	BG11	SP43-SB02	柱	ヒノキ	割れ	8 世紀以降	
15	3 区		SP84-SB03	柱	ヒノキ	割れ	8 世紀以降	
16	3 区		SP99-SB03	柱	ヒノキ	割れ	8 世紀以降	
17	3 区		SP94-SB04	柱	ヒノキ	割れ	8 世紀以降	
18	3 区	BH08	SP37	柱	クスノキ科	芯去削出	8 世紀以降	
19	2 区	BI07	SP74	柱	ヒノキ	割れ	8 世紀以降	
20	3 区		SP100	柱	ヒノキ	割れ	8 世紀以降	

第 10 表　山下岡前遺跡出土木製品の樹種同定結果一覧



第 99 図　山下岡前遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真

1a-1c. マツ属複維管束亜属 (No.4)、2a-2c. カヤ (No.11)、3a-3c. ヒノキ (No.8)、4c. ヒノキ (No.1)、5a-5c. アスナロ (No.6)、6a-6c. クスノキ科 (No.10)

a: 横断面 (スケール =250 μm)、b: 接線断面 (スケール =100 μm)、c: 放射断面 (スケール =1-5:25 μm・6:100 μm)

第５章　　まとめ

第１節　遺構の変遷

弥生時代後期後半（第 100 図）

１区丘陵部で竪穴建物１棟を検出した。周辺では当該期の遺構は確認されておらず、開発が活発に進んだ様子は認められない。

古墳時代 (第 101 図）

１区、東部丘陵部西斜面で４基の古墳を検出した。1 基は箱式石棺、他の３基は小型の竪穴式石室をもつ。竪穴式石室をもつ古墳は重複関係にあり、出土遺物から短期間のうちに築造されたことが分かる。２号墳から鉄鏃が 10 本、３号墳からは鉄鏃が２本出土している。出土遺物の時期から、２号墳は６世紀中頃以降、３号墳は７世紀初頭と考えられ、他の古墳もそれに近い時期が考えられる。

竪穴建物への流入土や丘陵上の流土から摩滅の進んだ円筒埴輪片が出土している。調査区内には該当する遺構は認められなかったが、丘陵頂部に埴輪を伴う古墳があったことも想定されよう。

古代

山下岡前遺跡の南側で県指定史跡白鳥廃寺が創建される。西側に金堂、東側に塔、北側に講堂を配する法起寺式の伽藍配置である。７世紀末の創建が想定され、出土遺物から 10 世紀前半頃廃絶したとされている。

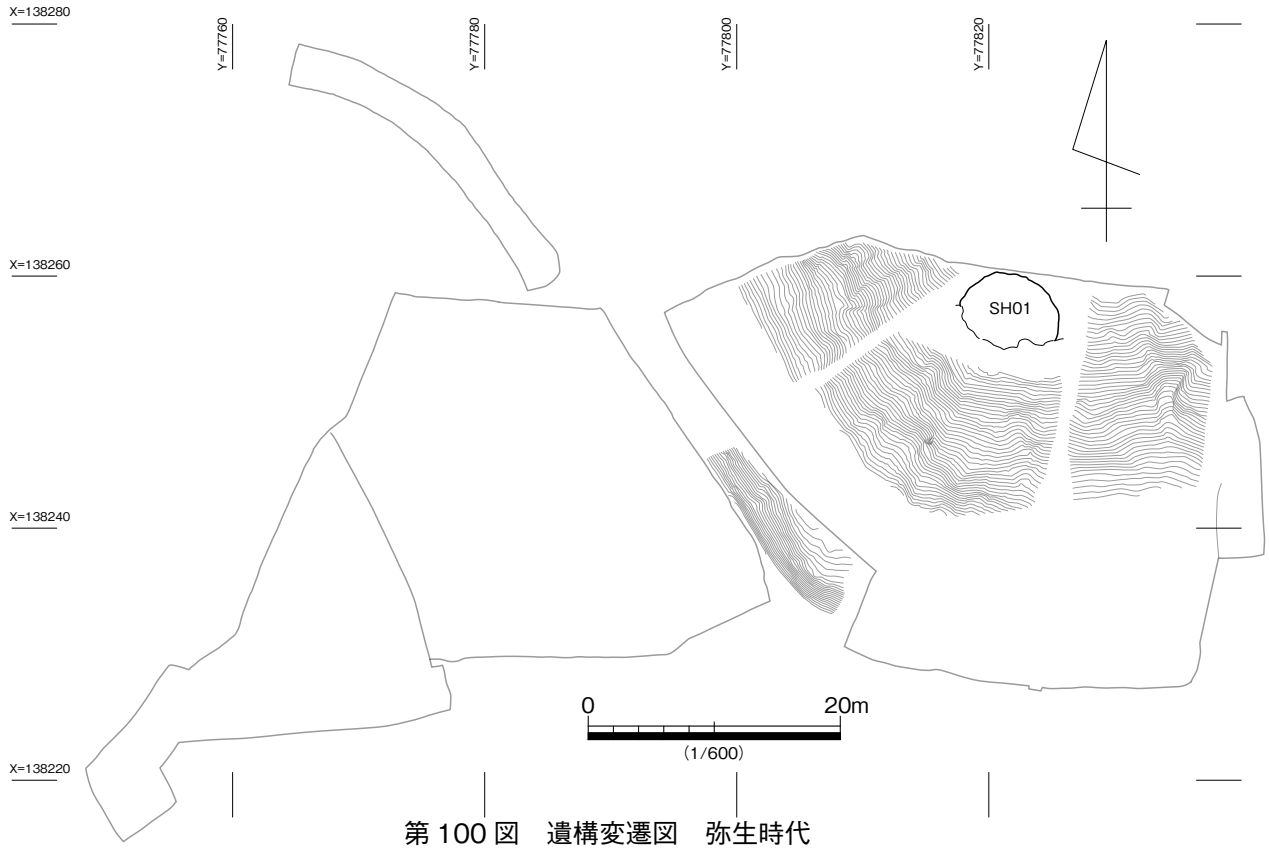
山下岡前遺跡では掘立柱建物６棟と柵１列、溝が５条検出された。これらの建物群は、立地と存続時期、規模から白鳥廃寺に関連する施設と考えられる。

建物群は、丘陵部に挟まれた谷筋を２度にわたって整地を行い建造された（古代整地層１・古代整地層 2)。建物群は、掘り込む整地層面の違いから、古代 1、古代２に細分され、古代２は柱穴の先後関係からさらに１期～３期に細分できると考えられる。

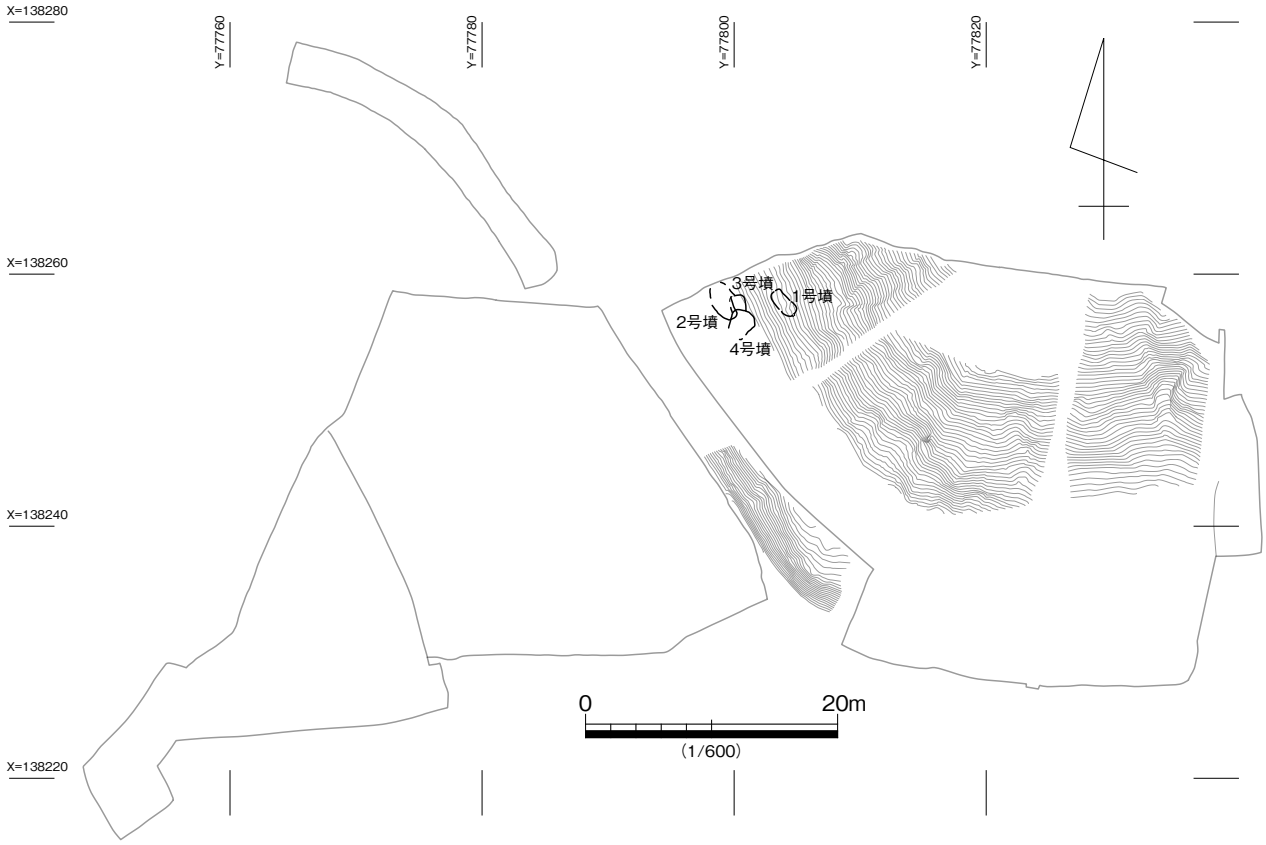
古代１（第 102 図）

７世紀末～８世紀初頭頃に整地 (古代整地層 1) が行われる。調査時では、古代整地層１は２区南部で認められたのみで、広くは検出されていない。古代整地層１を掘り込んで掘立柱建物 SB06 が建造されると考えられる。古代整地層１からは遺物は出土していないが、白鳥廃寺の創建が７世紀末であること、山下岡前遺跡が白鳥廃寺と深い関係があることを考えあわせれば、SB06 の時期は７世紀末頃～８世紀初頭と考えられる。建物の主軸方位はおおむね白鳥廃寺の主要伽藍に近く、北東丘陵の等高線の方向に近い。

この時期に伴う遺構としては SD04 があげられる。SD04 は SA01 の前身遺構と考えられ、古代整地層１の上面に堆積する古代堆積層が落ち込む状態で検出されており、東側を画したと考えられる。SD04 からは８世紀初頭頃の土器が出土する。



第 100 図　遺構変遷図　弥生時代



第 101 図　遺構変遷図　古墳時代

白鳥廃寺では、塔基壇の版築土中から７世紀末～８世紀初頭の須恵器が出土しており、塔の創建がこの時期とされる。白鳥廃寺の創建期とほぼ同時期に、主要堂塔の後方にSB06が出現したことから、白鳥廃寺の建造にかかわる事務的な役割を担う建物であったと考えられる。

古代整地層１の上面に堆積する古代堆積層からは７世紀末～８世紀初頭の土器が多く出土した。以後の層位や遺構からの出土遺物から土器量が少ないこととは対照的である。

古代２

古代整地層２により造成が行われ、新たな建物群が建造される。古代整地層２は２区南半から３区にかけて認められる。谷部で最も低い部分では礫や瓦片により地業作業が行われる（SX21）。古代整地層２からは８世紀前半の遺物が出土しており、それ以降の造成と考えられる。伽藍整備が最も盛んな時期に古代整地層２が形成されているようだ。掘立柱建物群を覆う施設群廃絶後堆積層からは10世紀前半の遺物が出土しており、これらの時期は８世紀前半～10世紀前半と考えられる。該当する建造物は、SA01・SB01～SB05である。

SA01・SB01～SB05は構成する柱穴の先後関係に加え、建物の主軸方向、柱筋の並びからSB04・SB05→SB03→SB01・SB02・SA01の組み合わせで変遷したと考える。SB04・SB05は、SB06を含めた他の建物が白鳥廃寺塔跡、西方基壇と主軸方位を同じくするのに対して主軸方向が異なり、西側丘陵の等高線の方向にほぼ沿うもので、総柱建物で倉庫群であったと考えられる。SB04はSB01、SB03・SB05はSB02を構成する柱穴に掘り込まれる。

溝は、SB04・SB05に付随するSD09・SD08と、SD06、SD07がある。SD06は東側の丘陵裾部を東西方向に掘削されたものである。白鳥廃寺の整備に使用された均整唐草文軒平瓦SR203A型式が出土しており、この時期には機能していたと考えられる。SD07はSA01の東側約12ｍの位置で方位を同じくして検出したもので、山下岡前遺跡の建物群の東側を画する溝と考えられる。10世紀前半の遺物が出土し、最終末期まで機能したと考えられる。

古代２－１（第103図）

掘立柱建物SB04・SB05が建造される。この２棟の建物群だけ他の建物群と異なり、北西丘陵の等高線とほぼ方位を同じくする。総柱建物で、互いに3.6m離れ、SB04西から２列目の柱列とSB05の最も西側の柱列を揃えて建造する。ともに傾斜の低い方である東側に小規模な溝を掘る。倉庫の役割を持つと考えられ、主軸方位も地形に合わせた方位にしたと考えられる。他の時期とは異なり、倉庫としての役割を果たしたと考えられる。

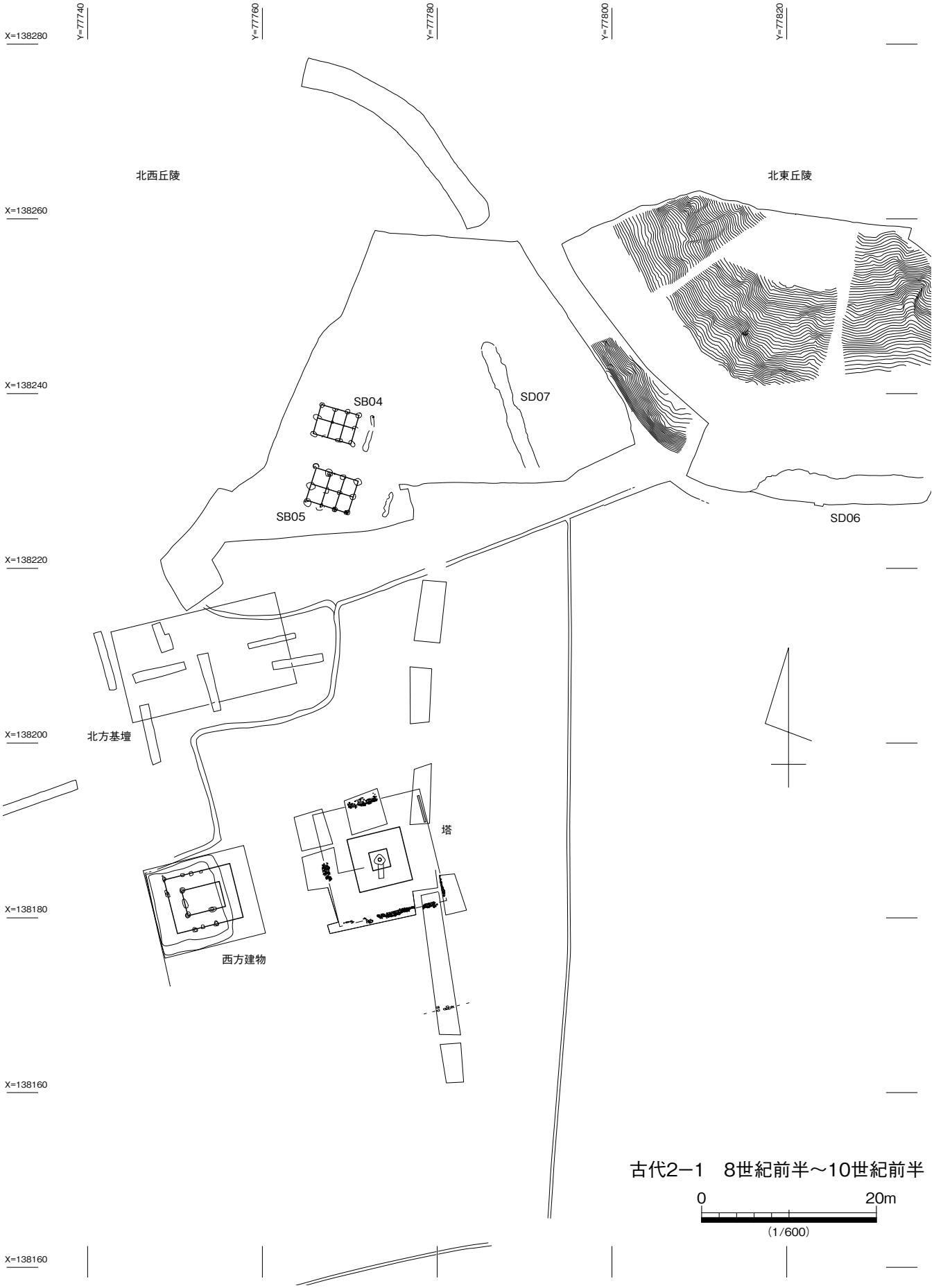
直前に整地が行われ、この場所に新しい役割が与えられようとしていたのであろうが、長期間機能していたとは考えにくい。役割が定まるまで一時的な保管施設を建設したものであろうか。

古代２－２（第104図）

掘立柱建物SB03が建造される。建物方位はSB06と同じ方位に戻り、白鳥廃寺塔跡、金堂跡とされる西方建物とほぼ同じ方位を示す。倉庫群としての役割から変化したことが想定されよう。

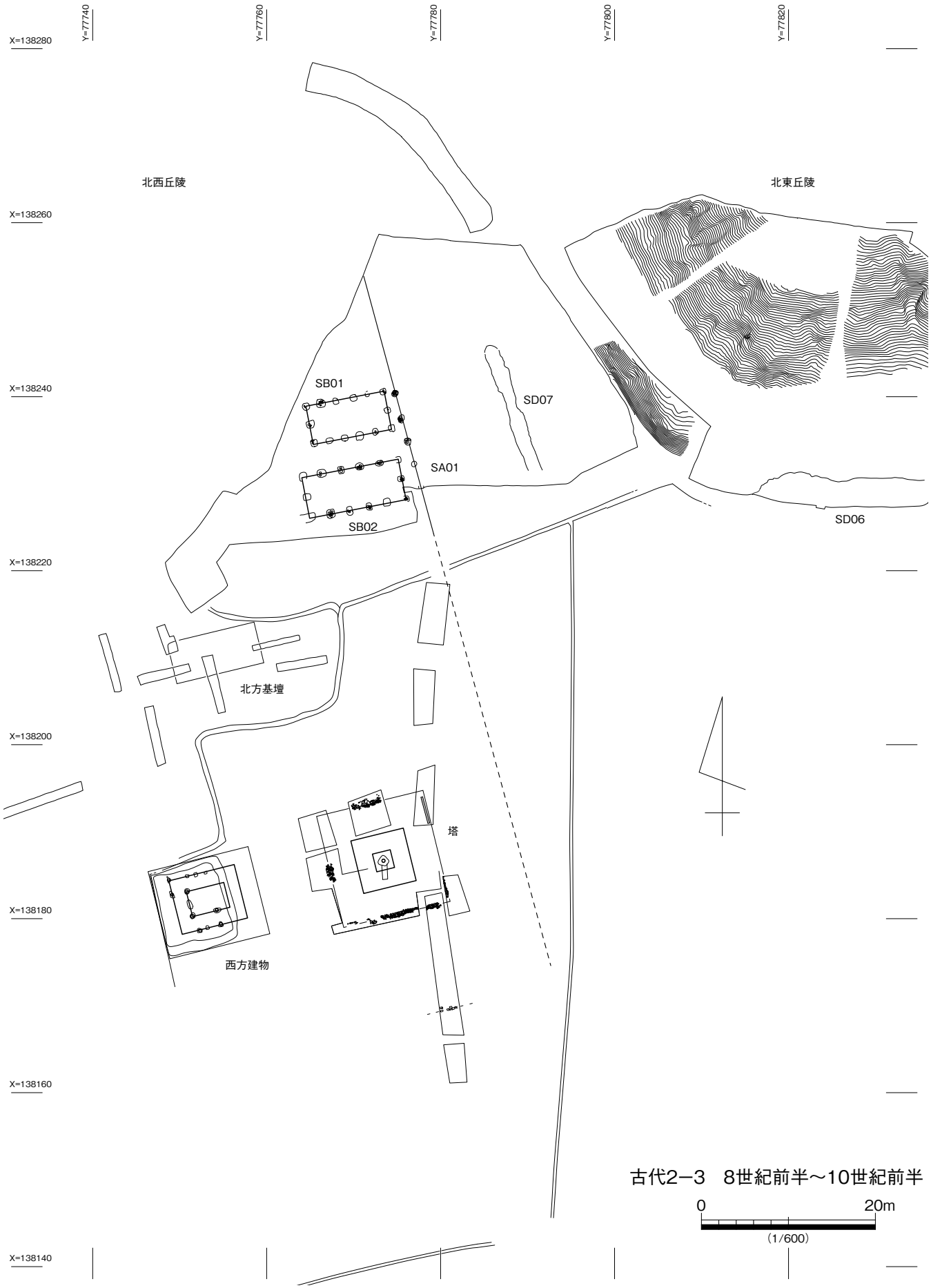
古代２－３（第105図）

第 102 図　遺構変遷図　古代 1



第 103 図　遺構変遷図　古代２－１

第 104 図　遺構変遷図　古代２－２



第 105 図　遺構変遷図　古代２－３

山下岡前遺跡の古代の遺構群の中で、最も充実する時期である。

掘立柱建物 SB01･SB02、柵列 SA01 が建造される。SB01、SB02、SA01 の柱穴からは瓦が多く出土し、それまでの建物を構成する柱穴では 5cm × 5 ㎝以上の大きさの瓦が全く出土しなかったことと対照的である。SA01 の時期は、SB01・02 との間隔が狭く、古代整地層 2 に建造された建物群の機能が古代 2 － 2 期に定まることを考えれば、古代 2 － 2 期であるとも考えられるが、柱穴から多くの瓦が出土するという特徴が SB03 にはなく、SB01・SB02 と共通することから、SA01 の所属時期はこの地区が最も充実するこの時期としたい。

古代 2 の時期は、出土遺物から 8 世紀前半～ 10 世紀前半と考えられよう。

SB02 の柱穴の最上部付近から軒丸瓦が 1 点出土した。これまでに知られていない型式で、単弁であるが、弁の形状は SR103 型式に似る。白鳥廃寺からの出土は知られておらず、どこで使用され、どのような経緯で埋まったのかは不明である。SR103 型式が奈良時代前半頃と考えれば、それ以降と考えられ、塔や金堂が SR103 － SR203 で整備されて後に、整備されたとも考えられる。

SD07 からは 10 世紀前半頃の遺物が出土しており、SD07 が山下岡前遺跡の最終期まで機能した区画施設であろう。

中世以降

当該期の遺構は認められない。白鳥廃寺の廃絶に伴い、周辺の土を利用し、谷部をさらに埋め立てる。

わずかに陶磁器が出土した近世整地層からはおもに 8 世紀代の遺物とともに大量の瓦が出土した。この層から出土した軒丸瓦・軒平瓦の大半は、平安時代が想定される SR105 － SR204 型式であった。SR105 － SR204 型式は塔、金堂付近からの出土は少なく、講堂が想定される北方基壇からの出土が目立つ。近世整地層は、おもに北方基壇周辺等から土を削平し、谷部を埋め立てたと考えられる。

放射性炭素年代測定による柱材の年代について

柵、掘立柱建物の柱穴のうち、残存していた柱材 15 点について、放射性炭素年代測定により年代測定を行った（第 4 章第 1・2 節参照）。辺材が残る柱材については伐採年代に近い年代が得られたと考えられ、辺材が残らないものについては古木効果によりやや古い結果が出ることが考えられる。

結果の概要は第 11 表のとおりである（詳細は第 4 章第 1・2 節参照）

測定の結果､柱材 15 点のうち測定年代は､おおまかには① 6 世紀前半～ 7 世紀中頃に含まれるもの（10 点）､② 5 世紀前半～ 6 世紀中頃に含まれるもの（4 点）､③ 4 世紀前半～ 5 世紀前半（1 点）の年代を得た。古代 2 － 1 期に属する SB04・SB05、古代 2 － 3 期に属する SA01・SB01・SB02 では測定年代は大半が①の年代であったが、②の結果が得られたものもあった。SB03 については②、③の測定結果が多くを占めるが、①の測定結果が得られたものもある。測定年代は掘立柱建物・柵ごとにはそれほどまとまりをもたない結果となった。

辺材の残る柱材と辺材が残らない柱材の測定結果を比較しても、SB03 ･ SP99 以外では辺材が残らない柱材が特に古い年代を示しているわけではなく、古木効果の影響はそれほど大きくはないと考えられる。①の年代が得られたものは、白鳥廃寺創建期の建物に使用する柱材を伐採する年代と近いと考えられ、それらの転用の可能性も考えられる。しかし、②、③については、年代測定による木材の伐採年代と遺構・遺物から想定した建物群の年代の間には 150 年程度以上の開きがある。

測定方法	掘立柱建物番号	ピット番号	時期区分	測定結果	時期	試料の性状	樹種	試料番号
単体測定	SA01	SP20	古代２－３	551-609 cal AD (83.6%)	６世紀中～７世紀初	最終形成年輪以外部位不明	アスナロ	R2 － 2
単体測定	SA01	SP21	古代２－３	534-600 cal AD (85.1%)	６世紀前～７世紀初	最終形成年輪以外部位不明	ヒノキ	R2 － 1
単体測定	SB01	SP33	古代２－３	554-610 cal AD (80.1%)	６世紀前～７世紀前	最終形成年輪以外部位不明	ヒノキ	R2 － 3
ウィグルマッチング測定	SB02	SP12	古代２－３	427-472 cal AD (95.4%)	５世紀前半～後半	辺材部	ヒノキ	R1 － 2
ウィグルマッチング測定	SB02	SP13	古代２－３	587-652 cal AD (95.4%)	６世紀後半～７世紀中	最終形成年輪以外部位不明	ヒノキ	R1 － 1
単体測定	SB02	SP41	古代２－３	545-606 cal AD (91.2%)	６世紀中～７世紀初	辺材部	ヒノキ	R2 － 8
ウィグルマッチング測定	SB03	SP52	古代２－２	487-540 cal AD (95.4%)	５世紀後半～６世紀中	辺材部	ヒノキ	R1 － 3
単体測定	SB03	SP61	古代２－２	429-549 cal AD (95.4%)	５世紀前半～６世紀中	辺材部	ヒノキ	R2 － 4
単体測定	SB03	SP84	古代２－２	602-653 cal AD (95.4%)	７世紀初～７世紀中	最終形成年輪以外部位不明	ヒノキ	R2 － 9
単体測定	SB03	SP99	古代２－２	337-414 cal AD (80.2%)	４世紀前半～５世紀前	最終形成年輪以外部位不明	ヒノキ	R2 － 10
単体測定	SB04	SP38	古代２－１	423-540 cal AD (95.4%)	５世紀前半～６世紀中	辺材部	ヒノキ	R2 － 5
単体測定	SB04	SP93	古代２－１	589-654 cal AD (95.4%)	６世紀後半～７世紀中	最終形成年輪以外部位不明	マツ属複維管束亜属	R1 － 4
単体測定	SB04	SP94	古代２－１	543-605 cal AD (93.9%)	６世紀中～７世紀初	辺材部	ヒノキ	R2 － 11
単体測定	SB05	SP54	古代２－１	587-650 cal AD (95.4%)	６世紀後半～７世紀中	最終形成年輪以外部位不明	クスノキ科	R2 － 6
単体測定	SB05	SP77	古代２－１	530-597 cal AD (71.2%)	６世紀前半～６世紀末	最終形成年輪以外部位不明	カヤ	R2 － 7

※試料番号の R1 は令和元年度、R2 は令和２年度実施

第 11 表　年代測定を実施した柱材

香川県内では、善通寺市稲木北遺跡で 8 世紀初頭～前半の大型建物群・柵列群の 3 本の柱材について AMS 法により年代測定を実施している [5]。その結果、430 ～ 490A.D.(37.6%)･500 ～ 570A.D.(30.6%)、610 ～ 655A.D.、670 ～ 715A.D.(43.7%)・740 ～ 770A.D.(24.5%) が得られ、いずれも樹皮を残さない材であることから、伐採年代はやや遡るとされる。報告書では、古い年代が与えられた 2 本については古木効果を想定し、遺構の想定年代と整合した 1 本については、柱材が出土した柱穴が小さく、残された柱材が相対的に樹皮に近い部分まで残されていた可能性を想定している。

奈良市平城京跡では、平城京左京三条四坊十二坪の調査で奈良時代後半～末の大型掘立柱建物の 4 本の柱材について年輪年代法による年代測定を実施している [6]。その結果、最外年代は 482 年、545 年、630 年、654 年であった。すべて樹皮部分が残らない芯材だったため、伐採年代は 50 年程度新しくなることを想定したうえで、最も新しい年代が得られたものでも藤原京時代に伐採された材であり、他の柱についても転用を重ねた材である可能性が指摘されている。

山下岡前遺跡の遺構・遺物から検討した結果により考えられる年代と年代測定の差について、両者の年代に開きがあるが、現在のところは柱の転用を想定したい。今後、柱材の測定例が増加することで、柱材の利用状況が明らかになることを期待したい。

合わせて樹種同定も実施した。限られた試料での結果であるが、SA01、SB01 ～ 03 については、SA01 の 1 例を除きすべてヒノキであった。一方、SB04・05 はヒノキ以外にもカヤやクスノキ科など異なる樹種を使用していたことが明らかとなった。

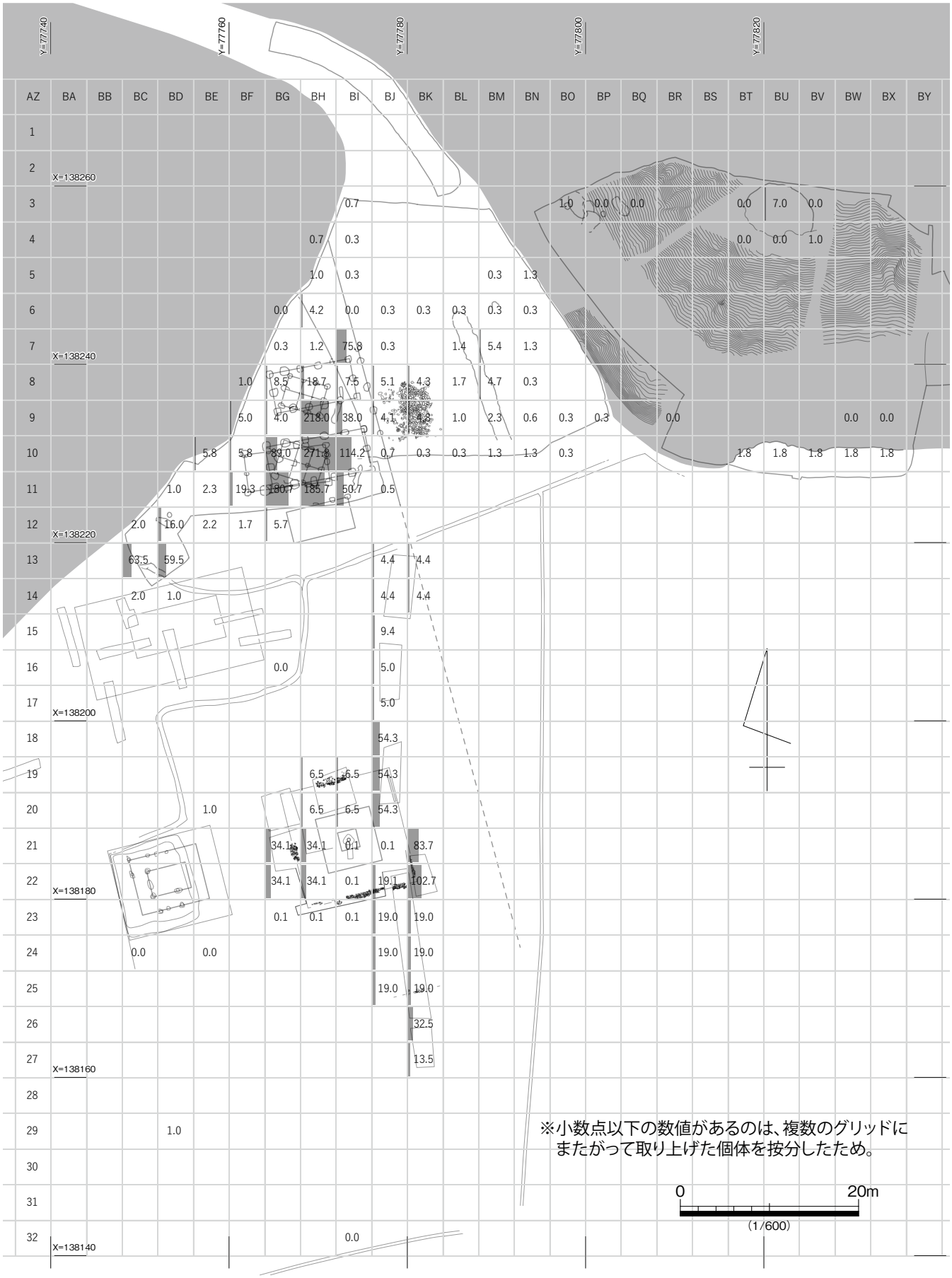
軒瓦からみる白鳥廃寺の変遷

白鳥廃寺ではこれまで塔跡、金堂跡と考えられる西方基壇、講堂跡と考えられる北方基壇が調査されている。

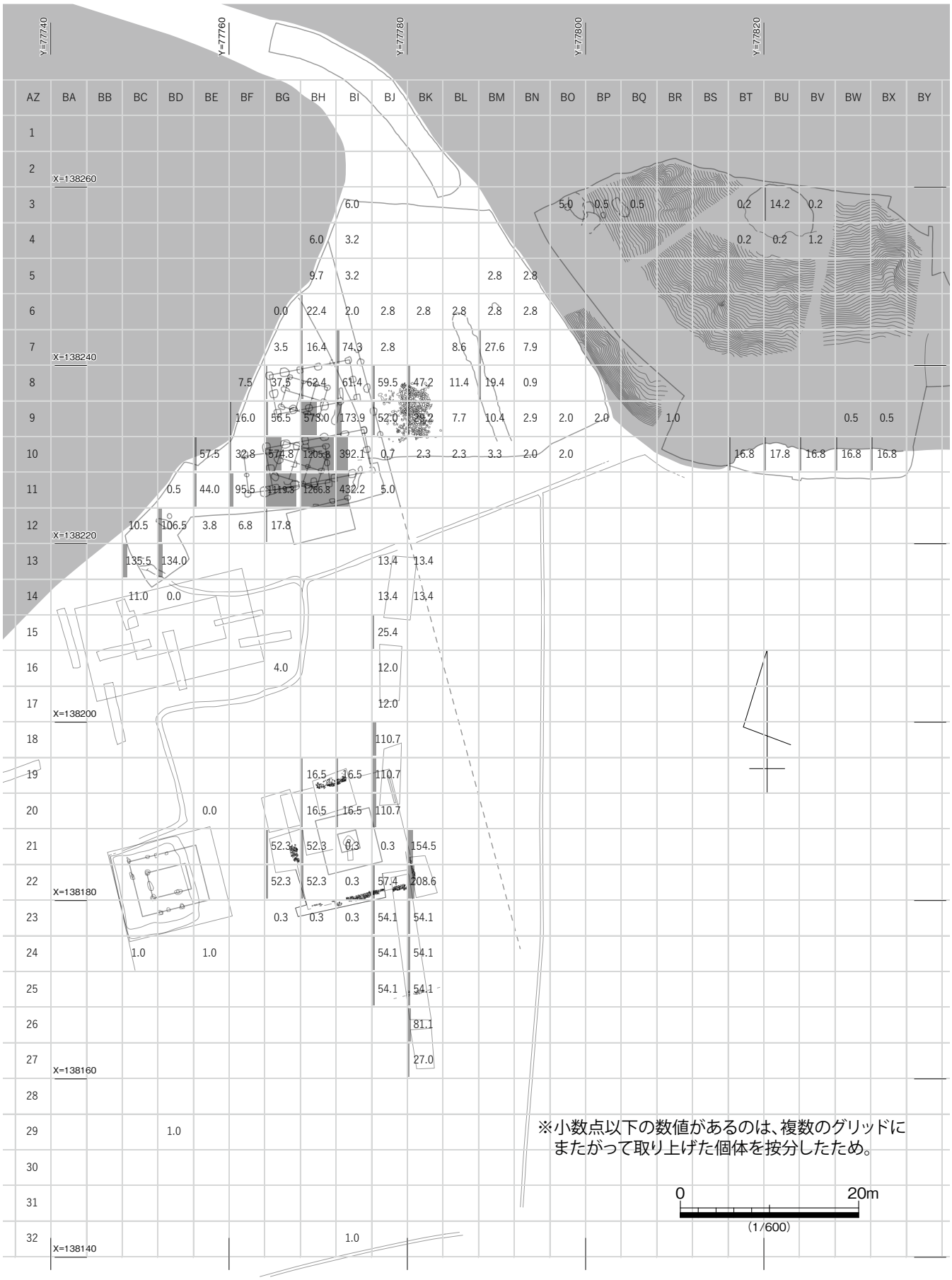
塔の創建年代は、塔基壇の出土遺物から 7 世紀末～ 8 世紀初頭、西方基壇・北方基壇も同時期とされる [7]。遺構からは建て替え等の痕跡は明らかではないが、発掘調査で出土した瓦からは、おもに① SR101-SR201 型式（7 世紀末）、② SR102-SR202 型式（～ 8 世紀前半）、③ SR103-SR203 型式（奈良時代）、④ SR105-SR204 型式（平安時代）の組み合わせが想定されている。

このなかで、塔跡、西方基壇を調査した第 1 次調査で出土量が多いと報告されているのは③の組み合わせである [8]。③は軒丸瓦、軒平瓦とも 3 種類の同系統の文様が知られ、短期間で一定量の数量が必要であったことがわかり、最も大規模に整備が行われた時期に使用された瓦であろう。①の軒瓦は塔・西方基壇周辺をはじめ、北方基壇や山下岡前遺跡からもまんべんなく出土する。②の軒瓦については第 2・3 次調査で一定量出土している。④については塔・西方建物周辺ではほとんど出土せず、北方基壇周辺及び山下岡前遺跡からの出土量が多い [9]。④の組み合わせはおもに北方基壇周辺の整備に伴うものの可能性があろう。北方基壇は、平成 24・25 年度の大川広域行政組合による発掘調査で一度縮小することがわかっており [10]、その際に使用された瓦の可能性もあろう。出土瓦からは、7 世紀末～ 8 世紀前半にかけて①、②により創建に着手され、奈良時代に③により本格的に整備が行われた。④は北方基壇の縮小に伴う再整備に使用された可能性が考えられよう。

白鳥廃寺の廃絶は、土器の年代から 10 世紀前半とされている [11]。山下岡前遺跡の廃絶も施設群廃絶後堆積層から 10 世紀前半の出土遺物とともに SR105 型式の瓦が複数個体出土しており、④の組み合わせは 10 世紀前半までとしたい。



第 106 図　丸瓦・軒丸瓦出土分布図 (破片数)



第 107 図　平瓦・軒平瓦出土分布図（破片数）

第２節　出土瓦について

山下岡前遺跡では、古代の遺構群を検出した谷部分を中心に多量の瓦が出土した。瓦の破片数の集計は10,762点を数え、谷部の中～南部付近で特に多量に出土した。層位では、近世整地層から多量に出土した。山下岡前遺跡の建物･柵列はすべて掘立柱建物なので、多くの瓦を使用したことは考えにくく、出土した瓦はおもに、白鳥廃寺の主要伽藍地域を削平して、北方の土地が低い部分（山下岡前遺跡）の整地のために盛土した際に持ち込まれたと考えられる。掘立柱建物部分に瓦の出土が多いのは、白鳥廃寺の主要伽藍から近い位置であったからと考えられる。

瓦の出土地の分布は第106・107図のとおりである。

１　軒丸瓦・軒平瓦

山下岡前遺跡では、従来から知られている軒丸瓦のうちSR101型式、SR102型式、SR103A ～ C型式、SR105型式が出土したほか、SB02を構成する柱穴からこれまで知られていない型式の軒丸瓦が１点出土した。白鳥廃寺周辺で類例はない。

軒瓦が出土したのはほとんどが遺構外で、時期が限定される遺構や堆積層・整地層からの出土は少ない。特に近世整地層が多く、近世の整地時におもに南側の白鳥廃寺からもたらされたものが多いと考えられる。

山下岡前遺跡出土軒瓦で際立つのは、SR105型式、SR204型式の出土数が多いことである。白鳥廃寺１次調査では、SR105型式が北方基壇上の建物の礎石抜き取り穴から１点、SR204型式が西方土壇から１点、白鳥廃寺塔跡周辺を調査した２・３次調査でSR105型式がＡトレンチから１点、SR204型式が第７トレンチから１点出土したのみであるのに対し、山下岡前遺跡では近世整地層で多く出土したのをはじめ、施設廃絶後堆積層、SX02等で出土した。SX02は、北方基壇の北辺裾に堆積する土や遺物で、SX02出土遺物は白鳥廃寺北方基壇に由来すると考えられる。平成24・25年度に大川広域行政組合が実施した北方基壇部分の調査では、これまでの白鳥廃寺の調査に比べてSR105型式、SR204型式が一定量出土しており、この組み合わせは北方基壇に由来する可能性があろう。

山下岡前遺跡で出土した軒丸瓦・軒平瓦の出土遺構・層位は第12・13表のとおり、各型式の特徴は第14・15表のとおりである。

２．平瓦の製作技法について

時期の限定できる層位・遺構について、平瓦の製作技法を検討をするために、凹面の摸骨痕の有無、凸面調整の種類について、数量のカウントを行った。数量のカウントは、5cm× 5cm程度の破片数を数えた。カウント方法には重量を測る方法、隅数を数える方法があるが、瓦には大型品が含まれていること、隅の残る瓦は少なかったことから、破片数でカウントした。結果は第16表のとおりである。

製作技法については、摸骨痕が残らないものについては１枚作りの可能性があると考えられる。しかし、桶巻き作りにより製作されたと考えられる四重弧文軒平瓦SR201型式に付く平瓦にはていねいな板ナデが施され、摸骨痕や他の調整痕をまったく残さないこと、焼成が不良のものも多く、表面が摩滅する破片が多いことから、表の中では、摸骨痕が認められないものについては、調整の遺存状況により「板ナデ」「摩滅・剥離により不明」としてカウントした。

		SR101	SR102	SR103				SR105	新型式	不明	合計
				A	B	C	不明				
山下岡前遺跡軒丸瓦		1	1	3	1	1	2	18	1	14	42
	SB02								1		1
	SX02			1				1			2
	施設廃絶後堆積層		1					3			4
	近世整地層	1		1	1	1	2	11		11	28
	谷部遺構外			1				3		3	7
白鳥廃寺（第 2・3 次調査）		4	7					1		3	15

第 12 表　型式別の出土分布（軒丸瓦）

		SR201	SR202	SR203				SR204	不明	合計
				A	B	C	不明			
山下岡前遺跡軒丸瓦		11	4	7	2	1	2	13	1	41
	丘陵部流入土	1								1
	SX02							1		1
	SD06			2						2
	古代堆積層	1	1							2
	近世整地層	6		4	2	1	2	11	1	27
	谷部遺構外	3	3	1				1		8
白鳥廃寺（第 2・3 次調査）		9	19	9	5	0	5	1	2	50

第 13 表　型式別の出土分布（軒平瓦）

型式名	瓦当直径	瓦当厚 （下端部）	接合粘土	丸瓦接合位置	その他	文様の特徴
SR101	約 16cm	4cm前後	接合粘土は瓦当上端から 4cm程度まで及ぶ　瓦当との接合部は角をもつ	瓦当上端付近		複弁八葉蓮華文
SR102	約 18cm	2.0~2.4cm程度	接合粘土は瓦当上端から 6cm程度まで及ぶ　瓦当との接合部は曲線的	瓦当上端付近		複弁八葉蓮華文　外区に珠文を巡らせる　徳島県河辺寺・川島廃寺と同范
SR103A	約 16cm	4 .0~4.5cm以上	不明	不明	瓦当裏面が剥がれる個体が複数あり、瓦当裏面に粘土を足して厚みを増している	複弁八葉蓮華文の退化型式　外区に珠文を巡らせない　中房は突出するもの（SR103A）、中房を圏線で表すもの（SR103 B）、中房の外側の圏線上に珠文が付くもの（SR103 C）がある
SR103B	約 16cm	4.5cm	不明	不明		
SR103C	約 15cm	3.6cm程度	不明	不明		
SR105	14.0~14.5cm	1.4 ～ 1. 6 cm	接合粘土の下端は瓦当上端から 6 ～ 7 cm程度まで、丸瓦部分先端から 10cm程度まで及ぶ。瓦当の大きさに対して接合粘土は厚い	瓦当の額縁の下部付近		素弁十二葉蓮華文
新型式	約 16cm	2.2cm	接合粘土の下端は瓦当上端から 11cm程度まで及ぶ　瓦当との接合部は曲線的	瓦当上端から 2.2cm程度下がった位置		

第 14 表　型式別の特徴（軒丸瓦）

型式名	瓦当厚（cm）	顎形態	顎の長さ（cm）	凹面調整	凸面調整	平瓦製作技法	面取り	その他	文様の特徴 同范・同文関係
SR201	2.7 ～ 3.1cm	段顎　幅 8cm程度、厚さ 1cm程度の板状の粘土を平瓦の先端に貼り付けて顎とする。	8cm程度	ていねいなナデ　布目痕などの製作痕跡を残さない	ていねいなナデ　タタキ痕などの調整痕跡を残さない	痕跡が残らず不明	凹・凸面両側から面取りする 断面剣菱形になる	瓦当接着部に接合面を強固にするための刻みが認められるものを白鳥廃寺出土瓦で確認	四重弧文 宝幢寺、宝寿寺、極楽寺、宗吉瓦窯で出土
SR202	4.8 ～ 5.2cm	段顎　顎の先端に幅 1 ～ 1.5cm程度の板状の粘土を貼り付け瓦当文様を施す。	概ね 4 cm程度 6 ～ 7cmの個体が 2 個体ある	顎付近まで布目痕を残す 顎部分のみ横方向ナデ	ていねいなナデ　調整痕をほとんど残さない。顎部分にまで格子タタキ痕、縄目痕が残る個体がある	模骨痕あり　桶巻き作り	凹面・凸面両側からの場合が多い	瓦当面は、厚さ 1.5cm程度の板状の粘土を瓦范に押し当てて文様を付け、顎を付けた平瓦の先端に貼り付けて瓦当とする	右向偏行唐草文 藤原宮式　6641 型式の系統を引く
SR203A	4.6 ～ 5.6cm ただし 232 は 7 cm以上を測る	段顎（(381)、白鳥廃寺（10・11・44・45・74・75））と 包み込み技法によるもの（434) がある。	6 ～ 7.6cm	ていねいなナデ　布目痕をほとんど残さない	段顎の個体の中には、顎部分にまで格子タタキ痕が残るものと調整痕が残らない個体がある 包み込み技法によるものは縄目痕を残し、ナデ消しを行わない	模骨痕あり　桶巻き作り	平瓦部分の側端部まで残るものがなく、不明	大半が瓦当の外側の圏線部分までで、額縁部分がないため、SR203 B・203C よりも瓦当厚が薄い。ただし、第 1 次白鳥廃寺調査報告の中では、圏線の外側に額縁がある個体が掲載される 瓦当右側に笵傷があるもの (434) とないもの（白鳥廃寺 45）がある。	均整唐草文 花芯は上向きで 3 回転の唐草文
SR203B	6.6 ～ 7.2cm	段顎	7 ～ 8cm	ていねいなナデ　布目痕を残さない	ていねいにナデ消すが、縄目痕跡がわずかに残る個体もある	小破片のみで不明	平瓦まで残るものには面取りは認められない	瓦当厚は、最外の圏線の外側に額縁があるので、SR201A より瓦当が厚い	均整唐草文 花芯は下向きで 3 回転の均整唐草文
SR203C	5.4 ～ 6.6cm	段顎	7 ～ 8cm	ていねいなナデ　布目痕を残さない	ていねいにナデ消すが、縄目痕跡がわずかに見える	小破片のみで不明	平瓦部分の側端部まで残るものがなく、不明	—	均整唐草文 花芯は上向きで 3 回転の唐草文 右側は乱れている
SR204	3.8 ～ 4.2cm	直線顎	—	布目痕　瓦当付近は横ナデ	縄目痕　瓦当付近は横ナデ	模骨痕あり　桶巻き作り	平瓦まで残るものは凹面・凸面から緩く面取りする。	—	均整唐草文 唐草文は 3 回転

第 15 表　型式別の特徴（軒平瓦）

検討資料については、遺構からの出土量は限られた点数であるが、8 世紀前半までの古代堆積層、古代整地層２、柵列・掘立柱建物群から出土した資料を検討し、併せて施設廃絶後堆積層、北方建物の所用瓦と考えられる SX02 を取り上げた。

平瓦の製作技法の傾向としては、各遺構を通じて、桶巻き作りによる平瓦製作が多数を占めることが挙げられる。平安時代の均整唐草文軒平瓦 SR204 型式に付く平瓦が桶巻き作りによるものであり、平安時代まで桶巻き作りにより瓦が製作されたことがわかる。

凸面調整については、はっきりした製作技法の変遷は読み取りづらいが、古い時期ほど凸面の調整痕跡を残さない傾向がある。縄目痕をスリ消さない個体が古くから存在するが、板ナデを施し調整痕を消すもの、縄目の痕跡は残るが、一部または、大部分を消して平滑に仕上げるものが多く見受けられる。時期が下るほど縄目を残す傾向が認められる。

格子タタキ痕を残す破片は非常に少ないが、SR202 型式、SR203A 型式に付く平瓦にも認められ、8 世紀以降から存在すると考えられる。

凸面にていねいなナデ調整を施すものには、凹面にもナデ調整を施し、摸骨痕・布目痕も残さずに平滑に仕上げるものがある。この平瓦の特徴は四重弧文軒平瓦 SR201 型式に付く平瓦と同じ特徴を持つもので、古いタイプのものと考える。

なお、凸面に布目痕が観察できる個体はなかった。

(註)

(5)　香川県教育委員会ほか　2008「一般国道 11 号坂出丸亀バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第 1 冊　稲木北遺跡　永井北遺跡　小塚遺跡」

(6)　（財）元興寺文化財研究所　2007「平城京左京三条四坊十二坪　平成 18 年度発掘調査報告書」

(7)　乗松真也　2021「白鳥廃寺跡の伽藍配置と変遷―1~3 次調査の再検討」『香川県埋蔵文化財センター年報　令和元年度』香川県埋蔵文化財センター

(8)　白鳥廃寺跡発掘調査団　白鳥町文化財保護協会　1970「讃岐白鳥廃寺調査報告―昭和 43 年度―」

(9)　大川広域行政組合の阿賀鋭二氏に実見の機会をいただいた。

(10)　香川県教育委員会　2014「県指定史跡　白鳥廃寺跡」『香川県教育委員会年報　平成 24 年度』
香川県教育委員会　2015「県指定史跡　白鳥廃寺跡」『香川県教育委員会年報　平成 25 年度』

(11)　(7) に同じ

平瓦の調整		SX21 下部		古代堆積層		SX21		古代整地層２		柵列・掘立柱建物					SX02		施設廃絶後包含層	
凹面の製作・調整痕跡	凸面調整	破片数	%	破片数	%	破片数	%	破片数	%	SA01	SB01	SB02	合計破片数	%	破片数	%	破片数	%
摸骨痕あり布目あり	縄目（スリ消しなし）	3	11.5	4	13.8	2	2.5	5	20	3	8	4	15	30	46	22	41	23.9
	縄目（スリ消しあり）	6	23	2	6.9	17	21.5	9	36	2	7	1	10	20	22	10.5	14	8.1
	格子タタキ	1	3.9							3	1		4	8			5	2.9
	板ナデ	9	34.6	4	13.8	17	21.5								11	5.3	23	13.4
	不明	3	11.5	4	13.8	12	15.2	4	16		3	1	4	8	10	4.8	26	15.2
摸骨痕なし布目あり	縄目（スリ消しなし）														26	12.4	5	2.9
	縄目（スリ消しあり）														7	3.3	1	0.5
	板ナデ	1	3.9												4	1.9	11	6.4
	格子タタキ														1	0.5		
	平行タタキ																1	0.5
	不明														14	6.7	5	2.9
板ナデ	板ナデ	1	3.9	8	27.6	1	1.3	1	4			3	3	6				
摩滅・剥離により不明	縄目（スリ消しなし）			1	3.4	2	2.5	2	8	2	2		4	8	11	5.3	12	7
	縄目（スリ消しあり）										3		3	6				
	格子									1		1	2	4				
	平行																	
	板ナデ	1	3.9	5	17.3	7	8.9					1	1	2	2	1	5	2.9
	不明	1	3.8	1	3.4	21	26.6	4	16		2	2	4	8	55	26.3	23	13.4
合計		26	100	29	100	79	100	25	100	11	26	13	50	100	209	100	172	100

第 16 表　平瓦の調整技法

参考文献

蓮本博　1999「軒平瓦に見る讃岐の古代寺院」『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター　研究紀要Ⅶ』
清野孝之・藤川智之・松林玲美・岡本治代　2019「藤原宮式軒瓦からみた阿波・讃岐東部の交流の一様相」『真朱第 12 号』徳島県埋蔵文化財センター研究紀要
乗松真也　2021「白鳥廃寺跡の伽藍配置と変遷―1~3 次調査の再検討」『香川県埋蔵文化財センター年報　令和元年度』香川県埋蔵文化財センター
乗松真也・中里信明　2005「香川県西部地方における後期古墳の階層性と鉄」『香川県埋蔵文化財センター研究紀要Ⅰ』香川県埋蔵文化財センター
香川県　1988「香川県史」第１巻　原始・古代編
香川県　1988「香川県史」第 13 巻　考古編
香川県教育委員会　1983「白鳥廃寺」『新編香川叢書　考古篇』新編香川叢書刊行企画委員会
香川県教育委員会　1983「白鳥廃寺」『香川県埋蔵文化財調査年報　昭和 57 年度』
香川県教育委員会　1984「白鳥廃寺（第３次）」『香川県埋蔵文化財調査年報　昭和 58 年度』
香川県教育委員会ほか　2000「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第 36 冊　金毘羅山遺跡Ⅰ、塔の山南遺跡、庵の谷遺跡」
香川県教育委員会ほか　2002「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第 39 冊　原間遺跡Ⅰ」
香川県教育委員会ほか　2002「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第 42 冊　原間遺跡Ⅱ」
香川県教育委員会ほか　2002「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第 43 冊　樋端遺跡」
香川県教育委員会ほか　2002「高松東ファクトリーパーク造成事業に伴う埋蔵文化財調査報告　小谷窯跡・塚谷古墳」
香川県教育委員会ほか　2003「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第 46 冊　池の奥遺跡・金毘羅山遺跡Ⅱ」
香川県教育委員会ほか　2004「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第 47 冊　成重遺跡」
香川県教育委員会ほか　2004「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第 50 冊　善門池西遺跡」
香川県教育委員会ほか　2007「県道白鳥引田線および県道大内白鳥インター線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　川北遺跡・住屋遺跡」
香川県教育委員会ほか　2008「一般国道 11 号坂出丸亀バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第１冊　稲木北遺跡 永井北遺跡　小塚遺跡」
香川県教育委員会　2011「埋蔵文化財試掘調査報告ＸＸⅢ」平成 21 年度香川県内遺跡発掘調査
香川県教育委員会　2013「埋蔵文化財試掘調査報告ＸＸＶ」平成 23 年度香川県内遺跡発掘調査」
香川県教育委員会　2014「県指定史跡　白鳥廃寺跡」『香川県教育委員会年報　平成 24 年度』
香川県教育委員会　2015「県指定史跡　白鳥廃寺跡」『香川県教育委員会年報　平成 25 年度』
香川県教育委員会ほか　2016「国道 11 号大内白鳥バイパス改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第１冊　仲戸遺跡･仲戸東遺跡」
香川県三豊郡三野町教育委員会　2001「宗吉瓦窯跡」
（財）元興寺文化財研究所　2007「平城京左京三条四坊十二坪　平成 18 年度発掘調査報告書」
白鳥町教育委員会　2002「高松廃寺・成重遺跡・樋端墳丘墓　白鳥町内所在遺跡発掘調査報告書」
白鳥廃寺跡発掘調査団　白鳥町文化財保護協会　1970「讃岐白鳥廃寺調査報告―昭和 43 年度―」
高松市歴史資料館　1996「第 11 回特別展　讃岐の古瓦展」
東かがわ市教育委員会　2019「岡前地神社古墳」

第 17 表　土器観察表（1）

報文番号	調査区	グリッド	遺構名	種類	器種	胎土					法量				調整		色調		残存率	備考
						石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	その他(cm)	内面	外面	外部	内部		
1	1 区	BT03,BT04,BU03,BU04,BV03,BV04	SH01 壁溝上面	弥生土器	鉢	中・並	中・並	-	細・少	-	-	-	(3.3)	-	ハケ？	指オサエ	7.5ＹＲ6/3 にぶい褐	7.5ＹＲ5/1 褐灰	底部 2/8	
2	1 区	BU03	SH01 中央土坑 SK09	弥生土器	壺	粗・多	粗・多	-	細・並	-	-	-	2.0	-	不明	不明	5YR6/6 橙	10YR8/3 浅黄橙	底部 8/8	
3	1 区	BT03,BT04,BU03,BU04,BV03,BV04	SH01 流土ほか	弥生土器	甕	粗・並	中・少	-	-	-	-	-	(5.0)	-	不明	不明	2.5Y8/3 浅黄	10YR7/3 にぶい黄橙	1/8	
4	1 区	BT03,BT04,BU03,BU04,BV03,BV04	SH01 流土ほか	弥生土器	甕	中・多	-	-	-	-	-	-	(7.0)	-	不明	不明	2.5ＹＲ6/6 橙	10YR7/4 にぶい黄橙	1/8 未満	
6	1 区	BT03,BT04,BU03,BU04,BV03,BV04	SH01 流土ほか	埴輪	円筒埴輪	中・少	細・少	-	-	-	-	-	-	-	不明	不明	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	1/8 未満	
7	1 区	BT03,BT04,BU03,BU04,BV03,BV04	SH01 流土ほか	埴輪	円筒埴輪	細・少	中・少	-	-	-	-	-	-	-	不明	不明	7.5ＹＲ7/4 にぶい橙	7.5ＹＲ7/4 にぶい橙	1/8 未満	
8	1 区	BT03,BT04,BU03,BU04,BV03,BV04	SH01 流土ほか	埴輪	円筒埴輪	-	-	-	-	-	-	-	-	-	不明	不明	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	1/8	
9	1 区	BT03,BT04,BU03,BU04,BV03,BV04	SH01 流土ほか	埴輪	円筒埴輪	細・少	細・少	-	-	-	-	-	-	-	指オサエ	不明	7.5ＹＲ7/4 にぶい橙	7.5ＹＲ7/4 にぶい橙	1/8 未満	
10	1 区	BT03,BT04,BU03,BU04,BV03,BV04	SH01 流土ほか	埴輪	円筒埴輪	中・少	中・少	-	-	-	-	-	-	-	不明	不明	7.5ＹＲ6/4 にぶい橙	7.5ＹＲ6/4 にぶい橙	1/8 未満	
11	1 区	BT03,BT04,BU03,BU04,BV03,BV04	SH01 流土ほか	須恵器	平瓶	-	-	-	-	中・多	-	-	13.0	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	3/8	
12	1 区	BT03,BT04,BU03,BU04,BV03,BV04	SH01 流土ほか	須恵器	壷	-	-	-	-	中・並	-	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N6/ 灰	1/8 未満	
13	1 区	BP03,BQ03	山下岡前 1 号墳	-	土玉	-	-	-	-	無	0.9	-	-	-	-	ナデ	N3/ 暗灰	-	8/8	重さ 0.56g
14	1 区	BP03,BQ03	山下岡前 1 号墳	-	土玉	-	-	-	-	無	0.9	-	-	-	-	ナデ	N3/ 暗灰	-	8/8	重さ 0.68g
15	1 区	BP03,BQ03	山下岡前 1 号墳	-	土玉	-	-	-	-	無	0.9	-	-	-	-	ナデ	N3/ 暗灰	-	8/8	重さ 0.55g
16	1 区	BP03,BQ03	山下岡前 1 号墳	-	土玉	-	-	-	-	無	0.9	-	-	-	-	ナデ	N3/ 暗灰	-	7/8	重さ 0.54g
17	1 区	BP03,BQ03	山下岡前 1 号墳	-	土玉	-	-	-	-	無	0.9	-	-	-	-	ナデ	N3/ 暗灰	-	8/8	重さ 0.44g
18	1 区	BP03,BQ03	山下岡前 1 号墳	-	土玉	-	-	-	-	無	0.9	-	-	-	-	ナデ	N3/ 暗灰	-	7/8	重さ 0.49g
19	1 区	BP03,BQ03	山下岡前 1 号墳	-	土玉	-	-	-	-	無	0.9	-	-	-	-	ナデ	N3/ 暗灰	-	8/8	重さ 0.55g
20	1 区	BP03,BQ03	山下岡前 1 号墳	-	土玉	-	-	-	-	無	0.9	-	-	-	-	ナデ	N3/ 暗灰	-	8/8	重さ 0.54g
21	1 区	BP03,BQ03	山下岡前 1 号墳	-	土玉	-	-	-	-	無	0.8	-	-	-	-	ナデ	N3/ 暗灰	-	8/8	重さ 0.47g
22	1 区	BP03,BQ03	山下岡前 1 号墳	-	土玉	-	-	-	-	無	0.85	-	-	-	-	ナデ	N3/ 暗灰	-	8/8	重さ 0.58g
23	1 区	BP03,BQ03	山下岡前 1 号墳	-	土玉	-	-	-	-	無	0.9	-	-	-	-	ナデ	N3/ 暗灰	-	8/8	重さ 0.59g
24	1 区	BP03,BQ03	山下岡前 1 号墳	-	土玉	-	-	-	-	無	0.9	-	-	-	-	ナデ	N3/ 暗灰	-	8/8	重さ 0.66g
25	1 区	BP03,BQ03	山下岡前 1 号墳	-	土玉	-	-	-	-	無	0.8	-	-	-	-	ナデ	N3/ 暗灰	-	7/8	重さ 0.42g
26	1 区	BP03,BQ03	山下岡前 1 号墳	-	土玉	-	-	-	-	無	0.8	-	-	-	-	ナデ	N3/ 暗灰	-	4/8	重さ 0.27g
27	1 区	BP03,BQ03	山下岡前 1 号墳	-	土玉	-	-	-	-	無	0.8	-	-	-	-	ナデ	N3/ 暗灰	-	4/8	重さ 0.34g
28	1 区	BP03,BQ03	山下岡前 1 号墳	-	土玉	-	-	-	-	無	0.9	-	-	-	-	ナデ	N3/ 暗灰	-	4/8	重さ 0.33g
29	1 区	BP03,BQ03	山下岡前 1 号墳	-	土玉	-	-	-	-	無	0.85	-	-	-	-	ナデ	N3/ 暗灰	-	4/8	重さ 0.36g
30	1 区	BP03,BQ03	山下岡前 1 号墳	-	土玉	-	-	-	-	無	0.85	-	-	-	-	ナデ	N3/ 暗灰	-	4/8	重さ 0.29g
31	1 区	BP03,BQ03	山下岡前 1 号墳	-	土玉	-	-	-	-	無	0.85	-	-	-	-	ナデ	N3/ 暗灰	-	4/8	重さ 0.34g
32	1 区	BP03,BQ03	山下岡前 1 号墳	-	土玉	-	-	-	-	無	0.85	-	-	-	-	ナデ	N3/ 暗灰	-	5/8	重さ 0.46g
33	1 区	BP03,BQ03	山下岡前 1 号墳	-	土玉	-	-	-	-	無	0.9	-	-	-	-	ナデ	N3/ 暗灰	-	7/8	重さ 0.41g

第 18 表　土器観察表（2）

報文番号	調査区	グリッド	遺構名	種類	器種	胎土					法量				調整		色調		残存率	備考
						石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	その他(cm)	内面	外面	外部	内部		
44	1区	BO03,BP03	山下岡前3号墳床面	須恵器	杯蓋	-	-	-	-	中・並	13.7	3.9	3.6	-	回転ナデ	回転ナデのち回転ヘラケズリ	N6/灰	N6/灰	7/8	
45	1区	BO03	山下岡前3号墳流入土	須恵器	杯蓋	-	-	-	-	中・並	13.8	3.9	3.7	-	回転ナデ	回転ナデのち回転ヘラケズリ	N6/灰	N6/灰	3/8	
46	1区	BO03	山下岡前3号墳流入土	須恵器	杯蓋	-	-	-	-	細・並	(11.7)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/1 灰白	N6/灰	1/8未満	
47	1区	BO03	山下岡前3号墳流入土	須恵器	杯身	-	-	-	-	中・並	(12.4)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデのち回転ヘラケズリ	N6/灰	N6/灰	3/8	
48	1区	BO03	山下岡前3号墳流入土	須恵器	杯身	-	-	-	-	中・並	(11.9)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	1/8未満	
49	1区	BO03	山下岡前3号墳流入土	須恵器	杯身	-	-	-	-	中・並	(12.2)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	5PB6/1 青灰	1/8	
50	1区	BO03	山下岡前3号墳流入土	須恵器	杯身	-	-	-	-	細・並	(11.6)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N5/灰	5P5/1 紫灰	1/8	
53	1区	BP03,BQ03	山下岡前1号墳周辺	須恵器	杯身	-	-	-	-	中・並	-	-	(5.3)	-	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y6/1 黄灰	N7/灰白	4/8	
54	1区	BY08	北東丘陵土	弥生土器	甕	細・多	-	-	-	-	-	-	(5.0)	-	不明	不明	2.5Y4/2 暗灰黄	2.5Y4/2 暗灰黄	1/8	
55	1区	-	北東丘陵土	須恵器	杯身	-	-	-	-	中・並	-	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR6/1 褐灰	N7/灰白	1/8未満	
56	1区	BU03	北東丘陵土	土師質土器	椀	細・少	-	-	-	-	-	-	(7.0)	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	1/8	
60	1区	BU03	北東丘陵土	埴輪	円筒埴輪	-	-	-	-	細・並	-	-	-	-	不明	ハケ	10YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	1/8未満	
61	1区	BU03	北東丘陵土	埴輪	円筒埴輪	細・少	細・少	-	-	-	-	-	-	-	不明	不明	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	1/8未満	
62	1区	BT03	北東丘陵土	埴輪	円筒埴輪	-	-	-	-	細・並	-	-	-	-	不明	ハケ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	1/8未満	
63	1区	BU03	北東丘陵土	埴輪	円筒埴輪	細・並	中・並	-	-	-	-	-	-	-	不明	不明	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	1/8未満	
64	1区	-	北東丘陵土	埴輪	円筒埴輪	細・並	中・並	-	-	-	-	-	-	-	不明	不明	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	1/8未満	
65	1区	BU03	北東丘陵土	埴輪	円筒埴輪	細・並	中・並	-	-	-	-	-	-	-	不明	不明	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	1/8未満	
67	3区	BI09	古代堆積層	須恵器	蓋	-	-	-	-	細・並	9.2	3.1	-	つまみ部 1.6	回転ナデ	回転ナデ	5R7/1 明赤灰	5RP7/1 明紫灰	6/8	
68	3区	BI09,BI10	古代堆積層	須恵器	蓋	-	-	-	-	細・並	(15.8)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR6/1 褐灰	2.5Y7/1 灰白	1/8	
69	2区	BI07,BI08	古代堆積層	須恵器	蓋	-	-	-	-	中・並	(14.4)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N6/灰	1/8	
70	3区	BI09,BI10	古代堆積層	須恵器	蓋	-	-	-	-	中・多	(14.8)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/1 灰白	10YR6/1 褐灰	1/8	
71	3区	BI09	古代堆積層	須恵器	蓋	-	-	-	-	中・並	3.5	14.5	-	つまみ径 2.9	回転ナデ	回転ナデ	N6/灰	N7/灰白	つまみ径 8/8	
72	3区	BH09,BI09	古代堆積層	須恵器	蓋	-	-	-	-	中・並	(17.1)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y8/1 灰白	N8/灰白	1/8	

第 19 表　土器観察表（3）

報文番号	調査区	グリッド	遺構名	種類	器種	胎土					法量				調整		色調		残存率	備考
						石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	内面	外面	外部	内部		
73	3 区	BH09	古代堆積層	須恵器	蓋	-	-	-	-	中・多	(15.9)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデのち回転ヘラケズリ	10YR7/1 灰白	10YR7/2 灰白	4/8	
74	2 区	BJ08,BJ09	古代堆積層	須恵器	蓋	-	-	-	-	中・並	(16.3)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N7/ 灰白	1/8 未満	
75	2 区	BI08	古代堆積層	須恵器	蓋	-	-	-	-	細・多	(14.2)	2.9	3.0	-	回転ナデ	回転ナデ	N8/ 灰白	N7/ 灰白	1/8	
76	2 区	BJ10,BK10	古代堆積層	須恵器	蓋	-	-	-	-	中・多	-	-	-	つまみ径 2.8	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/1 灰白	N7/ 灰白	つまみ径 8/8	
77	3 区	BH09,BI09	古代堆積層	須恵器	蓋	-	-	-	-	中・並	(17.0)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N8/ 灰白	N8/ 灰白	2/8	
78	2 区	BI07,BI08	古代堆積層	須恵器	蓋	-	-	-	-	中・並	-	-	-	つまみ径 2.6	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	つまみ径 6/8	
79	3 区	BI09	古代堆積層	須恵器	杯	-	-	-	-	細・並	11.1	3.3	5.6	-	回転ナデ	回転ナデ	N8/ 灰白	N8/ 灰白	5/8	
80	3 区	BI09	古代堆積層	須恵器	杯	-	-	-	-	中・並	(12.1)	3.8	5.0	-	回転ナデ	回転ナデ	N8/ 灰白	N8/ 灰白	1/8	
81	3 区	BI09	古代堆積層	須恵器	杯	-	-	-	-	細・多	(11.0)	-	(7.0)	-	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	1/8	
82	2 区	BJ10,BK10,BL10,BM10	古代堆積層	須恵器	杯	-	-	-	-	中・並	(11.8)	3.8	(6.8)	-	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	2.5Y8/1 灰白	1/8	
83	2 区	BJ10,BK10,BL10,BM10	古代堆積層	須恵器	杯	-	-	-	-	細・並	-	-	(9.0)	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/1 灰白	10YR8/1 灰白	1/8	
84	2 区	BJ08,BJ09	古代堆積層	須恵器	杯	-	-	-	-	中・並	(12.4)	4.0	6.9	-	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y8/1 灰白	1/8	
85	2 区	BJ08,BJ09	古代堆積層	須恵器	杯	-	-	-	-	細・並	(13.2)	3.7	7.9	-	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	10YR 灰白	3/8	
86	2 区	BJ08,BJ09	古代堆積層	須恵器	杯	-	-	-	-	中・並	-	-	(7.0)	-	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	2/8	内面に煤付着
87	3 区	BI09,BI10	古代堆積層	須恵器	杯	-	-	-	-	中・多	(10.4)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N8/ 灰白	N8/ 灰白	1/8	
88	3 区	BI09	古代堆積層	須恵器	杯	-	-	-	-	細・多	(10.6)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N5/ 灰	3/8	
89	3 区	BI09	古代堆積層	須恵器	杯	-	-	-	-	中・多	(11.2)	3.7	7.0	-	回転ナデ	回転ナデ	N8/ 灰白	N8/ 灰白	2/8	
90	3 区	BI09	古代堆積層	須恵器	杯	-	-	-	-	中・並	(12.4)	3.9	(9.0)	-	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	底部 2/8	
91	3 区	BI09	古代堆積層	須恵器	杯	-	-	-	-	中・並	(13.6)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR6/3 にぶい褐	6/8	
92	3 区	BI09	古代堆積層	須恵器	杯	-	-	-	-	中・多	(13.8)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	1/8	
93	2 区	BJ08,BJ09	古代堆積層	須恵器	杯	-	-	-	-	細・並	(12.8)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/1 灰白	10YR5/1 褐灰	1/8	
94	3 区	BI09	古代堆積層	須恵器	杯	-	-	-	-	細・並	(17.8)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N8/ 灰白	N8/ 灰白	2/8	口縁端部～体部外面に煤付着
95	3 区	BI09,BI10	古代堆積層	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	中・並	-	-	(9.7)	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	4/8	
96	2・3 区	BI09,BI10	古代堆積層	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	中・並	-	-	(10.6)	-	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	5/8	
97	3 区	BI11	古代堆積層	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	中・並	-	-	9.4	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	2/8	
98	2 区	-	古代堆積層	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	中・多	(15.8)	4.3	(10.0)	-	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	2/8	
99	2 区	BJ08,BJ09	古代堆積層	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	中・並	-	-	8.5	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/1 灰白	10YR8/1 灰白	8/8	
100	3 区	BI09,BI10,BH09	古代堆積層	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	中・多	(14.6)	4.3	(10.1)	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	2/8	

第 20 表　土器観察表（4）

報文番号	調査区	グリッド	遺構名	種類	器種	胎土					法量				調整		色調		残存率	備考
						石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	その他(cm)	内面	外面	外部	内部		
101	3区	BI09,BI10	古代堆積層	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	細・並	-	-	11.0	-	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	1/8	
102	3区	BI09	古代堆積層	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	中・並	-	-	(8.6)	-	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	2/8	
103	3区	BI09,BI10	古代堆積層	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	中・多	(16.8)	4.1	(11.0)	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	1/8	
104	2区	BI10	古代堆積層	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	細・並	-	-	(10.6)	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	2/8	
105	3区	BH09,BI09	古代堆積層	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	細・並	14.2	4.4	9.3	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N7/ 灰白	5/8	
106	3区	BH09	古代堆積層	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	細・並	-	-	8.2	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR5/1 褐灰	10YR8/1 灰白	8/8	
107	3区	BH09	古代堆積層	須恵器	高杯	-	-	-	-	中・多	15.2	9.2	9.4	-	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	2.5Y8/1 灰白	6/8	
108	3区	BI09,BI10	古代堆積層	須恵器	高杯	-	-	-	-	中・並	(12.0)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰	2/8	
109	2区	BI08	古代堆積層	須恵器	高杯	-	-	-	-	細・並	-	-	8.0	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N8/ 灰白	6/8	
110	3区	BI09,BI10	古代堆積層	須恵器	壷	-	-	-	-	中・並	(16.0)	-	-	-	当て具痕	タタキ	10YR6/1 褐灰	10YR8/1 灰白	2/8	
111	2区	BI08	古代堆積層	須恵器	壷	-	-	-	-	細・並	(13.0)	-	-	-	回転ナデ、当て具痕	回転ナデ、タタキ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	2/8	
112	3区	BI09,BI10	古代堆積層	須恵器	鉢	-	-	-	-	中・並	(17.0)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/1 灰白	7.5YR7/3 にぶい橙	1/8	
113	2区	BK09	古代堆積層	須恵器	甕	-	-	-	-	中・並	-	-	-	-	指オサエ、ナデ	ナデ	N8/ 灰白	N7/ 灰白	1/8 未満	
114	2・3区	BH09,BJ08,BJ09,BI09,BI10	古代堆積層	須恵器	横瓶	-	-	-	-	中・並	-	-	-	-	当て具痕	タタキ、カキ目	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	1/8	
115	2区	BJ09,BK09	古代堆積層	須恵器	転用硯	-	-	-	-	細・並	-	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y6/1 黄灰	10YR7/1 灰白	1/8 未満	杯外面を転用
116	3区	BI10,BI11	古代堆積層	土師器	杯	中・少	-	-	-	-	-	-	-	-	不明	不明	2.5YR5/4 にぶい赤褐	10YR8/1 灰白	1/8 未満	外面赤色顔料
117	3区	BI09,BI10	古代堆積層	土師器	高台付皿	-	-	-	-	中・並	-	-	(8.6)	-	不明	不明	7.5YR7/3 にぶい橙	7.5YR7/3 にぶい橙	1/8	
118	3区	BH09	古代堆積層	土師器	高杯	中・並	中・多	-	細・少	-	(16.6)	-	-	-	ヘラミガキ	指オサエのちハケ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄橙	2/8	
119	3区	BI10	古代堆積層	土師器	高杯	中・多	中・並	-	細・少	-	-	-	-	接合部 3.2	ヘラミガキ、ハケ	ナデ？	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/5 にぶい橙	接合部 8/8	
120	3区	BI09,BI10	古代堆積層	土師器	甕	中・多	-	-	-	-	(24.5)	-	-	-	不明	ハケ	5YR8/4 淡橙	2.5YR7/6 橙	1/8 未満	
121	3区	BI09	古代堆積層	土師器	甕	中・多	-	-	-	-	(21.2)	-	-	-	ハケのちヘラケズリ	ハケ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	2/8	
122	3区	BI09,BI10	古代堆積層	土師器	甕	中・多	中・少	-	-	-	(20.3)	-	-	-	ハケ	ハケのち横ナデ	10YR8/2 灰白	10YR5/2 灰黄褐	1/8	
123	3区	BH09,BI09	古代堆積層	土師器	甕	中・少	-	-	-	-	(16.9)	-	-	-	ヘラケズリ、ハケ	ハケのち横ナデ	5YR6/3 にぶい橙	5YR6/3 にぶい橙	2/8	
124	3区	BI09	古代堆積層	土師器	甕	中・多	中・少	-	-	-	(15.8)	-	-	-	ヘラケズリ	ハケのち横ナデ	7.5YR7/2 暗褐灰	10YR8/3 浅黄橙	1/8	
125	3区	BH09,BI09	古代堆積層	土師器	甑	中・多	中・多	-	-	-	(20.6)	-	-	-	ハケ	ハケ	7.5YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	3/8	
126	3区	BI10	古代堆積層	弥生土器	壷	粗・多	中・並	-	中・少	-	-	-	(4.4)	-	不明	不明	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	2/8	

第 21 表　土器観察表（5）

報文番号	調査区	グリッド	遺構名	種類	器種	胎土					法量				調整		色調		残存率	備考
						石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	その他 (cm)	内面	外面	外部	内部		
131	2 区	BJ08,BJ09,BK07, BK08,BK09,BL08	SX21　下位	須恵器	蓋	-	-	-	-	中・並	15.6	4.2	-	つまみ径 3.3	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N6/ 灰	4/8	
132	2 区	BJ08,BJ09,BK08, BK09	SX21　下位	須恵器	杯	-	-	-	-	中・並	-	-	(7.2)	-	回転ナデ	回転ナデ	N8/ 灰白	N6/ 灰	3/8	
133	2 区	BJ08,BJ09,BK08, BK09	SX21　下位	須恵器	杯	-	-	-	-	中・並	(11.4)	3.4	(7.9)	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N7/ 灰白	1/8	
134	2 区	BJ08,BJ09,BJ10, BK08,BK09,BK10, BL08,BL10,BM10	SX21　下位	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	細・並	(15.9)	5.6	(11.0)	-	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰	1/8	
135	2 区	BJ08,BJ09,BK08, BK09,BL08	SX21　下位	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	細・並	(16.5)	4.4	10.9	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	4/8	
136	2 区	BJ08,BJ09,BK08, BK09	SX21　下位	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	細・並	(17.8)	4.8	(13.4)	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	1/8	
137	2 区	BJ08,BJ09,BK08, BK09	SX21　下位	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	細・並	(18.4)	4.5	(13.4)	-	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	1/8	
138	2 区	BL08	SX21　下位	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	中・多	-	-	(15.0)	-	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	1/8	
139	2 区	BJ08,BJ09,BK08, BK09	SX21　下位	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	細・並	-	-	(6.0)	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N8/ 灰白	2/8	
140	2 区	BJ08,BJ09,BK08, BK09	SX21　下位	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	細・並	(10.1)	4.5	(5.6)	-	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N7/ 灰白	2/8	
141	2 区	BJ08,BJ09,BK08, BK09	SX21　下位	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	中・並	(9.0)	4.5	5.8	-	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N7/ 灰白	7/8	
142	2 区	BJ08,BJ09,BK08, BK09	SX21　下位	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	細・並	-	-	(5.4)	-	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	2.5Y7/1 灰白	2/8	
143	2 区	BJ08,BJ09,BK08, BK09	SX21　下位	須恵器	高杯	-	-	-	-	中・並	-	-	-	接合部 2.8	回転ナデ	回転ナデ	N8/ 灰白	N8/ 灰白	7/8	
144	2・3 区	BJ08,BJ09,BK08, BK09,BI09,BI10	SX21　下位	須恵器	壷	-	-	-	-	中・並	-	-	9.2	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	6/8	
145	2 区	BJ08,BJ09,BK08, BK09	SX21　下位	須恵器	鉢	-	-	-	-	細・並	(20.0)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N5/ 灰	1/8 未満	
146	2 区	BJ08,BJ09,BK08, BK09	SX21　下位	須恵器	円面硯	-	-	-	-	中・多	-	-	(19.7)	-	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰	1/8 未満	
147	2 区	BJ08	SX21　下位	須恵器	転用硯	-	-	-	-	中・並	-	-	(11.6)	-	回転ナデ	回転ナデ	5PB6/1 青灰	5PB6/1 青灰	3/8	高台付杯内面を転用
148	2 区	BJ08,BJ09,BK08, BK09	SX21　下位	土師器	鉢	中・少	-	-	-	-	(18.8)	-	-	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	10YR2/1 黒	10YR2/1 黒	1/8 未満	
150	3 区	BI11	古代整地層 2	須恵器	蓋	-	-	-	-	中・並	(15.6)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰	1/8 未満	
151	3 区	BH07	古代整地層 2	須恵器	蓋	-	-	-	-	細少	(15.8)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	1/8	
152	3 区	BG07	古代整地層 2	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	中・並	-	-	(9.0)	-	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	2/8	
153	3 区	BG07	古代整地層 2	須恵器	高杯	-	-	-	-	中・並	-	-	(6.5)	-	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰	3/8	
154	3 区	BH06	古代整地層 2	須恵器	甕	-	-	-	-	中・並	(22.0)	-	-	-	指オサエ、回転ナデ	回転ナデのちタタキのちカキ目	N7/ 灰白	N7/ 灰白	頸部 2/8	
155	3 区	BG07	古代整地層 2	土師器	杯	中・少	-	-	-	-	-	-	(8.0)	-	不明	不明	10YR3/1 黒褐	10YR3/1 黒褐	2/8	

第 22 表　土器観察表（6）

報文番号	調査区	グリッド	遺構名	種類	器種	胎土					法量				調整		色調		残存率	備考
						石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	その他(cm)	内面	外面	外部	内部		
156	3区	BI11	古代整地層 2	土師器	甕	中・多	-	-	-	-	(21.4)	-	-	-	指オサエ、ヨコナデ	指オサエのちハケ、ヨコナデ	5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/3 にぶい褐	1/8	
158	2区	BI08	施設群廃絶後堆積層	須恵器	蓋	-	-	-	-	細・並	(14.6)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	1/8	
159	2区	-	施設群廃絶後堆積層	須恵器	蓋	-	-	-	-	中・並	(14.0)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N6/ 灰	1/8 未満	
160	2区	-	施設群廃絶後堆積層	須恵器	杯	-	-	-	-	中・並	-	-	(6.0)	-	回転ナデ	回転ナデのち回転ヘラケズリ	N8/ 灰白	N8/ 灰白	2/8	
161	2区	BJ08,BK08	施設群廃絶後堆積層	須恵器	杯	-	-	-	-	細・並	-	-	(7.7)	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/1 灰白	10YR7/1 灰白	1/8 未満	
162	2区	BK09	施設群廃絶後堆積層	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	中・並	-	-	(8.8)	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	1/8	
163	2区	BI09	施設群廃絶後堆積層	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	中・並	-	-	(9.0)	-	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	10YR7/1 灰白	1/8	
164	2区	BK09	施設群廃絶後堆積層	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	細・並	(11.4)	-	(11.9)	-	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰	1/8	
165	2区	BJ08,BK08	施設群廃絶後堆積層	須恵器	壷	-	-	-	-	細・並	-	-	(10.0)	-	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰	1/8 未満	
166	2区	-	施設群廃絶後堆積層	須恵器	鉢	-	-	-	-	細・並	(28.0)	-	-	-	不明	タタキ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR8/4 浅黄橙	1/8 未満	
167	2区	-	施設群廃絶後堆積層	須恵器	甕	-	-	-	-	中・並	(41.8)	-	-	-	不明	タタキ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	1/8	
168	2区	BL07,BL08,BL09, BM07,BM08, BM09	施設群廃絶後堆積層	須恵器	転用硯	-	-	-	-	中・並	-	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	2.5Y6/1 黄灰	1/8	蓋内面を転用
169	2区	-	施設群廃絶後堆積層	土師器	皿	中・少	-	-	-	-	(13.9)	2.1	(10.0)	-	不明	不明	7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR6/3 にぶい褐	1/8	
170	2区	BJ09,BK09	施設群廃絶後堆積層	土師器	高台付皿	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	ヘラミガキ？	不明	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	1/8 未満	内外面赤色顔料
171	2区	-	施設群廃絶後堆積層	土師器	不明	中・多	-	-	-	-	-	-	-	-	不明	ハケ	5YR6/4 にぶい橙	5YR6/4 にぶい橙	1/8	
178	3区	BE12	近世整地層	須恵器	杯蓋	-	-	-	-	中・並	(14.2)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデのち回転ヘラケズリ	N6/ 灰	N7/ 灰白	2/8	
179	3区	BI08,BI09	近世整地層	須恵器	杯	-	-	-	-	中・多	(11.6)	4.2	(7.2)	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR6/1 褐灰	10YR8/1 灰白	2/8	
180	3区	BI11	近世整地層	須恵器	杯	-	-	-	-	中・並	(11.6)	3.7	(7.4)	-	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰	3/8	
181	3区	BI11	近世整地層	須恵器	杯	-	-	-	-	中・並	(11.4)	2.9	7.8	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR8/1 灰白	10YR8/1 灰白	2/8	
182	3区	BI08,BI09	近世整地層	須恵器	杯	-	-	-	-	中・並	(10.8)	3.8	(7.5)	-	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	2/8	
183	3区	BH11	近世整地層	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	細・並	-	-	(8.9)	-	回転ナデ	回転ナデ	5PB6/1 青灰	5PB6/1 青灰	2/8	
184	3区	BH11	近世整地層	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	細・並	-	-	(10.8)	-	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	1/8	
185	3区	BI09	近世整地層	須恵器	転用硯	-	-	-	-	細・並	(15.2)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	1/8	蓋内面を転用

第 23 表　土器観察表（7）

報文番号	調査区	グリッド	遺構名	種類	器種	胎土					法量				調整		色調		残存率	備考
						石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	その他(cm)	内面	外面	外部	内部		
186	3 区	BI09	近世整地層	須恵器	転用硯	-	-	-	-	細・並	-	-	(10.2)	-	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N8/ 灰白	3/8	高台付杯内面を転用
187	3 区	BI11	近世整地層	土師器	高台付皿	中・並	細・並	-	-	-	-	-	(13.4)	-	ナデ	ナデ	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	1/8 未満	
188	3 区	BH09,BI09	近世整地層	黒色土器	椀	中・多	-	-	細・多	-	-	-	(7.0)	-	不明	不明	10YR7/2 にぶい黄橙	2.5Y5/1 黄灰	2/8	
189	3 区	BG11	近世整地層	陶器	灯明皿	-	-	-	-	細・並	(8.8)	1.6	(3.6)	-	回転ナデ	回転ナデ	2.5GY 灰白	5Y8/1 灰白	2/8	煤付着
190	3 区	BG11	近世整地層	肥前系磁器	椀	-	-	-	-	無	(10.6)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	5B5/1 青灰	5Y8/1 灰白	1/8	
191	3 区	BH09	近世整地層	-	螺髪	細少	細少	-	-	-	-	4.5	-	-	-	-	10YR7/4 にぶい黄橙	-	8/8	
256	2 区	BJ09	SA01-SP20（柱痕）	須恵器	杯	-	-	-	-	細・並	(11.8)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	5Y8/1 灰白	2.5Y6/1 黄灰	1/8	
257	2 区	BJ09	SA01-SP21	須恵器	杯	-	-	-	-	中・並	(10.9)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR8/1 灰白	10YR8/1 灰白	1/8 未満	
258	2 区	BJ09	SA01-SP21（柱痕）	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	中・並	-	-	(11.0)	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR6/2 灰黄褐	N5/ 灰	1/8	
259	2 区	BJ09	SA01-SP21（掘り方）	須恵器	杯	-	-	-	-	中・並	(13.8)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	1/8	
260	2 区	BJ09	SA01-SP21	須恵器	高杯	-	-	-	-	細・並	-	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR6/1 褐灰	10YR8/1 灰白	1/8 未満	
264	2 区	BI08	SA01-SP22	須恵器	杯	-	-	-	-	細・並	-	-	-	-	回転ナデ	回転ナデのち回転ヘラ切り	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	1/8	
265	2 区	BI08	SA01-SP22	須恵器	不明	-	-	-	-	細・並	(13.4)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	5Y3/2 オリーブ黒	N8/ 灰白	1/8	重ね焼の痕か？
266	2 区	BI08	SA01-SP22	土師器	高杯	粗・少	中・少	-	-	-	-	-	-	-	不明	不明	10YR7/3 にぶい黄橙	7.5YR7/3 にぶい橙	2/8	
270	2 区	BI07	SA01-SP23	須恵器	杯	-	-	-	-	中・並	-	-	(7.6)	-	回転ナデ	回転ナデ	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	3/8	
291	2 区	BI07	SB01-SP24	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	中・並	-	-	(8.3)	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	1/8	
292	2 区	BI07	SB01-SP24（掘り方）	須恵器	杯	-	-	-	-	細・並	(18.0)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	1/8 未満	
295	2 区	BI08	SB01-SP36	須恵器	蓋	-	-	-	-	細・並	(14.6)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N7/ 灰白	1/8	
297	2 区	BI08	SB01-SP35	須恵器	杯	-	-	-	-	細・並	(15.4)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	1/8	
298	2 区	BI08	SB01-SP35	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	中・多	-	-	(9.2)	-	回転ナデ	回転ナデ	N4/ 灰	2.5Y8/1 灰白	1/8	
299	2 区	BI08	SB01-SP35	須恵器	高杯	-	-	-	-	細・並	(15.0)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	1/8	
300	2 区	BI08	SB01-SP35	須恵器	壺	-	-	-	-	細・並	(11.6)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	5Y5/3 灰オリーブ	N8/ 灰白	1/8	
302	3 区	BH09	SB01-SP33	須恵器	蓋	-	-	-	-	細・多	(18.4)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	5P7/1 明紫灰	5Y8/1 灰白	1/8	
304	3 区	BI08,BI09	SB01-SP34	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	中・多	-	-	(11.2)	-	回転ナデ	回転ナデ	N8/ 灰白	N8/ 灰白	1/8	
305	3 区	BI09	SB01- SP34（掘り方）	須恵器	杯	-	-	-	-	中・並	-	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N8/ 灰白	N8/ 灰白	1/8 未満	

第 24 表　土器観察表（8）

報文番号	調査区	グリッド	遺構名	種類	器種	胎土					法量				調整		色調		残存率	備考
						石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	その他(cm)	内面	外面	外部	内部		
306	3区	BI08.BI09	SB01-SP34	土師器	甕	中・並	中・並	-	-	-	(19.2)	-	-	-	ハケのち横ナデ	ハケ、横ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	1/8	
314	3区	BG10	SB02-SP49	須恵器	甕	-	-	-	-	粗・並	-	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	1/8 未満	
322	3区	BH09,BH10	SB02-SP39（掘り方）	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	中・多	-	-	(9.0)	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR8/1 灰白	10YR7/1 灰白	1/8	
324	3区	BI09	SB02-SP16	須恵器	蓋	-	-	-	-	細・多	(14.8)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	5P7/1 明紫灰	5P7/1 明紫灰	1/8	
325	3区	BI10	SB02-SP16	須恵器	高杯	-	-	-	-	中・並	(10.2)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	1/8 未満	
326	3区	BI09	SB02-SP16（掘り方）	土師器	皿	中・多	-	-	-	-	-	-	-	-	不明	不明	5YR8/4 淡橙	2.5YR7/4 淡赤橙	1/8 未満	
329	2区	BI10	SB02-SP17	須恵器	杯	-	-	-	-	細・並	(13.8)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	1/8	
330	3区	BI10	SB02-SP17	土師器	杯	中・並	-	-	-	-	(17.4)	-	-	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	10YR7/1 灰白	2.5YR6/8 橙	1/8 未満	
331	3区	BI10	SB02-SP17	土師器	杯	中・並	-	-	-	-	-	-	-	-	不明	不明	10YR8/2 灰白	7.5YR6/4 にぶい橙	1/8 未満	
333	3区	BH11	SB02-SP44	須恵器	杯	-	-	-	-	細並	(13.8)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	1/8	墨痕
334	3区	BH11	SB02-SP44	土師器	杯	中・並	中・多	-	-	-	(17.4)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	5YR8/3 淡橙	5YR8/3 淡橙	1/8	
335	3区	BH11	SB02-SP44	土師器	杯	細・並	細・並	-	-	-	(15.5)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	2.5YR7/4 淡赤橙	5YR7/3 にぶい橙	1/8	
338	3区	BI10,BJ10	SB02-SP62	須恵器	蓋	-	-	-	-	細・並	(16.8)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y7/1 灰白	1/8 未満	
339	3区	BI10,BJ10	SB02-SP62	須恵器	杯	-	-	-	-	中並	(14.4)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N8/ 灰白	N8/ 灰白	1/8 未満	墨痕
340	2・3区	BI10,BJ10	SB02-SP62	須恵器	鉢	-	-	-	-	中並	-	-	(14.4)	-	回転ナデ	回転ナデ ヘラケズリ	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	3/8	
341	3区	BI10,BJ10	SB02-SP62	須恵器	転用硯	-	-	-	-	細並	-	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	5P7/ 明紫灰	N7/ 灰白	2/8	蓋内面を転用
342	3区	BI10	SB02-SP62	須恵器	転用硯	-	-	-	-	中・並	-	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR5/1 褐灰	N6/ 灰	1/8 未満	壺内面を転用
343	3区	BI10,BJ10	SB02-SP62	土師器	甕	中・多	-	-	-	-	-	-	-	-	指オサエ	不明	5YR8/4 淡橙	2.5YR7/6 橙	1/8 未満	
345	3区	BI11	SB02-SP13（掘り方）	須恵器	蓋	-	-	-	-	中・並	(15.8)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N8/ 灰白	1/8 未満	
346	3区	BI11	SB02-SP13	須恵器	蓋	-	-	-	-	中・並	-	-	-	つまみ径 2.6	回転ナデ	回転ナデ	10YR8/1 灰白	10YR8/1 灰白	1/8 未満	
347	3区	BI11	SB02-SP13（掘り方）	土師器	杯	中・少	-	-	-	-	(14.7)	-	-	-	不明	不明	7.5YR7/1 明褐灰	2.5YR6/1 褐灰	1/8 未満	
351	3区	BG11	SB02 SP48	須恵器	杯	-	-	-	-	細・並	(10.7)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	1/8	
354	3区	BF10	SB03-SP86	須恵器	杯	-	-	-	-	粗・多	-	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	1/8 未満	
355	3区	BH10	SB03-SP61	須恵器	蓋	-	-	-	-	粗・並	(16.8)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	1/8	
356	3区	BH10	SB03-SP66	土師器	杯	中・少	細・並	-	-	-	(16.4)	-	-	-	不明	不明	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	1/8 未満	
357	3区	BH11	SB03-SP53	須恵器	杯	-	-	-	-	細・多	-	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	2.5Y8/2 灰白	1/8 未満	

第 25 表　土器観察表（9）

報文番号	調査区	グリッド	遺構名	種類	器種	胎土					法量				調整		色調		残存率	備考
						石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	その他(cm)	内面	外面	外部	内部		
358	3 区	BH11	SB03-SP53	須恵器	高杯	-	-	-	-	細・多	(12.7)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR8/1 灰白	10YR8/1 灰白	1/8	
360	3 区	BH09	SB04-SP90	弥生土器	甕	中・少	-	-	-	-	(11.4)	-	-	-	不明	不明	2.5YR7/4 淡赤橙	2.5YR7/4 淡赤橙	1/8 未満	
361	3 区	BH11	SB05-SP73	土師器	高杯	中・多	中・少	-	細・少	-	-	-	-	-	板ナデ	ナデ	7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR6/3 にぶい褐	1/8	
362	3 区	BH11	SB06-SP124	須恵器	杯	-	-	-	-	粗・多	(11.8)	4.4	-	-	回転ナデ	回転ナデ	5P7/1 明紫灰	5P7/1 明紫灰	4/8	
363	3 区	BH11	SB06-SP124	須恵器	杯	-	-	-	-	粗・多	(13.8)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N8/ 灰白	N8/ 灰白	1/8	
364	3 区	BH11	SB06-SP125	須恵器	杯	-	-	-	-	細・並	-	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N7/ 灰白	1/8 未満	
365	3 区	BH11	SB06-SP125	土師器	杯	細・並	-	-	-	-	(15.9)	-	-	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	1/8 未満	
366	2 区	BI09,BI10,BJ09,BJ10	SD04	須恵器	杯	-	-	-	-	中・並	(11.0)	4.1	7.8	-	回転ナデ	回転ナデ	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	4/8	
367	2 区	BI09,BJ09,BJ08,BK08,BK09	SD04	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	中・並	(14.0)	4.6	9.6	-	回転ナデ	回転ナデ	N8/ 灰白	N8/ 灰白	2/8	
368	2・3 区	BI09,BI10,BJ09	SD04	須恵器	壷	-	-	-	-	中・並	(7.8)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	2/8	
369	2 区	BI09,BJ09	SD04	須恵器	壷	-	-	-	-	中・並	-	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	頸部 4/8	
370	2 区	BI09,BJ08,BJ09	SD04	須恵器	転用硯	-	-	-	-	細・並	-	-	(7.8)	-	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	3/8	高台付杯底部内面を転用
371	2 区	BI09,BI10,BJ09,BJ10	SD04	土師器	皿	粗・並	中・多	-	-	-	(20.2)	-	-	-	不明	不明	10YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄橙	1/8	
373	1 区	BT10,BU10,BV10,BW10,BX10	SD06	須恵器	蓋	-	-	-	-	細・並	(17.7)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	1/8 未満	
374	1 区	BT10,BU10,BV10,BW10,BX10	SD06	須恵器	杯	-	-	-	-	中・並	(14.0)	3.1	(9.0)	-	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰	2/8	
375	1 区	BT10,BU10,BV10,BW10,BX10	SD06	須恵器	杯	-	-	-	-	中・並	(10.6)	-	(6.5)	-	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	1/8	
376	1 区	BT10,BU10,BV10,BW10,BX10	SD06	須恵器	杯	-	-	-	-	細・並	(15.2)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/1 灰白	10YR7/1 灰白	2/8	
377	1 区	BT10,BU10,BV10,BW10,BX10	SD06	須恵器	高台付杯	-	-	-	-	細・並	-	-	(8.4)	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/1 灰白	10YR7/1 灰白	2/8	
378	1 区	BT10,BU10,BV10,BW10,BX10	SD06	須恵器	皿	-	-	-	-	細・並	-	-	(11.0)	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰	1/8 未満	
379	1 区	BT10,BU10,BV10,BW10,BX10	SD06	須恵器	甕	-	-	-	-	中・並	(23.6)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	10YR7/1 灰白	1/8 未満	
380	1 区	BT10,BU10,BV10,BW10,BX10	SD06	須恵器	甕	-	-	-	-	中・並	(22.5)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	1/8 未満	
383	2 区	BM07,BM08,BM09	SD07	須恵器	蓋	-	-	-	-	細・並	(17.6)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	1/8	ゆがみが著しい
384	2 区	BM07,BM08	SD07	須恵器	杯	-	-	-	-	中・並	(12.2)	3.5	(7.0)	-	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰	底部 4/8	
385	2 区	BL07	SD07	須恵器	杯	中・少	-	-	-	-	13.1	3.0	9.0	-	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR8/2 灰白	7.5YR8/2 灰白	8/8	

第 26 表　土器観察表（10）

報文番号	調査区	グリッド	遺構名	種類	器種	胎土					法量				調整		色調		残存率	備考
						石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	その他(cm)	内面	外面	外部	内部		
386	2 区	BL07,BL08,BM07,BM08	SD07	須恵器	杯	-	-	-	-	細・並	-	-	(8.0)	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	2/8	
387	2 区	BL07,BL08,BM07,BM08	SD07	須恵器	皿	-	-	-	-	中・多	(15.2)	2.1	(11.8)	-	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	2/8	
388	2 区	BM07,BN07	SD07	須恵器	皿	-	-	-	-	中・多	(14.4)	1.9	(10.9)	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/1 灰白	10YR7/1 灰白	1/8	
389	2 区	BM07,BM08	SD07	土師器	皿	中・並	中・少	-	-	-	-	-	-	-	不明	不明	5YR8/3 淡橙	5YR8/3 淡橙	1/8 未満	
390	2 区	BM07,BM08,BM09	SD07	土師器	椀	中・少	中・並	-	-	-	-	-	(8.3)	-	不明	不明	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	1/8	
391	2 区	BM07,BM08	SD07	土師器	竈	粗・多	-	-	-	-	-	-	-	-	ハケ	ハケ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙	1/8 未満	
393	3 区	BC13,BD13	SX02	須恵器	蓋	-	-	-	-	中・並	(8.8)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	1/8	
394	3 区	BC13,BD13	SX02	須恵器	壷	-	-	-	-	中・並	-	-	(6.6)	-	回転ナデ	回転ナデ	5PB5/1 青灰	5PB5/1 青灰	3/8	
398	2 区	BK09	SX21	須恵器	蓋	-	-	-	-	細・並	(15.8)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	1/8	
404	3 区	BD12	SK01	弥生土器	甕	中・多	-	-	細・並	-	-	-	-	-	ナデ	ナデ	10YR4/1 褐灰	10YR7/3 にぶい黄橙	1/8 未満	
405	3 区	BD12	SK01	土師器	甕	粗・多	-	-	中・少	-	(24.8)	-	-	-	ハケ	ハケ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	1/8	
406	2 区	BI07	SK02	須恵器	ハソウ	-	-	-	-	細・並	-	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N5/ 灰	体部 1/8	
408	3 区	BH10	SP63	須恵器	壺	中・少	細・少	-	-	-	(10.6)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	1/8	
409	3 区	BH09	SP64	須恵器	杯	-	-	-	-	中・並	(12.0)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	1/8 未満	
410	3 区	BI10	SP80	土師器	杯	中・少	細・少	-	-	-	-	-	-	-	ヘラミガキ	不明	10YR8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙	1/8 未満	
415	3 区	BD13	谷部遺構外	須恵器	蓋	-	-	-	-	中・並	(17.0)	3.0	-	つまみ径 3.3	回転ナデ	回転ナデ	10YR8/1 灰白	10YR8/1 灰白	5/8	
416	3 区	-	谷部遺構外	須恵器	杯	-	-	-	-	細・並	(12.6)	4.0	(7.0)	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/1 灰白	10YR7/1 灰白	1/8	火だすき
417	2 区	BI06	谷部遺構外	須恵器	壷	-	-	-	-	中・並	-	-	(9.0)	-	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y5/1 黄灰	N8/ 灰白	1/8	
418	3 区	BI04,BI05,BH05	谷部遺構外	須恵器	壷	-	-	-	-	中・多	-	-	(10.8)	-	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N7/ 灰白	2/8	
419	2・3 区	BH06,BH07,BI06,BI07,BJ10,BK10,BL10,BM10	谷部遺構外	須恵器	盤	-	-	-	-	中並	(58.1)	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	1/8	
420	3 区	BG12	谷部遺構外	須恵器	不明	中・並	中・並	-	-	-	-	-	-	-	当て具痕	タタキ？	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/5 浅黄橙	1/8	
421	2 区	-	谷部遺構外	土師器	竈	中・多	中・少	-	-	-	-	-	-	-	ハケ	ハケ	7.5YR8/4 浅黄橙	10YR8/2 灰白	1/8 未満	

第 27 表　瓦観察表（1）

報文番号	調査区	グリッド	遺構名	器種	胎土			法量			調整		色調		残存率	備考
					白色砂粒	黒色砂粒	灰色砂粒	全長（残存長）(cm)	幅（残存幅）(cm)	厚さ (cm)	凸面	凹面	凸面	凹面		
66	1 区	-	北東丘陵土	軒平瓦	中多	-	-	(11.4)	(12.5)	1.9	板ナデ	板ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰	瓦当部破片	SR201
128	2 区	BI07	古代堆積層	軒平瓦	中多	-	-	(13.8)	(14.4)	3.4	格子タタキ→板ナデ	模骨痕→布目→板ナデ	7.5YR6/1 褐灰	7.5YR8/2 灰白	瓦当部破片	SR202
129	2・3 区	BJ09,BI10,BI11	古代堆積層	軒平瓦	粗多	-	-	(15.3)	29.8	2.1	板ナデ	板ナデ	7.5YR7/2 明褐灰	N2/ 暗灰	瓦当部 7/8	SR201
130	3 区	BI09,BI10	古代堆積層	平瓦	中多	中少	-	(5.6)	-	1.7	板ナデ	板ナデ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	破片	ヘラ記号
149	2 区	BJ09	SX21　下位	平瓦	細少	細少	細少	38.3	(26.2)	2.5	縄目タタキ	模骨痕→布目	5Y7/1 灰白	N7/ 灰白	-	
157	3 区	BI11	古代整地層 2	平瓦	中少	細少	中少	(17.1)	25.7	2.6	縄目	模骨痕→布目	N6/ 灰	5Y6/1 灰	-	
172	2 区	BI07	施設群廃絶後堆積層	軒丸瓦	中多	中多	中多	-	-	-	-	-	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	瓦当部 2/8	SR102
173	2 区	BK09	施設群廃絶後堆積層	軒丸瓦	中多	中少	-	(19.2)	13.2	1.6	板ナデ	布目→ナデ（接合粘土部分のみ）	N6/ 灰	N6/ 灰	瓦当部 5/8	SR105
174	2 区	-	施設群廃絶後堆積層	軒丸瓦	中多	中多	-	-	-		板ナデ	-	N6/ 灰	N6/ 灰	瓦当部破片	SR105
175	2 区	-	施設群廃絶後堆積層	軒丸瓦	粗多	中多	-	-	-	-	板ナデ	-	N7/ 灰白	N7/ 灰白	瓦当部 1/8	
176	2 区	-	施設群廃絶後堆積層	丸瓦	細少	-	-	(31.2)	15.0	2.4	板ナデ	布目	7.5Y5/1 灰	N5/ 灰	-	
177	2 区	BL08	施設群廃絶後堆積層	平瓦	細少	-	細少	(19.9)	(15.4)	3	縄目タタキ→板ナデ	模骨痕→布目→板ナデ	N7/ 灰白	7.5Y7/1 灰白	-	
192	3 区	BH09	近世整地層	軒丸瓦	中多	-	中多	-	-	-	-	-	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	瓦当部 4/8	SR103A
193	3 区	BG10	近世整地層	軒丸瓦	中多	細多	-	(11.7)	(7.7)	2.4	板ナデ	布目	2.5Y7/1 灰白	N8/ 灰白	瓦当部破片	SR103
194	3 区	BH09	近世整地層	軒丸瓦	中多	中少	-	-	-	-	-	-	N6/ 灰	N6/ 灰	破片	SR103B
195	3 区	BG11	近世整地層	軒丸瓦	細少	細少	-	-	-	-	-	-	N6/ 灰	N7/ 灰白	破片	SR103
196	3 区	BH09	近世整地層	軒丸瓦	中少	-	-	-	-	-	-	-	2.5Y8/1 灰白	N6/ 灰	瓦当部破片	SR103C
197	3 区	BG11	近世整地層	軒丸瓦	中多	中少	-	(12.0)	(11.4)	-	板ナデ	-	7.5YR7/2 明褐灰	7.5YR7/2 明褐灰	瓦当部破片	型式不明
198	3 区	BH09	近世整地層	軒丸瓦	中多	-	-	-	-	3.8	板ナデ	不明	1010YR7/1 灰白	10YR7/2 にぶい黄橙	瓦当部 6/8	SR101
199	3 区	BH11	近世整地層	軒丸瓦	中多	粗多	-	(21.5)	(14.0)	2	板ナデ	布目→板ナデ（接合粘土部分のみ）	N7/ 灰白	N7/ 灰白	瓦当部 3/8	SR105
200	3 区	BH10,BI10	近世整地層	軒丸瓦	中多	-	中少	(13.6)	14.2	6.5	板ナデ	不明	7.5YR7/2 明褐灰	7.5YR8/3 浅黄橙	瓦当部 5/8	SR105
201	3 区	BG10	近世整地層	軒丸瓦	粗多	粗多	-	-	-	-	-	-	N7/ 灰白	N7/ 灰白	瓦当部破片	SR105
202	3 区	BH10	近世整地層	軒丸瓦	中多	中多	中少	-	-	-	-	-	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	瓦当部 2/8	SR105
203	3 区	BI11	近世整地層	軒丸瓦	細少	-	-	-	-		-	-	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	瓦当部破片	茶色砂粒　中少 SR105
204	3 区	BD12	近世整地層	軒丸瓦	中少	粗多	中多	-	-	2.8	-	-	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	瓦当部 2/8	SR105
205	3 区	BH09	近世整地層	軒丸瓦	中多	中多	-	(10.3)	(13.6)	5.7	板ナデ	板ナデ（接合粘土部分のみ）	N7/ 灰白	N7/ 灰白	瓦当部 4/8	SR105
206	3 区	BH10	近世整地層	軒丸瓦	中少	中多	中多	-	-	-	-	-	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	瓦当部 3/8	SR105
207	3 区	BH10	近世整地層	軒丸瓦	中少	中多	-	-	-		-	-	N7/ 灰白	N7/ 灰白	瓦当部破片	SR105
208	3 区	BG12	近世整地層	軒丸瓦	細少	粗多	中少	-	-	-	-	-	10YR7/1 灰白	10YR7/1 灰白	破片	茶色砂粒　中少 SR105
209	3 区	BG11	近世整地層	軒丸瓦	中少	-	粗多	(13.1)	13.4	1.7	板ナデ	不明	2.5Y8/2 灰	2.5Y8/2 灰	瓦当部 4/8	SR105 か
210	3 区	BG10	近世整地層	軒丸瓦	中多	粗多	-	-	-	-	不明	-	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	瓦当部 2/8	型式不明 SR105 か
211	3 区	BG10	近世整地層	軒丸瓦	細多	-	中多	-	-	-	-	-	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	瓦当部破片	型式不明

第 28 表　瓦観察表（2）

報文番号	調査区	グリッド	遺構名	器種	胎土			法量			調整		色調		残存率	備考
					白色砂粒	黒色砂粒	灰色砂粒	全長（残存長）(cm)	幅（残存幅）(cm)	厚さ (cm)	凸面	凹面	凸面	凹面		
212	3 区	BI11	近世整地層	軒丸瓦	中少	細少	-	-	-	-	-	-	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	瓦当部破片	型式不明
213	3 区	BH10	近世整地層	軒丸瓦	中多	-	-	-	-	-	-	-	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	瓦当部破片	赤色砂粒 中多 SR105 か
214	3 区	BH09	近世整地層	軒丸瓦	中少	-	-	-	-	-	-	-	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	瓦当部破片	SR105 か
215	3 区	BG11	近世整地層	軒丸瓦	中多	-	中多	-	-	-	-	-	7.5Y8/1 灰白	7.5Y8/1 灰白	瓦当部破片	SR105 か
216	3 区	BH11	近世整地層	軒丸瓦	中多	-	中多	-	-	-	-	-	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	瓦当部破片	SR105 か
217	3 区	BH10	近世整地層	軒丸瓦	中多	中少	-	-	-	-	-	-	10YR6/1 褐灰	-	瓦当部破片	型式不明
218	3 区	BG10	近世整地層	軒丸瓦	細少	-	中小	-	-	-	-	-	2.5Y7/4 浅黄	2.5Y7/3 浅黄		SR105 か
219	3 区	BH09	近世整地層	軒丸瓦	細少	-	中少	-	-	-	板ナデ	不明	10YR7/1 灰白	10YR8/2 灰白	瓦当部破片	型式不明
220	3 区	BF11	近世整地層	軒平瓦	中多	細少	-	11.7	13.4	2	板ナデ	板ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR6/2 灰黄褐	瓦当部 4/8	SR201
221	3 区	BI09	近世整地層	軒平瓦	粗多	中少	-	14.5	9.5	2.8	板ナデ	板ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	2.5Y4/1 黄灰	瓦当部 4/8	SR201
222	3 区	BG11	近世整地層	軒平瓦	中多	-	中多	(12.4)	(12.2)	1.9	板ナデ	板ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	瓦当部 3/8	SR201
223	3 区	BE10	近世整地層	軒平瓦	中多	-	中多	-	-	-	板ナデ	板ナデ	5B5/1 青灰	5B5/1 青灰	瓦当部 3/8	SR201
224	3 区	BG10	近世整地層	軒平瓦	中多	-	-	-	-	-	板ナデ	板ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/1 褐灰	瓦当部破片	SR201
225	3 区	BI11	近世整地層	軒平瓦	中多	中少	-	-	-	-	-	-	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	瓦当部破片	SR201
226	3 区	BH10	近世整地層	軒平瓦	粗多	中多	中多	-	-	-	板ナデ	不明	5Y8/1 灰白	10YR8/1 灰	瓦当部 4/8	SR203B
227	3 区	BH11	近世整地層	軒平瓦	中多	-	-	-	-	-	不明	不明	10YR7/1 灰白	10YR7/1 灰白	瓦当部破片	SR203A
228	3 区	BH09	近世整地層	軒平瓦	中多	中少	中少	(17.2)	(15.4)	4.3	板ナデ	布目→板ナデ	N7/ 灰白	N6/ 灰	瓦当部 3/8	SR203C 自然釉か
229	3 区	BH11	近世整地層	軒平瓦	粗少	中多	中多	-	-	-	縄目タタキ→板ナデ	板ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	瓦当部破片	SR203A
230	3 区	BG11	近世整地層	軒平瓦	中少	細多	-	-	-	-	-	-	N7/ 灰白	N7/ 灰白	瓦当部破片	SR203B
231	3 区	BI10	近世整地層	軒平瓦	中少	細少	-	-	-	-	-	-	N7/ 灰白	-	瓦当部破片	SR203 か
232	3 区	BF11	近世整地層	軒平瓦	細少	細少	粗少	-	-	-	-	-	2.5Y8/2 灰白	-	瓦当部破片	SR203A
233	3 区	BH11	近世整地層	軒平瓦	細少	細少	細少	-	-	-	-	-	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	瓦当部破片	SR203A か
234	3 区	BG11	近世整地層	軒平瓦	細少	細多	中少	-	-		-	-	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	瓦当部破片	SR203 か
235	3 区	BH10,」BH11	近世整地層	軒平瓦	中多	-	中多	(20.4)	(18.3)	3.3	縄目タタキ→板ナデ	模骨痕→布目→板ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	瓦当部 5/8	赤色砂粒 中多 SR204
236	3 区	BI10	近世整地層	軒平瓦	中多	-	中多	(8.2)	(19.0)	4	不明	模骨痕→布目→板ナデ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	瓦当部 6/8	SR204
237	3 区	BH11	近世整地層	軒平瓦	粗多	-	粗少	(10.8)	(20.0)		縄目タタキ	不明	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	瓦当部 2/8	赤色粒子 粗多 SR204
238	3 区	BH11	近世整地層	軒平瓦	細少	-	中多	-	-	2.5	板ナデ	布目→板ナデ	7.5Y8/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	-	SR204
239	3 区	BH09	近世整地層	軒平瓦	粗多	-	-	-	-	-	板ナデ	不明	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄	瓦当部 1/8	SR204
240	3 区	BH11	近世整地層	軒平瓦	中少	中少	-	-	-	-	板ナデ	板ナデ	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	瓦当部破片	SR204
241	3 区	BI09	近世整地層	軒平瓦	中多	-	-	(15.3)	(11.6)	-	不明	模骨痕→布目	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	瓦当部 2/8	茶色砂粒 中多 SR204
242	3 区	BH11	近世整地層	軒平瓦	中多	-	中少	-	-	-	板ナデ	布目→板ナデ	N6/ 灰	2.5Y8/1 灰白	瓦当部破片	SR204
243	3 区	BG09	近世整地層	軒平瓦	中多	-	中多	-	-	-	板ナデ	板ナデ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	瓦当部破片	SR204
244	3 区	BH11	近世整地層	軒平瓦	粗少	-	-	-	-	-	-	-	2.5Y8/2 灰白	-	-	SR204
245	3 区	BH11	近世整地層	軒平瓦	中少	-	-	-	-	-	-	板ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	瓦当部破片	赤色砂粒 中多 SR204

第 29 表　瓦観察表（3）

報文番号	調査区	グリッド	遺構名	器種	胎土			法量			調整		色調		残存率	備考
					白色砂粒	黒色砂粒	灰色砂粒	全長（残存長）(cm)	幅（残存幅）(cm)	厚さ (cm)	凸面	凹面	凸面	凹面		
246	3 区	BH11	近世整地層	軒平瓦	粗少	-	-	-	-	-	-	-	N5/ 灰	N5/ 灰	瓦当部破片	
247	3 区	BI10	近世整地層	丸瓦	細少	細多	細少	(22.5)	(8.5)	2	縄目タタキ→板ナデ	布目	7.5Y4/1 灰	7.5Y4/1 灰	-	行基式
248	3 区	BH09	近世整地層	平瓦	細少	-	-	(21.6)	23.8	2.1	格子目タタキ→板ナデ	模骨痕→布目	N6/ 灰	N5/ 灰	-	
249	3 区	BH11	近世整地層	平瓦	中多	細少	中少	33	21.5	2.4	縄目タタキ	布目	5Y6/1 灰	5Y7/1 灰白	-	
250	3 区	BI10	近世整地層	平瓦	細少	細少	細少	(24.3)	(16.1)	2.3	縄目タタキ	布目	N6/ 灰	N6/ 灰	-	
251	2 区	BI07	近世整地層	平瓦	中少	-	-	(19.8)	(15.6)	2.1	縄目タタキ→一部板ナデ	糸切痕か→模骨痕→布目	5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	-	
252	3 区	BH11	近世整地層	平瓦	粗少	-	細少	(28.3)	(14.3)	1.7	板ナデ	板ナデ	N6/ 灰	5Y7/1 灰白	-	
253	3 区	BH10	近世整地層	平瓦	中少	細少	-	(8.8)	(10.3)	2	格子目タタキ→板ナデ	布目	7.5Y8/1 灰白	7.5Y6/1 灰	-	
254	3 区	BH11	近世整地層	平瓦	中少	-	細多	-	-	-	縄目タタキ→板ナデ	布目	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/2 灰白	-	凸面に突起部あり
255	3 区	BH11	近世整地層	不明	中少	中少	-	-	-	-	板ナデ	布目	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	-	凸面に窪みあり 道具瓦か
261	2 区	BJ09	SA01-SP21	丸瓦	中多	-	-	(10.1)	(6.2)	1.4	縄目タタキ	布目	7.5YR8/2 灰白	7.5YR8/2 灰白	破片	
262	2 区	BJ09	SA01-SP21	平瓦	中多	-	中少	(8.3)	(6.0)	1.9	縄目タタキ	布目	5Y8/1 灰白	2.5Y4/1 黄灰	破片	
263	2 区	BJ09	SA01-SP21	平瓦	細少	中少	-	(3.3)	(4.2)	1.1	縄目タタキ	布目	N6/ 灰	N6/ 灰	破片	
267	2 区	BI08	SA01-SP22	丸瓦	粗多	-	粗少	(15.0)	(4.8)	1.4	板ナデ	布目	5PB5/1 青灰	5PB5/1 青灰	全体部 1/8	
268	2 区	BI08	SA01-SP22	平瓦	中少	中多	-	(14.8)	(8.8)	2.1	縄目タタキ→擦り消し	模骨痕→布目	N7/ 灰白	N7/ 灰白	破片	
269	2 区	BI08	SA01-SP22	平瓦	細多	-	-	(9.4)	(9.2)	2.3	格子目	板ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	破片	
271	2 区	BI07	SA01-SP23	丸瓦	中多	-	中少	(8.9)	(9.2)	2.1	縄目タタキ	布目	N6/ 灰	N6/ 灰	破片	
272	2 区	BI07	SA01-SP23	丸瓦	中多	-	中多	(8.1)	(3.8)	1.5	板ナデ	布目	N4/ 灰	N4/ 灰	端部破片	
273	2 区	BI07	SA01-SP23	平瓦	粗多	-	粗多	(12.1)	(9.4)	1.7	格子目タタキ	模骨痕→布目	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	端部破片	
274	2 区	BI07	SA01-SP23	平瓦	中多	-	-	15.7	15.3	2.2	格子目タタキ	模骨痕→布目	N/8 灰白	N/8 灰白	破片	
275	2 区	BI07	SA01-SP23	平瓦	中多	細多	中多	(19.0)	(16.7)	2	縄目タタキ→擦り消し	模骨痕→布目	N6/ 灰	5Y8/1 灰白	全体部 5/8	
276	2 区	BI07	SA01-SP23	平瓦	中多	-	中多	(11.9)	(7.5)	1.9	縄目タタキ	模骨痕→布目	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	破片	
277	2 区	BI07	SA01-SP23	平瓦	中多	-	粗少	(12.1)	(8.9)	1.8	縄目タタキ	不明	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	破片	赤色粒子 粗多
278	2 区	BI07	SA01-SP23	平瓦	中少	細少	-	9.7	6.4	1.6	縄目タタキ	模骨痕→布目	N6/ 灰	N6/ 灰	破片	
279	3 区	BG08	SB01-SP09	丸瓦	中多	-	-	9.3	4.9	2	不明	布目	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	破片	
280	3 区	BG08	SB01-SP09	平瓦	粗多	-	-	(8.9)	(6.8)	1.5	格子目タタキ	不明	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	破片	
281	3 区	BG08	SB01-SP09	平瓦	中多	-	-	(17.3)	(14.5)	1.8	縄目タタキ	模骨痕→布目	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/2 灰白	全体部 3/8	
282	3 区	BG08	SB01-SP28	丸瓦	中少	-	中少	(12.5)	(7.2)	1.4	縄目タタキ	布目	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y8/1 灰白	全体部 3/8	茶色砂粒 細少
283	3 区	BG08	SB01-SP28	丸瓦	中多	-	中多	(10.0)	(5.0)	1.6	縄目タタキ	布目	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	破片	
284	3 区	BG08	SB01-SP28	丸瓦	粗少	中多	中多	(21.0)	(15.2)	1.5	縄目タタキ	不明	2.5Y8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙	全体部 6/8	
285	3 区	BG08	SB01-SP28	平瓦	中少	-	-	(8.4)	(9.0)	1.4	不明	不明	10YR7/1 灰白	10YR7/1 灰白	破片	
286	3 区	BG08	SB01-SP28	平瓦	粗多	-	-	(15.1)	(12.2)	2.2	縄目タタキ	模骨痕→布目	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	側部破片	赤色粒子 粗多
287	3 区	BG08	SB01-SP28	平瓦	中多	-	-	(13.9)	(15.0)	2.4	縄目タタキ→板ナデ	模骨痕→布目	10YR8/2 灰白	7.5YR7/3 にぶい橙	破片	
288	3 区	BG08	SB01-SP28	平瓦	中多	-	-	13.6	10.5	2.4	縄目タタキ	模骨痕	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰	破片	

第 30 表　瓦観察表（4）

報文番号	調査区	グリッド	遺構名	器種	胎土			法量			調整		色調		残存率	備考
					白色砂粒	黒色砂粒	灰色砂粒	全長（残存長）(cm)	幅（残存幅）(cm)	厚さ (cm)	凸面	凹面	凸面	凹面		
289	3 区	BG08	SB01-SP28	平瓦	中少	中多	-	(9.4)	(5.2)	2.1	縄目タタキ	模骨痕→布目	N7/ 灰白	N7/ 灰白	破片	
290	3 区	BG08	SB01-SP28	平瓦	中多	-	中少	35.6	24.9	2.2	縄目タタキ→擦り消し	糸切痕→模骨痕→布目	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	全体部 6/8	
293	2 区	BI07	SB01-SP24	平瓦	中多	-	中多	(5.9)	(8.0)	1.7	縄目タタキ	板ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰	破片	
294	2 区	BI07	SB01-SP24	平瓦	粗多	-	-	(11.2)	(9.5)	1.9	縄目タタキ	不明	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	破片	茶色砂粒 中少
296	2 区	BI08	SB01-SP36	平瓦	中多	-	-	(20.2)	(9.9)	1.9	縄目タタキ→擦り消し	布目	N6/ 灰	N5/ 灰	全体部 2/8	
301	2 区	BI08	SB01-SP35	丸瓦	中多	-	-	(5.0)	(3.8)	1.3	縄目タタキ	布目	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	破片	赤色粒子 中多
303	3 区	BH09	SB01-SP33	平瓦	中多	-	中少	(5.7)	(4.6)	1.9	不明	布目	N7/ 灰白	N7/ 灰白	破片	
307	3 区	BI09	SB01-SP34	平瓦	中多	-	-	(6.8)	(7.7)	2.2	縄目タタキ→板ナデ	布目→板ナデ	2.5Y5/1 黄灰	2.5Y7/1 灰白	破片	
308	3 区	BG09	SB01-SP30	平瓦	粗多	-	中少	(13.5)	(12.0)	1.5	縄目タタキ→擦り消し	模骨痕→布目	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	破片	赤色粒子 粗多
309	3 区	BG09	SB01-SP30	平瓦	細多	-	中少	(20.6)	(13.5)	1.9	縄目タタキ→擦り消し	模骨痕→布目	N7/ 灰白	N7/ 灰白	全体部 4/8	
310	3 区	BG09	SB01-SP30	平瓦	粗多	-	粗多	(16.2)	(20.9)	1.9	縄目タタキ→擦り消し	模骨痕	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	全体部 4/8	赤色粒子 粗多
311	3 区	BG09	SB01-SP30	平瓦	中少	-	-	(7.3)	(8.1)	3	縄目タタキ	模骨痕→布目	10YR2/1 黒	10YR5/1 褐灰	破片	茶色砂粒 中少
312	3 区	BG08	SB01-SP29	平瓦	粗多	中多	-	(6.0)	(7.2)	1.3	不明	模骨痕→布目	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	破片	
313	3 区	BG08	SB01-SP29	平瓦	中多	中多	中多	(22.4)	(13.3)	2.1	縄目タタキ	模骨痕→布目	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	全体部 5/8	
315	3 区	BG10	SB02-SP49	軒丸瓦	粗多	-	-	-	-	-	-	-	10YR7/2 にぶい黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙	瓦当部 4/8	新型式
316	3 区	BG10	SB02-SP49	平瓦	中多	-	粗多	(13.1)	(10.9)	1.7	縄目タタキ	模骨痕→布目	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	全体部 2/8	
317	3 区	BG10	SB02-SP49	平瓦	細多	-	中少	(11.3)	(10.1)	1.7	板ナデ	板ナデ	N8/ 灰白	N8/ 灰白	破片	
318	3 区	BG10	SB02-SP49	平瓦	粗多	-	粗多	(16.4)	(11.7)	1.6	-	模骨痕→不明	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	全体部 2/8	赤色粒子 中多
319	3 区	BH10	SB02-SP40	丸瓦	中多	-	中多	(21.8)	(8.3)	1.8	縄目タタキ	布目	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	全体部 3/8	赤色粒子 中少
320	3 区	BH10	SB02-SP40	平瓦	粗多	-	粗多	(16.5)	(10.8)	1.7	縄目タタキ	布目	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	破片	赤色粒子 粗多
321	3 区	BH10	SB02-SP40	平瓦	中多	中少	-	(5.1)	(3.6)	1.8	板ナデ	板ナデ	10YR7/1 灰白	10YR7/1 灰白	破片	
323	3 区	BH09,BH10	SB02-SP39	平瓦	中多	粗多	中多	(6.5)	(7.9)	1.6	縄目	不明	10YR8/2 灰白	2.5Y8/1 灰白	破片	
327	3 区	BI09	SB02-SP12	平瓦	粗多	-	粗多	(5.5)	(5.4)	2	板ナデ	板ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	破片	
332	2 区	BI10	SB02-SP17	平瓦	粗多	-	細少	(6.4)	(7.2)	2.1	格子目	布目	N4/ 灰	5Y8/1 灰白	破片	赤色粒子 中多
336	3 区	BH11	SB02-SP44	丸瓦	粗多	粗少	-	(11.8)	(6.6)	1.7	板ナデ	布目	10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	破片	
337	3 区	BH11	SB02-SP44	丸瓦	中多	-	中少	(6.0)	(6.7)	2	板ナデ	布目	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	破片	赤色粒子 中多
344	3 区	BI10	SB02-SP62	丸瓦	中多	中少	-	(7.3)	(5.0)	1.5	板ナデ	布目	N6/ 灰	N6/ 灰	破片	
348	3 区	BI11	SB02-SP13	平瓦	中少	-	-	(13.3)	(12.3)	2.3	縄目	模骨痕→布目	N5/ 灰	N5/ 灰	破片	
349	3 区	BI11	SB02-SP13	平瓦	細多	-	中多	(7.9)	(8.2)	1.6	板ナデ	布目	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	破片	
352	3 区	BG11	SB02-SP48	丸瓦	中少	-	-	(16.6)	(6.7)	1.8	不明	布目	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙	全体部 3/8	茶色砂粒 中多
353	3 区	BG11	SB02-SP48	平瓦	中少	-	中少	23.8	14.2	2.8	縄目→板ナデ	不明	10YR8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙	全体部 4/8	
372	2 区	BI09,BJ09	SD04	平瓦	細少	-	細少	(26.1)	(19.8)	2.4	板ナデ	模骨痕→布目→板ナデ	7.5Y7/1 灰白	N5/ 灰	-	
381	1 区	BT10,BU10,BV10,BW10,BX10	SD06	軒平瓦	中少	-	-	(21.3)	(15.2)	4	不明	板ナデ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	瓦当部 4/8	SR203A

第 31 表　瓦観察表（5）

報文番号	調査区	グリッド	遺構名	器種	胎土			法量			調整		色調		残存率	備考
					白色砂粒	黒色砂粒	灰色砂粒	全長（残存長）(cm)	幅（残存幅）(cm)	厚さ (cm)	凸面	凹面	凸面	凹面		
382	1 区	BT10,BU10,BV10,BW10,BX10	SD06	軒平瓦	中少	-	-	-	-	-	-	板ナデ	10YR6/1 褐灰	10YR6/1 褐灰	瓦当部破片	赤色砂粒 中多 SR203A
392	2 区	BL07,BL08,BL09,BM07,BM08,BM09	SD07	平瓦	中少	細多	細少	(12.0)	(13.7)	2.5	平行タタキ→板ナデ	布目	N6/ 灰	N6/ 灰	-	
395	3 区	BD14	SX02	軒丸瓦	中少	-	中多	-	-	-	板ナデ	布目→板ナデ（接合粘土部分のみ）	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	瓦当部 4/8	SR105
396	3 区	BC13	SX02	軒丸瓦	粗多	中多	-	-	-	-	-	-	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	瓦当部破片	SR103A
397	3 区	BC13,BD13	SX02	軒平瓦	中多	-	-	(19.1)	(10.5)	3.2	板ナデ	板ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙	瓦当部破片	SR204
399	2 区	BJ08,BJ09	SX21	平瓦	細少	細少		(25.7)	(20.8)	2.1	縄目タタキ→板ナデ	模骨痕→布目	N8/ 灰白	N8/ 灰白	-	
400	2 区	BJ08,BJ09	SX21	平瓦	中少	-	細少	28.6	27.6	2.1	板ナデ	板ナデ	N7/ 灰白	N5/ 灰	-	
401	2 区	BK08	SX21	平瓦	粗少	-	細少	(27.2)	(30.9)	2.5	縄目タタキ→板ナデ	模骨痕→布目	N5/ 灰	N5/ 灰	-	
402	2 区	BK08	SX21	平瓦	細少	-	中少	(30.4)	(23.3)	2.5	縄目タタキ→板ナデ	模骨痕→布目	5Y7/1 灰白	N8/ 灰白	-	
403	2 区	BK08	SX21	平瓦	細少	-	細多	41.6	35.6	2.6	縄目タタキ→板ナデ	布目	N8/ 灰白	N8/ 灰白	-	
407	3 区	BG10	SP46	平瓦	中少	-	-	(7.9)	(11.4)	2	縄目タタキ	不明	10YR7/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	破片	
411	3 区	BG08	SP96	丸瓦	中多	-	-	10.4	10.4	2.1	板ナデ	布目	10YR6/1 褐灰	10YR5/2 灰黄褐	破片	茶色砂粒 中少
412	3 区	BF09	SP113	平瓦	中多	-	-	7.3	6.6	2.3	縄目タタキ	不明	7.5YR7/4 にぶい橙	10YR7/2 にぶい黄橙	破片	
413	3 区	BF09	SP119	平瓦	中多	中多	-	(11.0)	(17.5)	2.4	縄目タタキ	模骨痕→布目	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	全体部 2/8	
414	2 区	BK09	SP133	平瓦	中多	-	-	(13.2)	(10.3)	2.4	縄目タタキ	模骨痕→布目	2.5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	破片	
422	2・3 区	-	谷部遺構外	軒丸瓦	中多	粗多	中多	-	-	-	-	-	5Y8/1 灰白	N7/ 灰白	瓦当部 2/8	SR103A
423	2 区	BN05	谷部遺構外	軒丸瓦	中多	中多	中少	-	-	-	-	-	N6/ 灰	N6/ 灰	瓦当部 4/8	SR105
424	3 区	BH06,BH07,BH08,BI08,BI09	谷部遺構外	軒丸瓦	中多	中多	中多	-	-	-	-	-	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	瓦当部 2/8	SR105 か？
425	2 区	-	谷部遺構外	軒丸瓦	中多	中多	中多	-	-	-	-	-	N8/ 灰白	N8/ 灰白	瓦当部破片	SR105
426	3 区	BD13	谷部遺構外	軒丸瓦	粗多	粗少	粗多	-	-	-	-	-	5Y3/1 灰白	5Y3/1 灰白	瓦当部 3/8	SR105 か？
427	3 区	-	谷部遺構外	軒丸瓦	中少	中少	-	-	-	-	-	-	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	瓦当部破片	SR105 か？
428	3 区	BG11	谷部遺構外	軒丸瓦	中少	-	中少	-	-	-	-	-	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y6/1 黄灰	瓦当部破片	
429	2 区	-	谷部遺構外	軒平瓦	中少	-	-	-	-	-	板ナデ	板ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	瓦当部破片	SR201
430	-	-	谷部遺構外	軒平瓦	細少	細少	細少	-	-	-	不明	不明	7.5Y6/1 灰	N5/ 灰	-	SR201
431	2 区	-	谷部遺構外	軒平瓦	中少	-	-	-	-	-	板ナデ	板ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白	瓦当部 3/8	SR201
432	3 区	BH04,BH05,BI03	谷部遺構外	軒平瓦	細多	細少	細多	-	-	-	-	-	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	瓦当部破片	SR202
433	-	-	谷部遺構外	軒平瓦	中多	中多	-	-	-	-	-	-	5Y8/1 灰白	5Y7/1 灰白	瓦当部破片	SR202
434	2 区	-	谷部遺構外	軒平瓦	中多	-	中多	-	-	-	縄目タタキ→擦り消し	布目→板ナデ	5Y8/1 灰白	2.5Y7/2 灰黄	瓦当部 6/8	SR203A
435	3 区	-	谷部遺構外	軒平瓦	中多	中多	-	-	-	-	板ナデ	模骨痕→布目→板ナデ	2.5Y7/1 灰白	2.5Y6/1 黄灰	瓦当部破片	SR204
436	3 区	BG12	谷部遺構外	軒平瓦	細少	細少	細少	(15.9)	(10.8)	2.2	板ナデ	模骨痕→布目	N6/ 灰	2.5Y5/1 黄灰	-	
437	3 区	BD13	谷部遺構外	平瓦	中多	細少	-	(5.9)	(6.1)	2.2	不明	不明	2.5Y8/2 灰白	2.5Y7/1 灰白	破片	
438	3 区	BC12	谷部遺構外	不明	粗多	細少	-	(2.7)	(2.5)	1	-	-	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰	破片	

第 32 表　鉄器観察表

報文番号	調査区	グリッド	報告遺構名	器種	法量			
					全長（残存長）(cm)	幅（残存幅）(cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
34	1 区	BO03	山下岡前 2 号墳	鉄鏃	(5.6)	2.8	0.35	8.4
35	1 区	BO03	山下岡前 2 号墳	鉄鏃	(6.9)	1.5	0.4	6.6
36	1 区	BO03	山下岡前 2 号墳	鉄鏃	(4.3)	(0.9)	0.35	3.9
37	1 区	BO03	山下岡前 2 号墳	鉄鏃	(12.2)	1.2	0.6	8.8
38	1 区	BO03	山下岡前 2 号墳	鉄鏃	(5.3)	1.2	0.4	4.1
39	1 区	BO03	山下岡前 2 号墳	鉄鏃	(3.7)	(1.4)	0.45	2.1
40	1 区	BO03	山下岡前 2 号墳	鉄鏃	(5.5)	1.2	0.7	4.1
41	1 区	BO03	山下岡前 2 号墳	鉄鏃	(1.9)	(0.6)	0.25	1.1
42	1 区	BO03	山下岡前 2 号墳	鉄鏃	(2.5)	(1.4)	-	1.4
43	1 区	BO03	山下岡前 2 号墳	鉄鏃	(6.1)	(1.1)	0.3	3.3
51	1 区	BO03,BP03	山下岡前 3 号墳	鉄鏃	(5.4)	((0.7)	(0.65)	6.0
52	1 区	BO03,BP03	山下岡前 3 号墳	鉄鏃	(6.2)	(0.9)	(0.45)	5.0

第 33 表　石器観察表

報文番号	調査区	グリッド	遺構名	器種	法量				材質
					全長（残存長）(cm)	幅（残存幅）(cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
5	1 区	BU03	SH01　流土ほか	石錐	(2.5)	(1.2)	0.3	0.90	サヌカイト
57	1 区	BY08	北東丘陵土	石鏃	(3.7)	2.1	0.5	2.85	サヌカイト
58	1 区	-	北東丘陵土	不明	(6.5)	(5.3)	3	16.14	粘板岩
59	1 区	BU04	北東丘陵土	石包丁	(8.5)	4.25	1.15	38.97	結晶片岩
127	2 区	BK10	古代堆積層	不明	7.3	6.2	4.1	274.59	緑色岩

第 34 表　木器観察表

報文番号	調査区	グリッド	遺構名	器種	法量		材質
					全長（残存長）(cm)	幅 (cm)	
328	3 区	BI09	SB02-SP12	柱材	(50.7)	22.2	ヒノキ
350	3 区	BI11	SB02-SP13	柱材	(45.5)	23.6	ヒノキ
359	3 区	BH11	SB03-SP52	柱材	(58.0)	20.7	ヒノキ

報告書抄録

ふりがな	やましたおかまえいせき
書名	山下岡前遺跡
副書名	国道 11 号大内白鳥バイパス改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
巻次	第８冊
編著者名	乗松真也、山元素子、株式会社パレオ・ラボ
編集機関	香川県埋蔵文化財センター
所在地	〒 762-0024　香川県坂出市府中町字南谷 5001-4 Tel 0877-48-2191　Mail maibun@pref.kagawa.lg.jp
発行機関名	香川県教育委員会
発行年月日	2021 年 3 月 18 日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
		市町	遺跡番号					
山下岡前遺跡（やましたおかまえいせき）	香川県（かがわけんひがし）東かがわ市（みなと）湊	37207		34°14′37″	134°20′41″	2011 年 11 月 1 日～2012 年 3 月 31 日	2,757㎡	道路改修

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
山下岡前遺跡	集落 古墳 寺院	弥生時代	竪穴建物　1	弥生土器、石器	
		古墳時代	古墳　4	須恵器、土玉、鉄鏃	
		古代	柵列　1 掘立柱建物　6 溝　5 性格不明遺構 2	土師器、須恵器、瓦、螺髪	出土遺構・遺物と位置関係から、白鳥廃寺の関連施設と考えられる。

要約

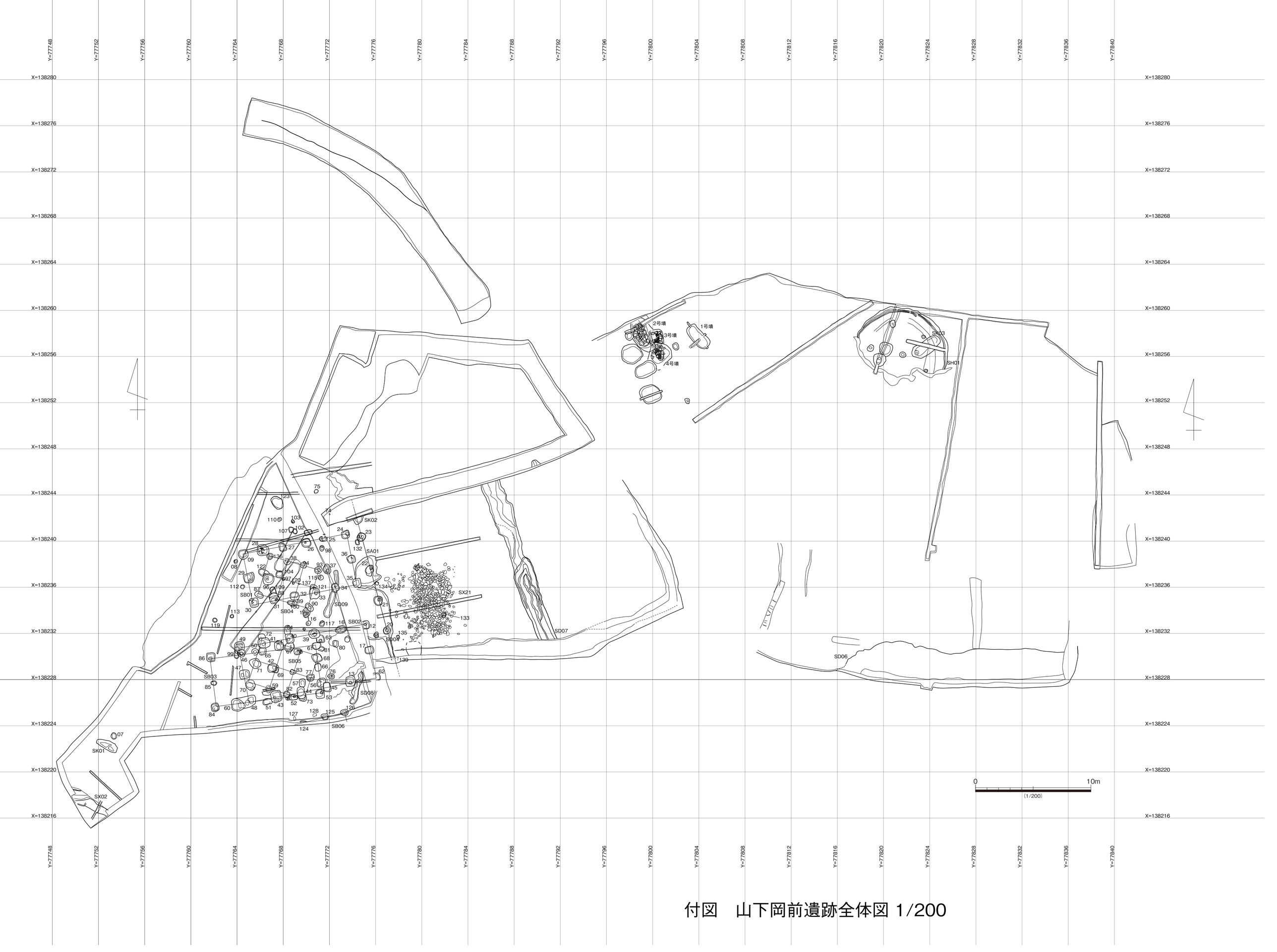
山下岡前遺跡は県指定史跡白鳥廃寺の北側に位置する。調査対象地は北東部の丘陵部と、その南西側の谷部分である。

丘陵地では弥生時代後期後半の竪穴建物１棟、古墳時代後期の箱式石棺および竪穴式石室を合計４基を検出した。

谷部分では、白鳥廃寺の関連施設と考えられる遺構群を検出した。白鳥廃寺が創建される７世紀末から 10 世紀前半頃に廃絶するまでに、２度の整地と４期の遺構の変遷があり、古代寺院である白鳥廃寺関連施設の様相が明らかになる貴重な成果となった。また、後世の整地層も含めてではあるが、瓦類が多量に出土し、古代瓦の製作技法等を知る手掛かりとなった。

国道 11 号大内白鳥バイパス改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告
第８冊
山下岡前遺跡

2021 年 3 月 18 日
編集　香川県埋蔵文化財センター
〒 762-0024　香川県坂出市府中町字南谷 5001-4
Tel　0877-48-2191　Fax　0877-48-3249
発行　香川県教育委員会
印刷　ワールド印刷株式会社



付図　山下岡前遺跡全体図 1/200